

朝霞市
子ども・子育て支援に関するアンケート調査
報告書

朝霞市
平成 31 年 3 月

目 次

第1章 調査の概要

1. 調査実施の目的	3
2. 調査の種類・調査方法	3
3. 回収期間	3
4. 回答状況	3
5. 調査結果を見る上での注意事項	4

第2章 調査結果の詳細

I 就学前児童／小学生保護者	7
1. 居住地区	7
(1) 居住地区	7
2. 子どもと家族の状況	8
(1) 子どもの年齢／学年	8
(2) 兄弟姉妹人数、末子の年齢	9
(3) 回答者	10
(4) 回答者の配偶関係	10
(5) 子育て（教育を含む）を主に行っている人	10
3. 子どもの育ちをめぐる環境	11
(1) 子育て（教育を含む）に日常的に関わっている人（施設）	11
(2) 子育て（教育を含む）にもっとも影響すると思われる環境	12
(3) 子どもをみてもらえる親族・知人の有無	13
(4) 祖父母等の親族に子どもをみてもらっている状況	14
(5) 友人・知人に子どもをみてもらっている状況	15
(6) 子育て（教育を含む）をする上で気軽に相談できる人（施設）の有無	16
(7) 子育て（教育を含む）をする上で気軽に相談できる相談先	16
(8) 子育て（教育を含む）をする上で周囲に望むサポート	17
4. 保護者の就労状況	19
(1) 就労状況	19
(2) 就労日数、就労時間	20
(3) 家を出る時刻、帰宅時刻	21
(4) 勤務先の場所	22
(5) 通勤方法／通勤時間	23
(6) フルタイムへの転換希望	25
(7) 就労希望	26
5. 平日の定期的な教育・保育の事業の利用状況と利用希望(就学前児童のみ)	30
(1) 定期的な教育・保育の事業の利用の有無	30
(2) 定期的に利用している事業	30
(3) 利用日数、利用時間	31

(4) 利用している教育・保育の事業の実施場所	37
(5) 教育・保育の事業実施場所への移動手段	37
(6) 定期的に教育・保育の事業を利用している理由	38
(7) 定期的に教育・保育の事業を利用していない理由	39
(8) 定期的に利用したい教育・保育の事業	40
(9) 利用したい実施場所	42
(10) 幼稚園の強い利用希望の有無	42
(11) 幼稚園の利用を考えたこと	43
(12) 幼稚園の利用を考える条件(環境)	44
(13) 平日の教育・保育の事業を選ぶ際の重視点	45
6. 地域の子育て支援拠点事業の利用状況	46
(1) 子育て支援センター等の利用状況	46
(2) 今後の利用希望と利用したい回数	48
(3) 各種支援事業の認知状況、利用状況、利用希望	50
7. 土曜・休日や長期休暇中の定期的な教育・保育事業の利用希望	56
(1) 土曜日と日曜日・祝日の利用状況と利用時間帯	56
(2) たまに利用したい理由	58
(3) 幼稚園利用者の長期休暇中の教育・保育の事業の利用状況	59
(4) 幼稚園利用者が長期休暇中に教育・保育の事業をたまに利用したい理由	60
8. 子どもが病気の際の対応	60
(1) 子どもが病気等で事業が利用できなかったこと／学校を休む必要があったこと	60
(2) 子どもが病気等で事業が利用できなかった・学校を休む必要があった際の対処方法	61
(3) 病児・病後児のための保育施設等の利用希望と利用したい日数	64
(4) 望ましい事業形態	65
(5) 利用したいと思わない理由	66
(6) 父母が仕事を休んで看護したいと思ったかどうか	67
(7) 仕事を休んで看ることが難しい理由	68
9. 不定期の教育・保育事業や宿泊を伴う一時預かり等の利用	69
(1) 私用、親の通院、不定期の就労等の目的で不定期に利用している事業と日数	69
(2) 利用していない理由	70
(3) 今後の利用希望と利用したい日数	71
(4) 望ましい事業形態	72
(5) 保護者の用事により泊りがけで家族以外に預けたことの有無、対処方法、宿泊日数	73
(6) 親族・知人にみてもらう場合の困難度	75
10. 小学校就学後の放課後の過ごし方	75
(1) 放課後の過ごし方と日数	75
(2) 休日等の放課後児童クラブの利用希望	77
(3) 小学校低学年の間、放課後を過ごさせたい場所(就学前児童5歳以上のみ)	79
(4) 小学校高学年の間、放課後を過ごさせたい場所(就学前児童5歳以上／小学生1～3年生)	81

(5) 休日等の放課後児童クラブの利用希望	84
(6) 放課後児童クラブが利用できない場合の代替施設の意向	87
(7) 長期休暇中の放課後児童クラブ利用希望	88
11. 育児休業や短時間勤務制度など職場の両立支援制度	90
(1) 育児休業給付や健康保険、厚生年金保険免除についての認知度	90
(2) 父母の育児休業取得の有無と取得しなかった理由	90
(3) 育児休業取得後の職場復帰	92
(4) 復帰のタイミング	92
(5) 実際の取得期間と希望	93
(6) 3歳まで取得できる休暇制度があった場合の取得希望	94
(7) 希望の時期に職場復帰しなかった理由	95
(8) 短時間勤務制度利用の有無	96
(9) 短時間勤務制度を利用しなかった理由	97
(10) 1歳時に必ず利用できる事業がある場合の育児休業取得希望	98
(11) 仕事と子育てを両立させる上で大変だと感じる事	99
12. 児童館の利用状況と利用意向	100
(1) 就学前児童の児童館の利用状況	100
(2) 小学生の児童館の利用状況	100
(3) 1年間に利用した児童館	101
(4) 児童館に対する要望	101
(5) 児童館を利用していない理由	102
(6) 児童館の利用意向	103
(7) 児童館に希望するスペースや機能	104
13. 子育て全般	104
(1) 子育ての負担感	104
(2) 子育てで負担を感じる理由	105
(3) 子育てで悩んでいること、気になること	106
(4) 児童虐待の関心度	107
(5) 児童虐待と感じる状況	108
(6) 児童虐待を相談・通報する場所	109
(7) 児童虐待が起こる理由	110
(8) 子育てに関して楽しいと感ずること	111
(9) 子育ての不安感や負担感、つらさなどを解消するために必要なこと	112
(10) 地域・社会活動への参加状況	113
(11) 有効な子育て支援・対策	116
(12) 朝霞市が産産・子育てするのに適したまちであるかの評価	117
(13) 居住地域における子育ての環境や支援への満足度	117
14. 自由記述	118
Ⅱ 中高生本人	122
1. 学年／居住地区	122

(1) 学年	122
(2) 居住地区	122
(3) 市内居住地区	123
(4) 市内転入時期	123
2. 家族の状況／居住地域の好感度・居留意向	124
(1) 同居家族	124
(2) 兄弟姉妹	124
(3) 居住地域の好感度	125
(4) 将来の市の居留意向	125
(5) 自己愛度	125
3. 学校や普段の生活の状況	126
(1) 学校・仕事の好感度	126
(2) 放課後（就業時間後）の過ごし方	126
(3) 親にたたかれたり、ひどいことを言われた経験	127
(4) 悩んでいることを友だちに話すこと	127
(5) 悩んでいることを相談できる大人の有無	127
(6) 悩んでいることを相談できる機関の認知状況	128
4. 児童館の利用状況	128
(1) 市内の児童館利用経験	128
(2) 児童館を利用していない理由	129
(3) 児童館に望む機能・スペース	129
5. 地域での活動状況	130
(1) 地域活動やグループ活動への参加状況	130
(2) 地域活動やグループ活動に参加していない理由	130
(3) ボランティア活動への関心度	131
(4) ボランティア活動への参加意向	131
6. 自由記述	132
Ⅲ ヒアリング・アンケート調査結果	133
1. ヒアリング調査対象	133
(1) 市内の小学生、中学生、高校生	133
(2) 児童館及び子育て支援センター利用者（保護者）・障害児放課後児童クラブ保護者	133
(3) 子育てサークル等参加者	133
2. ヒアリングの主な調査項目・結果の概要	134
(1) 市内の小学生、中学生、高校生	134
(2) 児童館及び子育て支援センター利用者（保護者）・障害児放課後児童クラブ保護者	137
(3) 子育てサークル等参加者	139
3. 妊娠中の方・子育て支援施設職員・障害児関係団体アンケート調査	141

第 1 章 調査の概要

1. 調査実施の目的

本調査は、第二期の「子ども・子育て支援事業計画」の計画策定にあたり、保護者の子育てに関する生活実態や意見・要望、また、中高生の生活実態や意見・要望を把握することを目的として実施した。

2. 調査の種類・調査方法

調査の種類	調査対象	対象数	調査方法
就学前児童	市内在住の就学前児童の保護者	2,000 人	郵送配布-郵送回収 ※礼状兼依頼はがき1回送付
小学生	市内公立小学校に在籍する小学生の保護者	1,030 人	学校配布-学校回収
中・高校生	市内公立中学校に在籍する中学生	800 人	
	市内公立高校に在籍する高校生	160 人	
	市内在住の高校生年代	100 人	郵送配布-郵送回収

3. 回収期間

郵送調査（就学前児童・高校生） 平成31年1月8日（火）～1月28日（月）

学校配布-回収（小・中・高校） 平成31年1月10日（木）～1月28日（月）

4. 回答状況

調査の種類	配布数	有効回収数	有効回収率	(参考) 前回有効回収率
就学前児童	2,000 件	1,346 件	67.3%	63.7%
小学生	1,030 件	908 件	88.2%	78.7%
中・高校生（計）	1,060 件	866 件	81.7%	
中学生	800 件	663 件	82.9%	
高校生（学校）	160 件	200 件	78.1%	
高校生（郵送）	100 件			
その他（就業中・無回答）		3 件		

5. 調査結果を見る上での注意事項

- ・本文、表、グラフなどに使われる「n」は、各設問に対する回答者数である。
- ・百分率（％）の計算は、小数第2位を四捨五入し、小数第1位までを表示した。したがって、単数回答（1つだけ選ぶ設問）においても、四捨五入の影響で、合計が100%にならない場合がある。
- ・複数回答（2つ以上選んでよい設問）においては、合計が100%を超える場合がある。
- ・クロス集計では分析軸の項目に無回答があるため、全体のnと合計があわない場合がある。
- ・本文、表、グラフは、表示の都合上、調査票の選択肢等の文言を一部簡略化している場合がある。
- ・回答者数が20未満の場合、比率が上下しやすいため、傾向を見るにとどめ、またクロス集計の結果を出していない場合がある。
- ・就学前児童の調査結果における子どもの年齢は「学齢」で換算し、対象児童の生年月から以下のよう
に区分している。

年齢（学齢）表記	調査時実年齢	生年月
0歳	0～1歳	平成29年4月以降
1歳	1～2歳	平成28年4月～平成29年3月
2歳	2～3歳	平成27年4月～平成28年3月
3歳	3～4歳	平成26年4月～平成27年3月
4歳	4～5歳	平成25年4月～平成26年3月
5歳	5～6歳	平成24年4月～平成25年3月

第2章 調査結果の詳細

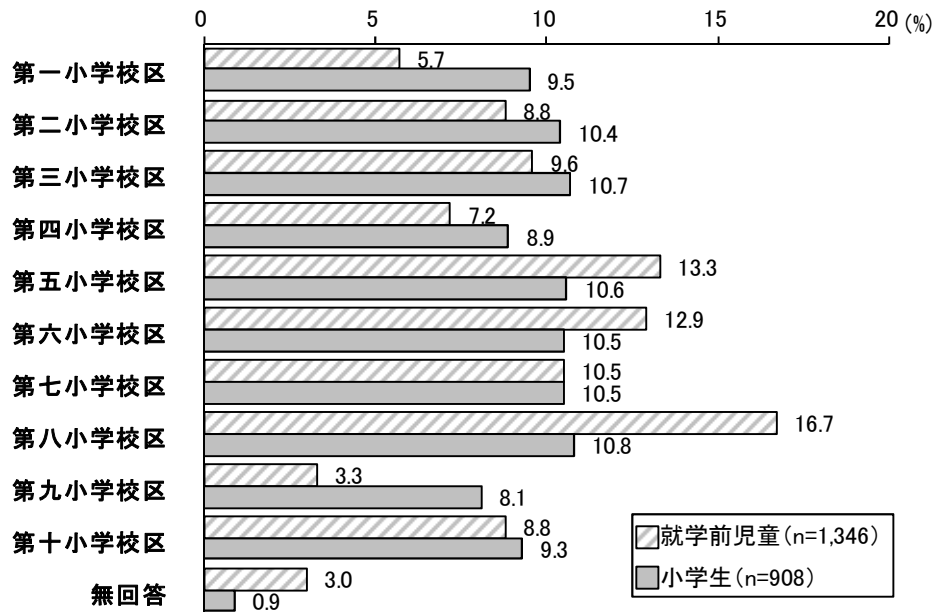
I 就学前児童／小学生保護者

1. 居住地区

(1) 居住地区

〔就学前児童、小学生：問6〕

お住まいの地区はどちらですか。(○は1つ)



学区	通学区域
朝霞第一小学校区	膝折町1丁目3番・4番、3丁目、4丁目、5丁目9番 泉水1丁目、2丁目 溝沼1丁目5番11号～18号、6番・7番、3丁目 大字溝沼769番地～812番地、861番地～873番地
朝霞第二小学校区	根岸台1丁目7番～11番、2丁目、3丁目1番・2番、4丁目1番～7番、10番、5丁目、7丁目1番・2番、28番、29番1号～45号、74号～91号、30番28号～33号、31番10号～13号、32番～48番、8丁目1番・2番・6番 岡1丁目1番・2番、6番～9番、2丁目4番～6番、3丁目 大字岡全域 大字溝沼1237番地～1353番地、1422番地
朝霞第三小学校区	宮戸1丁目、2丁目、3丁目、4丁目 大字宮戸全域 浜崎4丁目 大字浜崎1番地～213番地、219番地～280番地、387番地～390番地 田島1丁目11番、2丁目5番18号、17番・18番 大字田島全域 (238番地を除く) 大字上内間木全域 大字下内間木全域 (113番地～121番地を除く) 大字根岸620番地～715番地 大字台334番地～359番地
朝霞第四小学校区	本町1丁目1番～6番、7番6号～25号 幸町1丁目、2丁目、3丁目 膝折町1丁目1番・2番、5番～16番、2丁目、5丁目1番～8番 青葉台1丁目10番 溝沼1丁目1番～4番、5番23号～34号 大字膝折全域
朝霞第五小学校区	西弁財1丁目、2丁目 東弁財1丁目、3丁目4番～19番 三原1丁目1番17号～54号、2番～33番、2丁目、3丁目、4丁目、5丁目3番～18番 泉水3丁目15番・16番

学区	通学区域
朝霞第六小学校区	本町1丁目7番1号～5号、7番26号～37号、8番～38番、2丁目5番～12番、13番1号～37号・52号、14番～27番 仲町1丁目 根岸台1丁目1番～6番 岡1丁目3番～5番、10番～21番、2丁目1番～3番、7番～13番 溝沼2丁目1番～3番、5丁目1番・2番、6丁目1番、6番～10
朝霞第七小学校区	北原1丁目、2丁目 西原1丁目、2丁目 浜崎1丁目、2丁目、3丁目 大字浜崎651番地～683番地 朝志ヶ丘1丁目、2丁目、3丁目、4丁目
朝霞第八小学校区	本町2丁目1番～4番、13番38号～51号、3丁目 仲町2丁目 根岸台6丁目、7丁目3番～27番、29番46号～73号、30番1号～19号、25号・26号、31番1号～9号、29号～34号 栄町1丁目、2丁目、3丁目、4丁目、5丁目 青葉台1丁目1番～9番
朝霞第九小学校区	田島1丁目1番～10番、12番～20番、2丁目1番～16番 (2丁目5番18号を除く) 大字田島238番地 根岸台3丁目3番～15番、4丁目8番・9番、11番～14番、8丁目3番～5番、7番～12番 大字根岸全域 (620番地～715番地を除く) 大字台全域 (334番地～359番地を除く) 大字下内間木113番地～121番地
朝霞第十小学校区	溝沼2丁目4番～12番、4丁目、5丁目3番～20番、6丁目2番～5番、11番、19番～24番、7丁目1番～4番、6番～14番 東弁財2丁目、3丁目1番～3番 泉水3丁目1番～14番 三原1丁目1番1号～16号、55号～76号、5丁目1番・2番 大字溝沼432番地～768番地、824番地～860番地、1027番地～1236番地 大字浜崎684番地～725番地

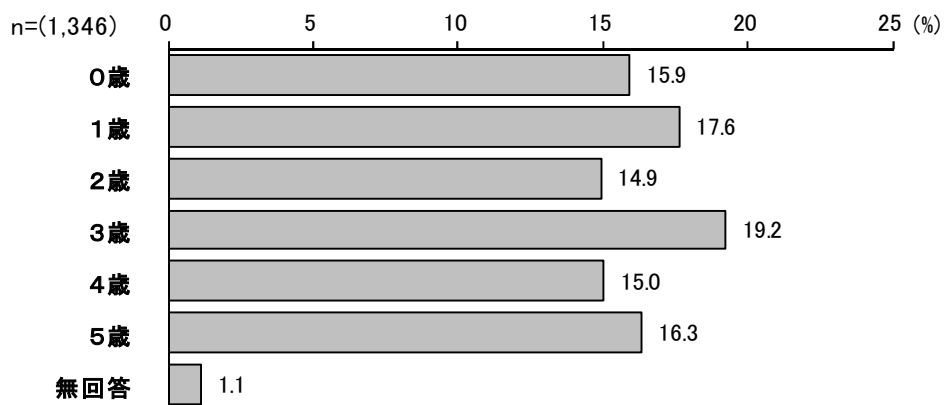
2. 子どもと家族の状況

(1) 子どもの年齢／学年

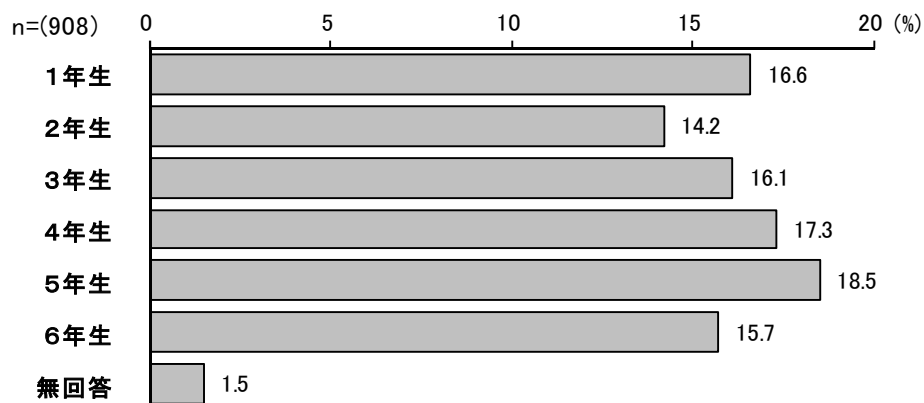
〔就学前児童、小学生：問1〕

対象のお子さんの生年月をご記入ください。

【就学前児童（年齢）】



【小学生（学年）】

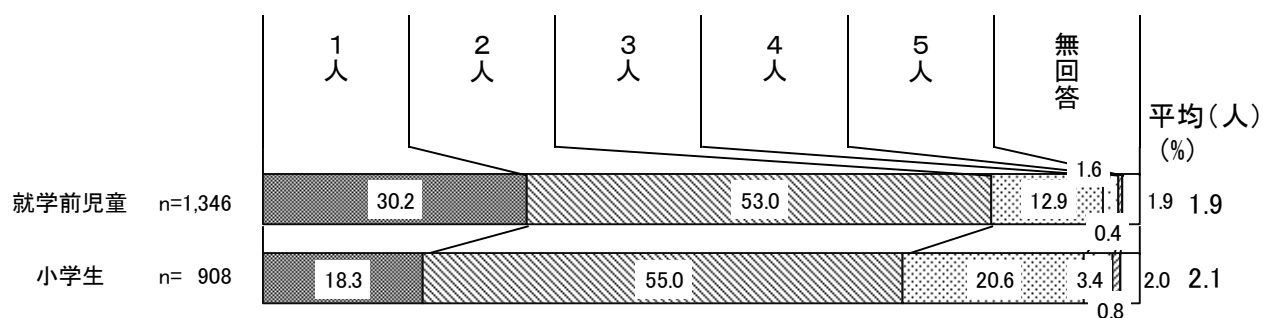


(2) 兄弟姉妹人数、末子の年齢

〔就学前児童、小学生：問2〕

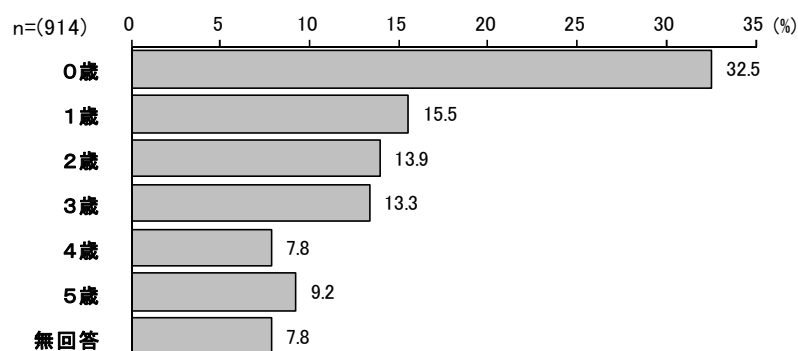
対象のお子さんのきょうだいは何人いらっしゃいますか。お2人以上のお子さんがいらっしゃる場合は、末子の方の生年月をご記入ください。

兄弟姉妹人数

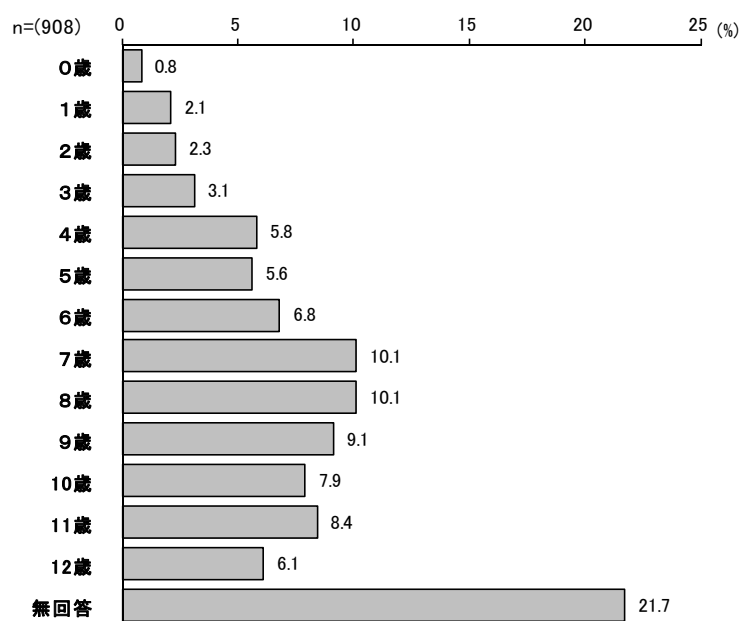


末子の年齢

【就学前児童】



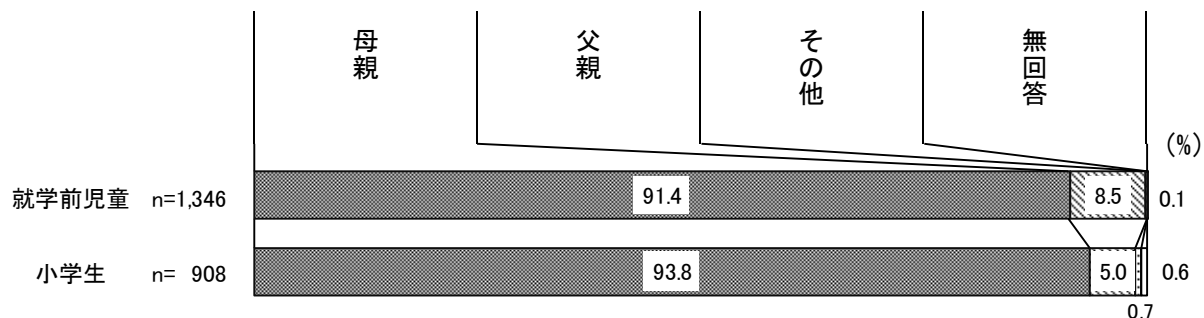
【小学生】



(3) 回答者

〔就学前児童、小学生：問3〕

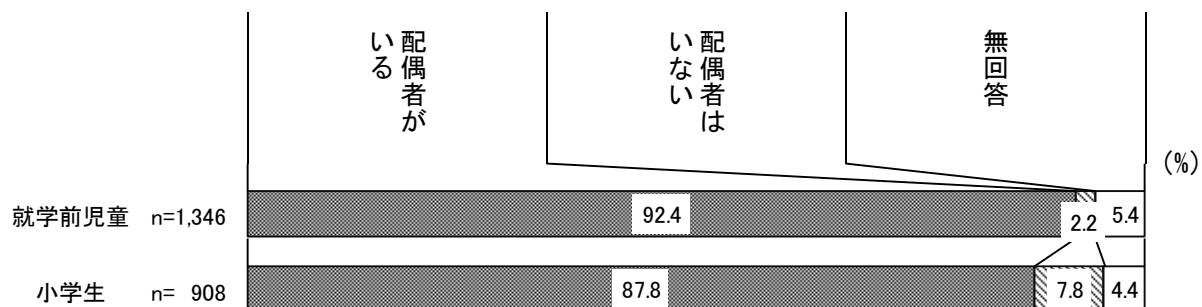
このアンケートにご回答いただく方はどなたですか。対象のお子さんからみた関係でお答えください。(○は1つ)



(4) 回答者の配偶関係

〔就学前児童、小学生：問4〕

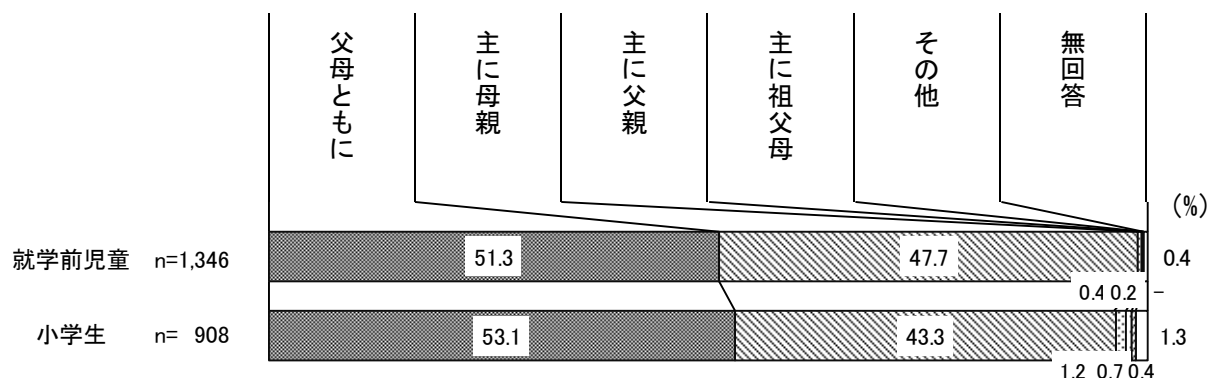
このアンケートにご回答いただいている方の配偶関係についてお答えください。(○は1つ)



(5) 子育て（教育を含む）を主に行っている人

〔就学前児童、小学生：問5〕

対象のお子さんの子育て（教育を含む）を主に行っているのはどなたですか。お子さんからみた関係でお答えください。(○は1つ)



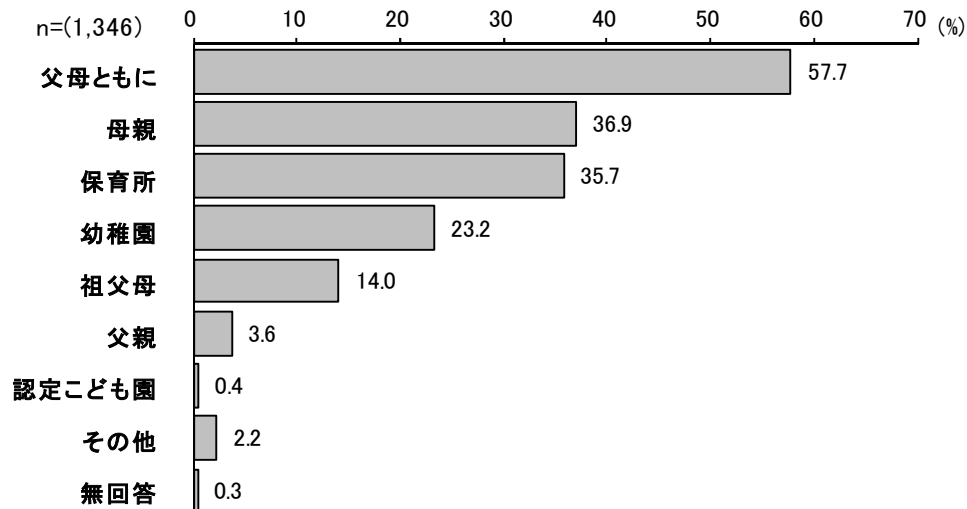
3. 子どもの育ちをめぐる環境

(1) 子育て（教育を含む）に日常的に関わっている人（施設）

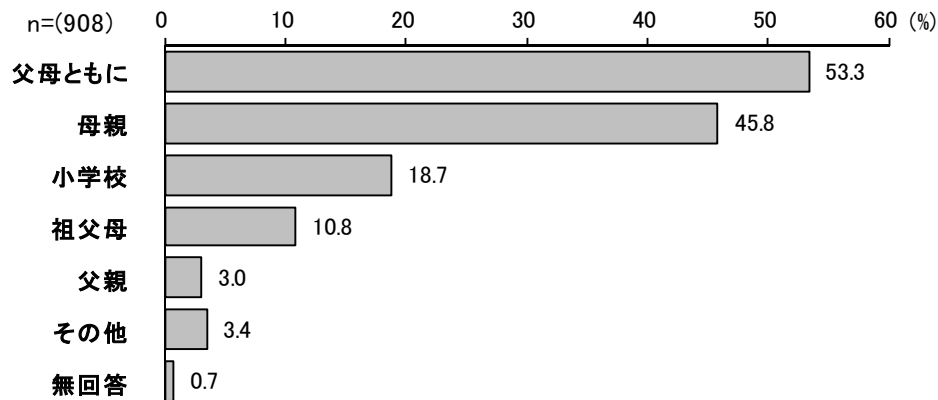
【就学前児童、小学生：問7】

対象のお子さんの子育て（教育を含む）に日常的に関わっている方はどなた（施設）ですか。
お子さんからみた関係でお答えください。（〇はあてはまるものすべて）【複数回答】

【就学前児童】



【小学生】



就学前児童の子育てに日常的に関わっている人／施設は、「父母ともに」が57.7%で最も高く、以下、「母親」が36.9%、「保育所」が35.7%、「幼稚園」が23.2%で続いている。

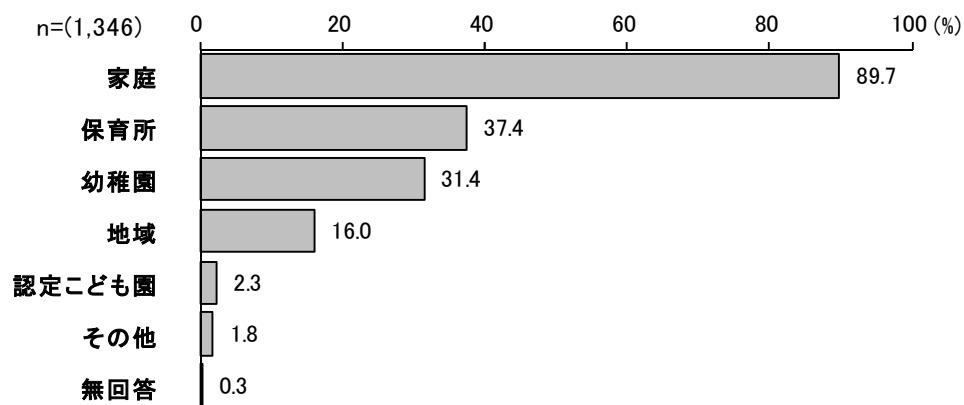
小学生の子育てに日常的に関わっている人／施設も「父母ともに」が53.3%で最も高く、以下、「母親」が45.8%、「小学校」が18.7%で続いている。

(2) 子育て（教育を含む）にもっとも影響すると思われる環境

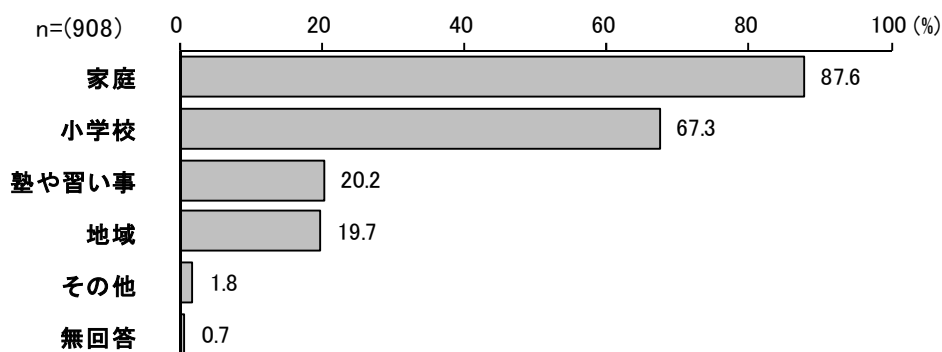
〔就学前児童、小学生：問8〕

対象のお子さんの子育て（教育を含む）に、もっとも影響すると思われる環境はどれですか。（〇はあてはまるものすべて）【複数回答】

【就学前児童】



【小学生】



就学前児童の子育てに最も影響すると思われる環境は、「家庭」が89.7%と断然高く、これに「保育所」が37.4%、「幼稚園」が31.4%が続いている。

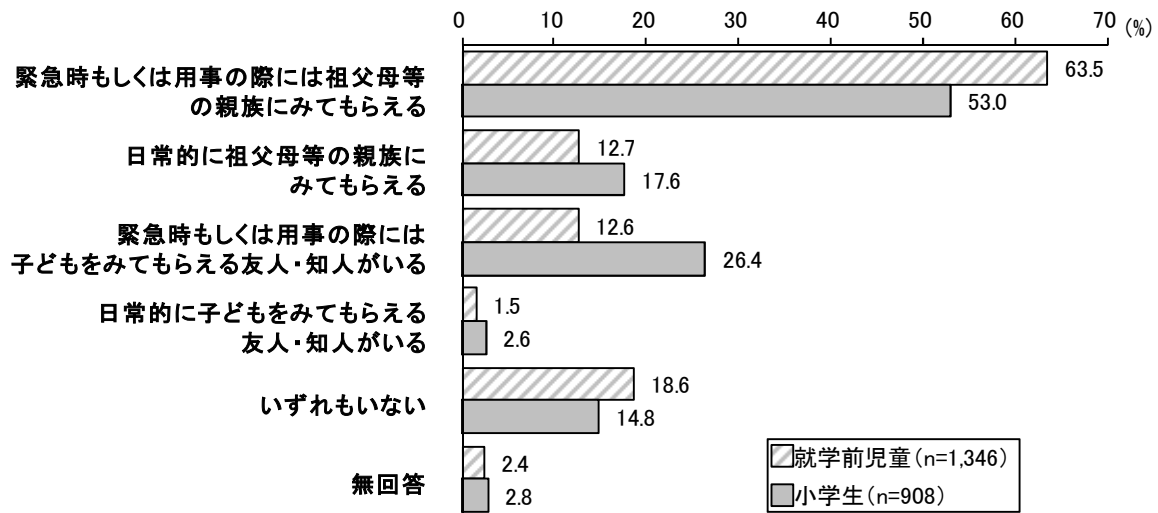
小学生の子育てに最も影響すると思われる環境も「家庭」が87.6%と断然高く、これに「小学校」が67.3%、「塾や習い事」が20.2%、「地域」が19.7%が続いている。

(3) 子どもをみてもらえる親族・知人の有無

〔就学前児童、小学生：問9〕

日頃、対象のお子さんをみてもらえる親族・知人はいますか。

(○はあてはまるものすべて)【複数回答】



就学前児童の子どもをみてもらえる親族・知人がいる割合(全体－「いずれもない」－無回答)は79.0%となっている。その内訳は、「緊急時もしくは用事の際には祖父母等の親族にみてもらえる」が63.5%で最も高い。

小学生の子どもをみてもらえる親族・知人がいる割合は82.4%。その内訳は、「緊急時もしくは用事の際には祖父母等の親族にみてもらえる」が53.0%で最も高く、これに「緊急時もしくは用事の際には子どもをみてもらえる友人・知人がいる」が26.4%、「日常的に祖父母等の親族にみてもらえる」が17.6%で続いている。

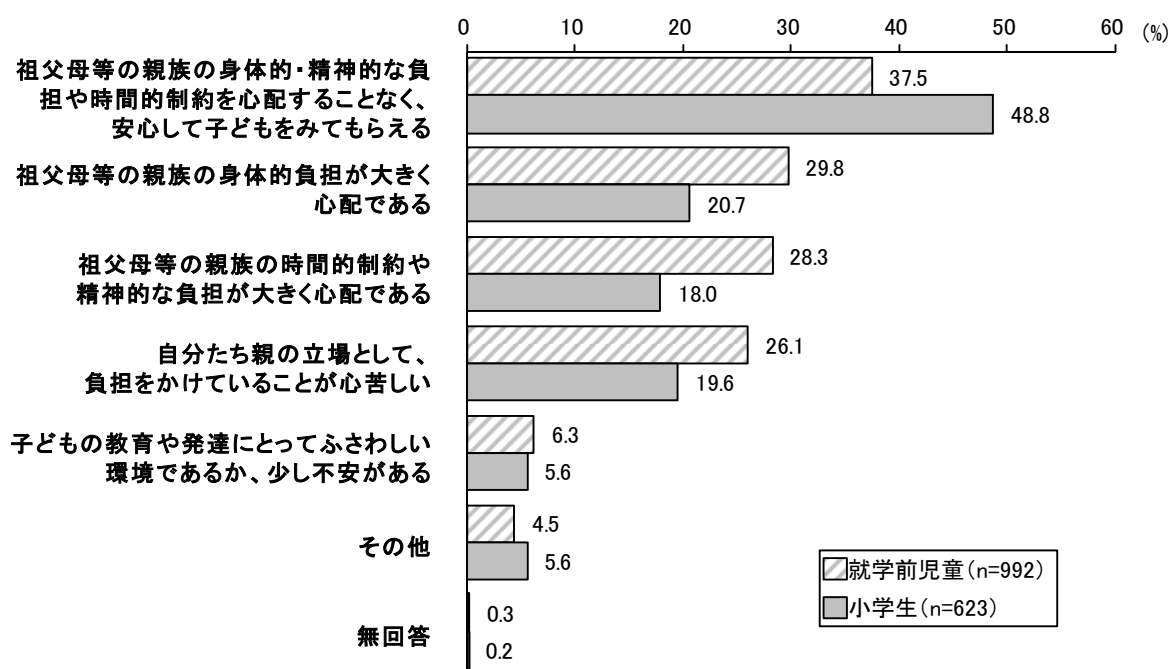
両層を比較すると、就学前児童は「緊急時もしくは用事の際には祖父母等の親族にみてもらえる」の割合が高く、小学生は「緊急時もしくは用事の際には子どもをみてもらえる友人・知人がいる」の割合が高くなっている。

(4) 祖父母等の親族に子どもをみてもらっている状況

問9で「日常的に祖父母等の親族にみてもらえる」または「緊急時もしくは用事の際には祖父母等の親族にみてもらえる」に回答した方

〔就学前児童、小学生：問9-1〕

祖父母等の親族にお子さんをみてもらっている状況についてお答えください。(○はあてはまるものすべて)【複数回答】



祖父母等の親族に就学前児童をみてもらっている状況については、就学前児童では「祖父母等の親族の身体的・精神的な負担や時間的制約を心配することなく、安心して子どもをみてもらえる」が37.5%で最も高い。同時に、「祖父母等の親族の身体的負担が大きく心配である」(29.8%)、「祖父母等の親族の時間的制約や精神的負担が大きく心配である」(28.3%)、「自分たち親の立場として、負担をかけていることが心苦しい」(26.1%)という意識も各3割弱あがっている。

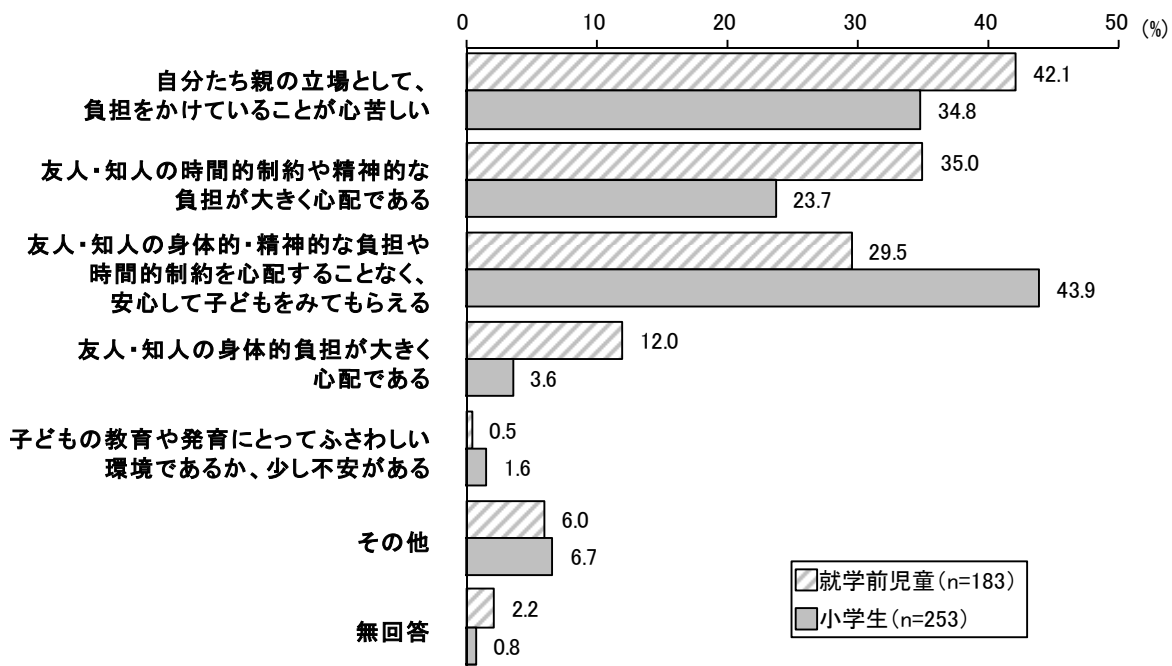
小学生では「祖父母等の親族の身体的・精神的な負担や時間的制約を心配することなく、安心して子どもをみてもらえる」が48.8%と特に高く、「祖父母等の親族の身体的負担が大きく心配である」(20.7%)、「自分たち親の立場として、負担をかけていることが心苦しい」(19.6%)、「祖父母等の親族の時間的制約や精神的負担が大きく心配である」(18.0%)といった意識は2割前後で就学前児童を下回っている。

(5) 友人・知人に子どもをみてもらっている状況

問9で「日常的に子どもをみてもらえる友人・知人がいる」「緊急時もしくは用事の際には子どもをみてもらえる友人・知人がいる」に回答した方

〔就学前児童、小学生：問9-2〕

友人・知人にお子さんをみてもらっている状況についてお答えください。(〇はあてはまるものすべて)【複数回答】



友人・知人に就学前児童をみてもらっている状況については、「自分たち親の立場として、負担をかけていることが心苦しい」が42.1%、「友人・知人の時間的制約や精神的な負担が大きく心配である」が35.0%と4割前後で上位となっている。

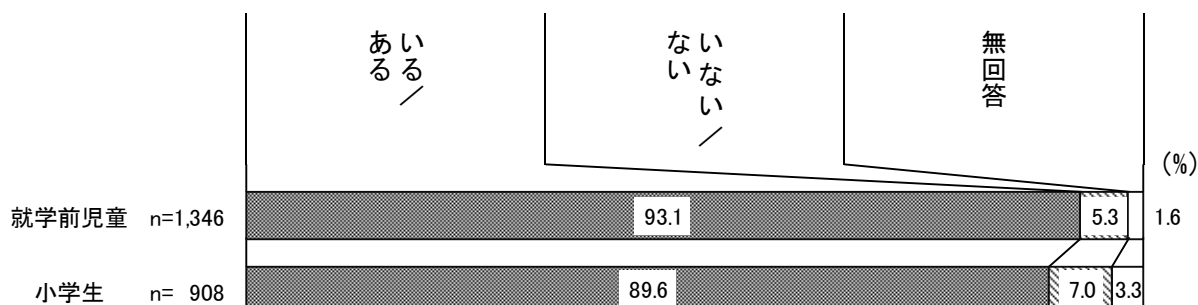
これに対し、友人・知人に小学生をみてもらっている状況については、「友人・知人の身体的・精神的な負担や時間的制約を心配することなく、安心して子どもをみてもらえる」が43.9%で最も高く、「自分たち親の立場として、負担をかけていることが心苦しい」が34.8%、「友人・知人の時間的制約や精神的な負担が大きく心配である」が23.7%で続いている。

両層を比較すると、就学前児童は「自分たち親の立場として、負担をかけていることが心苦しい」、「友人・知人の時間的制約や精神的な負担が大きく心配である」との意識が高く、「友人・知人の身体的・精神的な負担や時間的制約を心配することなく、安心して子どもをみてもらえる」との意識が低い傾向がみられる。

(6) 子育て（教育を含む）をする上で気軽に相談できる人（施設）の有無

〔就学前児童、小学生：問10〕

対象のお子さんの子育て（教育を含む）をする上で、気軽に相談できる人はいいますか。また、相談できる場所がありますか。（○は1つ）



子どもの子育てをする上で、気軽に相談できる人／場所が「いる／ある」という人は、就学前児童93.1%、小学生89.6%となっている。

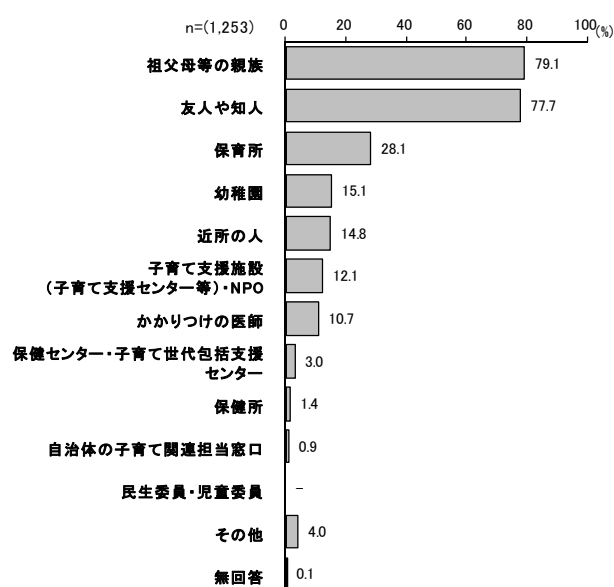
(7) 子育て（教育を含む）をする上で気軽に相談できる相談先

問10で「いる／ある」に回答した方

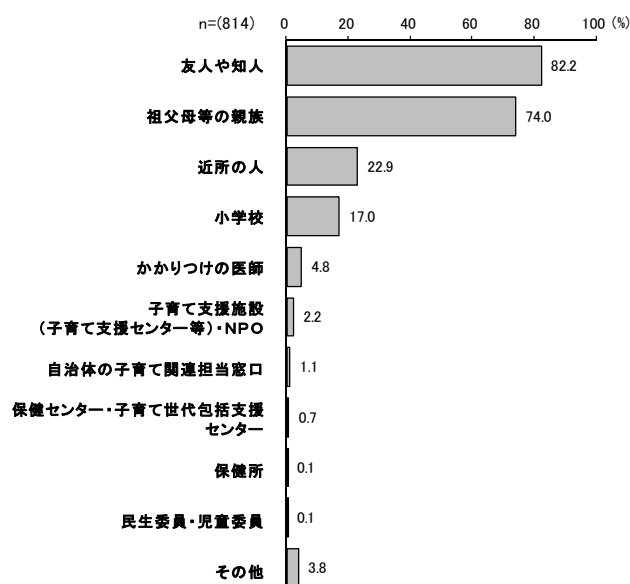
〔就学前児童、小学生：問10-1〕

お子さんの子育て（教育を含む）に関して、気軽に相談できる先は、誰（どこ）ですか。（○はあてはまるものすべて）【複数回答】

【就学前児童】



【小学生】



就学前児童の子育てを気軽に相談できる人／場所は、「祖父母等の親族」（79.1%）、「友人や知人」（77.7%）が特に高く、これに「保育所」（28.1%）が続いている。

これに対し、小学生の子育てを気軽に相談できる人／場所は、「友人や知人」（82.2%）、「祖父母等の親族」（74.0%）が特に高く、これに「近所の人」（22.9%）、「小学校」（17.0%）が続いている。

(8) 子育て（教育を含む）をする上で周囲に望むサポート

〔就学前児童、小学生：問11〕

子育て（教育を含む）をする上で、周囲（身近な人、行政担当者など）からどのようなサポートがあればよいとお考えでしょうか。ご自由にお書きください。

子育て（教育を含む）をする上で周囲に望むサポートに関して、就学前児童保護者から641件、小学生保護者から293件の意見をいただいた。1人で2つ以上の内容の記入があった場合、それぞれ1件とカウントしているため、件数は延べ件数となる。

【就学前児童】

緊急時含む不定期の一時預かりの場の増設・充実	147	公園・遊び場の充実	11
相談体制の充実	99	子育てに対する社会・職場の理解	9
積極的な情報提供	38	誰もが安心して子どもを預けられるサービスやシステム	7
病児・病後児保育	36	幼稚園の充実・増設	6
保育所の充実・増設	35	障害や発達障害のある児童への支援・サポート	6
子どもの送迎サポート	26	安心できる生活環境（防犯）	6
地域・保護者同士の交流の機会や見守り	24	食育（離乳食・アレルギー食含む）に関するサポート	6
子育て世代向け教室・イベント・講座等の充実	22	人材の質の向上	5
放課後児童クラブ以外の居場所・預かり施設	22	家事や育児の全般サポート	4
ファミリー・サポート・センター事業の充実・拡充	21	育児ストレスに対する心のケア	4
保護者の病気時や産前産後時のサポート	18	放課後児童クラブ（学童保育）の増設・充実	3
経済的な支援	18	長期休み中の居場所・預りなどの施設	2
健（検）診・健康・医療サポート	18	子ども連れでも行きやすいお店	2
声かけや定期的訪問など行政による見守り	18	外国人家庭へのサポート	2
児童館・子育て支援センターの充実・増設	15	その他（趣旨違いや1件のみのもの）	11

合計 641 件

第2章 調査結果の詳細

【小学生】

相談体制の充実	58
緊急時含む不定期の一時預かりの場の増設・充実	52
地域・保護者同士の交流の機会や見守り	22
放課後児童クラブ（学童保育）以外の居場所・預かり施設	21
長期休み中の居場所・預りなどの施設	17
病児・病後児保育	16
学習の補助	13
子どもの送迎サポート	12
学童保育の増設・設備・内容充実	10
イベント、講座・教室の充実	9
経済的な支援	8
保護者の病気時のサポート	7

積極的な情報提供	6
食事提供・宅配（子ども食堂等）	6
児童館・子育て支援センターの増設	5
安全な公園・遊び場	5
安心できる生活環境（防犯・防災）	5
障害や発達障害のある児童への支援・サポート	3
育児ストレスに対する心のケア	3
土曜日授業の実施	2
保育士の増員、先生の質の向上	2
定期的な訪問	2
その他(趣旨違いや1件のみのもの)	9
合計 293 件	

4. 保護者の就労状況

(1) 就労状況

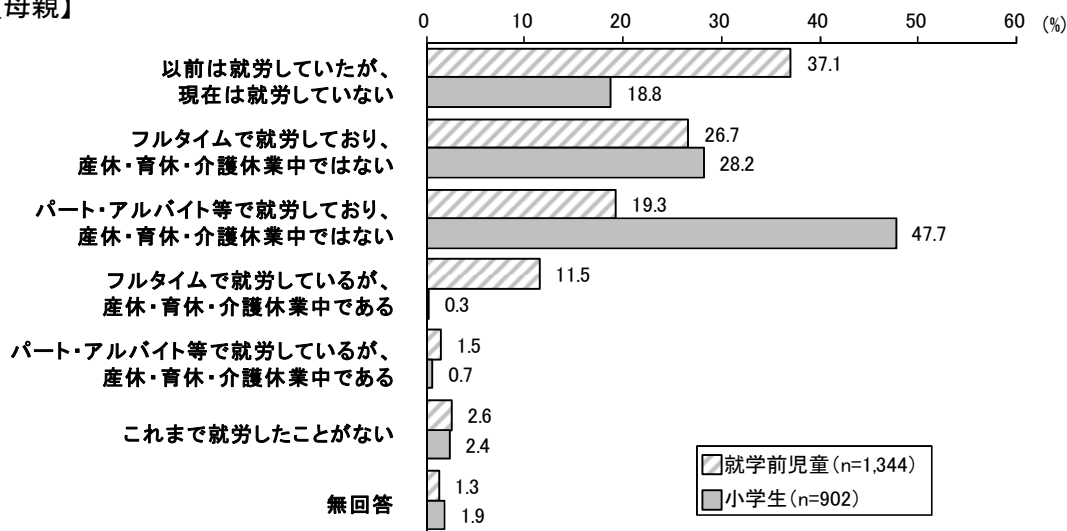
【就学前児童、小学生：問12】

対象のお子さんの保護者の現在の就労状況（自営業、家族従事者含む）をうかがいます。

(1) 母親の就労状況(○は1つ) ※父子家庭の場合は記入は不要です

(2) 父親の就労状況(○は1つ) ※母子家庭の場合は記入は不要です

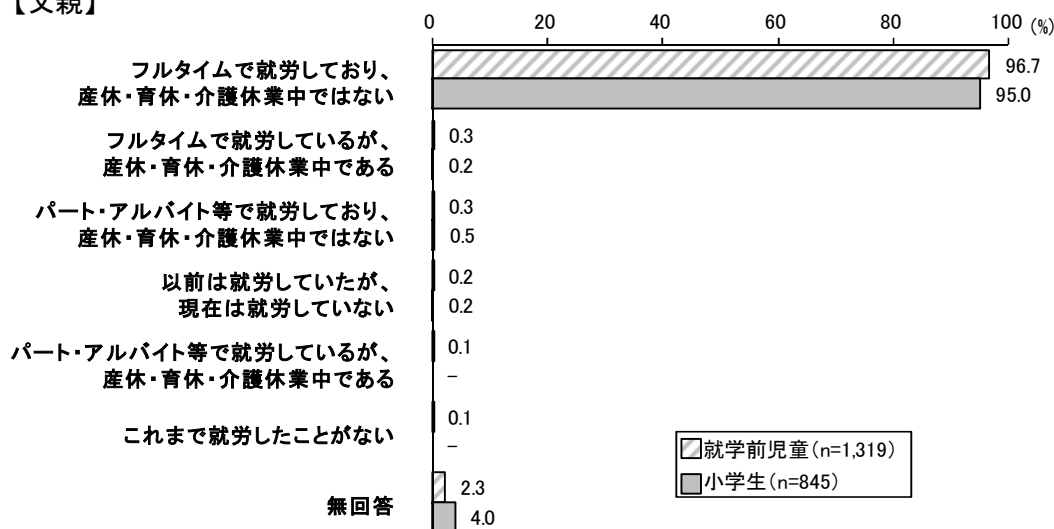
【母親】



就学前児童の母親の就労状況は、「以前は就労していたが、現在は就労していない」が37.1%で最も高く、これに「フルタイムで就労しており、産休・育休・介護休業中ではない」が26.7%、「パート・アルバイト等で就労しており、産休・育休・介護休業中ではない」が19.3%で続いている。

小学生の母親の就労状況は、「パート・アルバイト等で就労しており、産休・育休・介護休業中ではない」が47.7%で最も高く、これに「フルタイムで就労しており、産休・育休・介護休業中ではない」が28.2%、「以前は就労していたが、現在は就労していない」が18.8%で続いている。

【父親】



父親の就労状況は、「フルタイムで就労しており、産休・育休・介護休業中ではない」が就学前児童で96.7%、小学生で95.0%を占めている。

(2) 就労日数、就労時間

問12(1)(2)で就労しているに回答した方

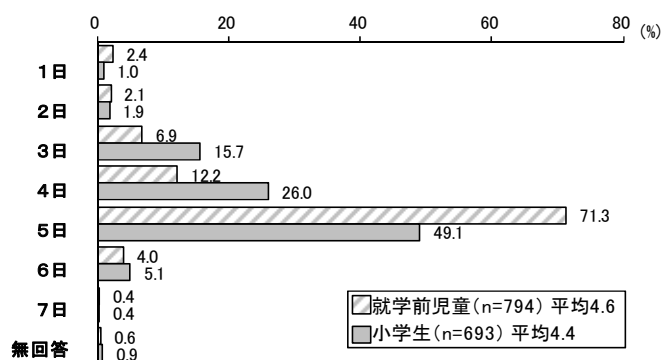
【就学前児童、小学生：問12(1)-1、問12(2)-1】

週当たりの「就労日数」、1日当たりの「就労時間（残業時間を含む）」をお答えください。

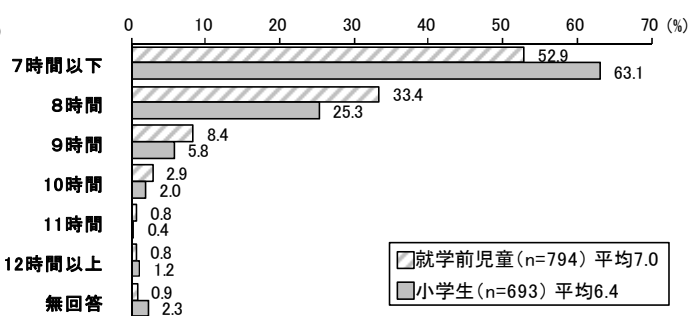
※就労日数や就労時間が一定でない場合は、もっとも多いパターンについてご記入ください。産休・育休・介護休業中の方は、休業に入る前の状況についてお答えください。

【母親】

就労日数／1週当たり



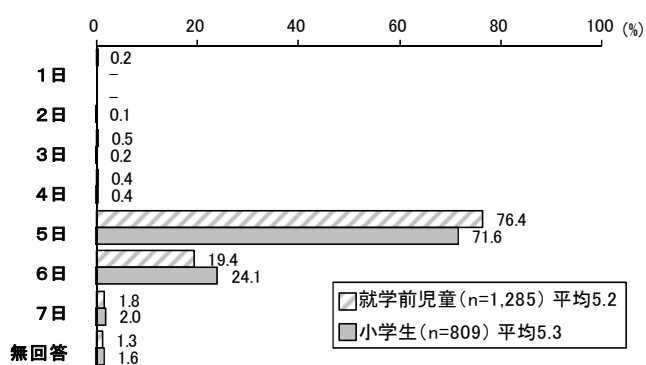
就労時間／1日当たり



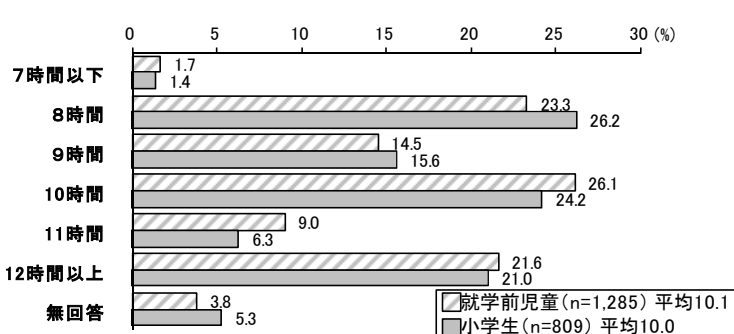
母親の1週当たりの平均就労日数は、就学前児童4.6日／週、小学生4.4日／週となっている。
1日当たりの平均就労時間は、就学前児童7.0時間／日、小学生6.4時間／日となっている。

【父親】

就労日数／1週当たり



就労時間／1日当たり



父親の1週当たりの平均就労日数は、就学前児童5.2日／週、小学生5.3日／週となっている。
父親の1日当たりの平均就労時間は、就学前児童10.1時間／日、小学生10.0時間／日となっている。

(3) 家を出る時刻、帰宅時刻

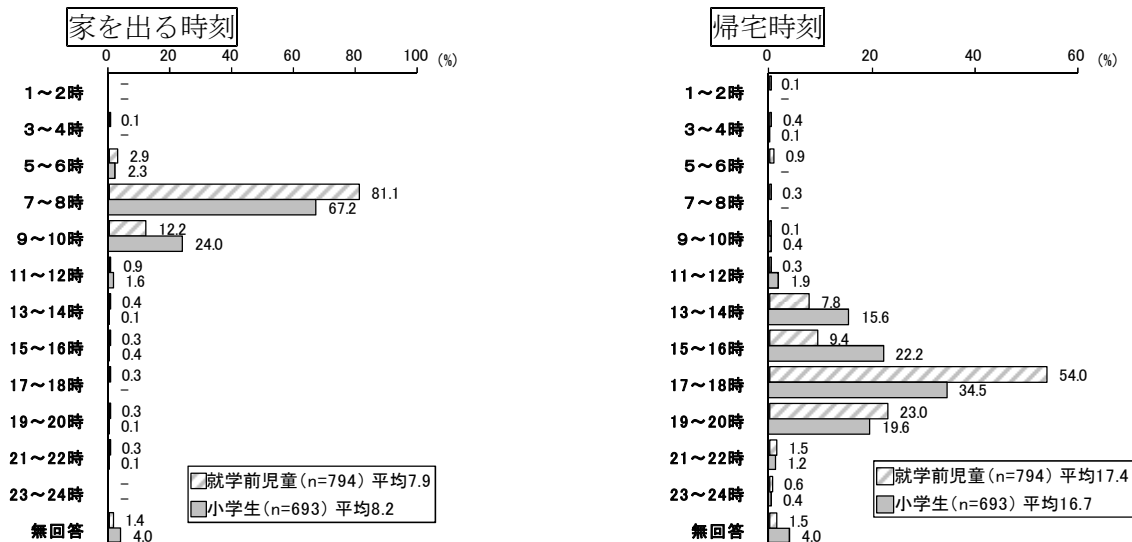
問12(1)(2)で就労しているに回答した方

〔就学前児童、小学生：問12(1)-2、問12(2)-2〕

家を出る時刻と帰宅時刻をご記入ください。時刻は、必ず、(例)08時～18時のように、24時間制でお答えください。

※時刻が一定でない場合は、最も多いパターンについてご記入ください。産休・育休・介護休業中の方は、休業に入る前の状況についてお答えください。

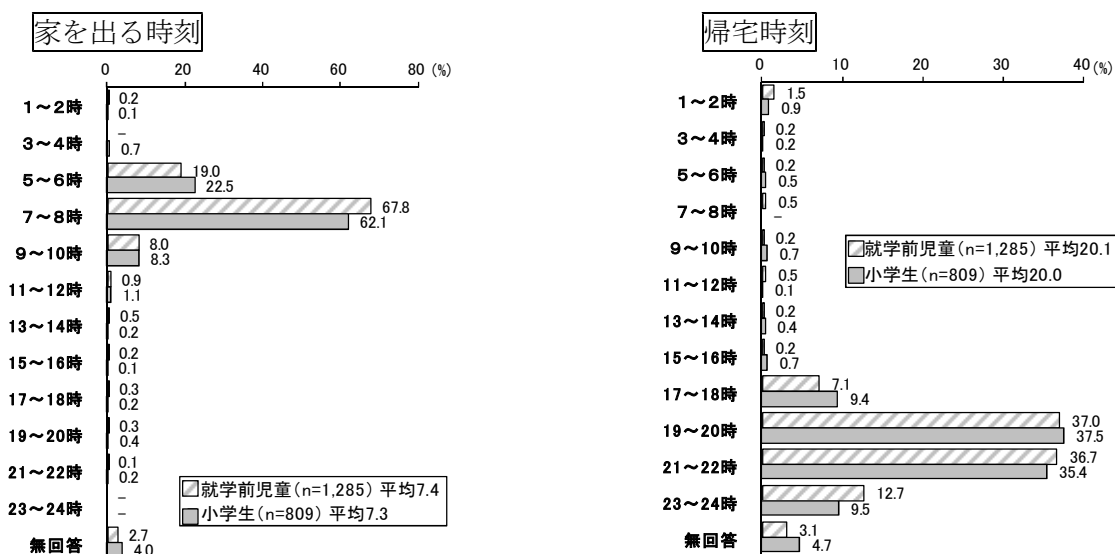
【母親】



就学前児童の母親が就労のために家を出る時刻は、「7～8時」が81.1%を占めている。小学生の母親は「7～8時」が67.2%で最も高く、これに「9～10時」が24.0%で続いている。

就学前児童の母親の帰宅時刻は、「17～18時」が54.0%で最も高く、次いで「19～20時」が23.0%で続いている。小学生の母親は、「17～18時」が34.5%で最も高く、次いで「15～16時」が22.2%、「19～20時」が19.6%となっている。

【父親】



父親が就労のために家を出る時刻は、就学前児童・小学生とも「7～8時」(67.8%、62.1%)が最も高く、これに「5～6時」(19.0%、22.5%)が続いている。

父親の帰宅時刻は、就学前児童・小学生とも「19～20時」(37.0%、37.5%)、「21～22時」(36.7%、35.4%)が高い。

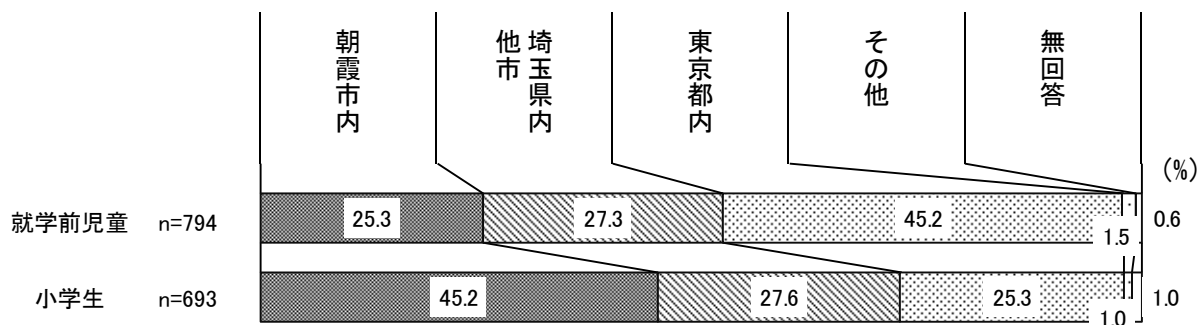
(4) 勤務先の場合

問12(1)(2)で就労しているに回答した方

〔就学前児童、小学生：問12(1)-3、問12(2)-3〕

勤務先の場所はどの辺りですか。(○は1つ)

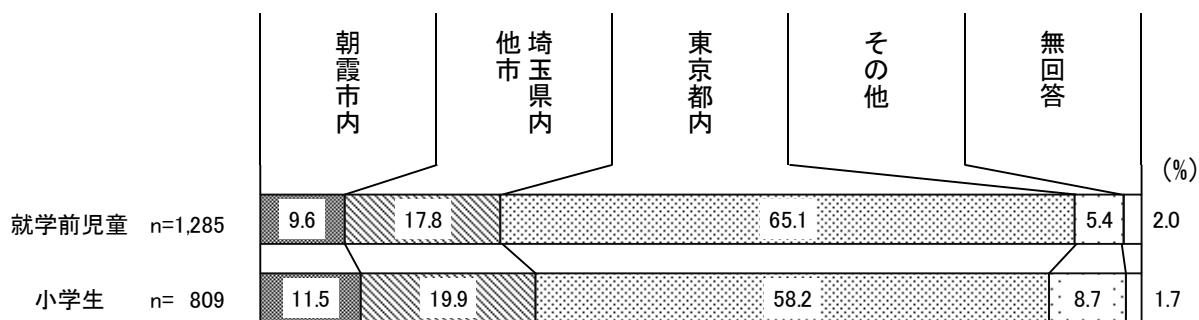
【母親】



就学前児童の母親の勤務先は、「朝霞市内」が25.3%、「埼玉県内他市」が27.3%、「東京都内」が45.2%、「その他」が1.5%となっている。

小学生の母親は、「朝霞市内」が45.2%、「埼玉県内他市」が27.6%、「東京都内」が25.3%、「その他」が1.0%となっている。

【父親】



就学前児童の父親の勤務先は、「朝霞市内」が9.6%、「埼玉県内他市」が17.8%、「東京都内」が65.1%、「その他」が5.4%となっている。

小学生の父親は、「朝霞市内」が11.5%、「埼玉県内他市」が19.9%、「東京都内」が58.2%、「その他」が8.7%となっている。

(5) 通勤方法／通勤時間

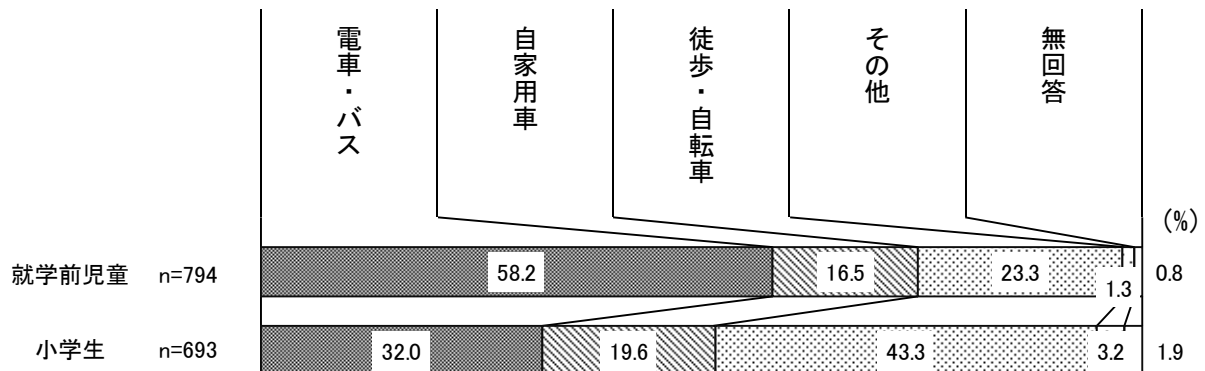
問12(1)(2)で就労しているに回答した方

〔就学前児童、小学生：問12(1)-4、問12(2)-4〕

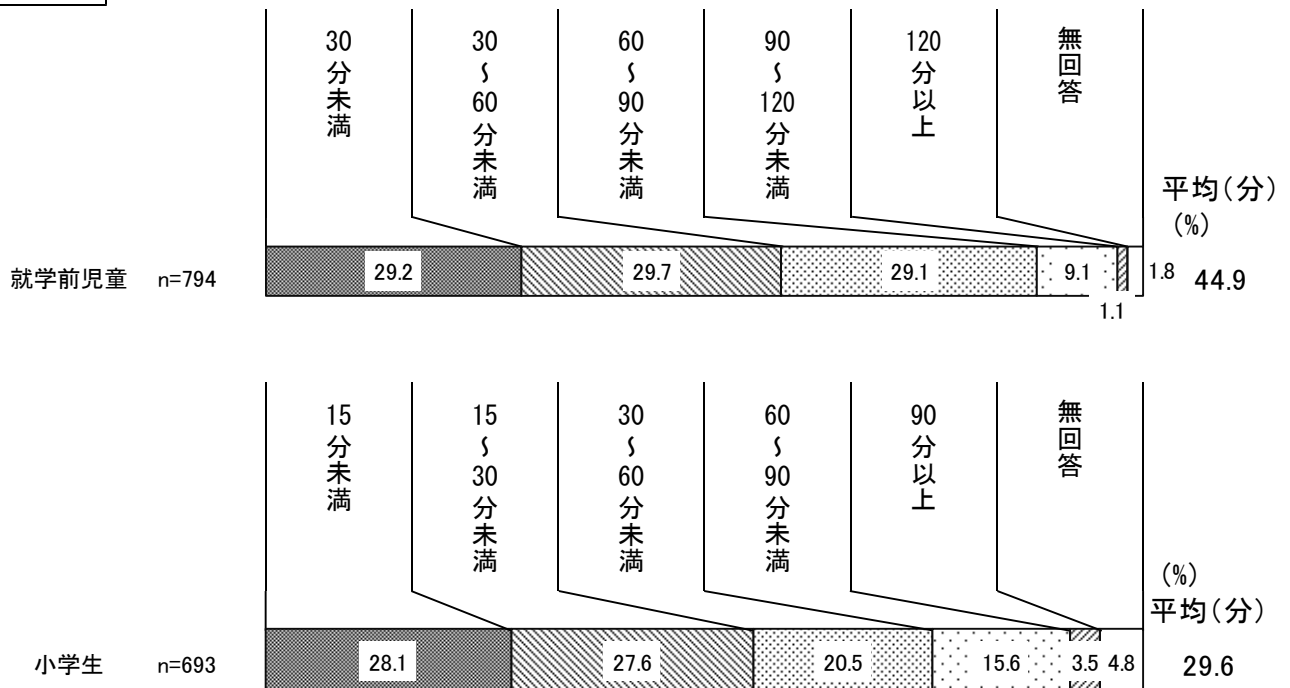
主な通勤方法(○は1つ)と通勤時間をお答えください。

【母親】

通勤方法



通勤時間



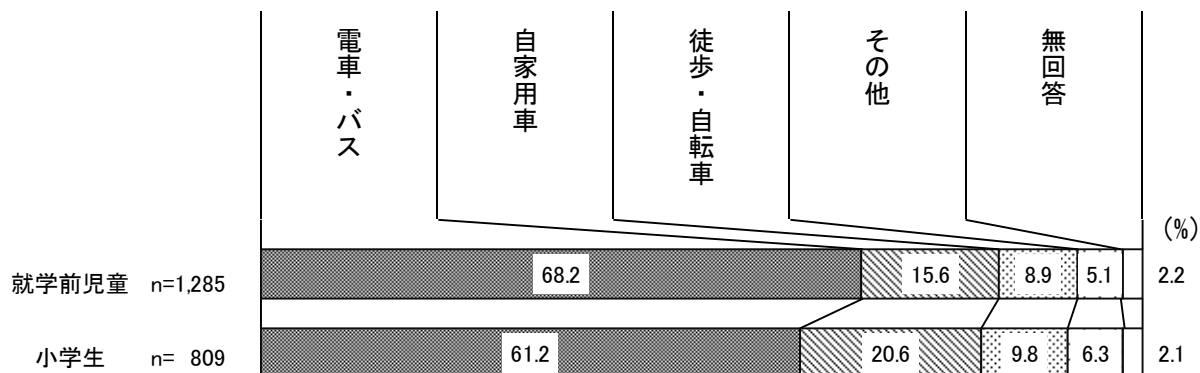
就学前児童の母親の通勤方法は、「電車・バス」が58.2%、「自家用車」が16.5%、「徒歩・自転車」が23.3%、「その他」が1.3%。平均通勤時間は、平均44.9分となっている。

小学生の母親の通勤方法は、「電車・バス」が32.0%、「自家用車」が19.6%、「徒歩・自転車」が43.3%、「その他」が3.2%。平均通勤時間は、29.6分となっている。

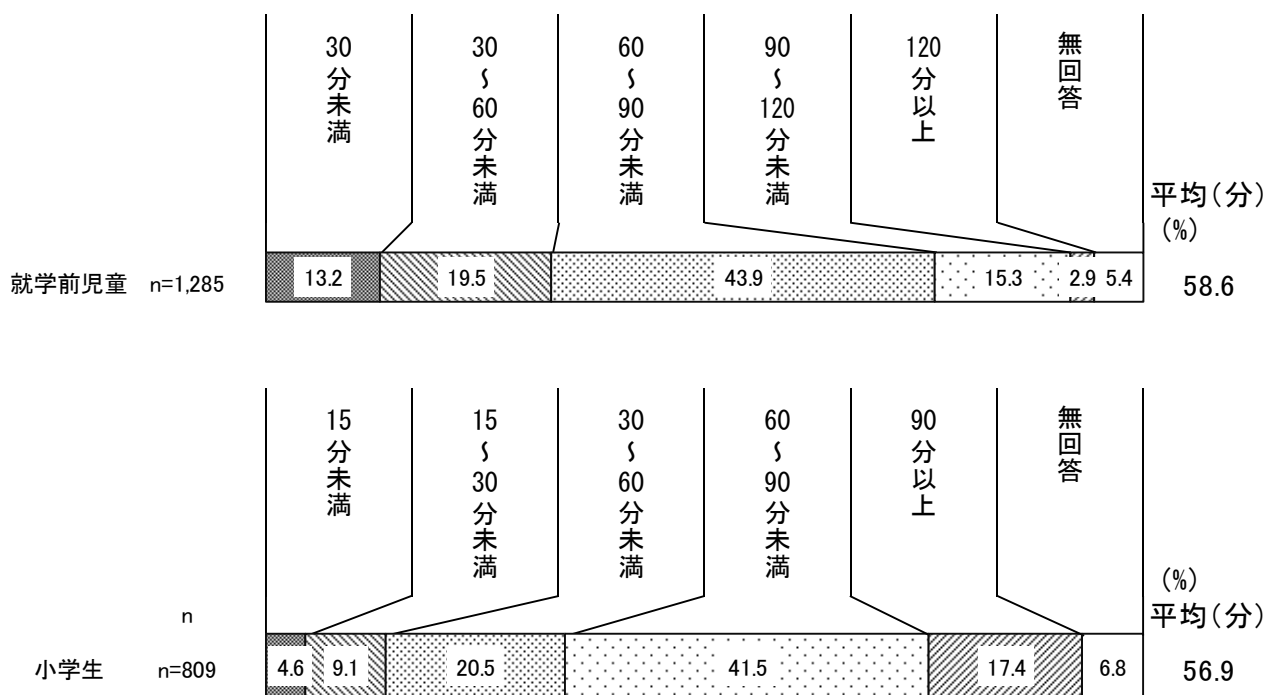
第2章 調査結果の詳細

【父親】

通勤方法



通勤時間



就学前児童の父親の通勤方法は、「電車・バス」が68.2%、「自家用車」が15.6%、「徒歩・自転車」が8.9%、「その他」が5.1%。平均通勤時間は、58.6分となっている。

小学生の父親の通勤方法は、「電車・バス」が61.2%、「自家用車」が20.6%、「徒歩・自転車」が9.8%、「その他」が6.3%。平均通勤時間は56.9分となっている。

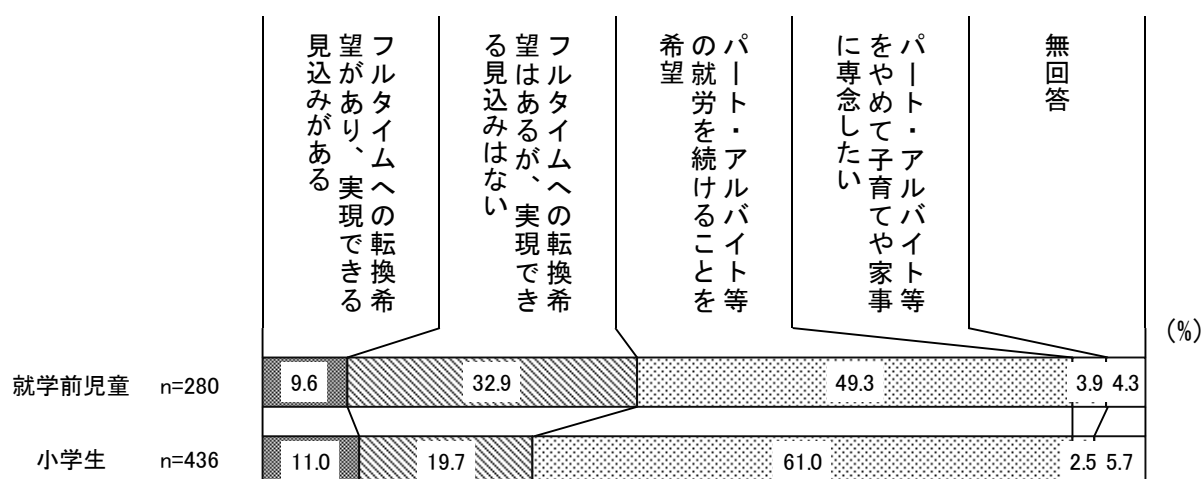
(6) フルタイムへの転換希望

問12の(1)または(2)でパート・アルバイト等で就労に回答した方

〔就学前児童、小学生：問13〕

フルタイムへの転換希望はありますか。(○は1つ)

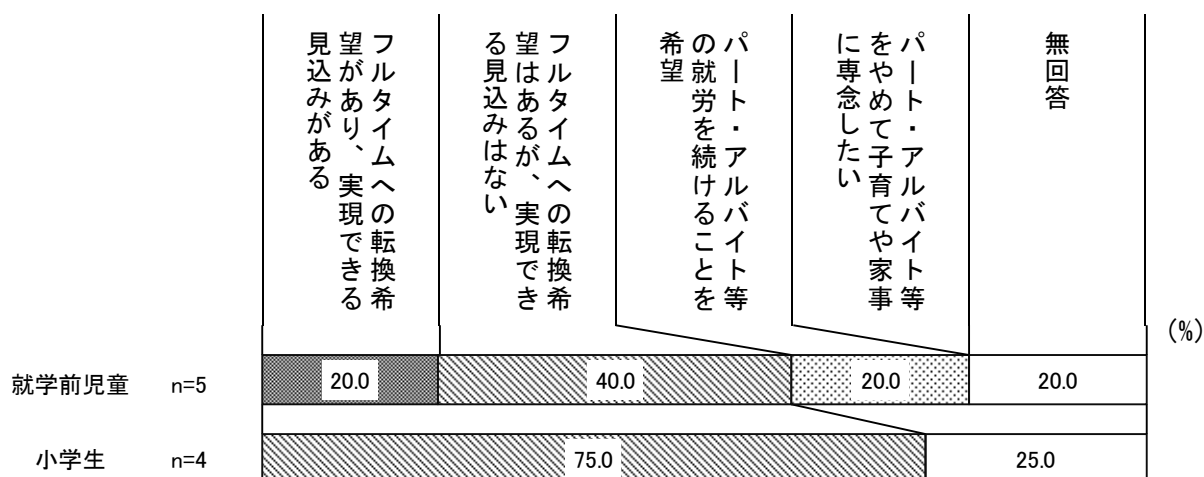
【母親】



「パート・アルバイト等で就労している」就学前児童の母親のフルタイムへの転換希望は、「パート・アルバイト等の就労を続けることを希望」が49.3%、「フルタイムへの転換希望はあるが、実現できる見込みはない」が32.9%、「フルタイムへの転換希望があり、実現できる見込みがある」が9.6%となっている。

これに対し、「パート・アルバイト等で就労している」小学生の母親のフルタイムへの転換希望は、「パート・アルバイト等の就労を続けることを希望」が61.0%、「フルタイムへの転換希望はあるが、実現できる見込みはない」が19.7%、「フルタイムへの転換希望があり、実現できる見込みがある」が11.0%で、就学前児童に比べ、「パート・アルバイト等の就労を続けることを希望」の割合が高く、「フルタイムへの転換希望はあるが、実現できる見込みはない」の割合が低くなっている。

【父親】



「パート・アルバイト等で就労している」就学前児童の父親のフルタイムへの転換希望は、5人のうち、2人が「フルタイムへの転換希望はあるが、実現できる見込みはない」と回答。

小学生の父親は、4人のうち3人が「フルタイムへの転換希望はあるが、実現できる見込みはない」と回答している。

(7) 就労希望

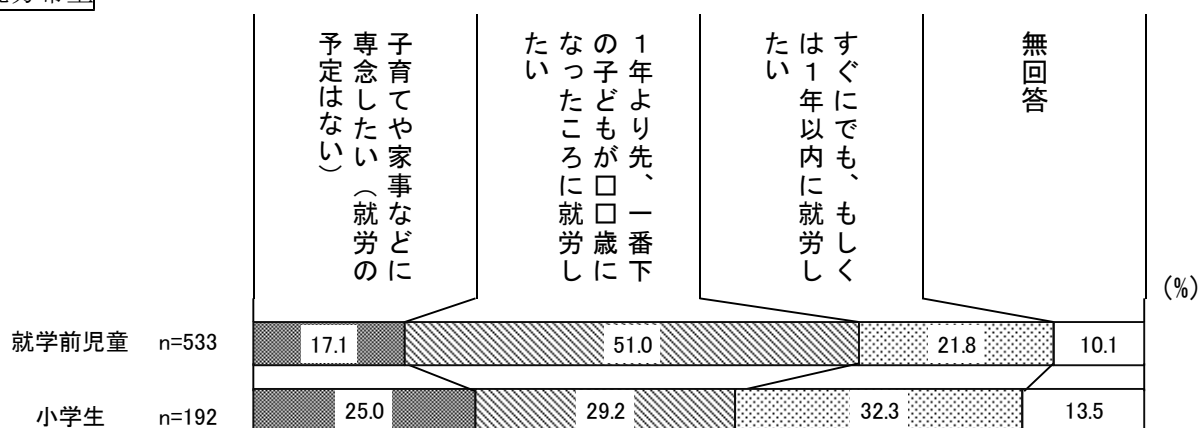
問12の(1)または(2)で「以前は就労していたが、現在は就労していない」または「これまで就労したことがない」に回答した方

〔就学前児童、小学生：問14〕

就労したいという希望はありますか。(○はそれぞれ1つずつ)

【母親】

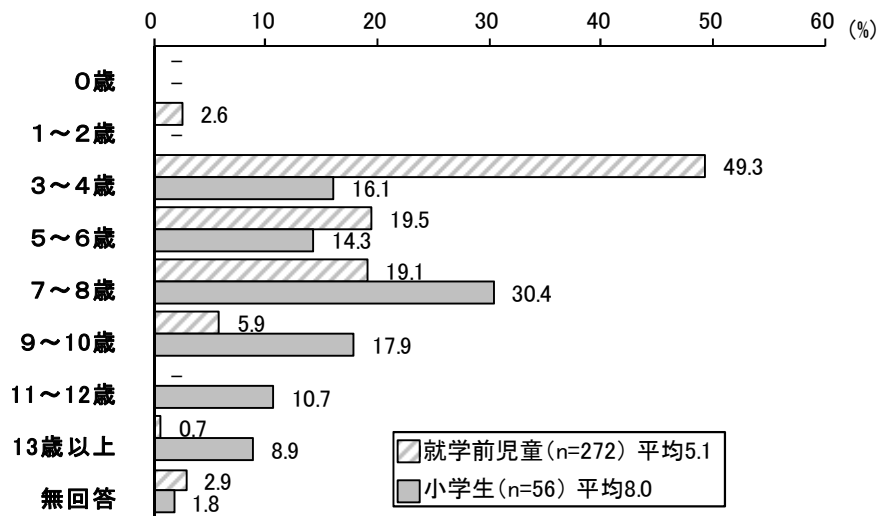
就労希望



「現在は就労していない」または「就労したことがない」就学前児童の母親の就労希望は、「1年より先、一番下の子どもが□□歳になったところに就労したい」が51.0%と最も高い。

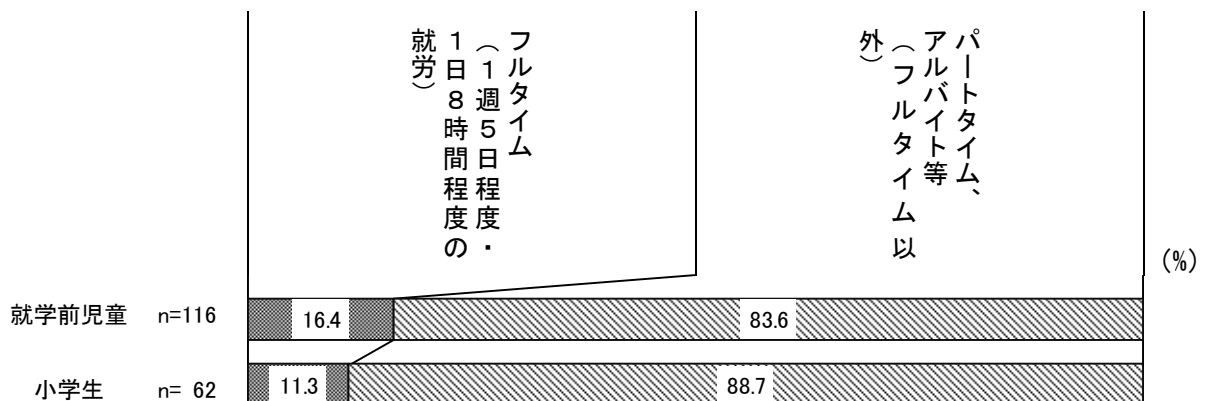
これに対し、「現在は就労していない」または「就労したことがない」小学生の母親の就労希望は、「子育てや家事などに専念したい」が25.0%、「1年より先、一番下の子どもが□□歳になったところに就労したい」が29.2%、「すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい」が32.3%となっている。

就労を希望する時期（就労したいと思う子どもの年齢）



「1年より先、一番下の子どもが□□歳になったところに就労したい」という就学前児童の母親が就労を希望する時期は、一番下の子どもが「3～4歳」が49.3%で最も高く、平均5.1歳となっている。これに対し、小学生の母親が就労を希望する時期は、末子が「7～8歳」が30.4%で最も高く、平均8.0歳となっている。

希望する就労形態

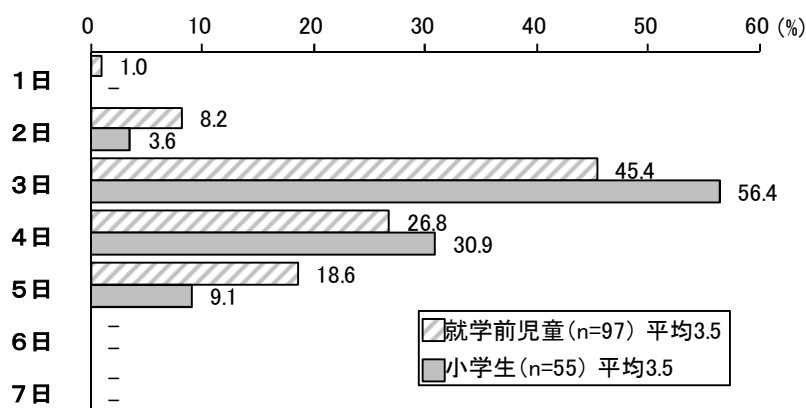


「現在は就労していない」または「就労したことがない」就学前児童の母親のうち、「すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい」と回答した人が希望する就労形態は、「フルタイム(1週5日程度・1日8時間程度の就労)」が16.4%、「パートタイム、アルバイト等(フルタイム以外)」が83.6%。

これに対し、「現在は就労していない」または「就労したことがない」小学生の母親のうち、「すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい」と回答した人が希望する就労形態は、「フルタイム」が11.3%、「パートタイム、アルバイト等」が88.7%となっている。

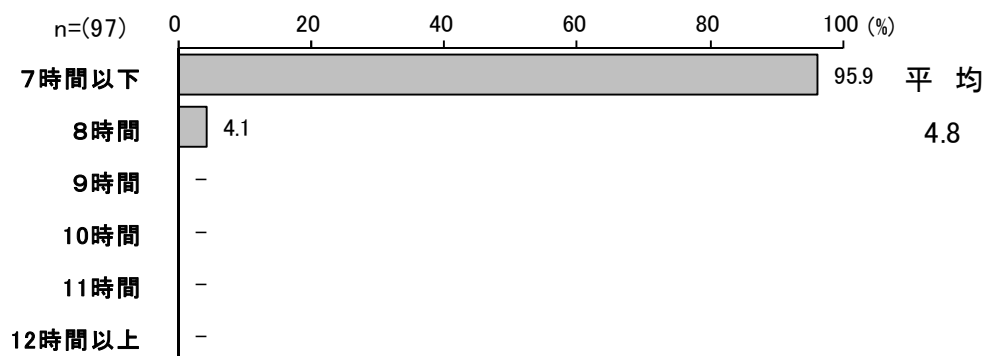
第2章 調査結果の詳細

パート・アルバイト等で希望する就労日数／1週当たり

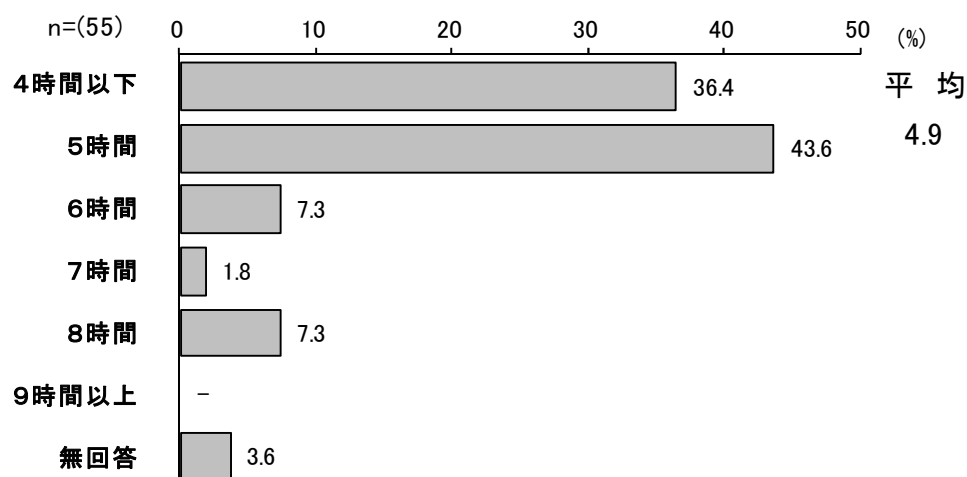


パート・アルバイト等で希望する就労時間／1日当たり

【就学前児童】



【小学生】

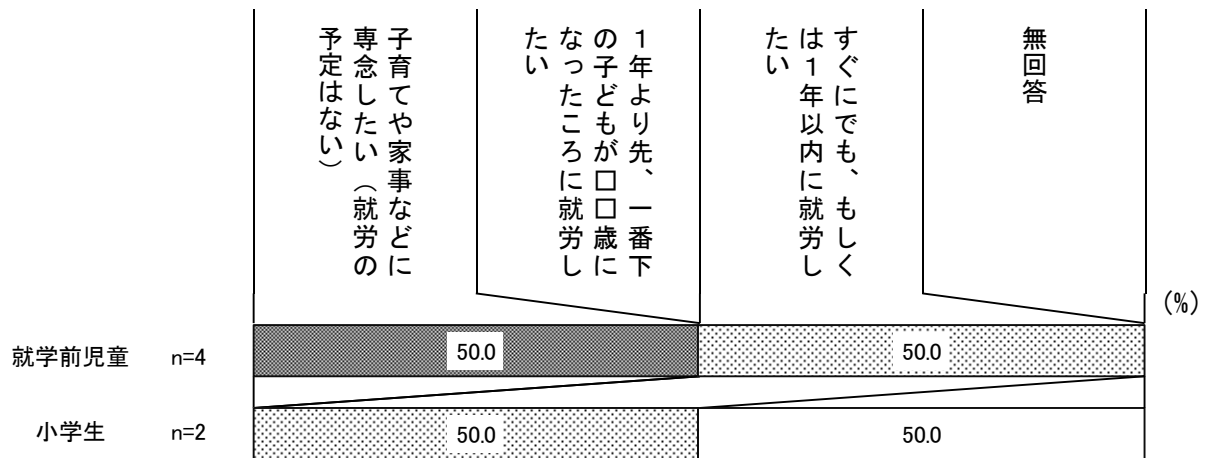


「パートタイム、アルバイト等」を希望する母親の週当たりの平均就労希望日数は、就学前児童・小学生とも3.5日／週となっている。

また、1日当たりの平均就労希望時間は、就学前児童4.8時間／日、小学生4.9時間／日となっている。

【父親】

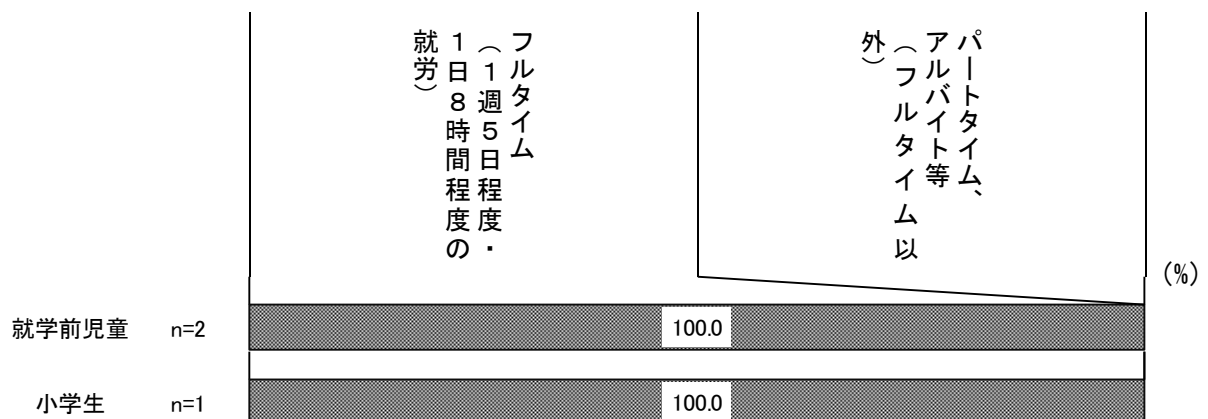
就労希望



「現在は就労していない」または「就労したことがない」就学前児童の父親は4人で、「子育てや家事などに専念したい（就労の予定はない）」「すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい」が各2人となっている。

「就労していない」または「就労したことがない」小学生の父親は2人で、1人が「すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい」と回答している。

希望する就労形態



「現在は就労していない」または「就労したことがない」就学前児童の父親のうち、「すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい」と回答した2人で、両名とも「フルタイム（1週5日程度・1日8時間程度の就労）」を希望している。

小学生の父親の該当者は、1人で「フルタイム（1週5日程度・1日8時間程度の就労）」を希望している。

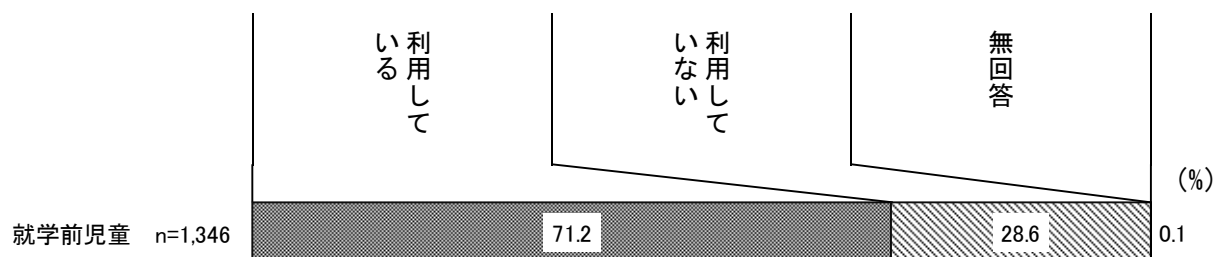
5. 平日の定期的な教育・保育の事業の利用状況と利用希望(就学前児童のみ)

(1) 定期的な教育・保育の事業の利用の有無

〔就学前児童：問15〕

対象のお子さんは現在、幼稚園や保育所などの「定期的な教育・保育の事業」を利用されていますか。(○は1つ)

※ここでいう「定期的な教育・保育の事業」とは、月単位で定期的に利用している事業のことです。具体的には、幼稚園や保育所など、問15-1に示している事業が含まれます。



幼稚園や保育所などの定期的な教育・保育事業の利用状況は、「利用している」が71.2%、「利用していない」が28.6%となっている。

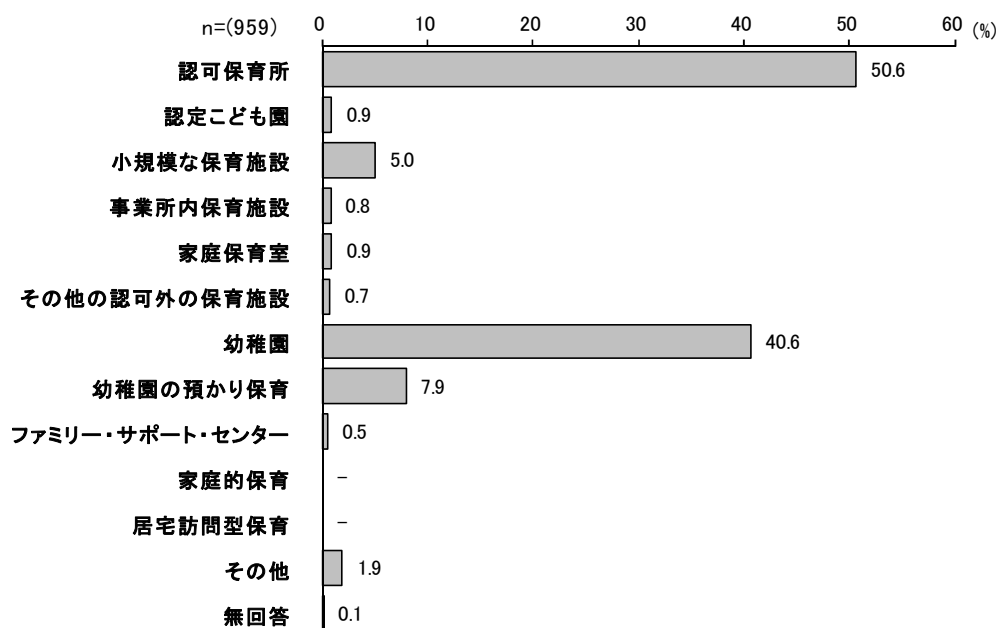
(2) 定期的に利用している事業

問15で「利用している」に回答した方

〔就学前児童：問15-1〕

対象のお子さんは、平日どのような教育・保育の事業を利用していますか。年間を通じて「定期的に」利用している事業をお答えください。

(○はあてはまるものすべて)【複数回答】



年間を通じて定期的に利用している教育・保育事業は、「認可保育所」が50.6%、「幼稚園」が40.6%と特に高く、これらに「幼稚園の預かり保育」が7.9%、「小規模な保育施設」が5.0%が続いている。

(3) 利用日数、利用時間

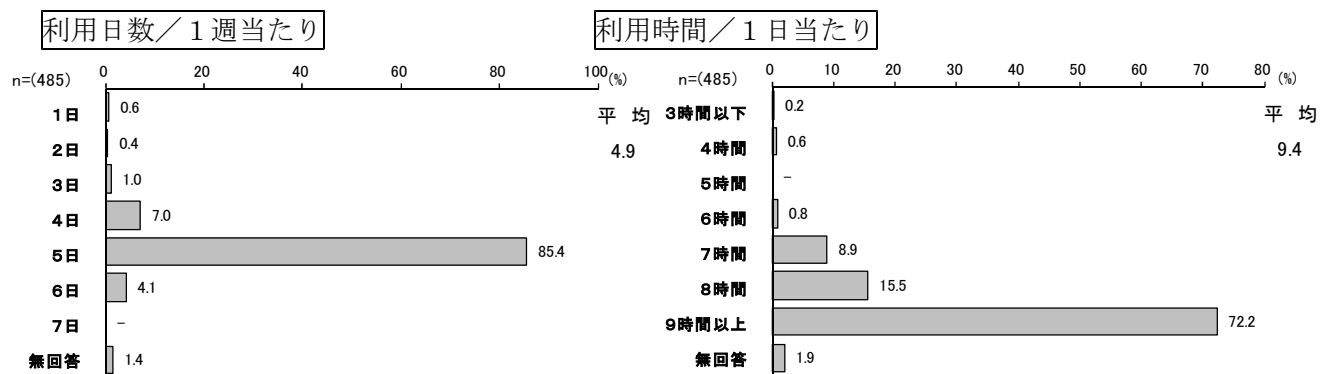
問15で「利用している」に回答した方

〔就学前児童：問15-2〕

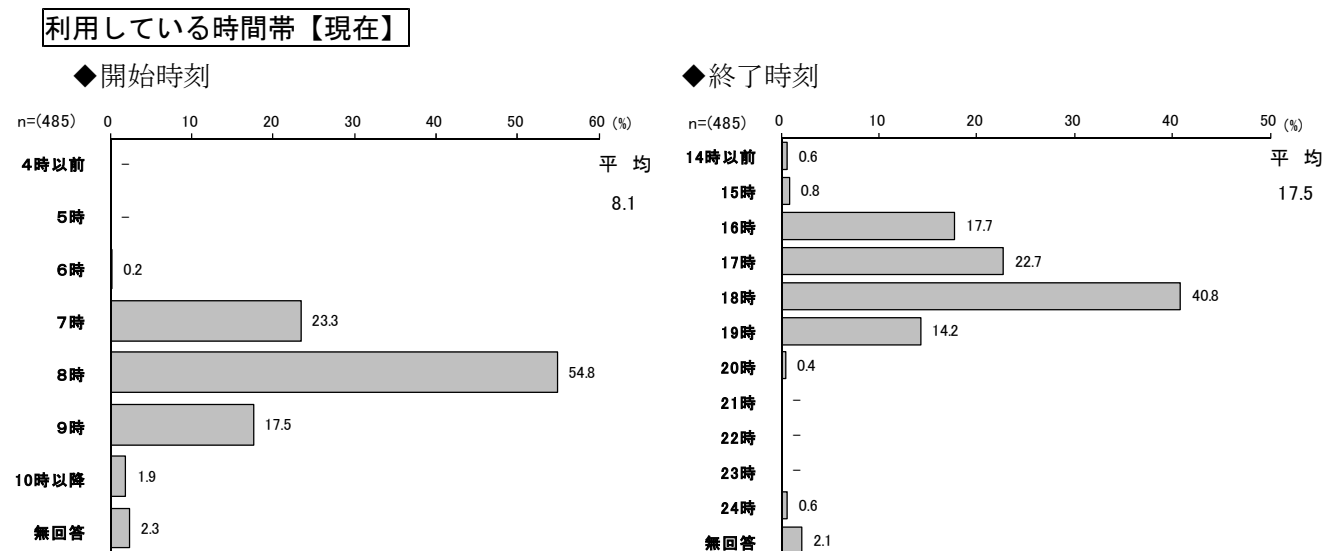
平日に定期的に利用している教育・保育の事業について、(1)現在どのくらい利用していますか。また、(2)希望としてはどのくらい利用したいですか。

※時間は、必ず(例)09時～18時のように24時間制でご記入ください。

<認可保育所>



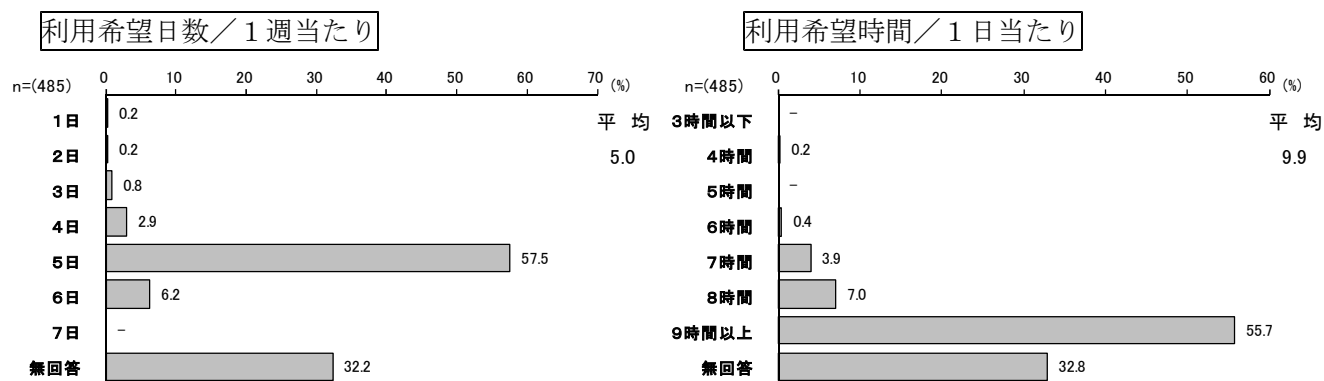
認可保育所の週当たりの平均利用日数は4.9日／週、1日当たりの平均利用時間は9.4時間／日となっている。



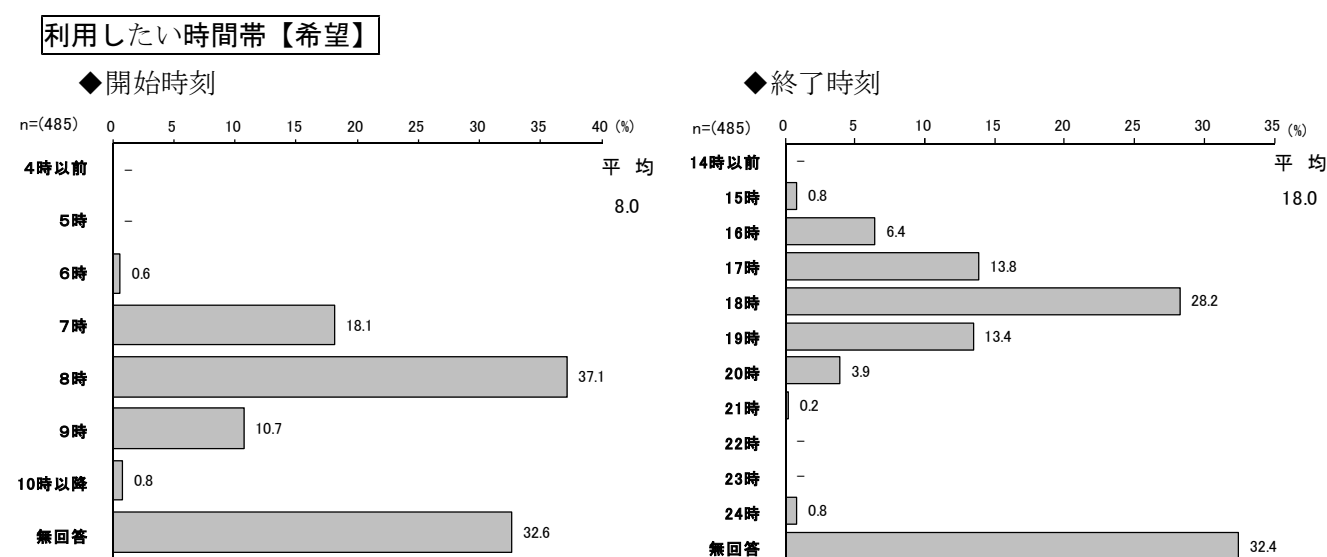
利用開始時刻は「8時」が54.8%で最も高く、これに「7時」が23.3%、「9時」が17.5%が続いている。

利用終了時刻は、「18時」が40.8%で最も高く、これに「17時」が22.7%、「16時」が17.7%が続いている。

第2章 調査結果の詳細

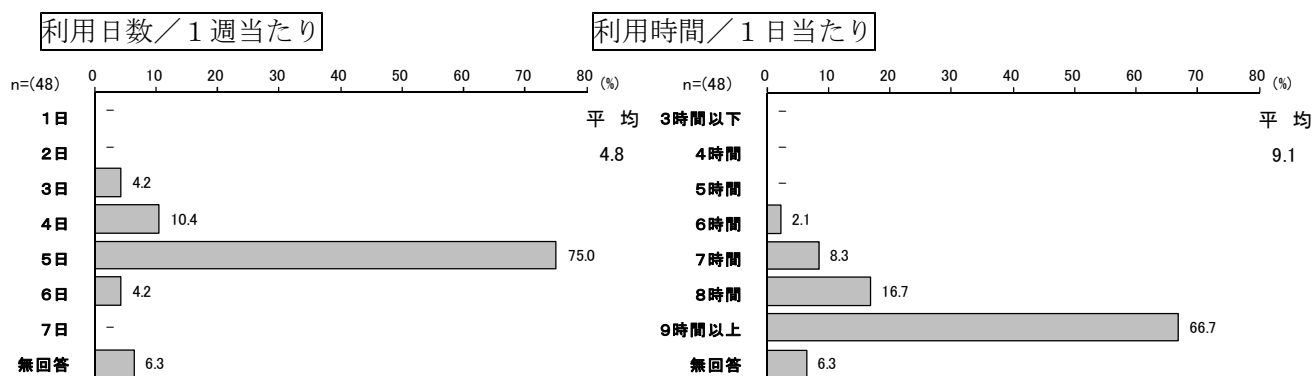


認可保育所の週当たりの平均利用希望日数は5.0日／週、1日当たりの平均利用希望時間は9.9時間／日となっている。



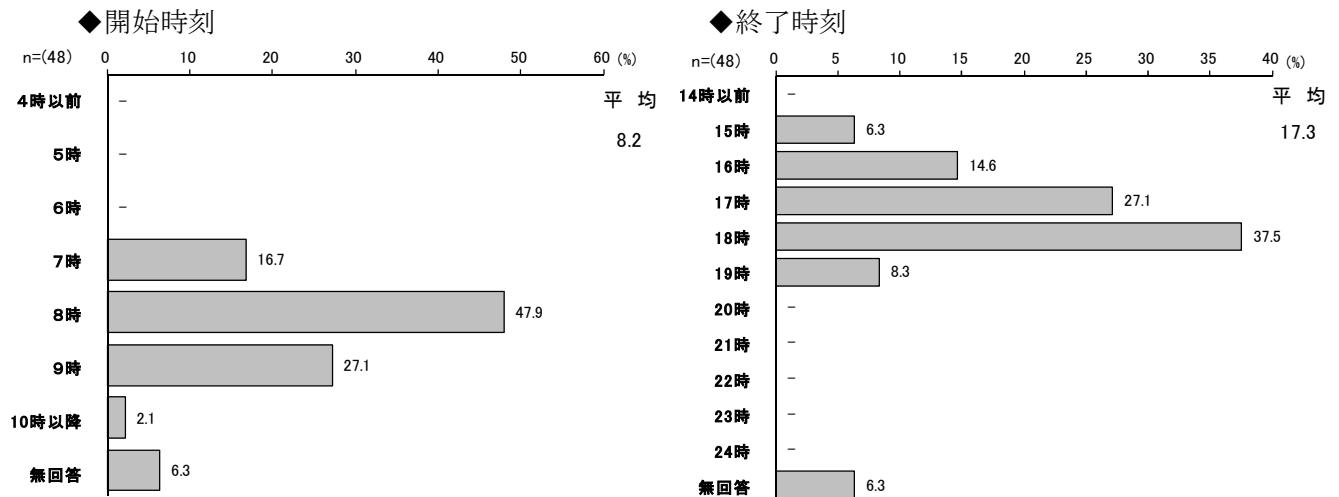
利用開始希望時刻は、「8時」が37.1%で最も高く、これに「7時」が18.1%、「9時」が10.7%で続いている。利用終了時刻は、「18時」が28.2%で最も高く、これに「17時」が13.8%、「19時」が13.4%で続いている。

<小規模な保育施設>



小規模な保育施設の週当たりの平均利用日数は平均 4.8 日／週、1日当たりの平均利用時間は 9.1 時間／日となっている。

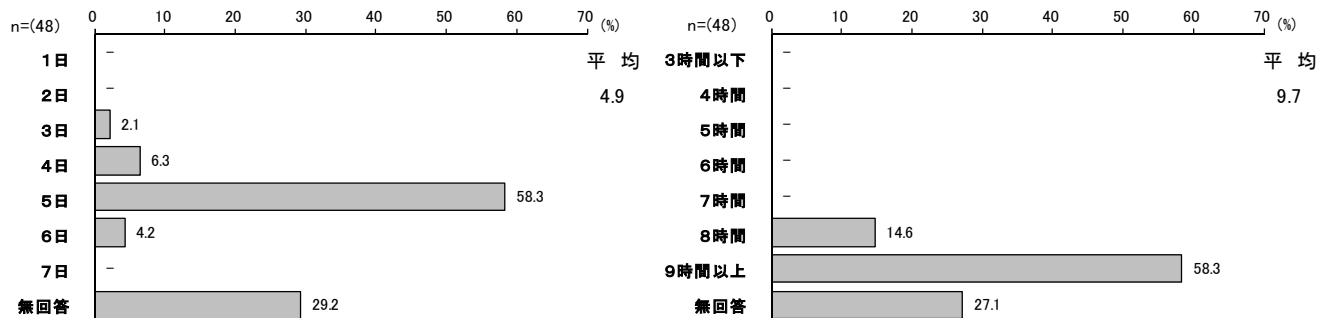
利用している時間帯【現在】



利用開始時刻は、「8時」が47.9%で最も高く、これに「9時」が27.1%、「7時」が16.7%が続いている。利用終了時刻は、「18時」が37.5%で最も高く、これに「17時」が27.1%が続いている。

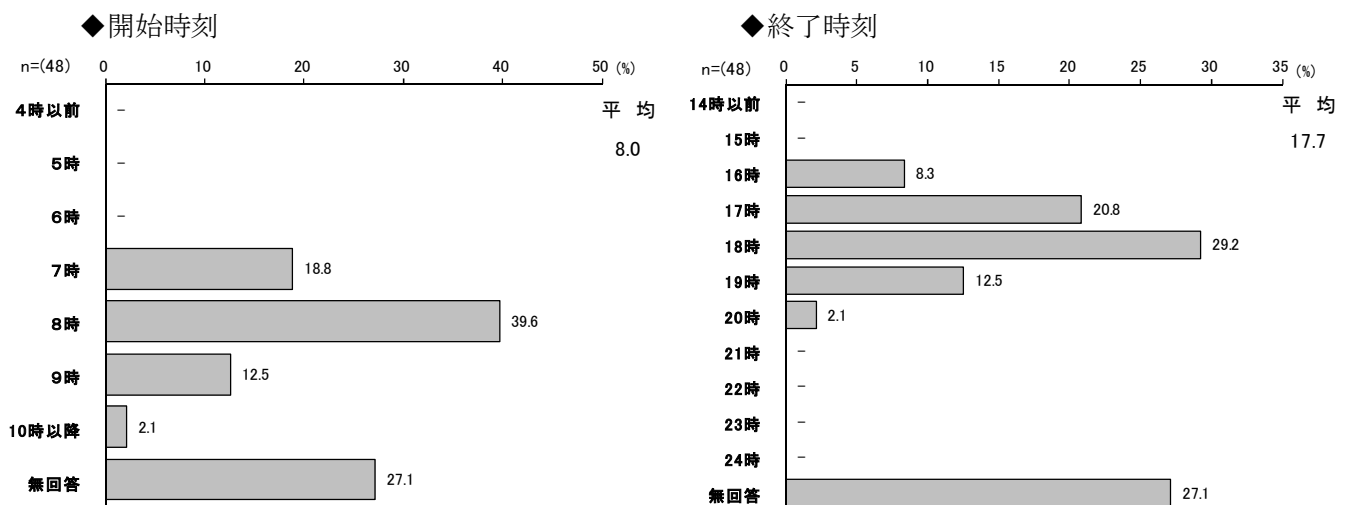
利用希望日数／1週当たり

利用希望時間／1日当たり



小規模な保育施設の週当たりの平均利用希望日数は4.9日／週、1日当たりの平均利用希望時間は9.7時間／日となっている。

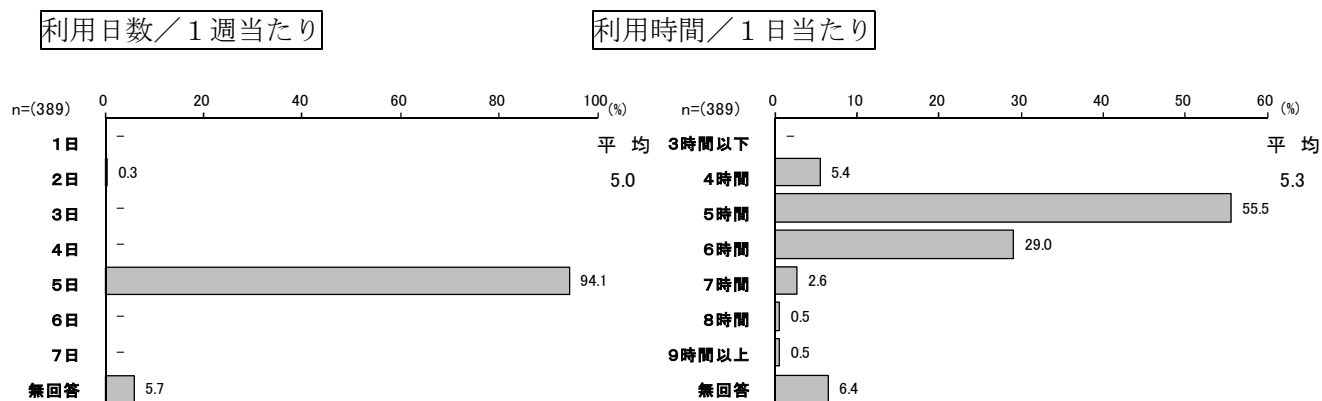
利用したい時間帯【希望】



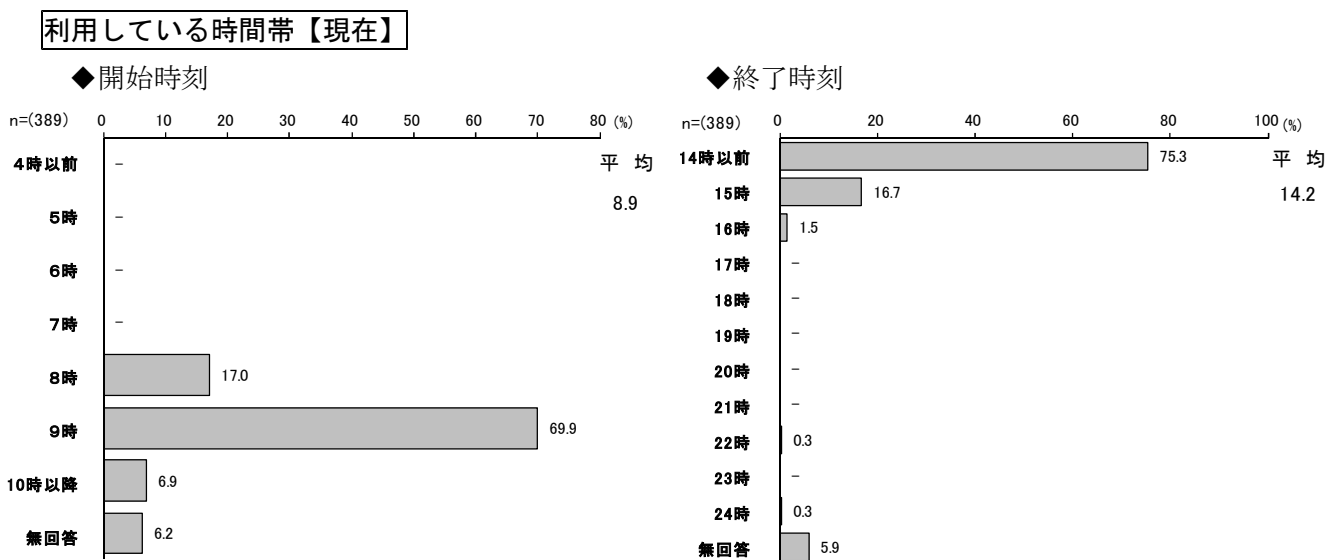
利用開始希望時刻は、「8時」が39.6%で最も高く、これに「7時」が18.8%が続いている。利用終了希望時刻は、「18時」が29.2%で最も高く、これに「17時」が20.8%が続いている。

第2章 調査結果の詳細

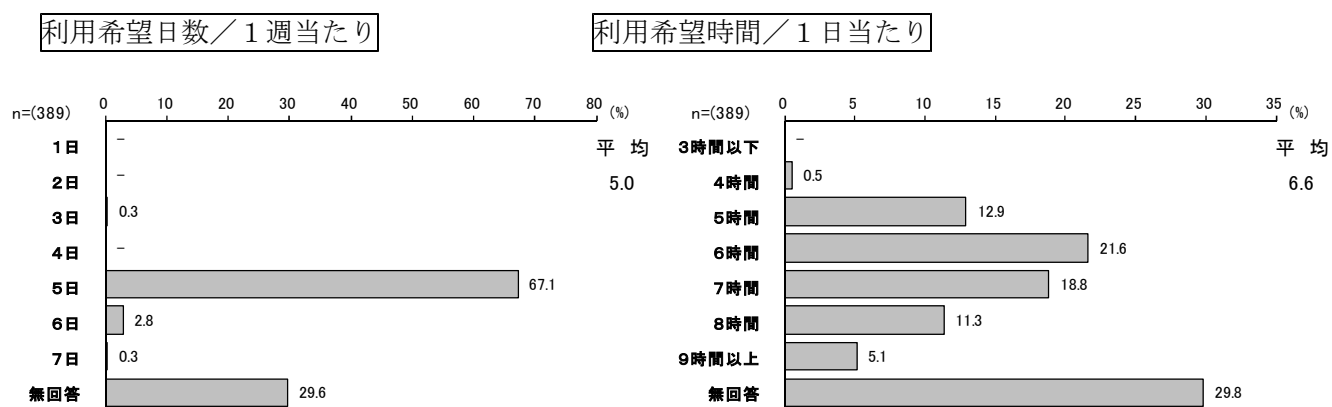
<幼稚園>



幼稚園の週当たりの平均利用日数は5.0日／週、1日当たりの平均利用時間は平均5.3時間／日となっている。

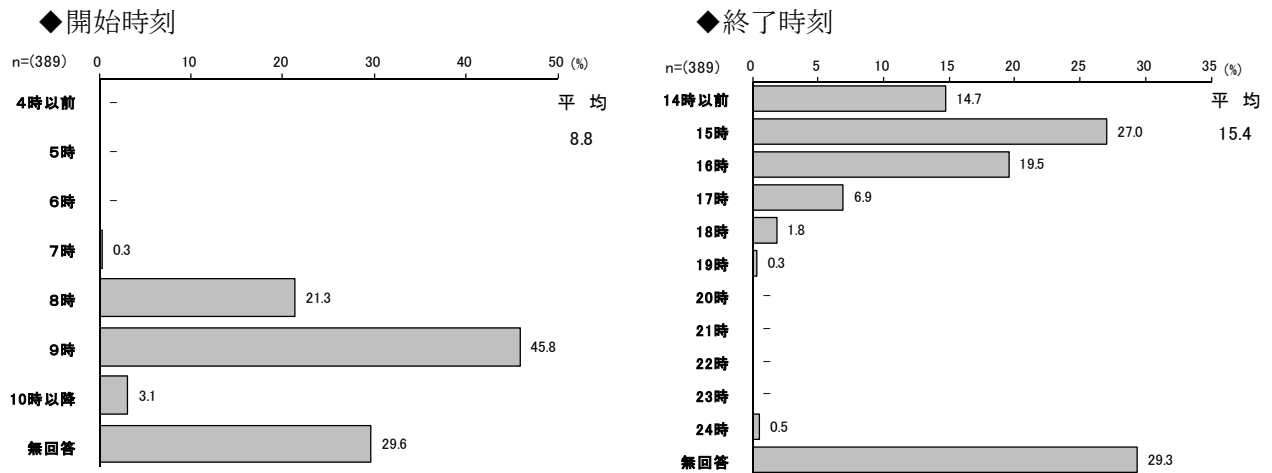


利用開始時刻は「9時」が69.9%を占め、利用終了時刻は「14時以前」が75.3%を占めている。



幼稚園の週当たりの平均利用希望日数は5.0日／週、1日当たりの平均利用希望時間は6.6時間／日となっている。

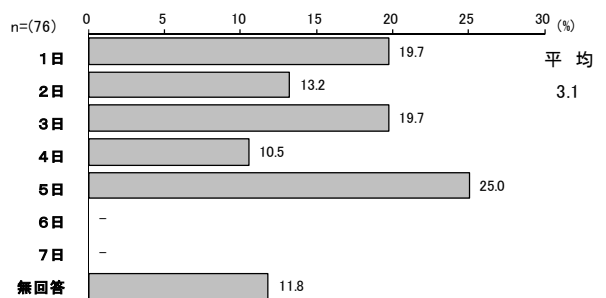
利用したい時間帯【希望】



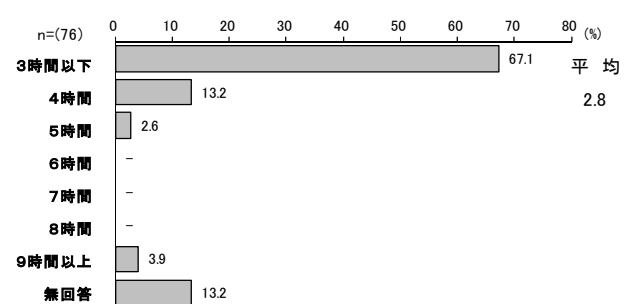
利用開始希望時刻は、「9時」が45.8%で最も高く、これに「8時」が21.3%が続いている。利用終了希望時刻は、「15時」が27.0%で最も高く、これに「16時」が19.5%が続いている。

<幼稚園の預かり保育>

利用日数／1週当たり

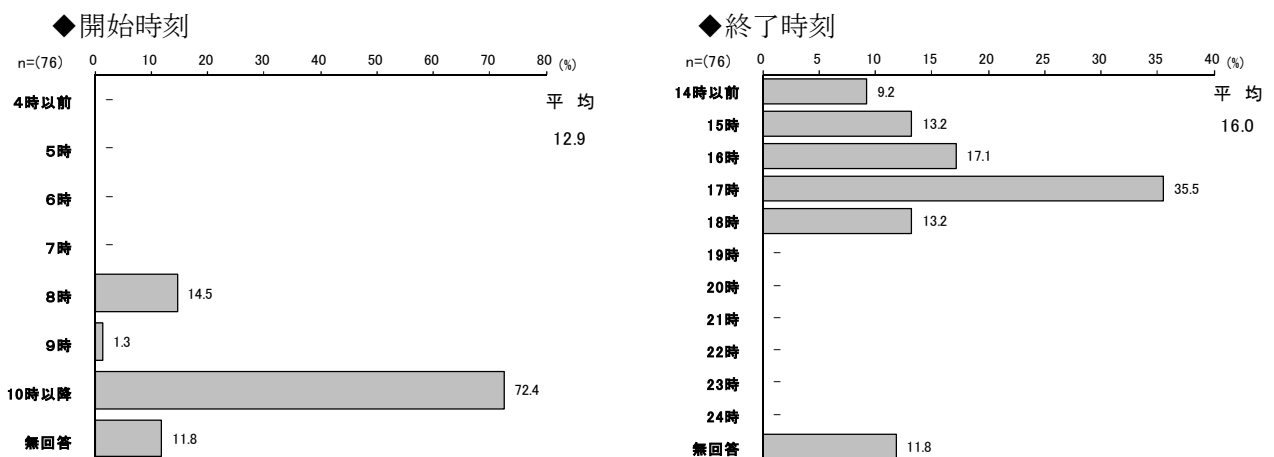


利用時間／1日当たり



幼稚園の預かり保育の週当たり平均利用日数は3.1日／週、1日当たりの平均利用時間は2.8時間／日となっている。

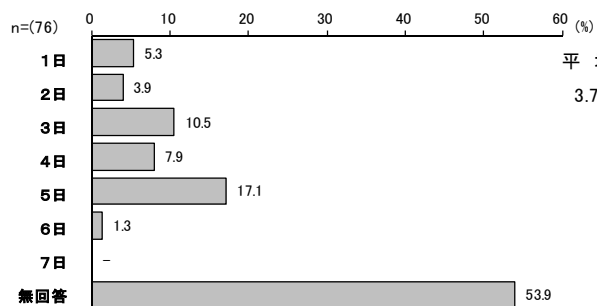
利用している時間帯【現在】



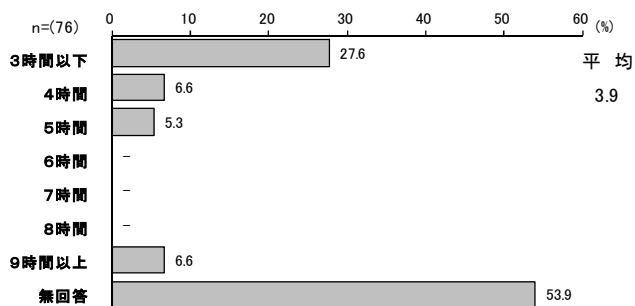
利用開始時刻は、「10時以降」が72.4%にのぼる。利用終了時刻は、「17時」が35.5%で最も高く、「16時」が17.1%が続いている。

第2章 調査結果の詳細

利用希望日数／1週当たり



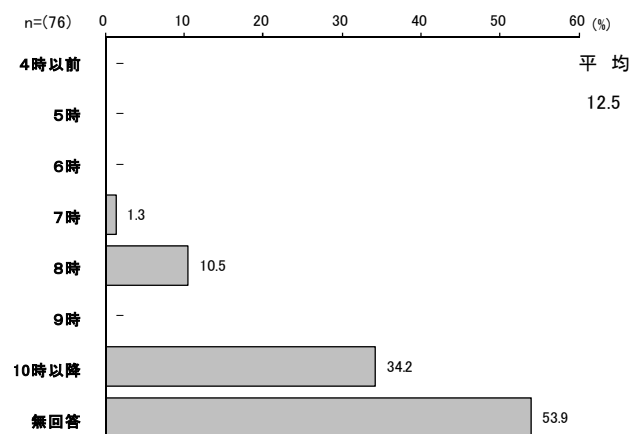
利用希望時間／1日当たり



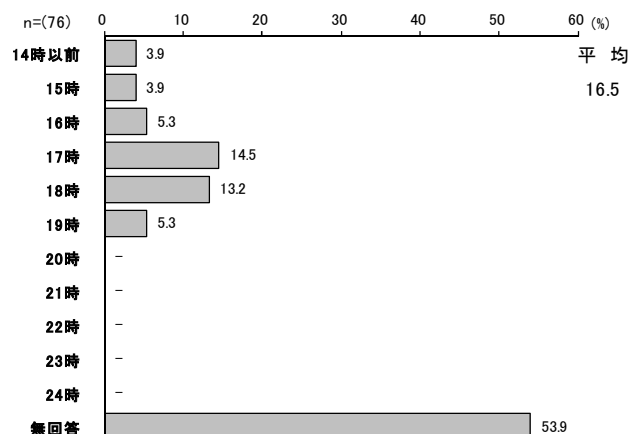
幼稚園の預かり保育の週当たりの平均利用希望日数は平均3.7日／週、1日当たりの平均利用希望時間は3.9時間／日となっている。

利用したい時間帯【希望】

◆開始時刻



◆終了時刻



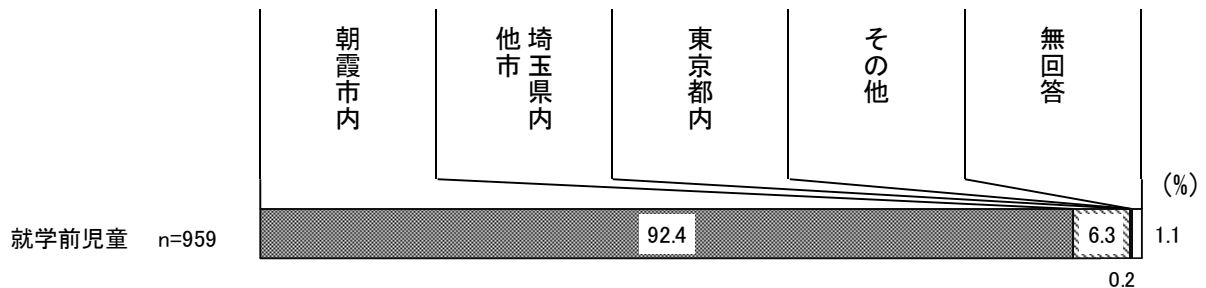
利用開始希望時刻は「10時以降」が34.2%で最も高く、利用終了希望時刻は「17時」が14.5%、「18時」が13.2%とやや高い。

(4) 利用している教育・保育の事業の実施場所

問15で「利用している」に回答した方

〔就学前児童：問15-3〕

現在、利用している教育・保育の事業の実施場所についてうかがいます。(○は1つ)



現在利用している教育・保育事業の実施場所は、「朝霞市内」が92.4%、「埼玉県内他市」が6.3%、「東京都内」が0.2%となっている。なお、「埼玉県内他市」として具体的な実施場所は、新座市（30件）や志木市（15件）の回答が多かった。

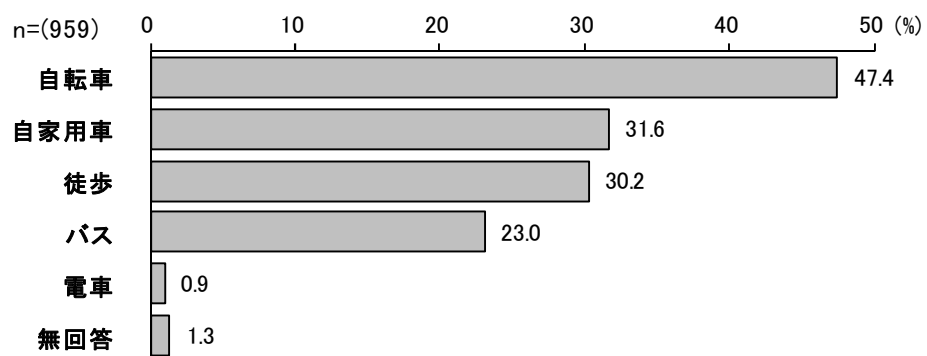
(5) 教育・保育の事業実施場所への移動手段

問15で「利用している」に回答した方

〔就学前児童：問15-4〕

現在、利用している教育・保育の事業の実施場所への移動手段についてうかがいます。

(○はあてはまるものすべて)【複数回答】



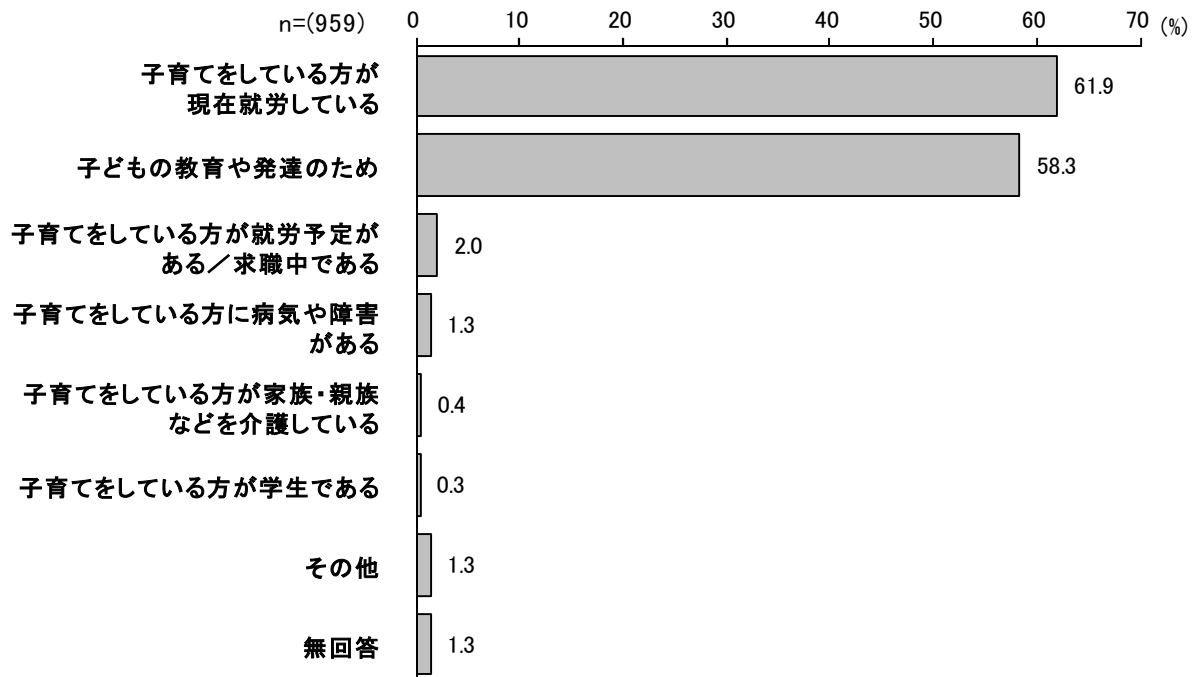
現在利用している教育・保育事業の実施場所への移動手段は、「自転車」が47.4%で最も高く、以下、「自家用車」(31.6%)、「徒歩」(30.2%)、「バス」(23.0%)、「電車」(0.9%)の順となっている。

(6) 定期的に教育・保育の事業を利用している理由

問15で「利用している」に回答した方

〔就学前児童：問15-5〕

平日に定期的に教育・保育の事業を利用されている理由についてうかがいます。(○はあてはまるものすべて)【複数回答】



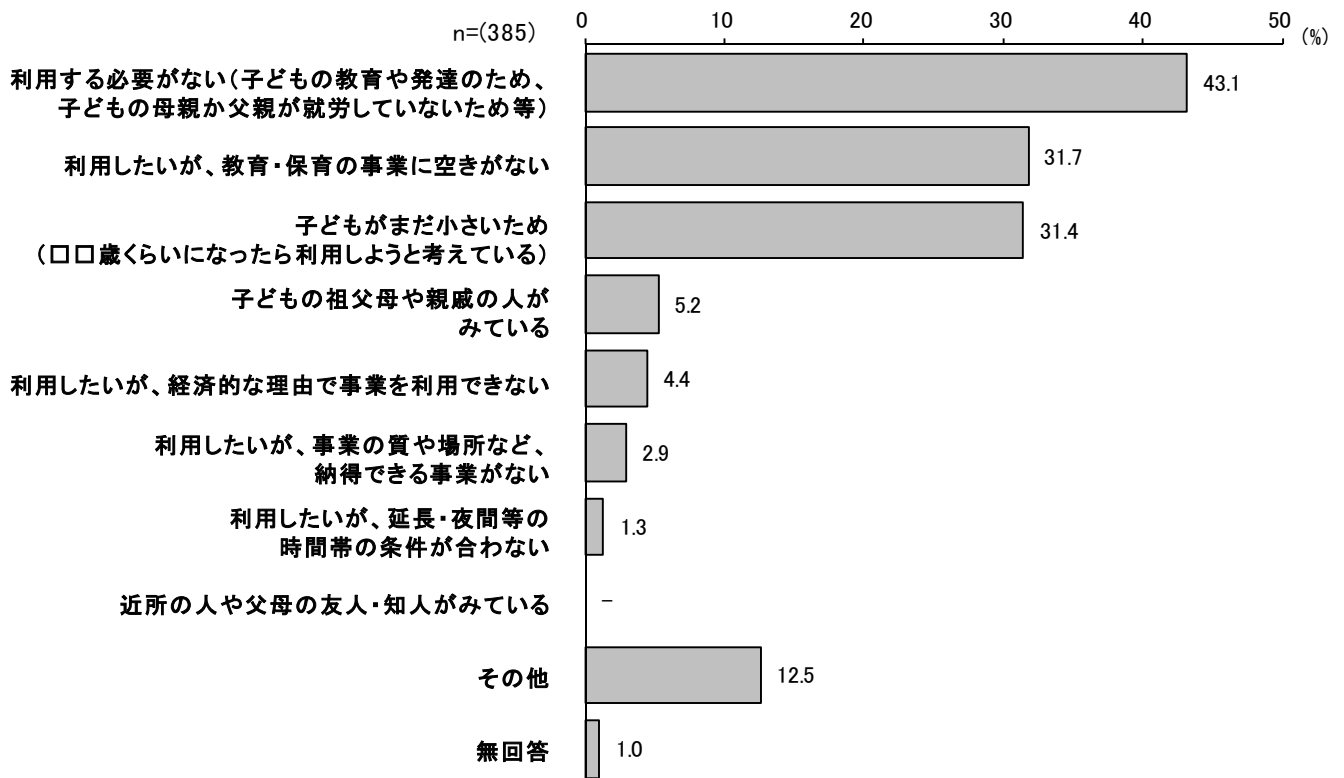
平日に定期的に教育・保育事業を利用している理由は、「子育てをしている方が現在就労している」が61.9%、「子どもの教育や発達のため」が58.3%で上位を占めている。

(7) 定期的に教育・保育の事業を利用していない理由

問15で「利用していない」に回答した方

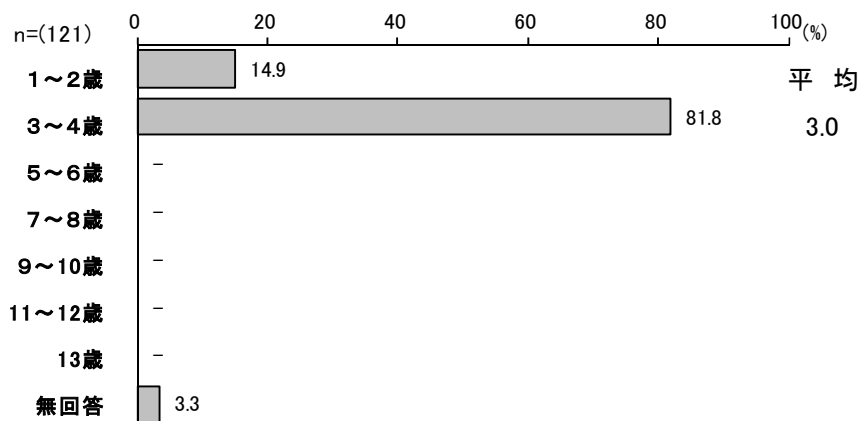
〔就学前児童：問15-6〕

利用していない理由は何ですか。(あてはまるものすべて)【複数回答】



平日に定期的に教育・保育事業を利用していない理由は、「利用する必要がない(子どもの教育や発達のため、子どもの母親か父親が就労していないため等)」が43.1%で最も高く、これに「利用したいが、教育・保育の事業に空きがない」が31.7%、「子どもがまだ小さいため(□□歳くらいになったら利用しようと考えている)」が31.4%で続いている。

利用しようと考えている子どもの年齢



「子どもがまだ小さいため(□□歳くらいになったら利用しようと考えている)」と回答した人が想定している子どもの年齢は、「3～4歳」が81.8%を占め、平均3.0歳となっている。

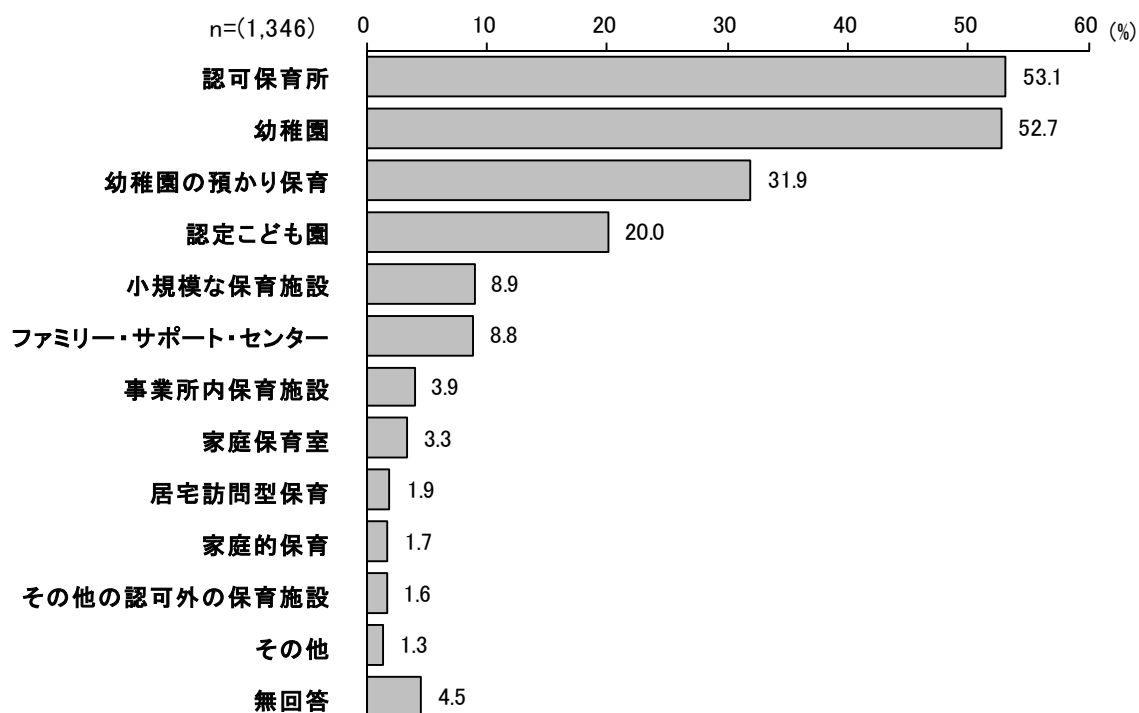
(8) 定期的に利用したい教育・保育の事業

〔就学前児童：問16〕

すべての方におたずねします。現在利用している、利用していないにかかわらず、対象のお子さんの平日の教育・保育の事業として、「定期的に」利用したいと考える事業をお答えください。ご回答は、現在の希望と、3～5歳までの幼児教育の無償化が実現した場合をそれぞれの希望をご記入ください。(〇はあてはまるものすべて)【複数回答】

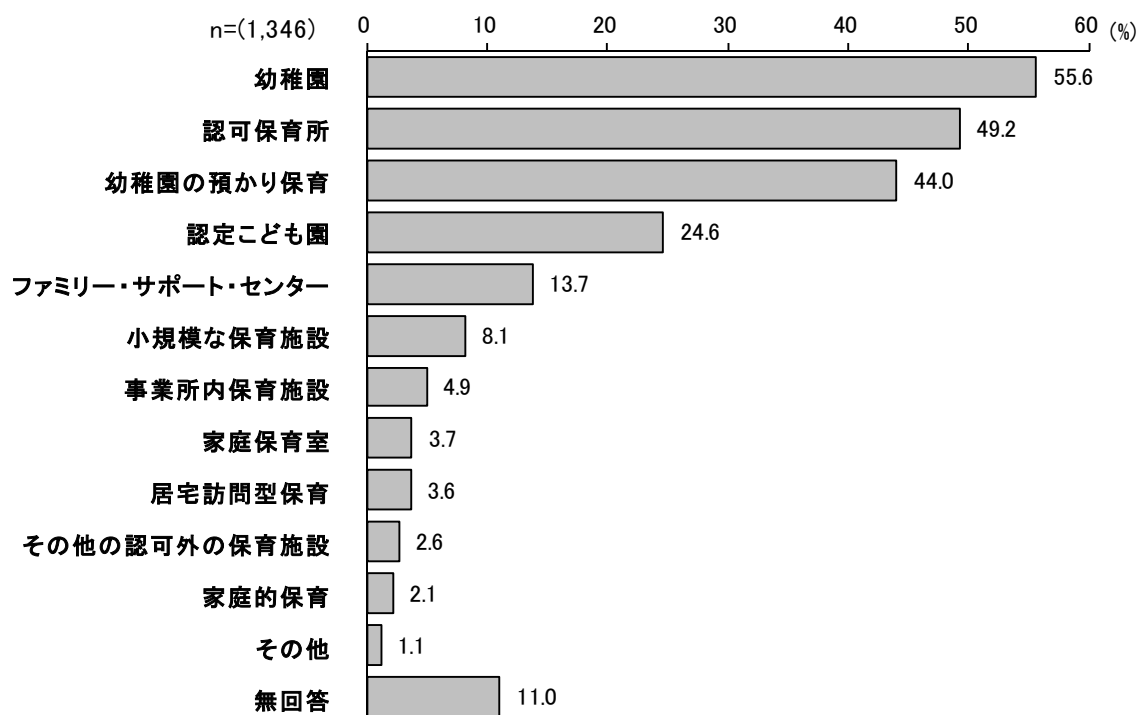
※幼児教育(幼稚園・保育所・認定こども園など)の利用無償化については、調査票の1ページをご覧ください。
※なお、これらに事業の利用には、一定の利用者負担が発生します。

現在の希望



現在、利用している、利用していないにかかわらず、平日の教育・保育事業として、定期的に利用したいと考える事業は、「認可保育所」(53.1%)、「幼稚園」(52.7%)が各5割強で上位を占め、これらに「幼稚園の預かり保育」(31.9%)、「認定こども園」(20.0%)が続いている。

3歳から5歳までの無償化が実現した場合の希望



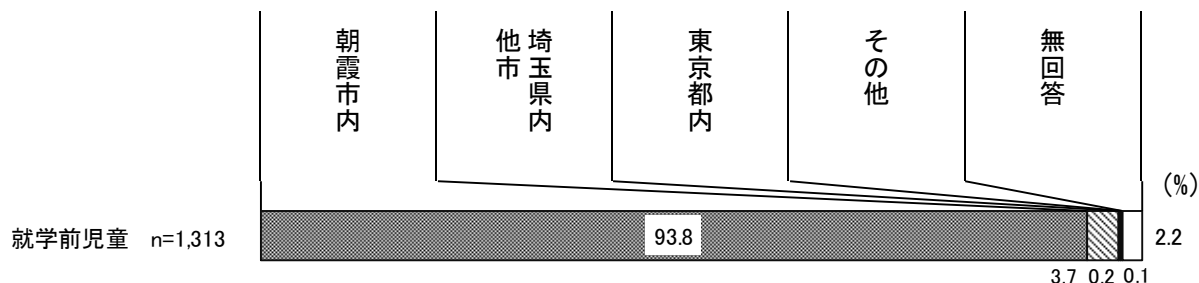
3～5歳までの幼児教育の無償化が実現した場合に、定期的に利用したいと考える事業は、「幼稚園」が55.6%で最も高く、これに「認可保育所」が49.2%、「幼稚園の預かり保育」が44.0%、「認定こども園」が24.6%が続いている。

(9) 利用したい実施場所

問16で各サービスのいずれかに回答した方

〔就学前児童：問16-1〕

教育・保育事業を利用したい場所についてうかがいます。(○は1つ)



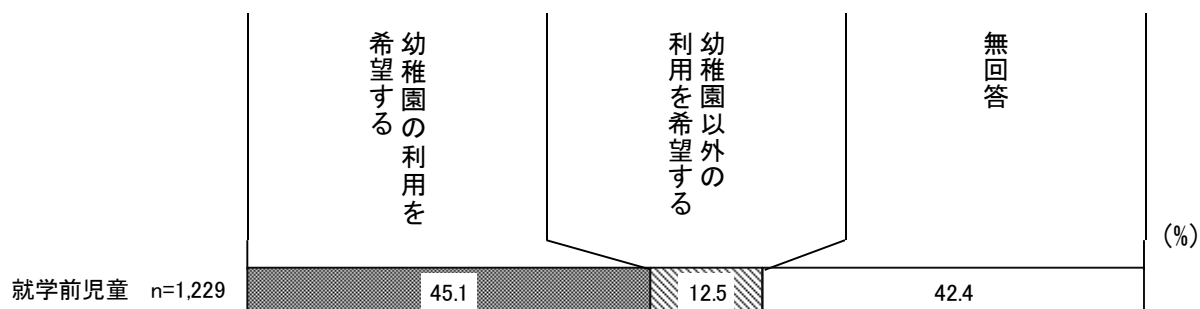
教育・保育事業を利用したい場所は、「朝霞市内」が93.8%、「埼玉県内他市」が3.7%、「東京都内」が0.2%、「その他」が0.1%となっている。

(10) 幼稚園の強い利用希望の有無

問16で「幼稚園」または「幼稚園の預かり保育」に回答し、かつ「その他」の項目に回答した方

〔就学前児童：問16-2〕

特に幼稚園の利用を強く希望しますか。(○は1つ)



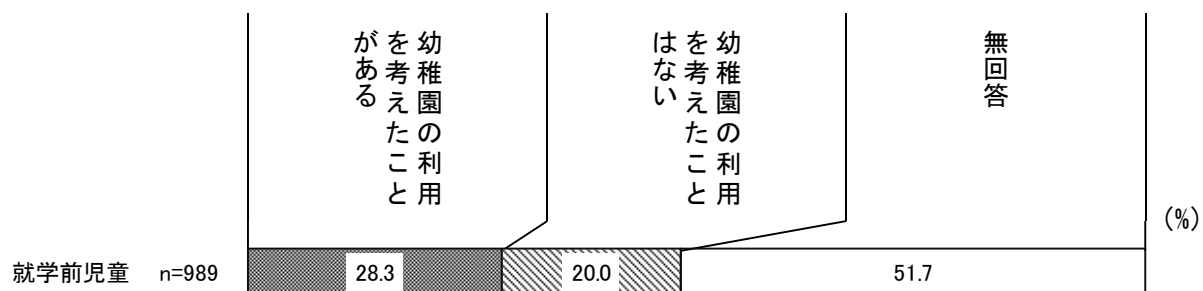
「幼稚園」または「幼稚園の預かり保育」を希望し、かつ、その他の事業も希望している人のうち、「幼稚園の利用を強く希望する」人は45.1%となっている。

(11) 幼稚園の利用を考えたこと

問16で「幼稚園」または「幼稚園の預かり保育」以外に回答した方

〔就学前児童：問16-3〕

幼稚園(幼稚園の預かり保育をあわせて利用する場合も含む)の利用を考えたことがありますか。(〇は1つ)



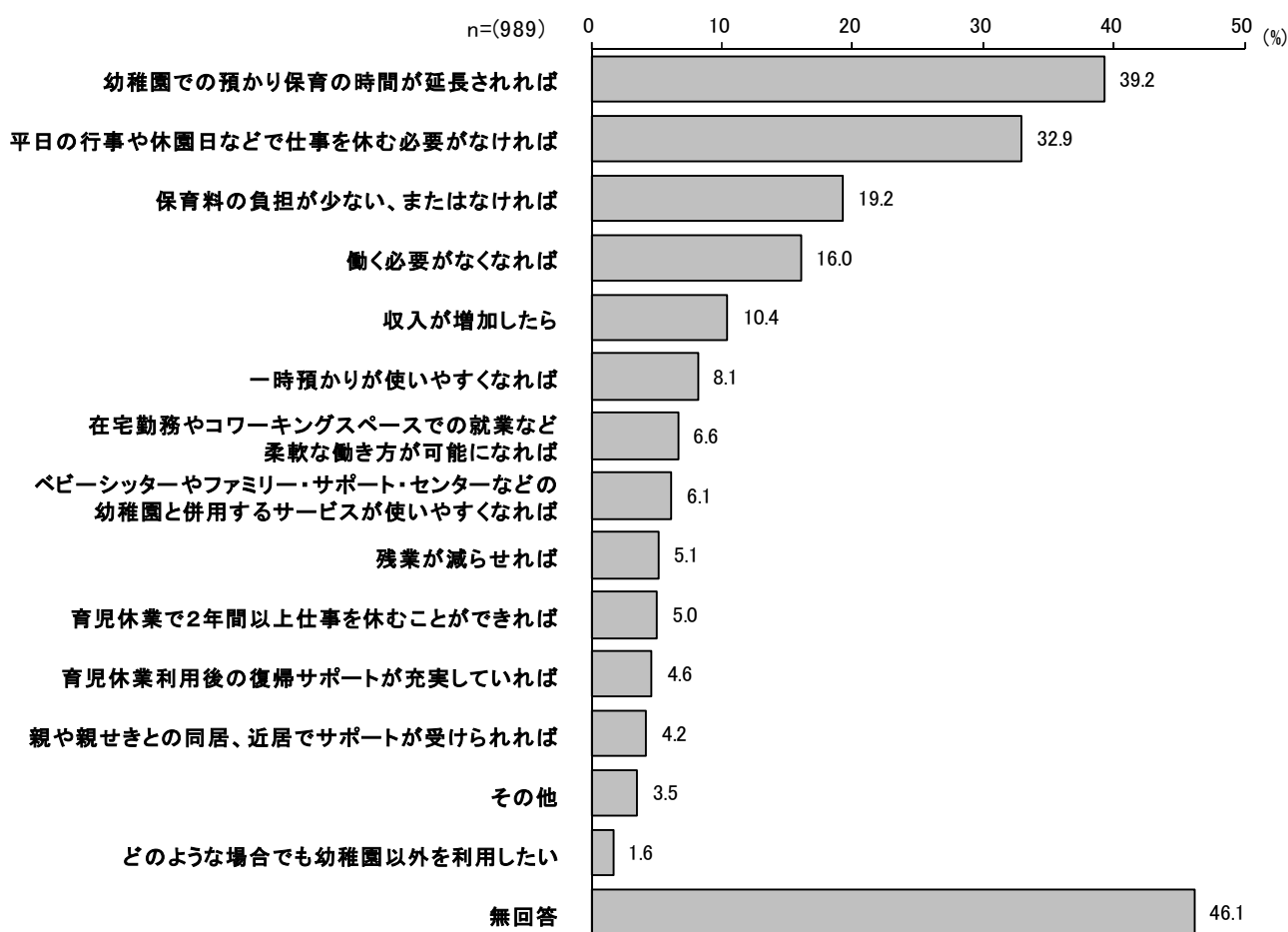
「幼稚園」または「幼稚園の預かり保育」以外の事業を希望している人のうち、「幼稚園の利用を考えたことがある」人は28.3%となっている。

(12) 幼稚園の利用を考える条件(環境)

問16で「幼稚園」または「幼稚園の預かり保育」以外に回答した方

〔就学前児童：問16-4〕

どのような環境であれば、幼稚園(幼稚園の預かり保育をあわせて利用する場合も含む)を利用できると思いますか。(〇はあてはまるものすべて)【複数回答】

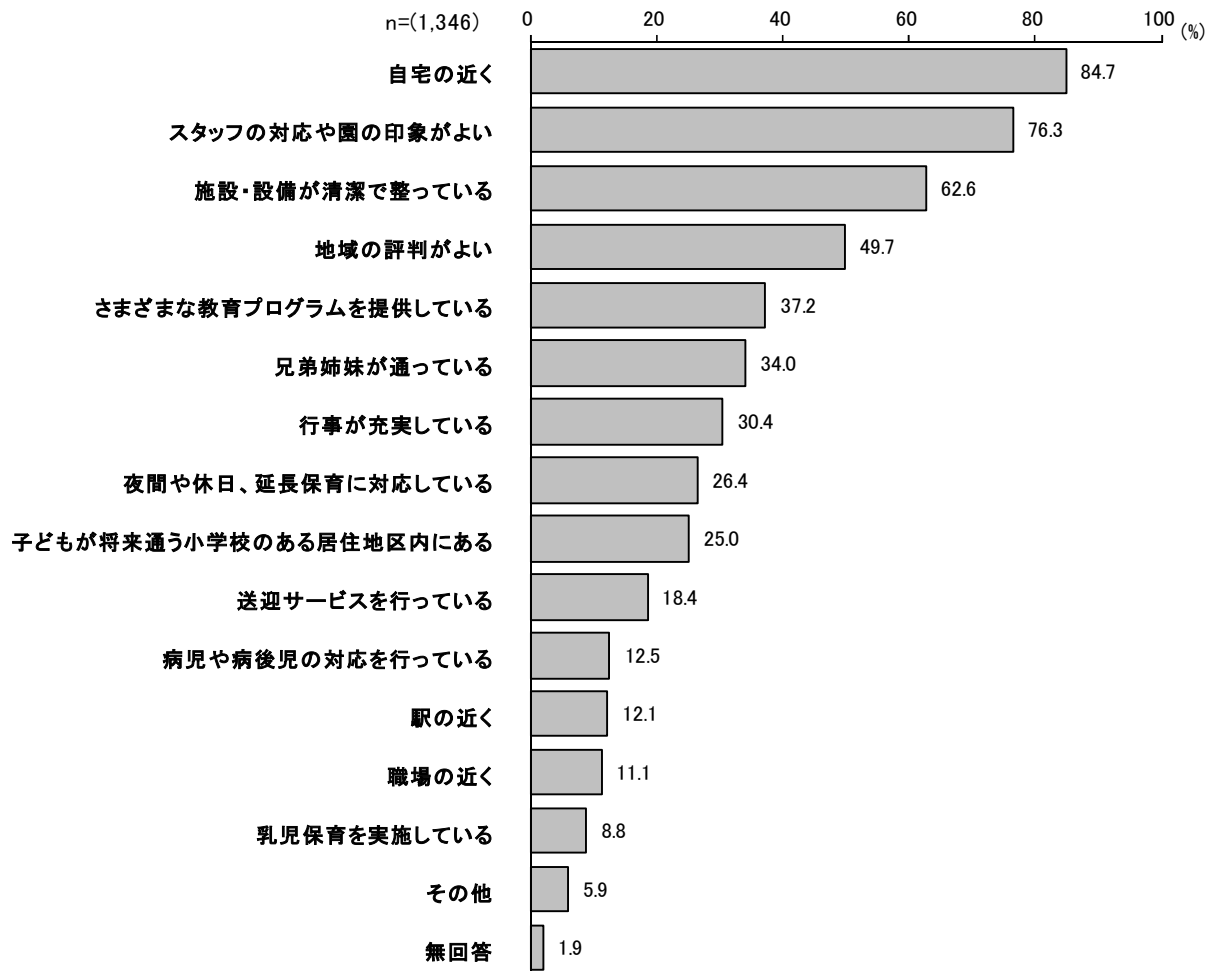


「幼稚園」または「幼稚園の預かり保育」以外の事業を希望している人が幼稚園を利用できると思う環境は、「幼稚園での預かり保育の時間が延長されれば」が39.2%で最も高く、これに「平日の行事や休園日などで仕事を休む必要がなければ」が32.9%、「保育料の負担が少ない、またはなければ」が19.2%が続いている。

(13) 平日の教育・保育の事業を選ぶ際の重視点

〔就学前児童：問17〕

現在、利用している、利用していないにかかわらず、お子さんの平日の教育・保育の事業を選ぶ際に、重視する点はどのようなことですか。(〇はあてはまるものすべて)【複数回答】



平日の教育・保育事業を選ぶ際の重視点としては、「自宅の近く」が84.7%、「スタッフの対応や園の印象がよい」が76.3%と特に高く、これらに「施設・設備が清潔で整っている」が62.6%、「地域の評判がよい」が49.7%、「さまざまな教育プログラムを提供している」が37.2%が続いている。

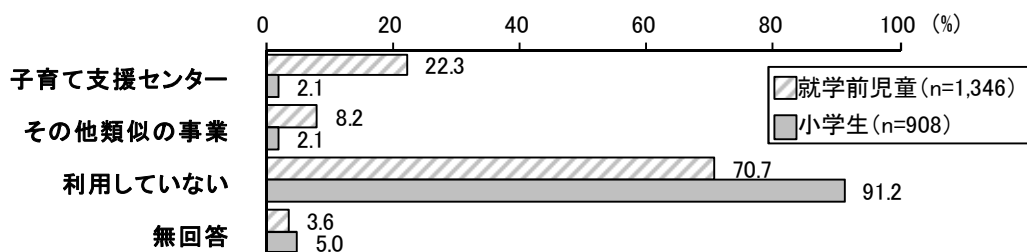
6. 地域の子育て支援拠点事業の利用状況

(1) 子育て支援センター等の利用状況

〔就学前児童：問18、小学生：問15〕

対象のお子さんは、現在、子育て支援センターを利用していますか。

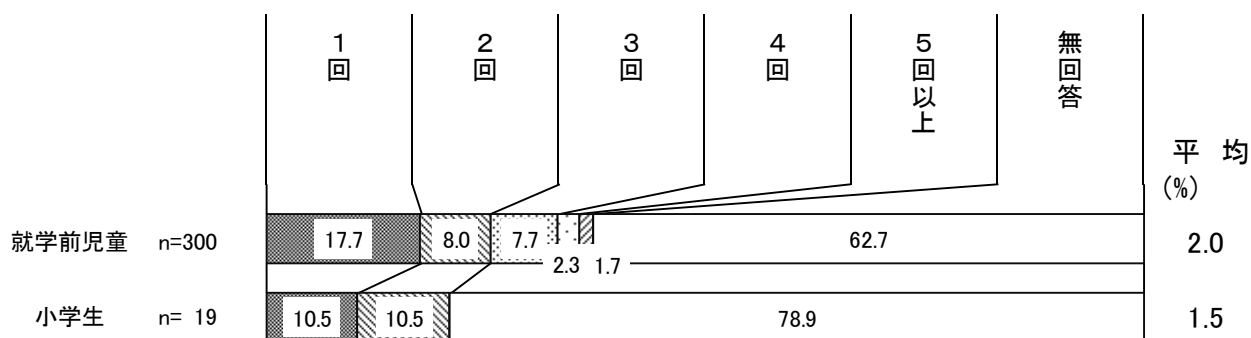
(○はあてはまるものすべて)【複数回答】



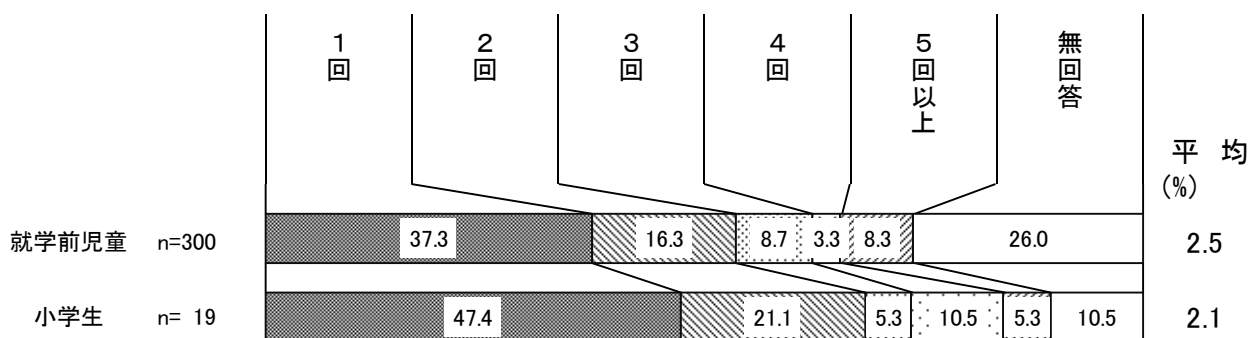
現在、「子育て支援センター」は就学前児童が22.3%、小学生が2.1%、「その他類似の事業」は就学前児童が8.2%、小学生が2.1%となっている。

<子育て支援センター>

利用回数（1週当たり）



利用回数（1ヶ月当たり）

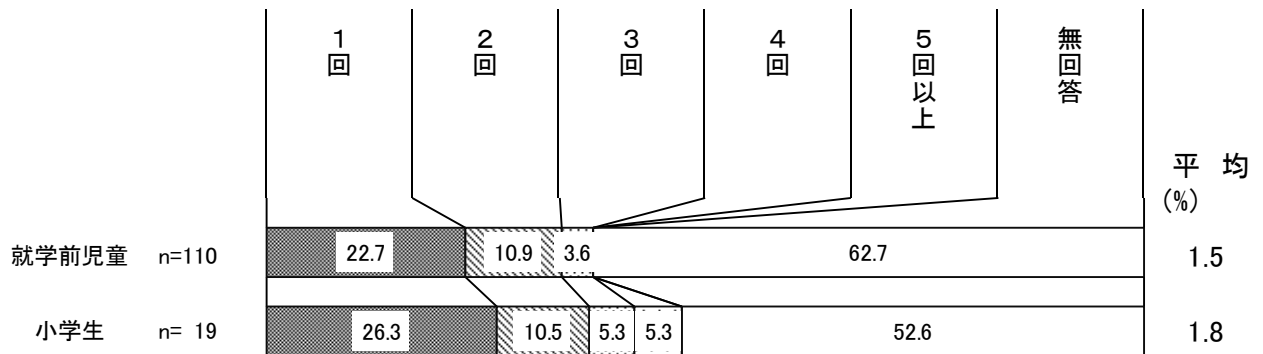


子育て支援センターを利用している就学前児童の1週当たり平均利用回数は2.0回/週、月当たり利用回数は2.5回/月となっている。

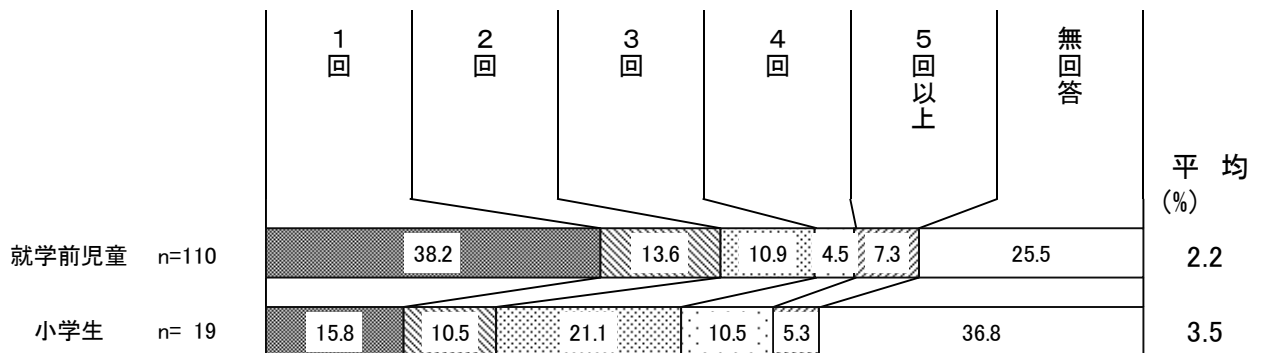
子育て支援センターを利用している小学生の1週当たりの平均利用回数は1.5回/週、月当たりの平均利用回数は2.1回/月となっている。

＜その他類似の事業＞

利用回数（1週当たり）



利用回数（1ヶ月当たり）



その他類似の事業を利用している就学前児童の1週当たりの平均利用回数は1.5回／週、月当たりの平均利用回数は2.2回／月となっている。

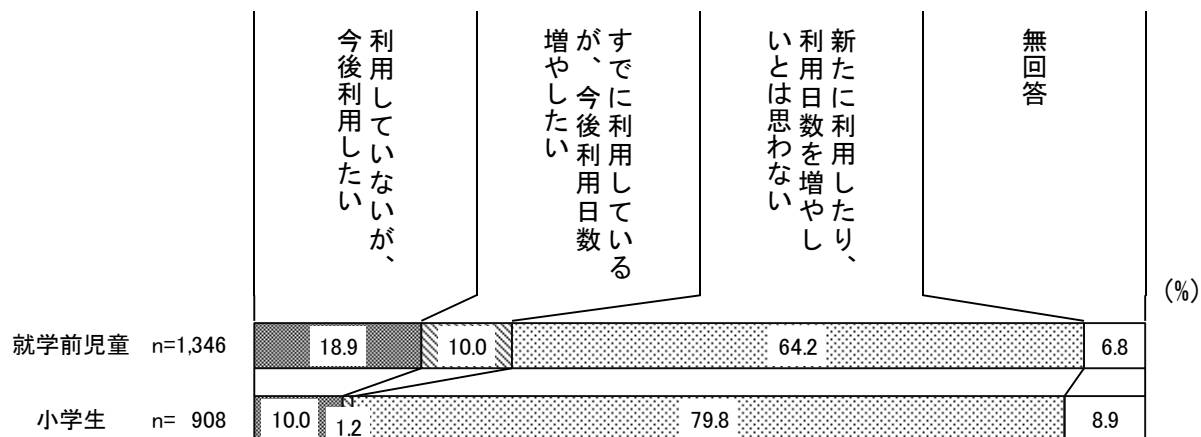
その他の類似の事業を利用している小学生の1週当たりの平均利用回数は1.8回／週、月当たりの平均利用回数は3.5回／月となっている。

(2) 今後の利用希望と利用したい回数

〔就学前児童：問19、小学生：問16〕

子育てセンター等について、今は利用していないが、できれば今後利用したい、あるいは利用日数を増やしたいと思いますか。(○は1つ)

※なお、これらの事業の利用には、一定の利用者負担が発生する場合があります。

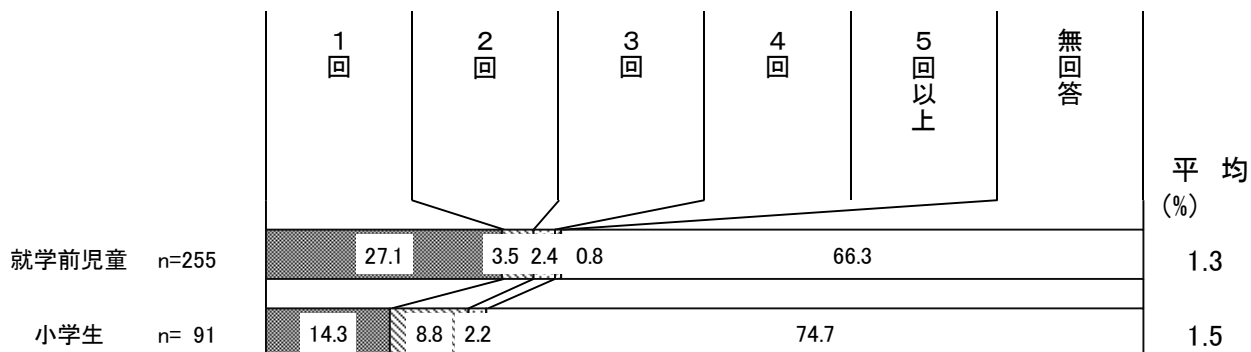


就学前児童の子育て支援センター等の利用意向は、「利用していないが、今後利用したい」が18.9%、「すでに利用しているが、今後利用日数を増やしたい」が10.0%、「新たに利用したり、利用日数を増やしたいとは思わない」が64.2%となっている。

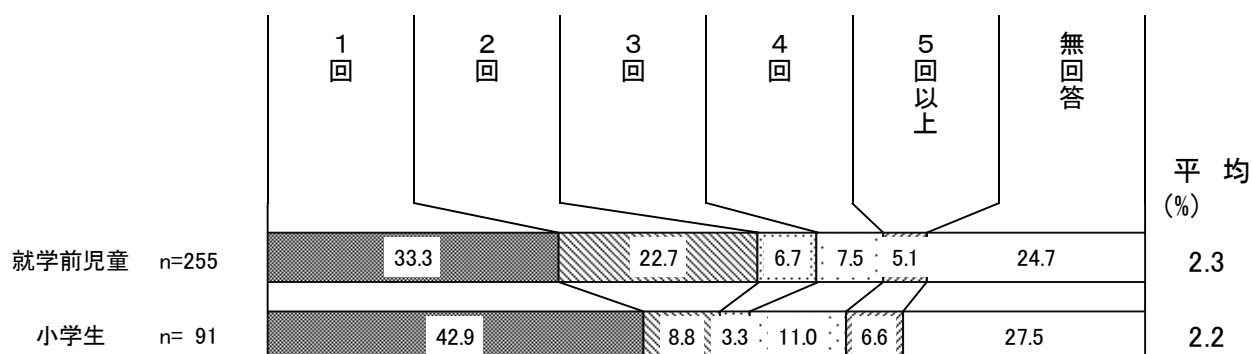
小学生の子育て支援センター等の利用意向は、「利用していないが、今後利用したい」が10.0%、「すでに利用しているが、今後利用日数を増やしたい」が1.2%、「新たに利用したり、利用日数を増やしたいとは思わない」が79.8%で、就学前児童に比べ「新たに利用したり、利用日数を増やしたいとは思わない」の割合が高くなっている。

<「利用していないが、今後利用したい」の回答者>

利用回数（1週当たり）



利用回数（1ヶ月当たり）

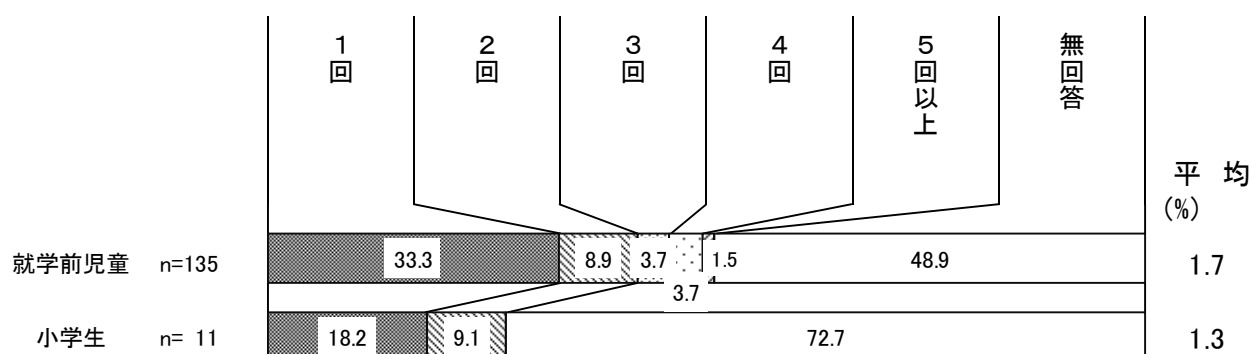


子育て支援センター等を「利用していないが、今後利用したい」という就学前児童の1週当たりの平均利用希望回数は1.3回／週、月当たりの平均利用希望回数は2.3回／月となっている。

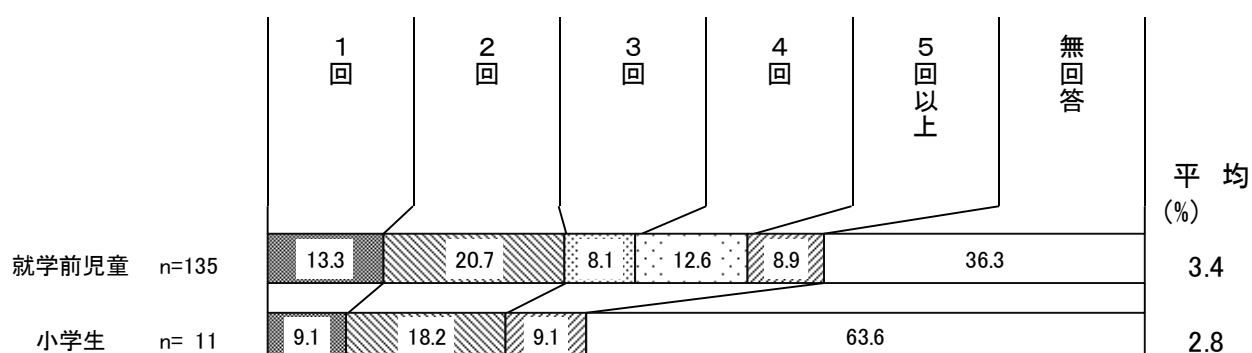
子育て支援センター等を「利用していないが、今後利用したい」という小学生の1週当たりの平均利用希望回数は1.5回／週、月当たりの平均利用希望回数は2.2回／月となっている。

<「すでに利用しているが、今後利用回数を増やしたい」の回答者>

利用回数（1週当たり）



利用回数（1ヶ月当たり）



子育て支援センター等の「利用回数を増やしたい」という就学前児童の1週当たりの平均利用希望回数は1.7回／週、月当たりの平均利用希望回数は3.4回／月となっている。

子育て支援センター等の「利用回数を増やしたい」という小学生の1週当たりの平均利用希望回数は1.3回／週、月当たりの平均利用希望回数は2.8回／月となっている。

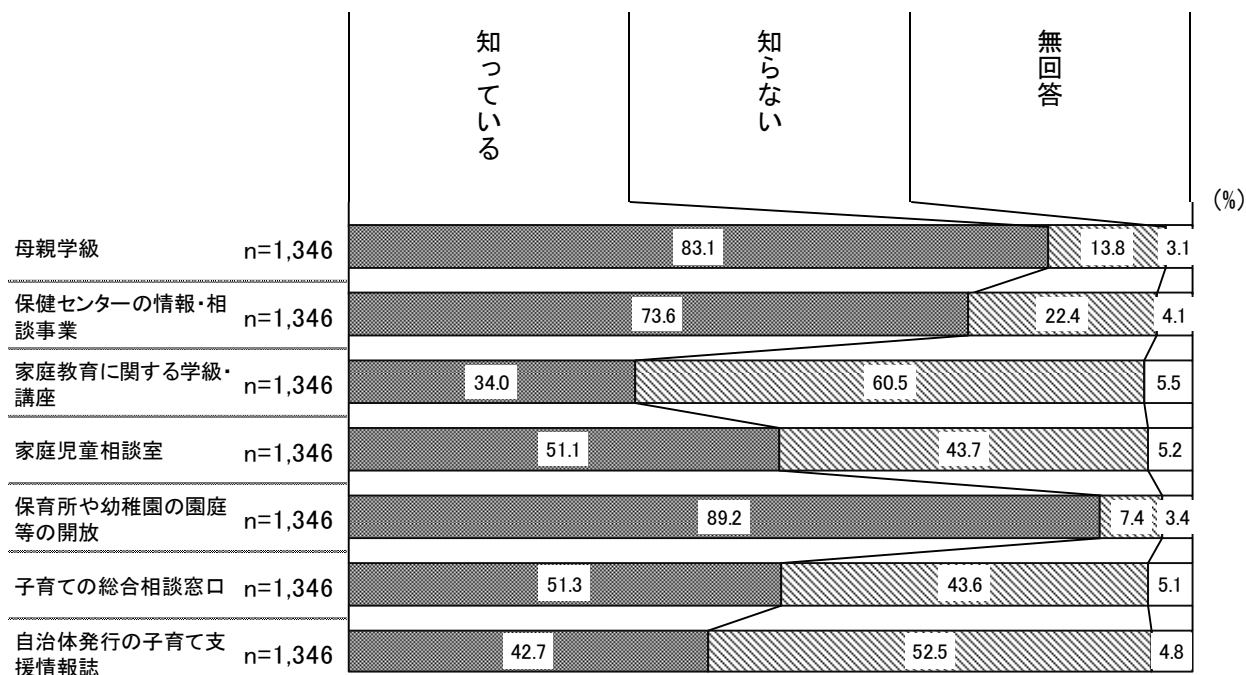
(3) 各種支援事業の認知状況、利用状況、利用希望

〔就学前児童：問20、小学生：問17〕

各事業で知っているものや、これまでに利用したことがあるもの、今後、利用したいと思うものをお答えください。(〇はそれぞれ1つずつ)

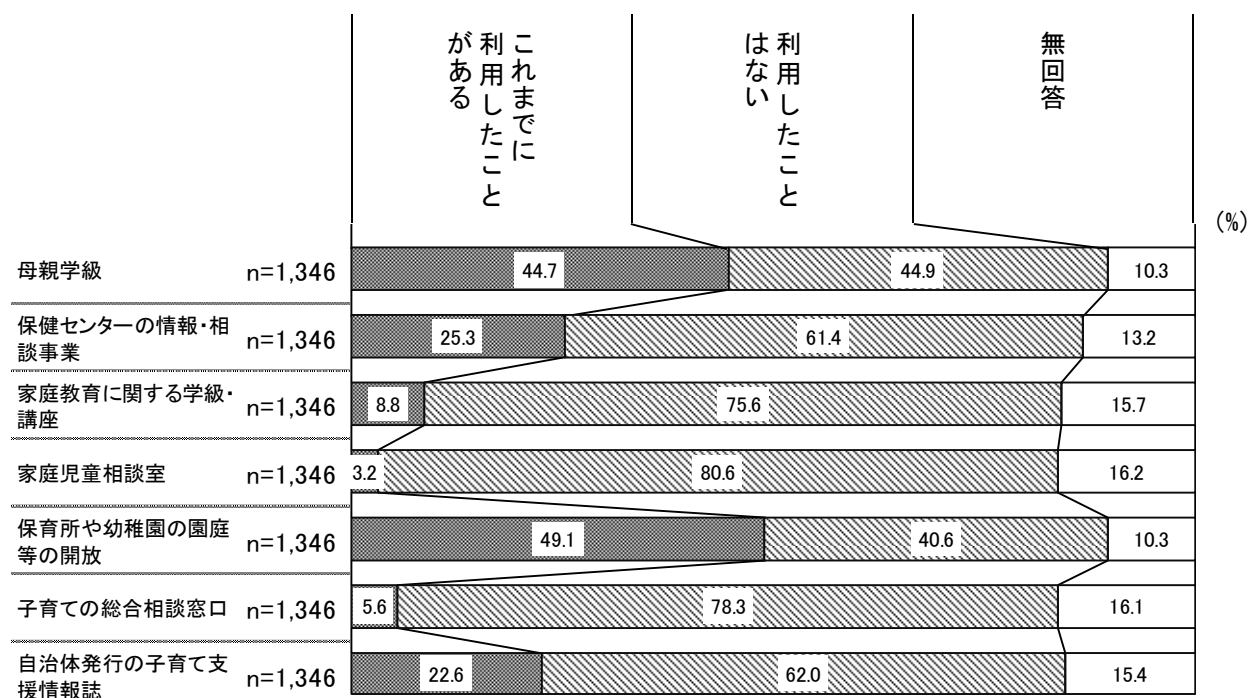
【就学前児童】

A 各種支援事業の認知状況



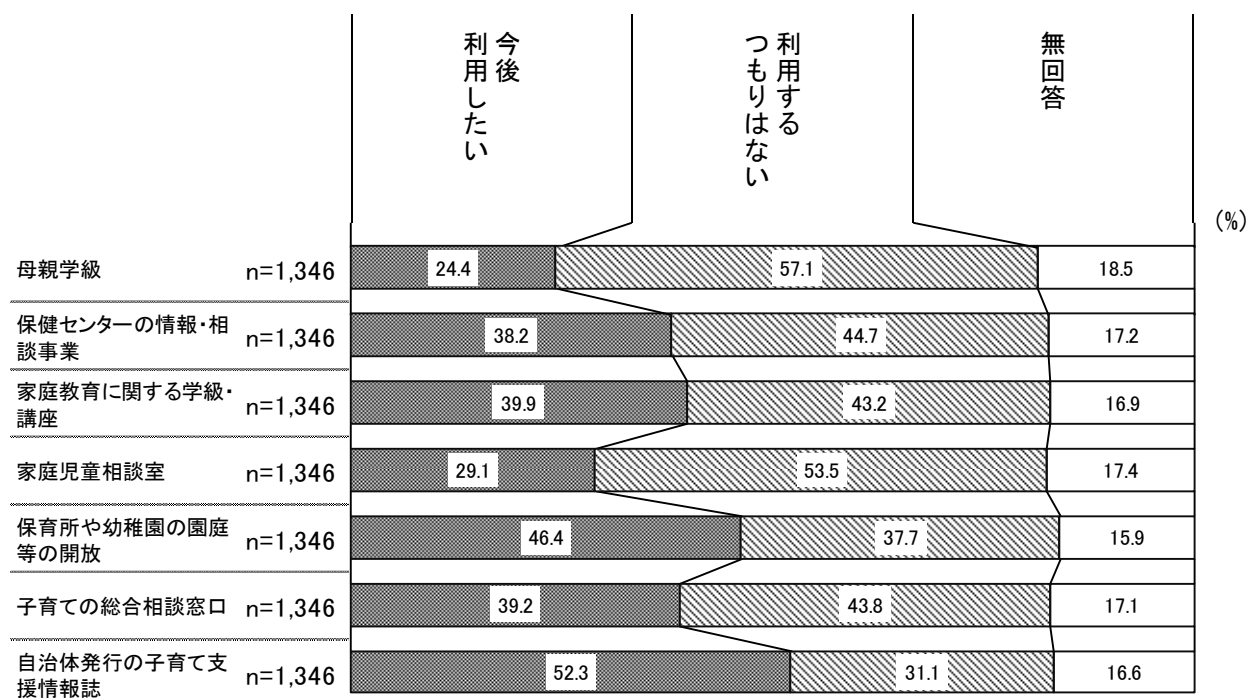
就学前児童の地域子育て支援事業の認知は、「保育所や幼稚園の園庭等の開放」(89.2%)、「母親学級」(83.1%)が8割台で上位を占め、これらに「保健センターの情報・相談事業」(73.6%)、「子育ての総合相談窓口」(51.3%)、「家庭児童相談室」(51.1%)、「自治体発行の子育て支援情報誌」(42.7%)、「家庭教育に関する学級・講座」(34.0%)が続いている。

B 各種支援事業のこれまでの利用状況



就学前児童の地域子育て支援事業の利用経験は、「保育所や幼稚園の園庭等の開放」(49.1%)、「母親学級」(44.7%)が4割台で上位を占め、これらに「保健センターの情報・相談事業」(25.3%)、「自治体発行の子育て支援情報誌」(22.6%)、「家庭教育に関する学級・講座」(8.8%)、「子育ての総合相談窓口」(5.6%)、「家庭児童相談室」(3.2%)が続いている。

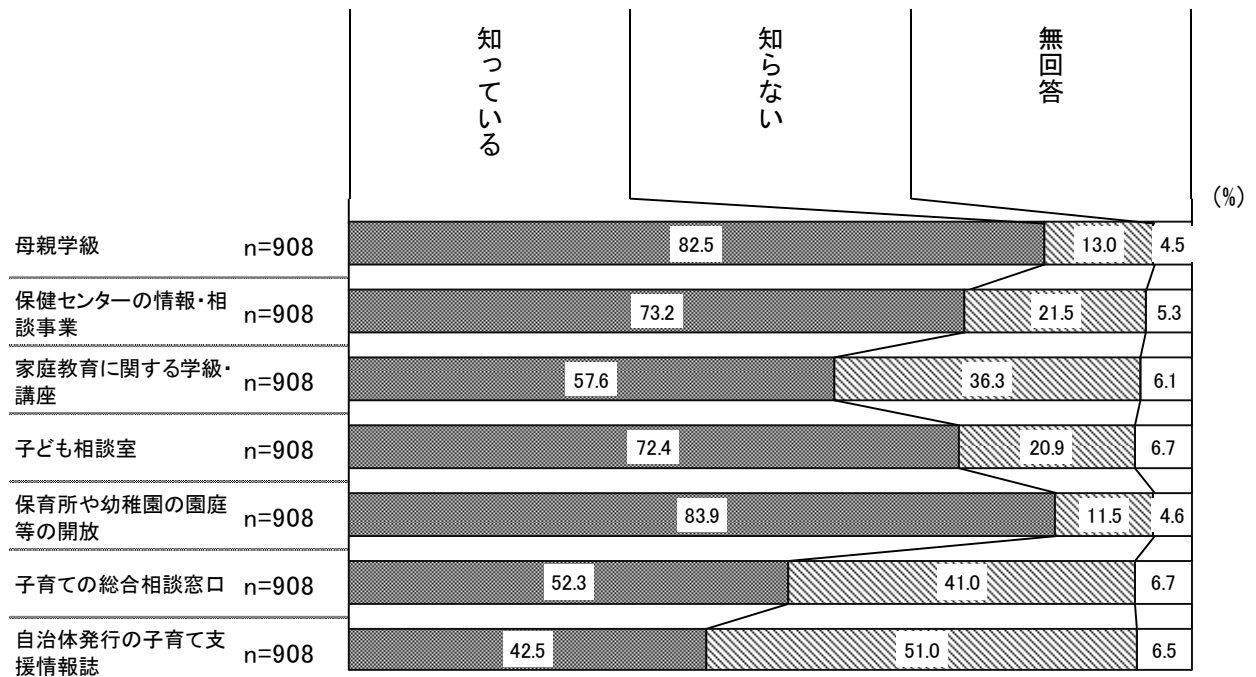
C 各種支援事業の今後の利用希望



就学前児童の地域子育て支援事業の利用意向は、「自治体発行の子育て支援情報誌」(52.3%)、「保育所や幼稚園の園庭等の開放」(46.4%)が5割前後で上位となり、これらに「家庭教育に関する学級・講座」(39.9%)、「子育ての総合相談窓口」(39.2%)、「保健センターの情報・相談事業」(38.2%)、が4割弱、「家庭児童相談室」(29.1%)、「母親学級」(24.4%)が2割台で続いている。

【小学生】

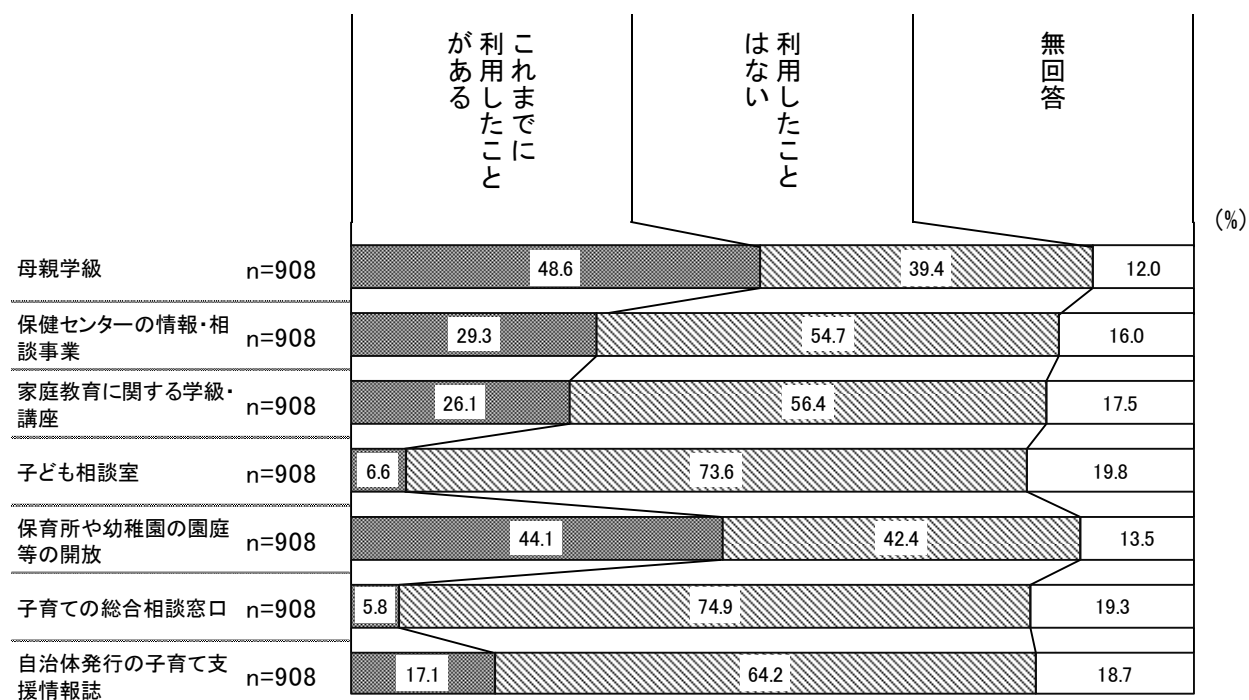
A 各種支援事業の認知状況



小学生の地域子育て支援事業の認知は、「保育所や幼稚園の園庭等の開放」(83.9%)、「母親学級」(82.5%)が8割台で上位を占め、これらに「保健センターの情報・相談事業」(73.2%)、「子ども相談室」(72.4%)が7割強、「家庭教育に関する学級・講座」(57.6%)、「子育ての総合相談窓口」(52.3%)が5割台、「自治体発行の子育て支援情報誌」(42.5%)が4割強で続いている。

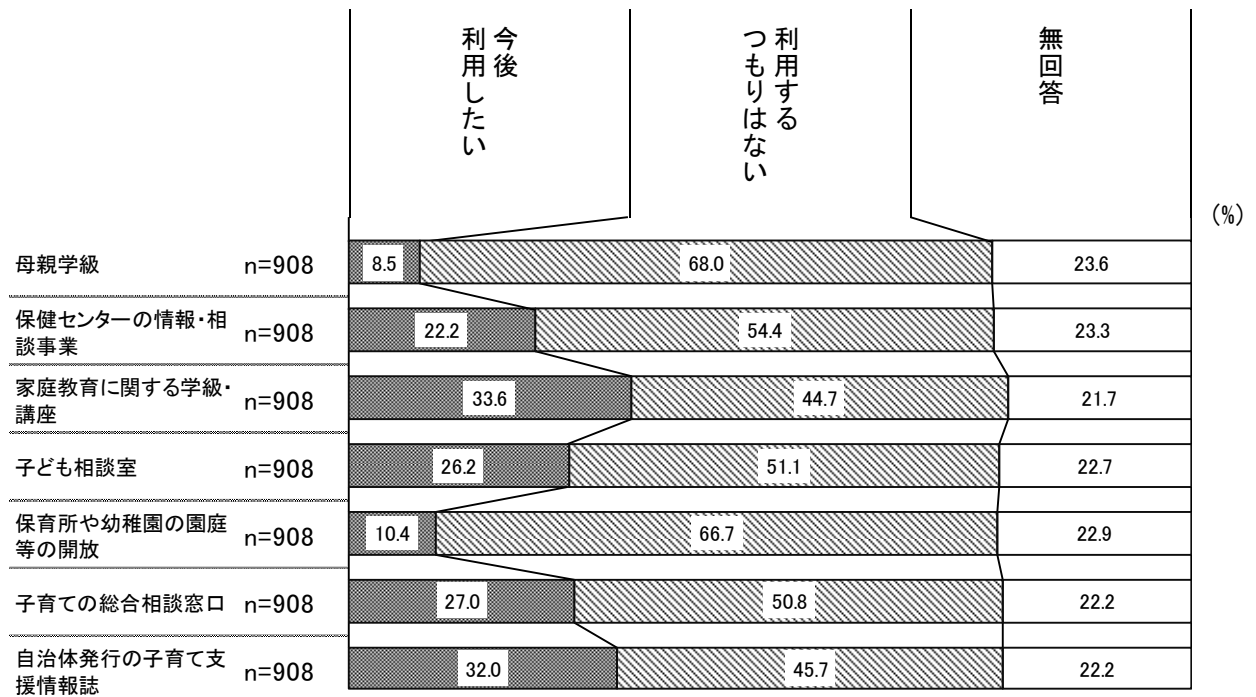
第2章 調査結果の詳細

B 各種支援事業のこれまでの利用状況



小学生の地域子育て支援事業の利用経験は、「母親学級」(48.6%)、「保育所や幼稚園の園庭等の開放」(44.1%)が4割台で上位を占め、これらに「保健センターの情報・相談事業」(29.3%)、「家庭教育に関する学級・講座」(26.1%)、「自治体発行の子育て支援情報誌」(17.1%)が2～3割で続いている。

C 各種支援事業の今後の利用希望



小学生の地域子育て支援事業の利用意向は、「家庭教育に関する学級・講座」(33.6%)、「自治体発行の子育て支援情報誌」(32.0%)、「子育ての総合相談窓口」(27.0%)、「子ども相談室」(26.2%)が3割前後となり、これらに「保健センターの情報・相談事業」(22.2%)が続いている。

7. 土曜・休日や長期休暇中の定期的な教育・保育事業の利用希望

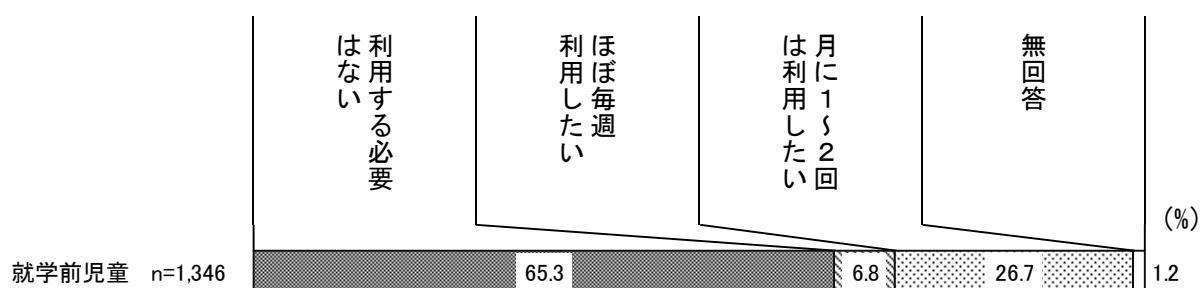
(1) 土曜日と日曜日・祝日の利用状況と利用時間帯

【就学前児童：問21】

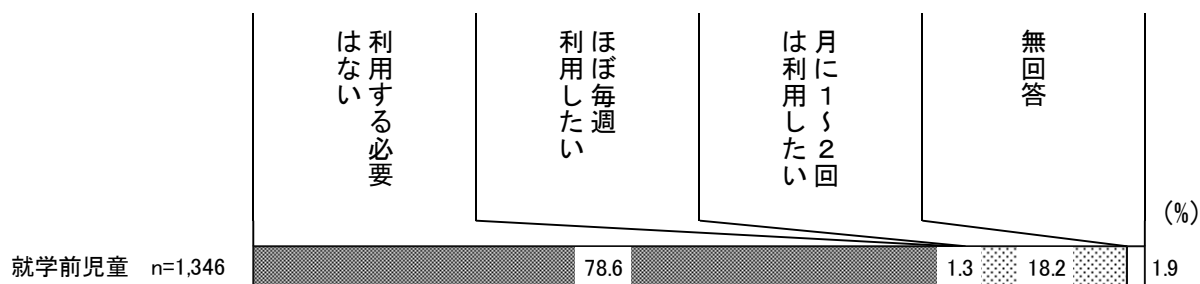
対象のお子さんについて、土曜日と日曜日・祝日に、定期的な教育・保育の事業を利用希望はありますか（一時的な利用は除きます）。希望がある場合は、利用したい時間帯を、（例）09時～18時のように24時間制でご記入ください。

※保育・教育事業とは、幼稚園、保育所、認可外保育施設などの事業を指しますが、親族・知人による預かりは含みません。

【土曜日】



【日曜日・祝日】

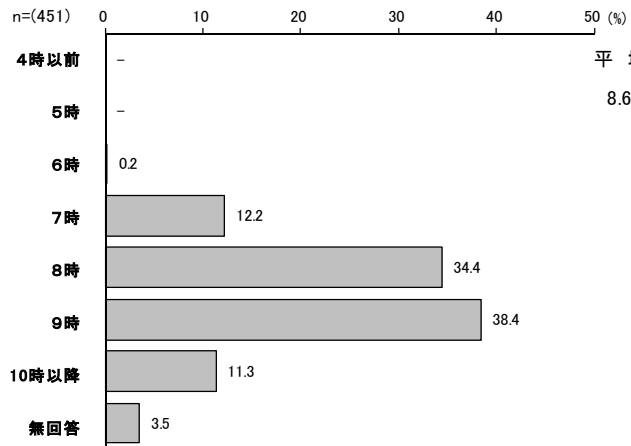


定期的な教育・保育事業の土曜日の利用意向は、「利用する必要はない」が65.3%、「ほぼ毎週利用したい」が6.8%、「月に1～2回は利用したい」が26.7%。

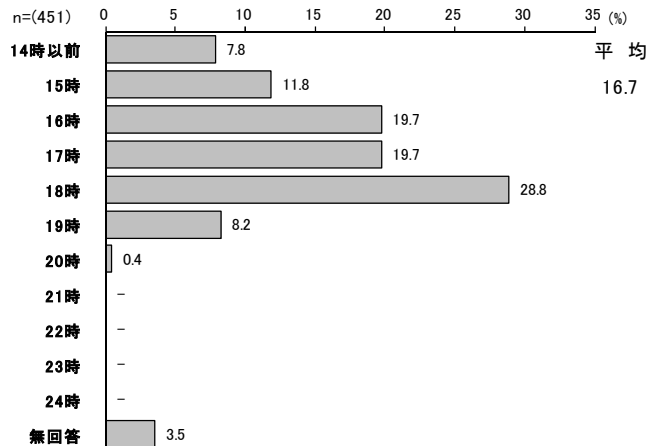
定期的な教育・保育事業の日曜日・祝日の利用意向は、「利用する必要はない」が78.6%、「ほぼ毎週利用したい」が1.3%、「月に1～2回は利用したい」が18.2%となっている。

利用したい時間帯 土曜日

◆開始時刻



◆終了時刻

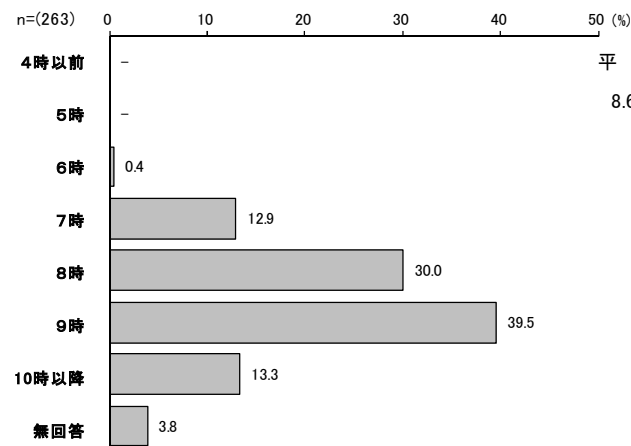


土曜日利用意向者の利用開始希望時刻は、「8時」が34.4%、「9時」が38.4%と高い。

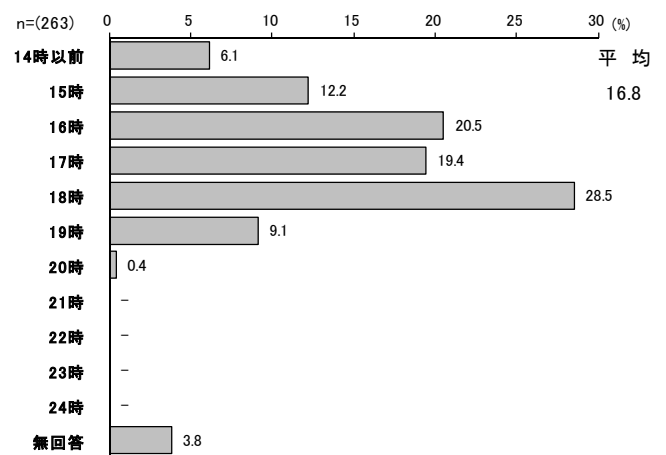
利用終了希望時刻は、「18時」が28.8%で最も高く、これに「16時」「17時」が各19.7%が続いている。

利用したい時間帯 日曜日・祝日

◆開始時刻



◆終了時刻



日曜日・祝日利用意向者の利用開始希望時刻は、「8時」が30.0%、「9時」が39.5%と高い。

利用終了希望時刻は、「18時」が28.5%で最も高く、これに「16時」が20.5%、「17時」19.4%が続いている。

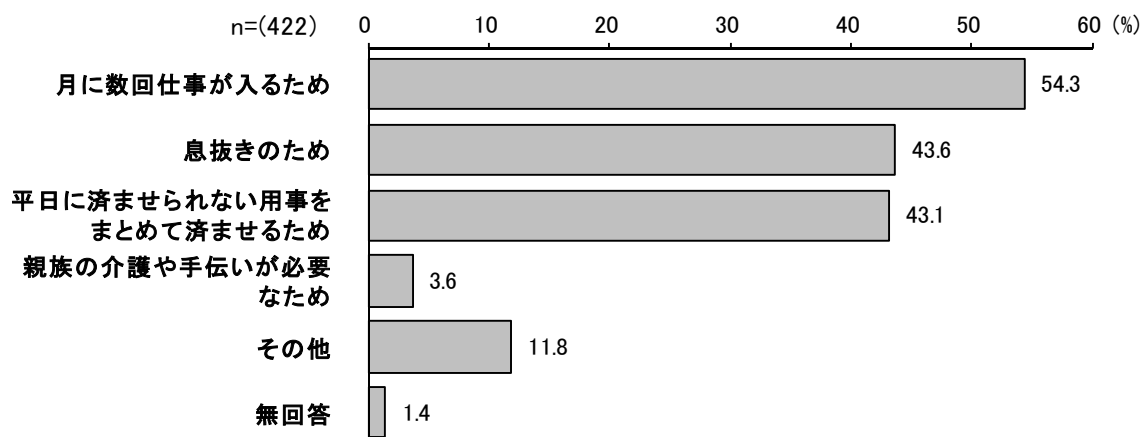
(2) たまに利用したい理由

問21の(1)または(2)で「月に1～2回は利用したい」に回答した方

〔就学前児童：問21-1〕

毎週ではなく、たまに利用したい理由は何ですか。

(〇はあてはまるものすべて)【複数回答】



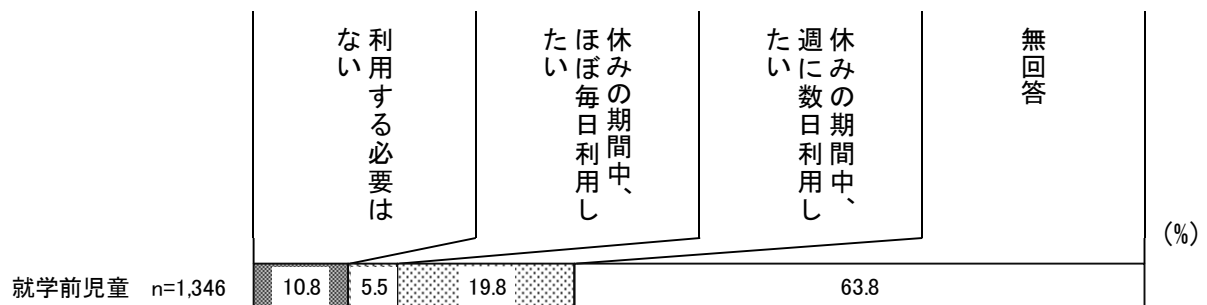
土曜日、日曜日・祝日に教育・保育事業を「月に1～2回利用したい」という人の理由は、「月に数回仕事が入るため」が54.3%で最も高く、これに「息抜きのため」が43.6%、「平日に済ませられない用事をまとめて済ませるため」が43.1%が続いている。

(3) 幼稚園利用者の長期休暇中の教育・保育の事業の利用状況

「幼稚園」を利用されている方にうかがいます。

〔就学前児童：問22〕

対象のお子さんについて、夏休み・冬休みなど長期の休暇期間中の教育・保育の事業の利用を希望しますか。希望がある場合は、利用したい時間帯を、(例) 09時～18時のように24時間制でご記入ください。

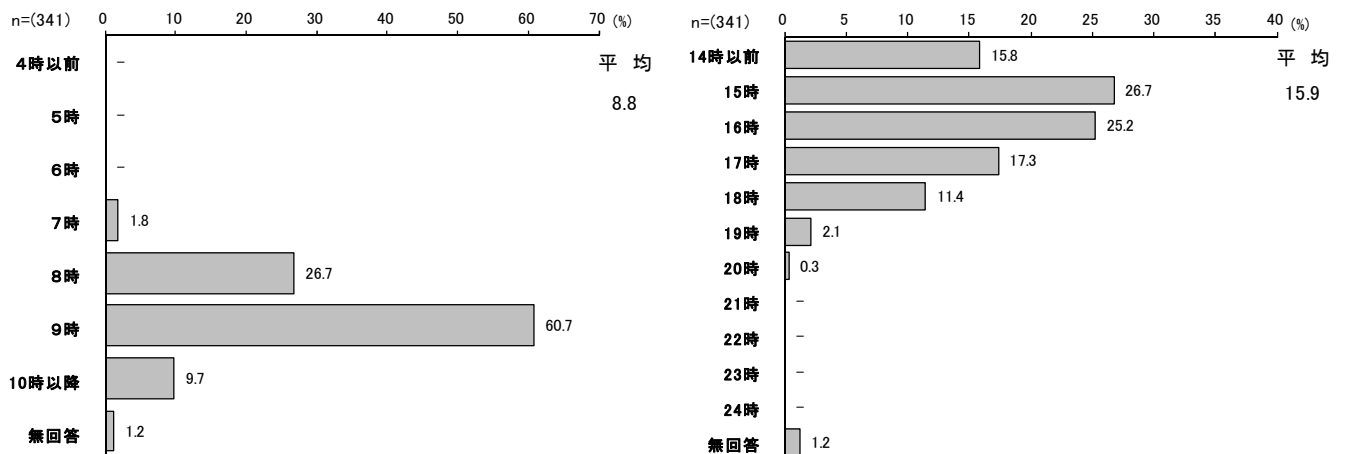


幼稚園利用者の長期休暇期間中の利用意向は、「利用する必要はない」が10.8%、「休みの期間中、ほぼ毎日利用したい」が5.5%、「休みの期間中、週に数日利用したい」が19.8%となっている。

利用したい時間帯

◆開始時刻

◆終了時刻



長期休暇中の幼稚園利用開始希望時刻は、「9時」が60.7%と特に高く、次いで「8時」が26.7%となっている。

利用終了希望時刻は、「15時」が26.7%、「16時」が25.2%と高い。

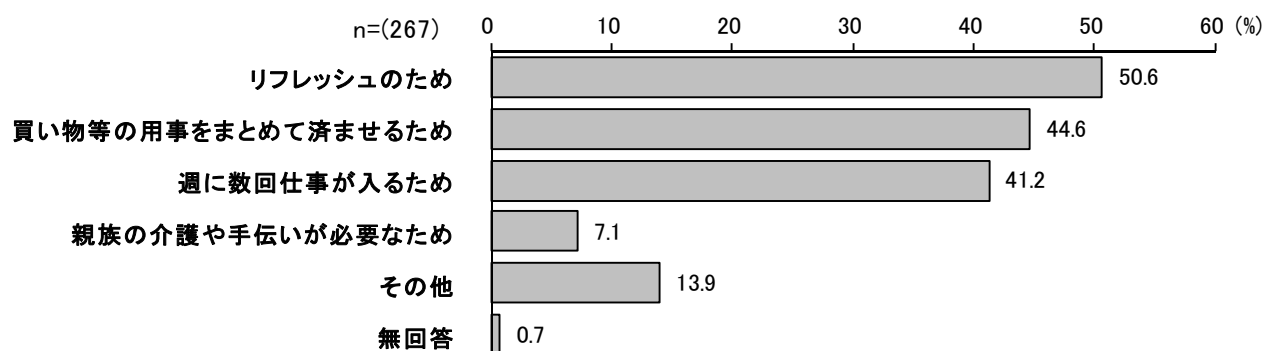
(4) 幼稚園利用者が長期休暇中に教育・保育の事業をたまに利用したい理由

問22で「休みの期間中、週に数日利用したい」に○をつけた方

〔就学前児童：問22-1〕

毎日ではなく、たまに利用したい理由は何ですか。

(○はあてはまるものすべて)【複数回答】



長期休暇中に幼稚園を「週に数日利用したい」という人の理由は、「リフレッシュのため」が50.6%で最も高く、これに「買い物等の用事をまとめて済ませるため」が44.6%、「週に数回仕事が入るため」が41.2%で続いている。

8. 子どもが病気の際の対応

(1) 子どもが病気等で事業が利用できなかったこと／学校を休む必要があったこと

平日の定期的な教育・保育の事業を利用していると回答した方

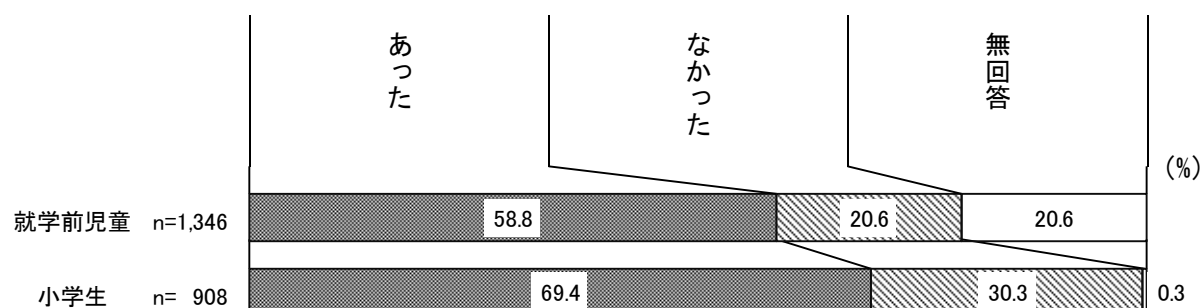
〔就学前児童、小学生：問23〕

この1年間に、対象のお子さんが病気やケガで

(就学前) 通常の事業が利用できなかったこと

(小学生) 学校を休まなければならなかったこと

はありますか。(○は1つ)



平日の定期的な教育・保育事業を利用している人のうち、この1年間に、就学前児童が病気やケガで通常の事業が利用できなかったことが「あった」の割合は58.8%となっている。

また、この1年間に、小学生の子どもが病気やケガで学校を休まなければならなかったことが「あった」の割合は69.4%となっている。

(2) 子どもが病気等で事業が利用できなかった・学校を休む必要があった際の対処方法

問23で「あった」に回答した方

〔就学前児童、小学生：問23-1〕

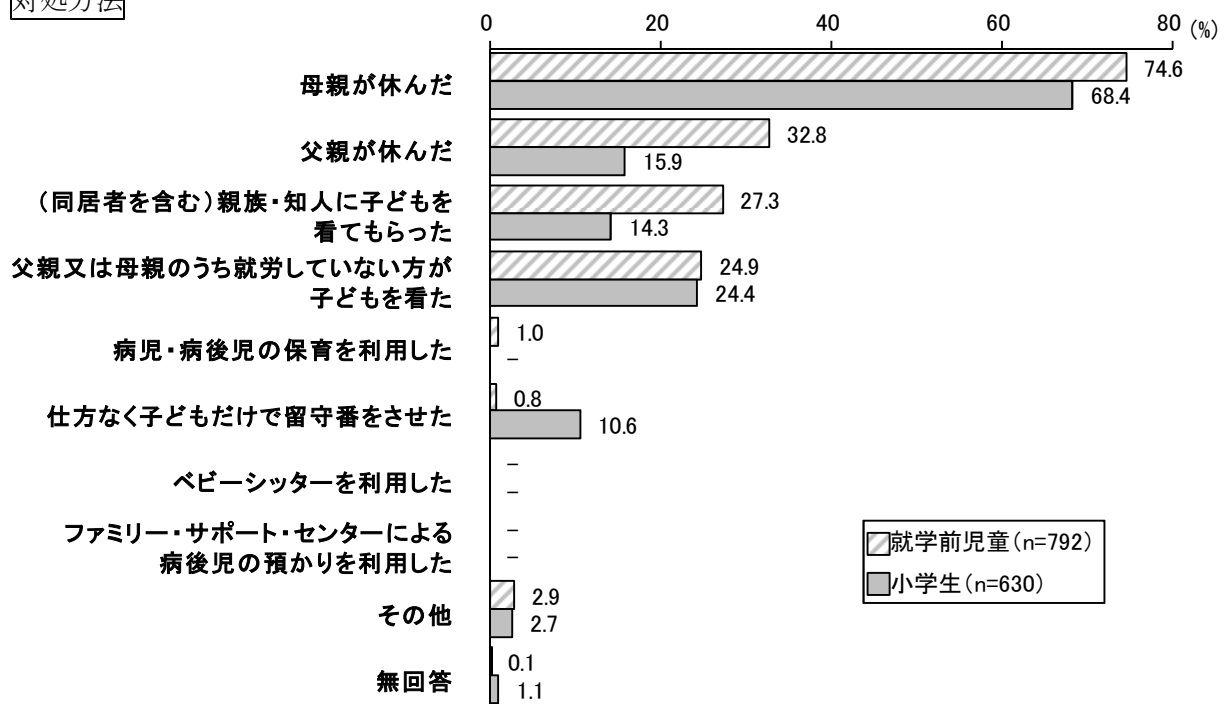
対象のお子さんが病気やけがで

(就学前) 普段利用している教育・保育の事業が利用できなかった場合に、

(小学生) 学校を休まなければならなかった場合に、

この1年間に行った対処方法はどれですか。(〇はあてはまるものすべて)【複数回答】

対処方法



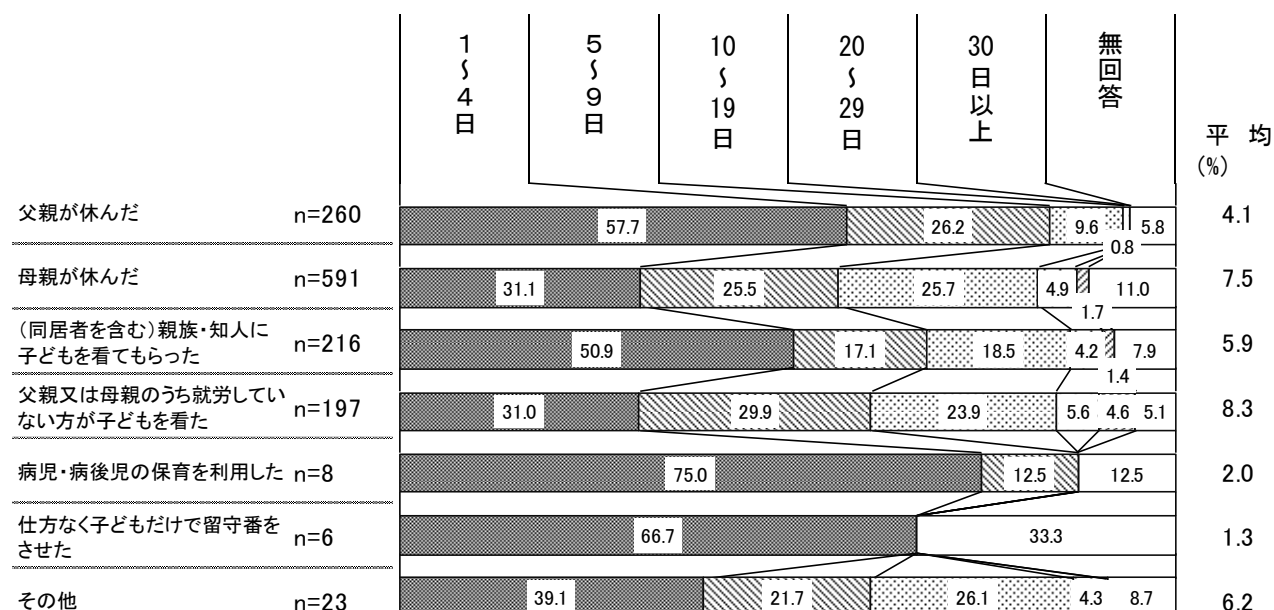
この1年間に、就学前児童が病気やケガで普段利用している教育・保育の事業が利用できなかった際の対処方法としては、「母親が休んだ」が74.6%と特に高く、次いで「父親が休んだ」が32.8%、「(同居者を含む) 親族・知人に子どもを看てもらった」が27.3%、「父親又は母親のうち就労していない方が子どもを看た」が24.9%で続いている。

一方、この1年に小学生の子どもが病気やケガで学校を休まなければならなかった際の対処方法としては、「母親が休んだ」が68.4%と特に高く、次いで「父親又は母親のうち就労していない方が子どもを看た」が24.4%「父親が休んだ」が15.9%、「(同居者を含む) 親族・知人に子どもを看てもらった」が14.3%で続いている。

第2章 調査結果の詳細

日 数

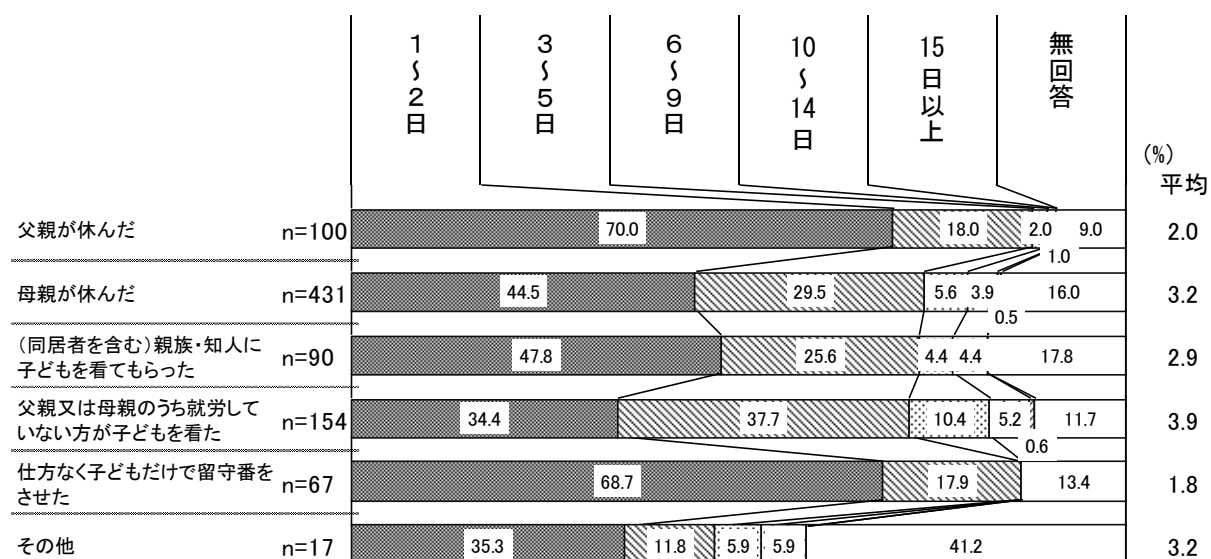
【就学前児童】



※「ベビーシッターを利用した」「ファミリー・サポート・センターによる病後児の預かりを利用した」は回答者がいないため、図を省略している。

就学前児童の対処方法別の平均日数は、「母親が休んだ」が7.5日／年、「父親が休んだ」が4.1日／年、「(同居者を含む)親族・知人に子どもを見てもらった」が5.9日／年、「父親又は母親のうち就労していない方が子どもを見た」が8.3日／年などとなっている。

【小学生】



※「病児・病後児の保育を利用した」「ベビーシッターを利用した」「ファミリー・サポート・センターによる病後児の預かりを利用した」は回答者がいないため、図を省略している。

小学生の対処方法別の平均日数は、「母親が休んだ」が3.2日／年、「父親又は母親のうち就労していない方が子どもを看た」が3.9日／年、「父親が休んだ」が2.0日／年、「(同居者を含む)親族・知人に子どもを看てもらった」が2.9日／年などとなっている。

(3) 病児・病後児のための保育施設等の利用希望と利用したい日数

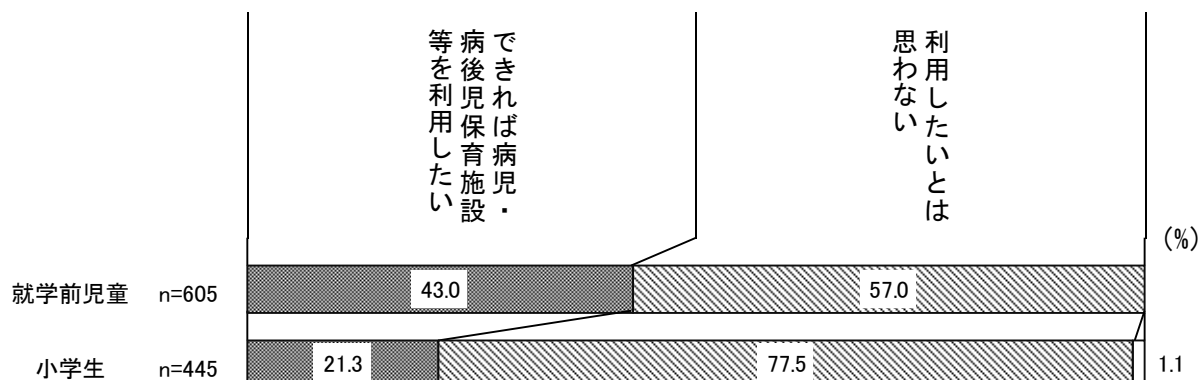
問23-1で「父親が休んだ」または「母親が休んだ」に回答した方

〔就学前児童、小学生：問23-2〕

その際、「できれば病児・病後児のための保育施設等を利用したい」と思われましたか。

(○は1つ)

※なお、病児・病後児のための事業等の利用には、一定の利用料がかかり、利用前にかかりつけ医の受診が必要となります。

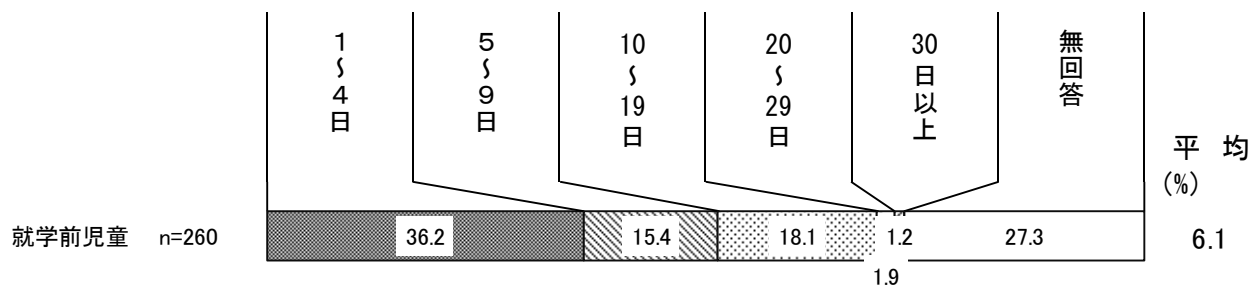


就学前児童の子どもが病気やケガで普段利用している教育・保育の事業が利用できなかった場合の対処方法として「父親が休んだ」「母親が休んだ」人のうち、「できれば病児・病後児保育施設等を利用したい」と思った人は43.0%となっている。

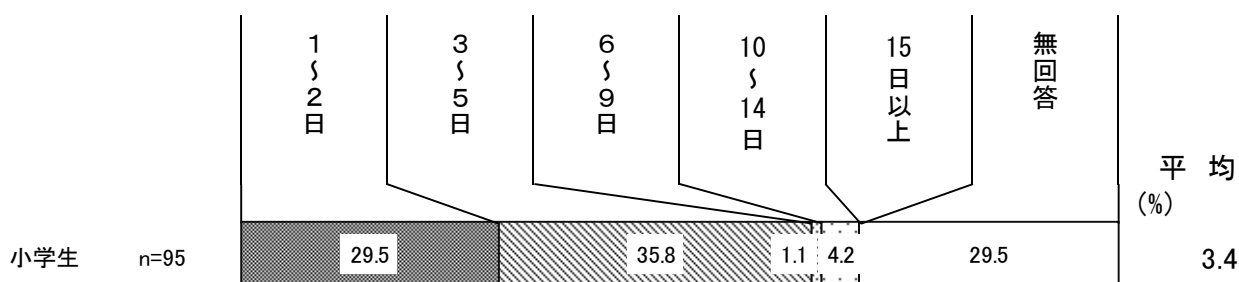
一方、小学生の子どもが病気やケガで学校を休まなければならなかった際の対処方法として「父親が休んだ」「母親が休んだ」人のうち、「できれば病児・病後児保育施設等を利用したい」と思った人は21.3%となっている。

利用したい日数

【就学前児童】



【小学生】



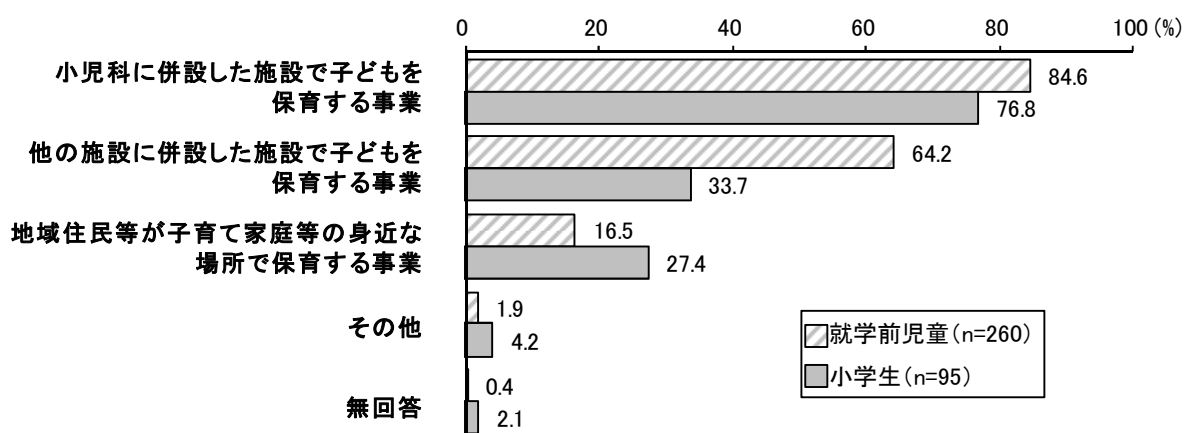
「できれば病児・病後児保育施設等を利用したい」と思った人の平均想定利用日数は、就学前児童6.1日、小学生3.4日となっている。

(4) 望ましい事業形態

問23-2で「できれば病児・病後児保育施設等を利用したい」に回答した方

〔就学前児童、小学生：問23-3〕

子どもを病気やけがで保育施設等に預ける場合、いずれの事業形態が望ましいと思いますか。(○はあてはまるものすべて)【複数回答】



就学前児童の病児・病後児保育施設等利用意向者が望ましいと思っている事業形態は、「小児科に併設した施設で子どもを保育する事業」が84.6%、「他の施設に併設した施設で子どもを保育する事業」が64.2%で、「地域住民等が子育て家庭等の身近な場所で保育する事業」(16.5%)を大きく上回っている。

小学生の病児・病後児保育施設等利用意向者が望ましいと思っている事業形態は、「小児科に併設した施設で子どもを保育する事業」が76.8%で、「他の施設に併設した施設で子どもを保育する事業」(33.7%)、「地域住民等が子育て家庭等の身近な場所で保育する事業」(27.4%)を大きく上回っている。

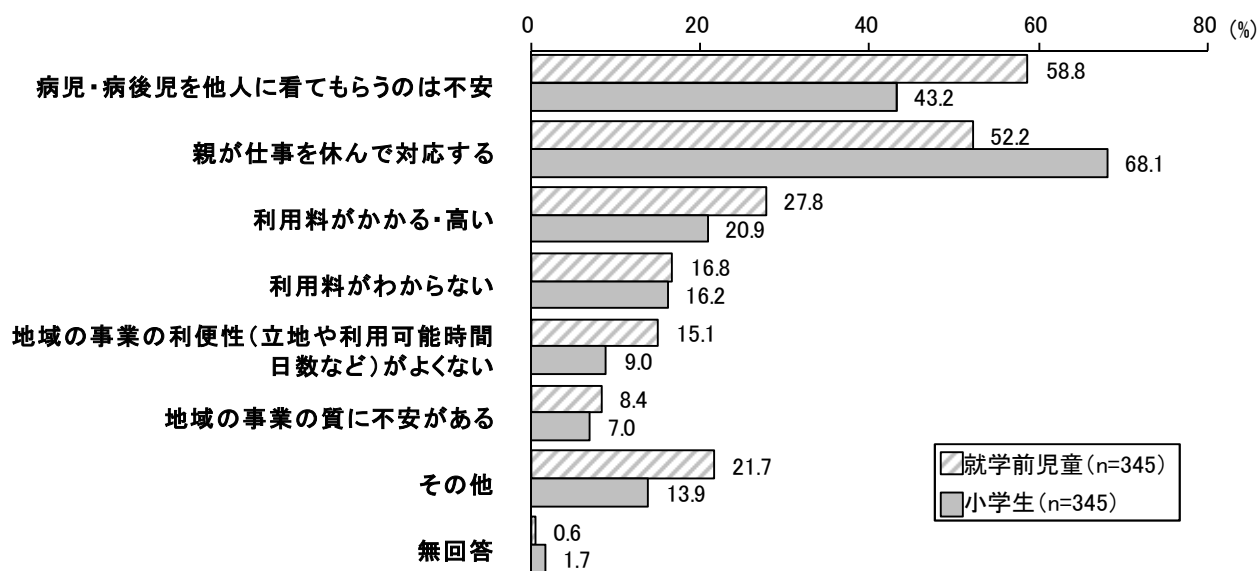
(5) 利用したいと思わない理由

問23-2で「利用したいと思わない」に回答した方

〔就学前児童、小学生：問23-4〕

病児・病後児のための保育施設等を利用したいと思わない理由は何ですか。

(〇はあてはまるものすべて)【複数回答】



就学前児童の病児・病後児保育施設等非利用意向者の非利用意向理由は、「病児・病後児を他人に看てもらうのは不安」(58.8%)、「親が仕事を休んで対応する」(52.2%)が特に高く、これらに「利用料がかかる・高い」(27.8%)が続いている。また、「その他」(21.7%)の内容は、「子どもがかawaiiそう／そばにいてあげたい」、「身近な人が対応可能のため」、「二次感染の懸念があるため」、「利用の仕方や手続きが面倒」などがあげられている。

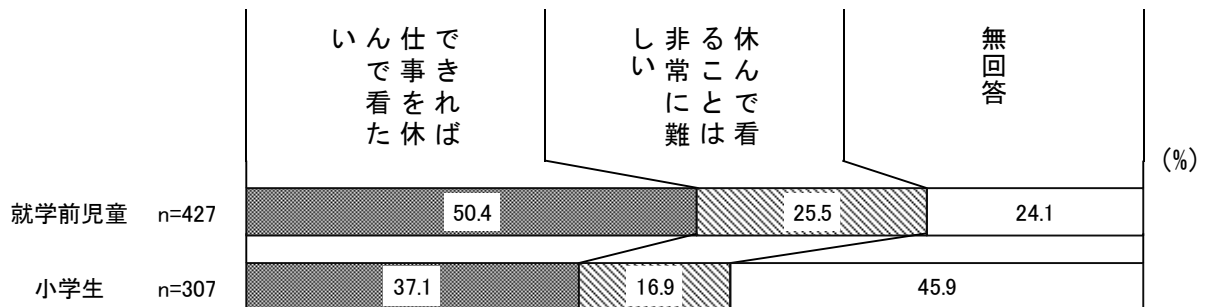
小学生の非利用意向理由は、「親が仕事を休んで対応する」(68.1%)、「病児・病後児を他人に看てもらうのは不安」(43.2%)が特に高く、これらに「利用料がかかる・高い」(20.9%)が続いている。

(6) 父母が仕事を休んで看護したいと思ったかどうか

問23-1で「父親」、「母親」以外のいずれかに回答した方

〔就学前児童、小学生：問23-5〕

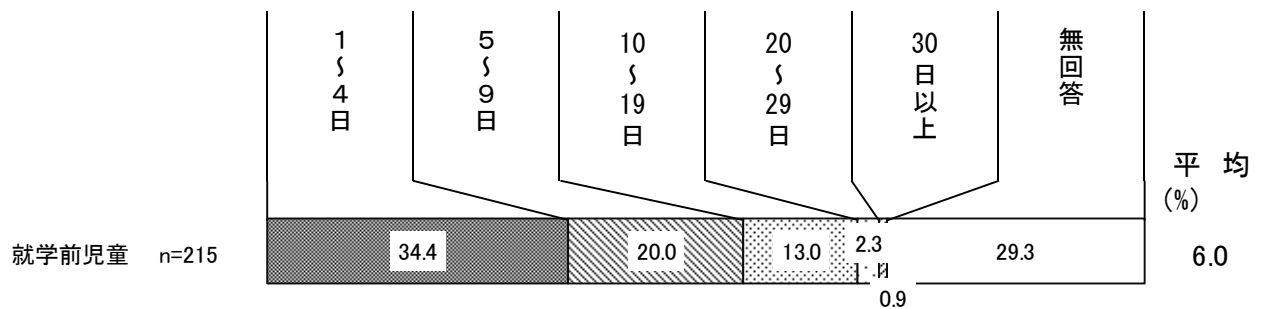
その際、「できれば父母のいずれかが仕事を休んで看たい」と思われましたか。(○は1つ)



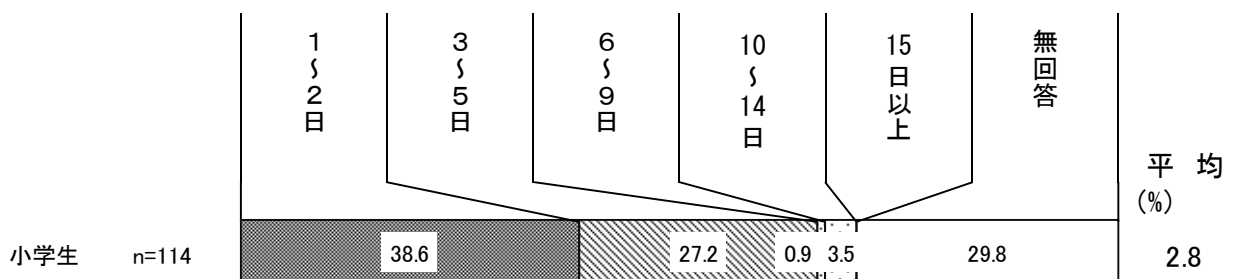
就学前児童の子どもが病気やケガで普段利用している教育・保育の事業が利用できなかった場合の対処方法として「父親が休んだ」「母親が休んだ」以外の方法で対応した人のうち、「できれば仕事を休んで看たい」と思った人は就学前児童が50.4%、小学生が37.1%で、就学前児童が小学生を大きく上回っている。

一方、「休んで看することは非常に難しい」という人は就学前児童が25.5%、小学生が16.9%となっている。

看護したかった日数 (年間)



子どもが病気やケガで普段利用している教育・保育の事業が利用できなかった際、「できれば仕事を休んで看たい」と思った人の平均看護希望日数は、就学前児童6.0日となっている。



子どもが病気やケガで学校を休まなければならなかった際、「できれば仕事を休んで看たい」と思った人の平均看護希望日数は、小学生が2.8日となっている。

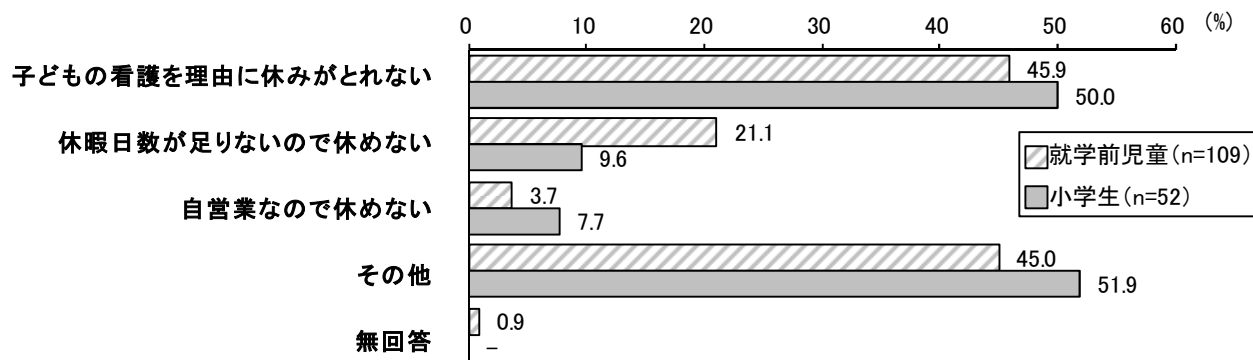
(7) 仕事を休んで看ることが難しい理由

問23-5で「休んで看ことは非常に難しい」に回答した方

〔就学前児童、小学生：問23-6〕

休んで看ることが難しいと思われる理由は何ですか。

(〇はあてはまるものすべて)【複数回答】



子どもが病気やケガで普段利用している教育・保育の事業が利用できない場合でも、父母のいずれかが「休んで看ことは非常に難しい」と回答した人の理由をみると、就学前児童・小学生とも「子どもの看護を理由に休みがとれない」が45.9%、50.0%と特に高くなっている。

また、「その他」の就学前児童(45.0%)と小学生(51.9%)の内容は、自分の代わりがいらない、仲間・同僚の負担になる、職場の理解がないといったことも含めた「仕事を休みづらい・休めない」が特に多く、「母親(未就労)が看られるから」などもあげられている。

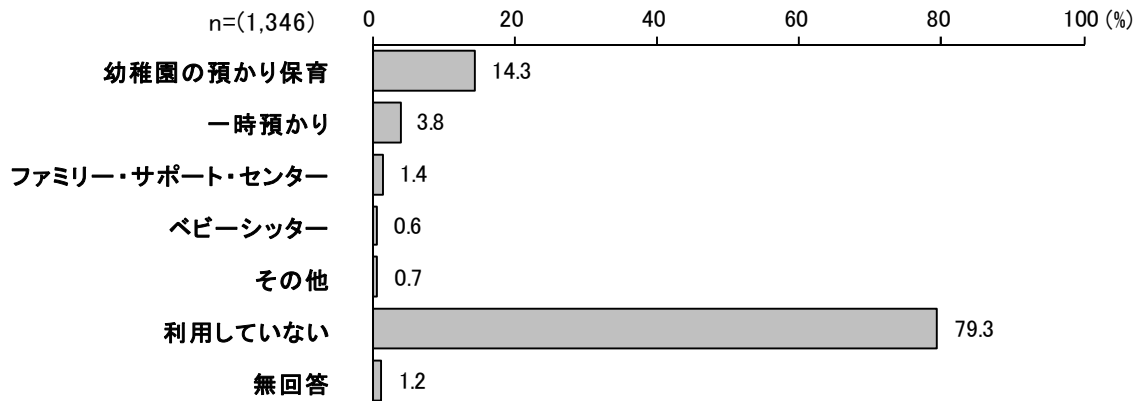
9. 不定期の教育・保育事業や宿泊を伴う一時預かり等の利用

(1) 私用、親の通院、不定期の就労等の目的で不定期的に利用している事業と日数

〔就学前児童：問24〕

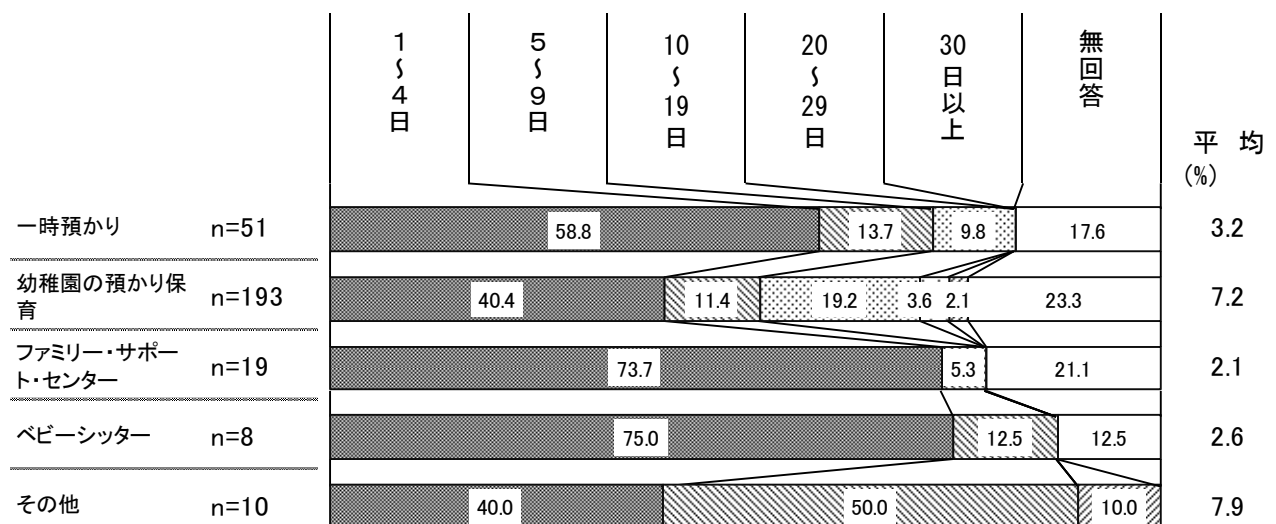
対象のお子さんについて、日中の定期的な保育や病気のため以外に、私用、親の通院、不定期の就労等の目的で不定期的に利用している事業はありますか。

(○はあてはまるものすべて)【複数回答】



日中の定期的な保育や病気のため以外に、私用、親の通院、不定期の就労等の目的で不定期的に利用している事業は、「幼稚園の預かり保育」が14.3%で最も高く、以下、「一時預かり」が3.8%、「ファミリー・サポート・センター」が1.4%、「ベビーシッター」が0.6%、「その他」が0.7%となっている。

利用日数



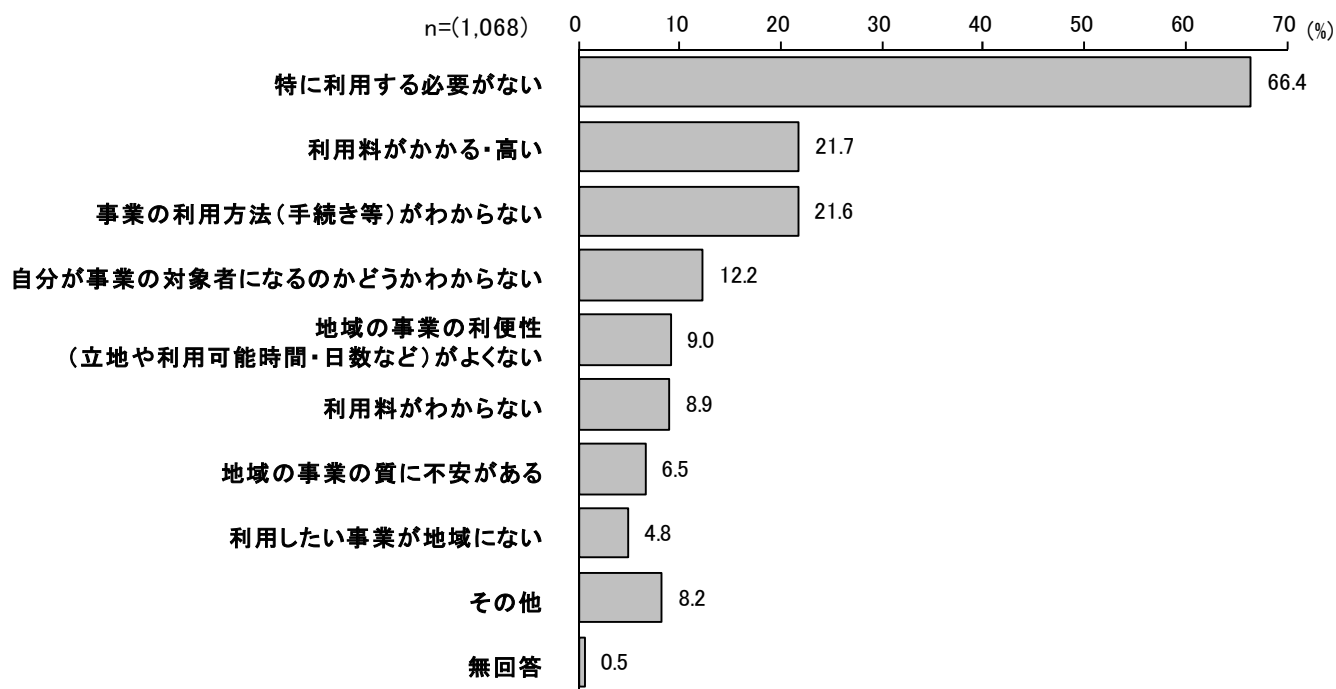
不定期的に利用している事業の平均利用日数は、「幼稚園の預かり保育」が7.2日、「一時預かり」が3.2日などとなっている。

(2) 利用していない理由

問24で「利用していない」に回答した方

〔就学前児童：問24-1〕

現在利用していない理由は何ですか。(〇はあてはまるものすべて)【複数回答】

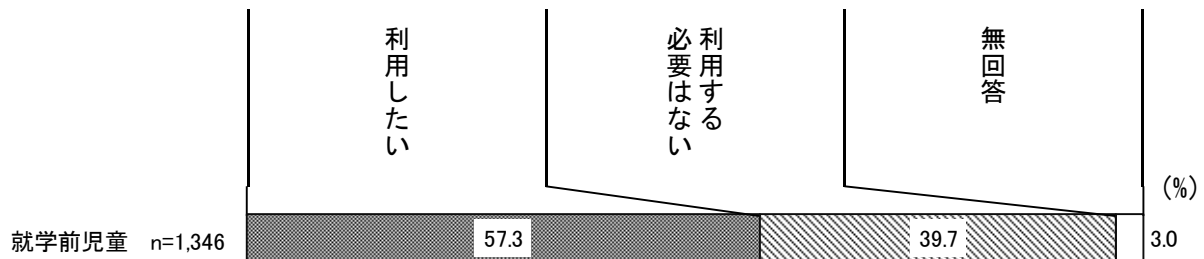


不定期の事業を利用していない理由は、「特に利用する必要がない」が66.4%と特に高く、これに「利用料がかかる・高い」が21.7%、「事業の利用方法(手続き等)がわからない」が21.6%で続いている。

(3) 今後の利用希望と利用したい日数

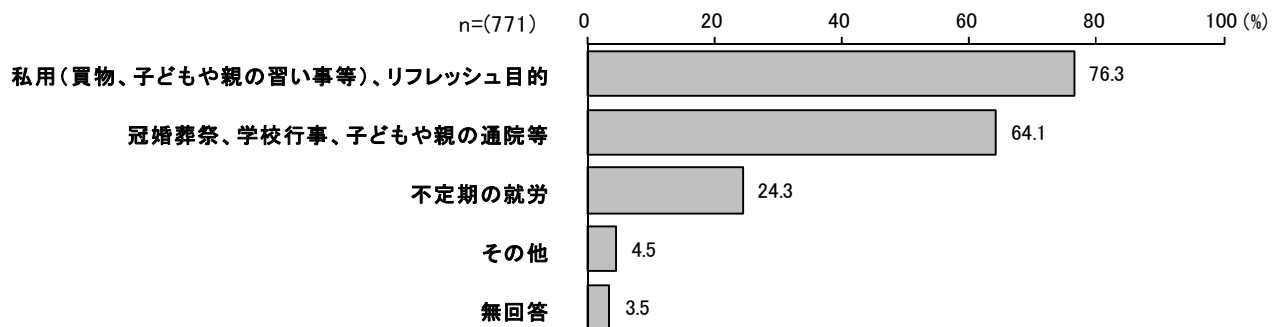
〔就学前児童：問25〕

対象のお子さんについて、私用、親の通院、不定期の就労等の目的で、年間何日くらい事業を利用する必要があると思いますか。(〇はあてはまるものすべて)【複数回答】



不定期の事業の利用意向は、「利用したい」が57.3%、「利用する必要はない」が39.7%となっている。

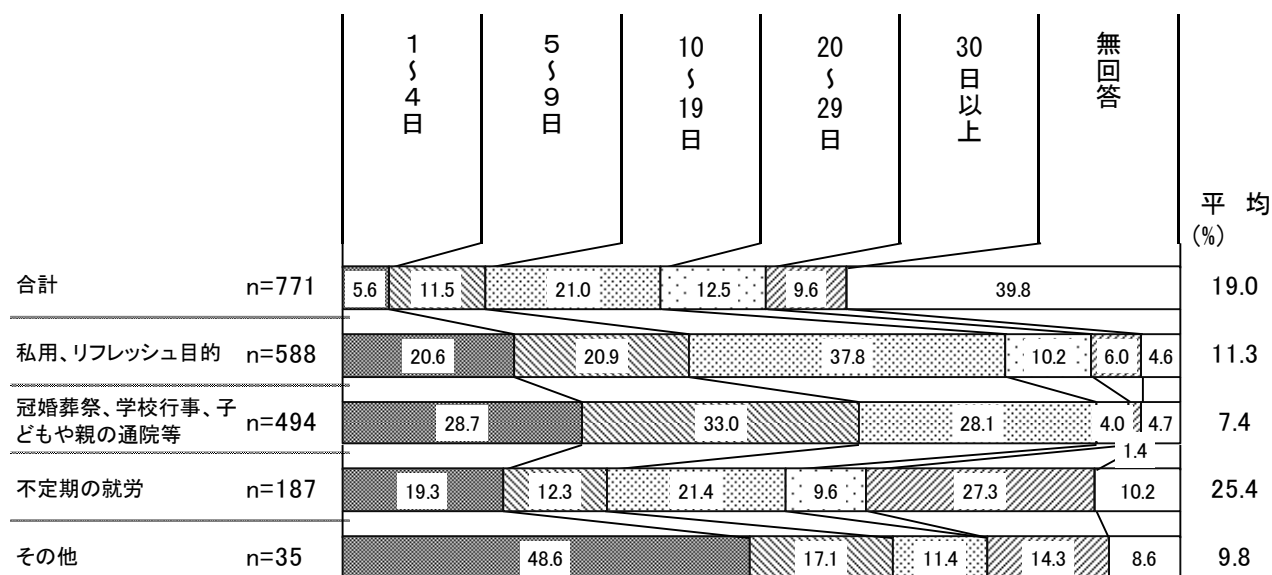
不定期の教育・保育の事業の利用目的



不定期の事業利用意向理由は、「私用(買い物、子どもや親の習い事等)、リフレッシュ目的」が76.3%、「冠婚葬祭、学校行事、子どもや親の通院等」が64.1%、「不定期の就労」が24.3%などとなっている。

第2章 調査結果の詳細

不定期の教育・保育の事業の利用希望日数



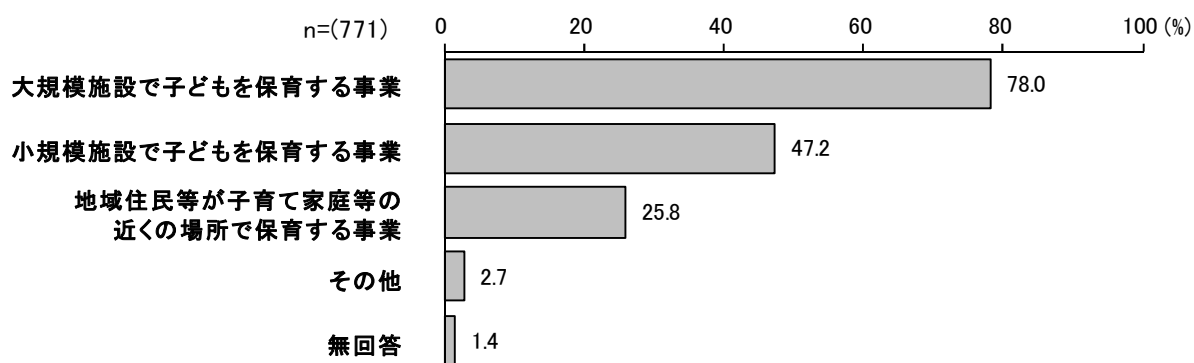
事業利用意向理由別の1年間の平均利用想定日数は、「私用、リフレッシュ目的」が11.3日／年、「冠婚葬祭、学校行事、子どもや親の通院等」が7.4日／年、「不定期の就労」が25.4日／年などとなっている。

(4) 望ましい事業形態

問25で「利用したい」に回答した方

〔就学前児童：問25-1〕

私用、親の通院、不定期の就労等の目的でお子さんを預ける場合、いずれの事業形態が望ましいと思いますか。(〇はあてはまるものすべて)【複数回答】

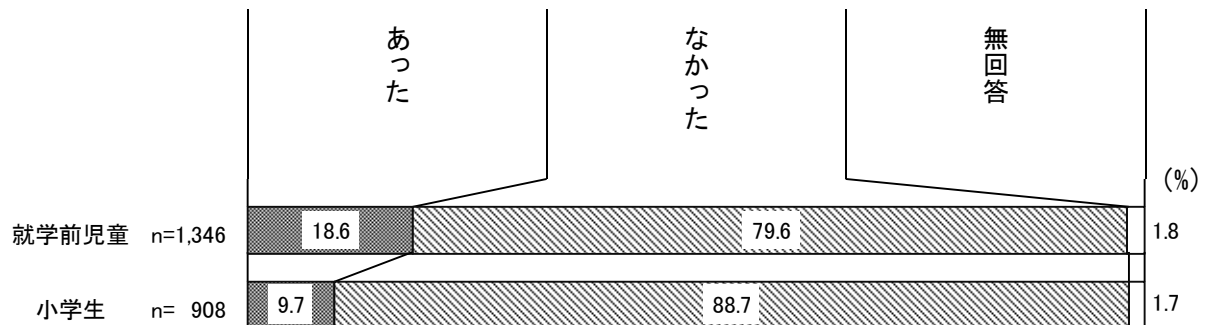


不定期の事業利用意向者が望ましいと思う事業形態は、「大規模施設で子どもを保育する事業」が78.0%と高く、「小規模施設で子どもを保育する事業」(47.2%)、「地域住民等が子育て家庭等の近くの場所で保育する事業」(25.8%)を大きく上回っている。

(5) 保護者の用事により泊りがけで家族以外に預けたことの有無、対処方法、宿泊日数

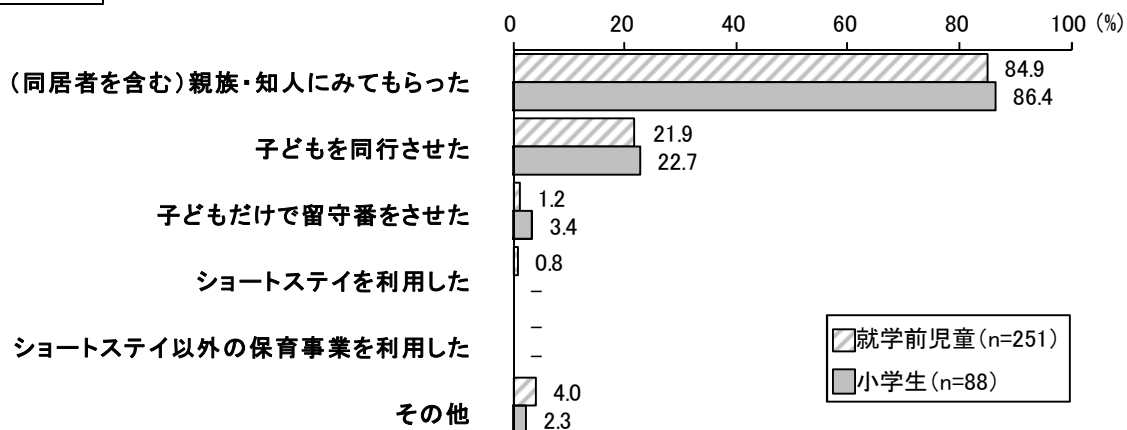
〔就学前児童：問26、小学生：問24〕

この1年間に、保護者の用事（冠婚葬祭、保護者・家族の病気など）により、対象のお子さんを泊りがけで家族以外にみてもらわなければならないことはありましたか（預け先が見つからなかった場合も含みます）。（○はあてはまるものすべて）【複数回答】



この1年間に保護者の用事により、子どもを泊りがけで家族以外にみてもらわなければならないことが「あった」人は就学前児童が18.6%、小学生が9.7%となっている。

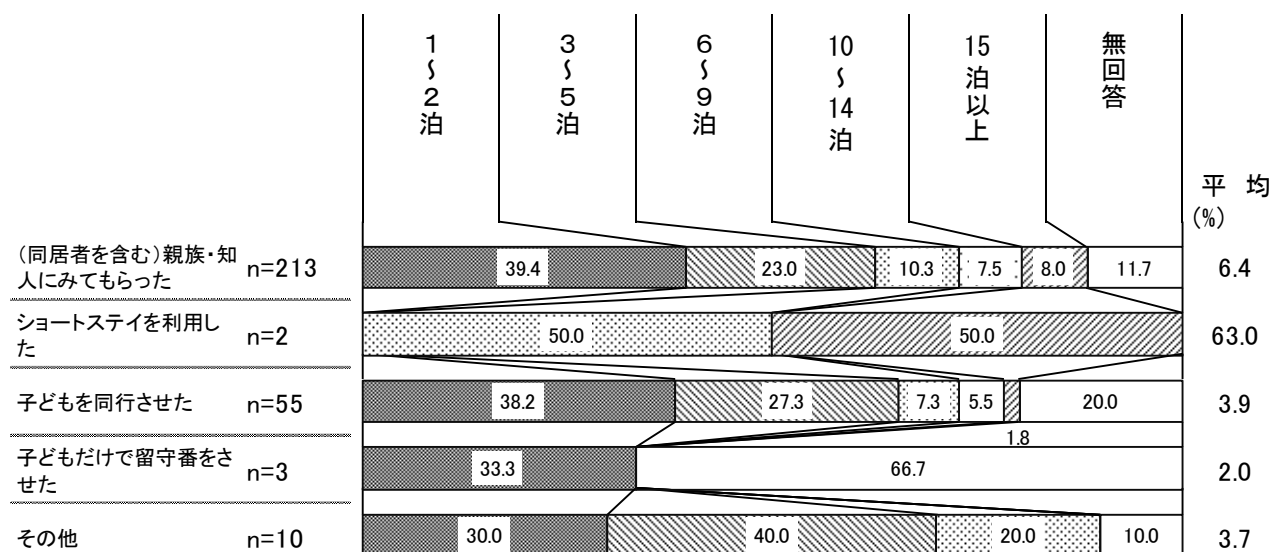
対処方法



子どもを泊りがけで家族以外にみてもらわなければならない際の対処方法は、就学前児童・小学生とも「(同居者を含む) 親族・知人にみてもらった」(84.9%、86.4%)が断然高く、これに「子どもを同行させた」(21.9%、22.7%)が続いている。

宿泊日数

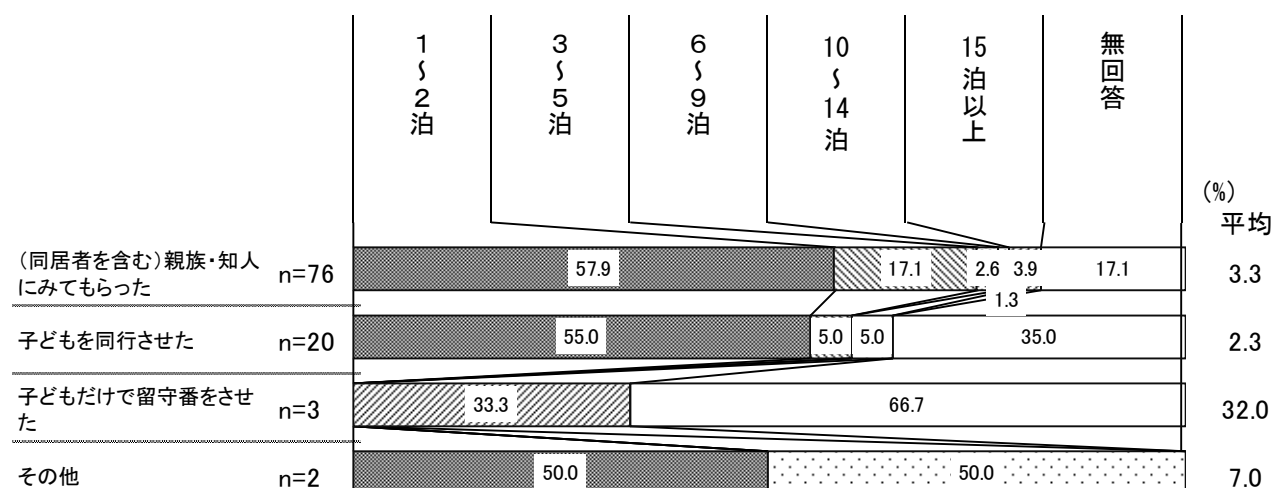
【就学前児童】



※「ショートステイ以外の保育事業を利用した」は回答者がいないため、図を省略している。

就学前児童の対処方法別の年間平均宿泊数は、「(同居者を含む) 親族・知人にみてもらった」が6.4泊／年、「子どもを同行させた」が3.9泊／年などとなっている。

【小学生】



※「ショートステイを利用した」「ショートステイ以外の保育事業を利用した」は回答者がいないため、図を省略している。

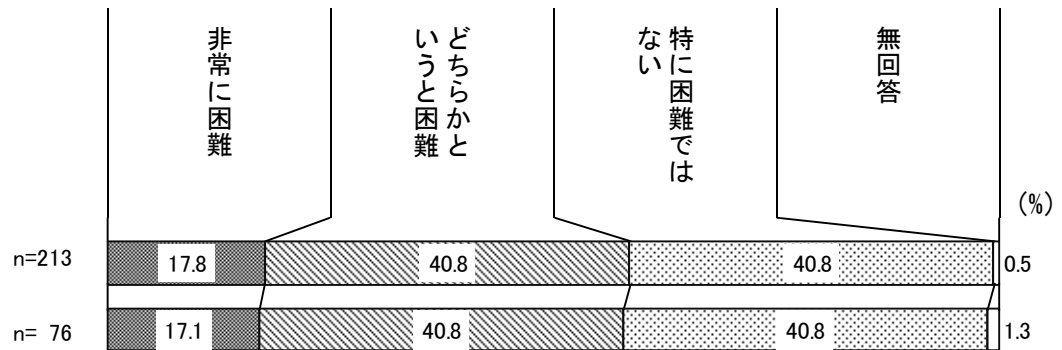
小学生の対処方法別の年間平均宿泊数は、「(同居者を含む) 親族・知人にみてもらった」が3.3泊／年、「子どもを同行させた」が2.3泊／年などとなっている。

(6) 親族・知人にみてもらう場合の困難度

問26（就学前）／問24（小学生）で「あった」に回答し、かつ「（同居者含む）親族・知人にみてもらった」に回答した方

〔就学前児童：問26-1、小学生：問24-1〕

その場合の困難度はどの程度でしたか。（〇は1つ）



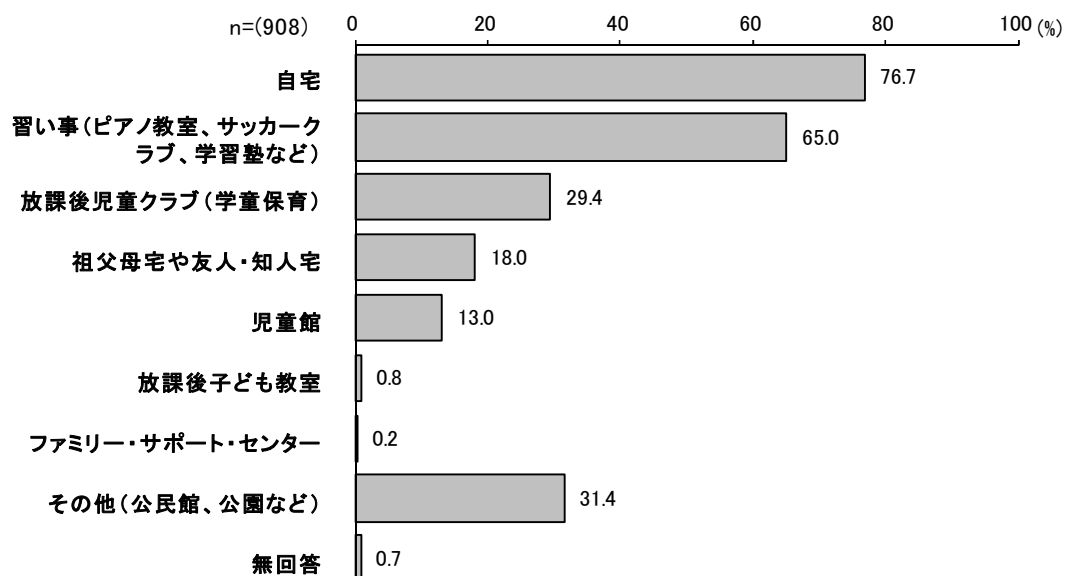
子どもを泊りがけで「（同居者を含む）親族・知人にみてもらった」際の困難度は、就学前児童・小学生とも同傾向で、「非常に困難」が2割弱、「どちらかという困難」「特になにに困難ではない」が各4割強となっている。

10. 小学校就学後の放課後の過ごし方

(1) 放課後の過ごし方と日数

〔小学生：問18〕

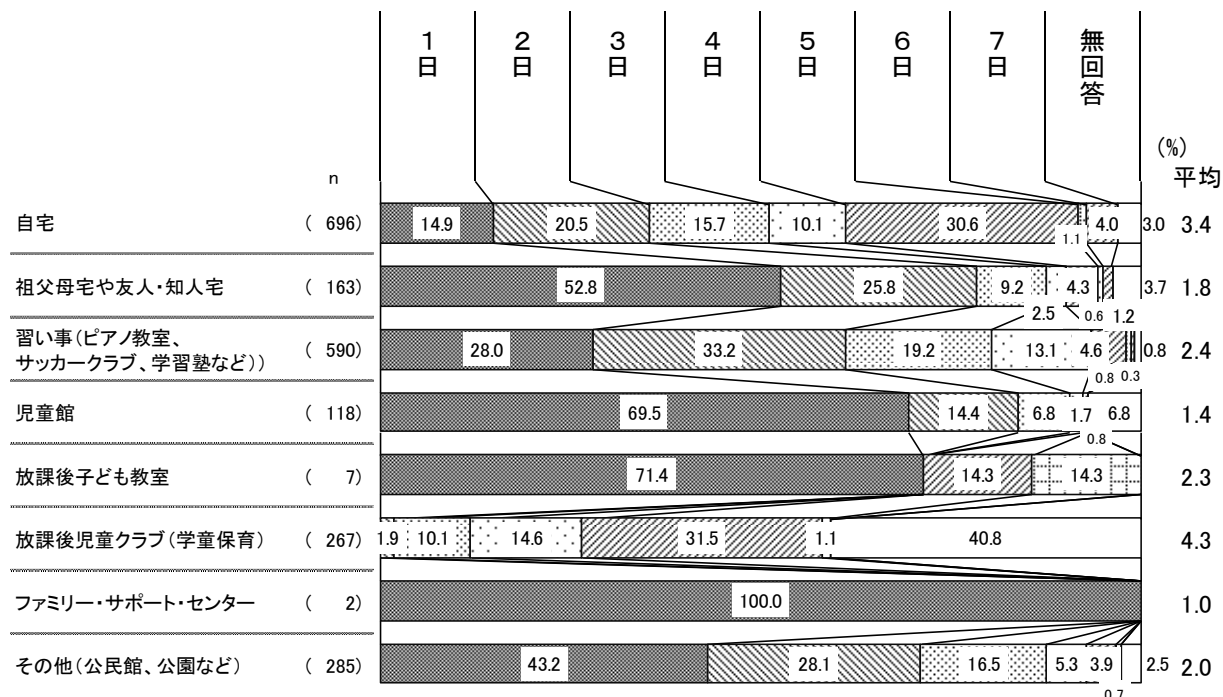
対象のお子さんは放課後（平日の小学校終了後）の時間をどのように過ごしていますか。（〇はあてはまるものすべて）【複数回答】



小学生の子どもが放課後を過ごしている場所は、「自宅」が76.7%で最も高く、これに「習い事（ピアノ教室、サッカークラブ、学習塾など）」が65.0%、「放課後児童クラブ(学童保育)」が29.4%、「祖父母宅や友人・知人宅」が18.0%、「児童館」が13.0%で続いている。

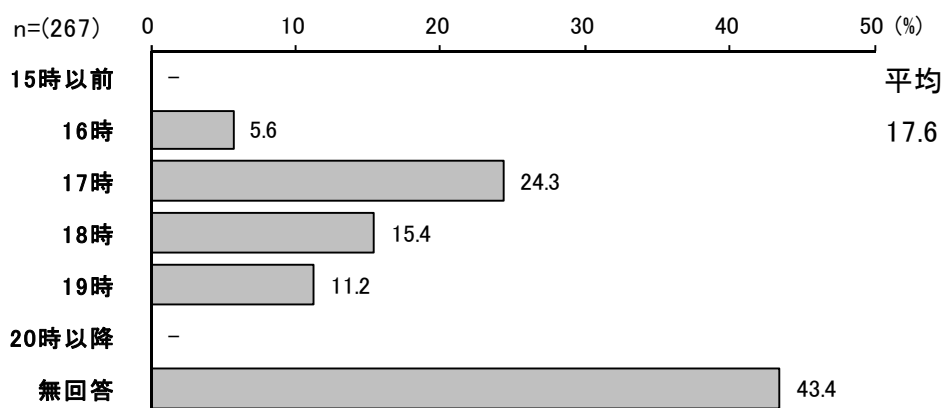
第2章 調査結果の詳細

小学生が放課後過ごしている場所の日数（1週当たり）



小学生が放課後過ごす場所別の週当たり平均日数は、「自宅」が3.4日／週、「習い事」が2.4日／週、「放課後児童クラブ(学童保育)」が4.3日／週、「祖父母宅や友人・知人宅」1.8日／週、「児童館」が1.4日／週などとなっている。

放課後児童クラブ（学童保育）の利用時刻（下校時から）



放課後児童クラブ（学童保育）の終了時刻は、「17時」が24.3%で最も高く、これに「18時」が15.4%が続いている。

(2) 休日等の放課後児童クラブの利用希望

問18で「放課後児童クラブ（学童保育）」に回答した方

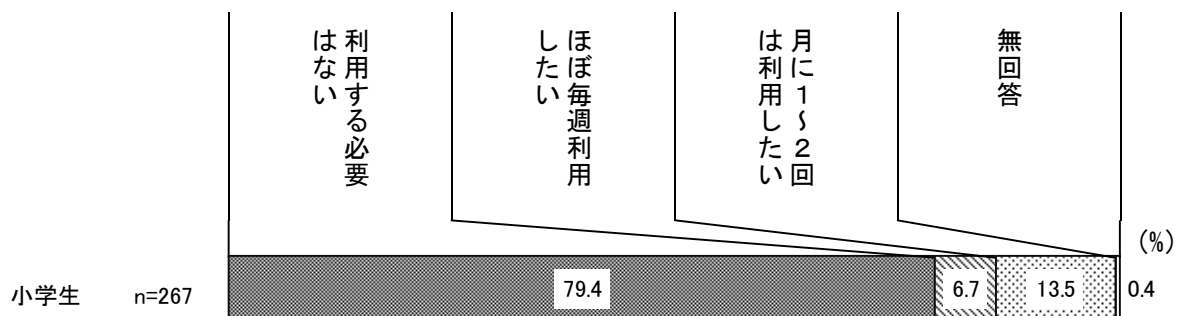
〔小学生：問18-1〕

対象のお子さんについて、土曜日と日曜日・祝日に、放課後児童クラブの利用希望はありますか。

※なお、事業の利用には、一定の利用者負担が発生する場合があります。

(1) 土曜日(○は1つ)／(2) 日曜日・祝日(○は1つ)

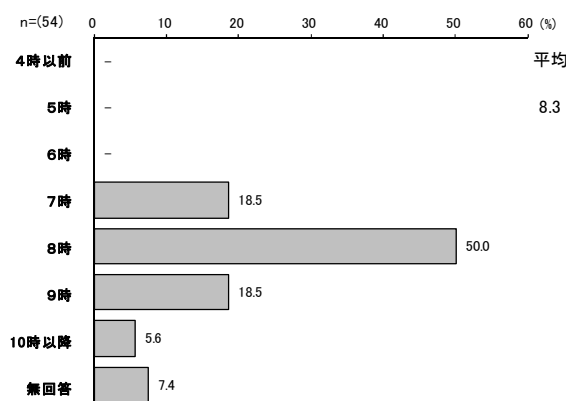
【土曜日】



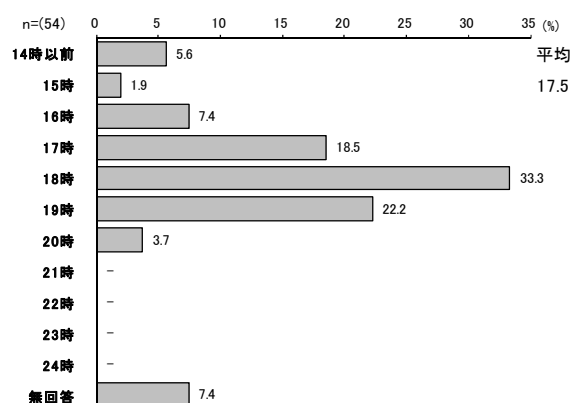
放課後児童クラブ(学童保育)利用者の土曜日の利用については、「利用する必要はない」が79.4%、「ほぼ毎週利用したい」が6.7%、「月に1～2回は利用したい」が13.5%となっている。

利用したい時間帯

◆開始時刻

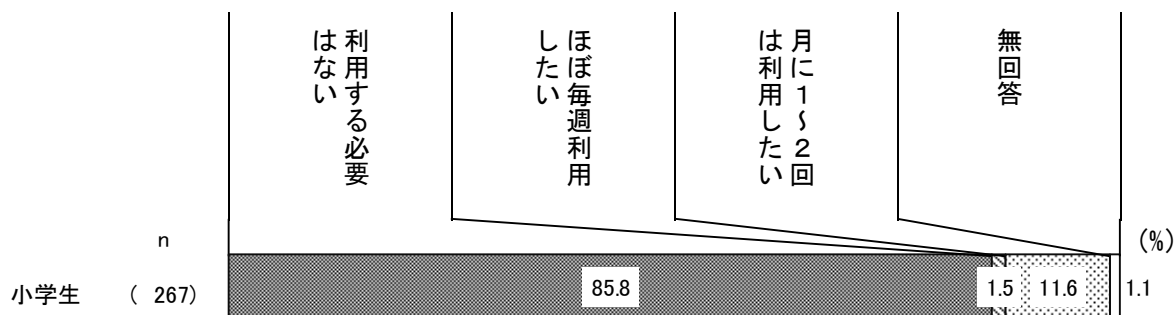


◆終了時刻



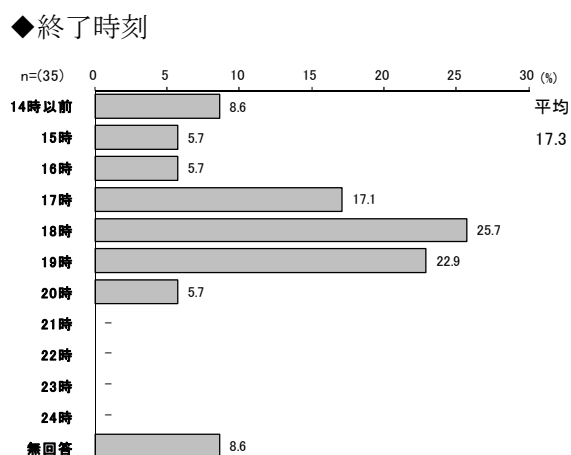
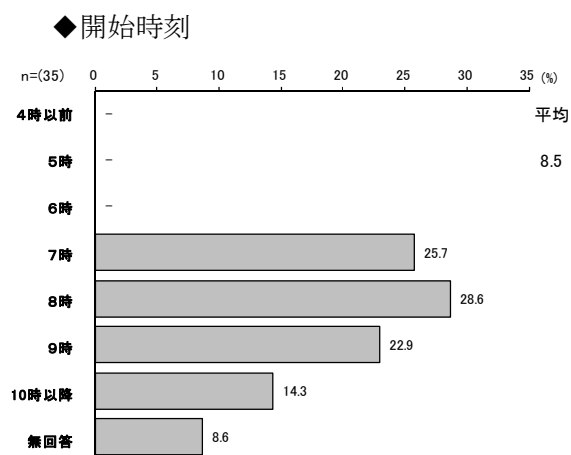
土曜日の放課後児童クラブ（学童保育）の利用開始希望時刻は、「8時」が50.0%と特に高い。終了希望時刻は、「18時」が33.3%で最も高く、これに「19時」が22.2%、「17時」が18.5%で続いている。

【日曜日・祝日】



放課後児童クラブ(学童保育)利用者の日曜日・祝日の利用については、「利用する必要はない」が85.8%、「ほぼ毎週利用したい」が1.5%、「月に1～2回は利用したい」が11.6%となっている。

利用したい時間帯



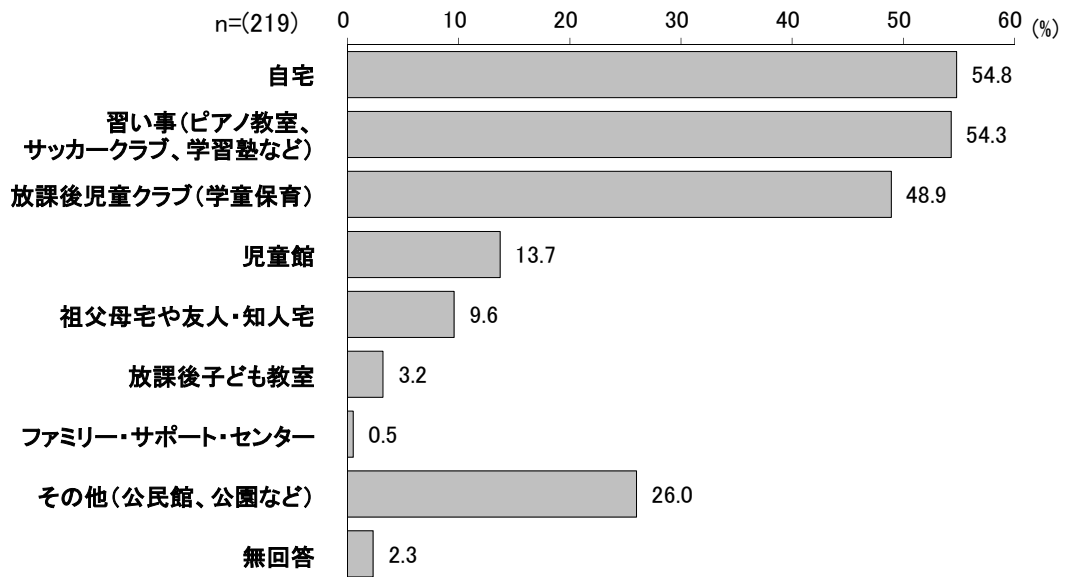
日曜日・祝日の放課後児童クラブ(学童保育)の利用開始希望時刻は、「7時」が25.7%、「8時」が28.6%、「9時」が22.9%と高い。終了希望時刻は、「18時」が25.7%、「19時」が22.9%、「17時」が17.1%と高い。

(3) 小学校低学年の間、放課後を過ごさせたい場所(就学前児童5歳以上のみ)

〔就学前児童：問27〕

対象のお子さんについて、小学校低学年（１～３年生）のうちは、放課後（平日の小学校終了後）の時間をどのような場所で過ごさせたいと思いますか。（○はあてはまるものすべて）

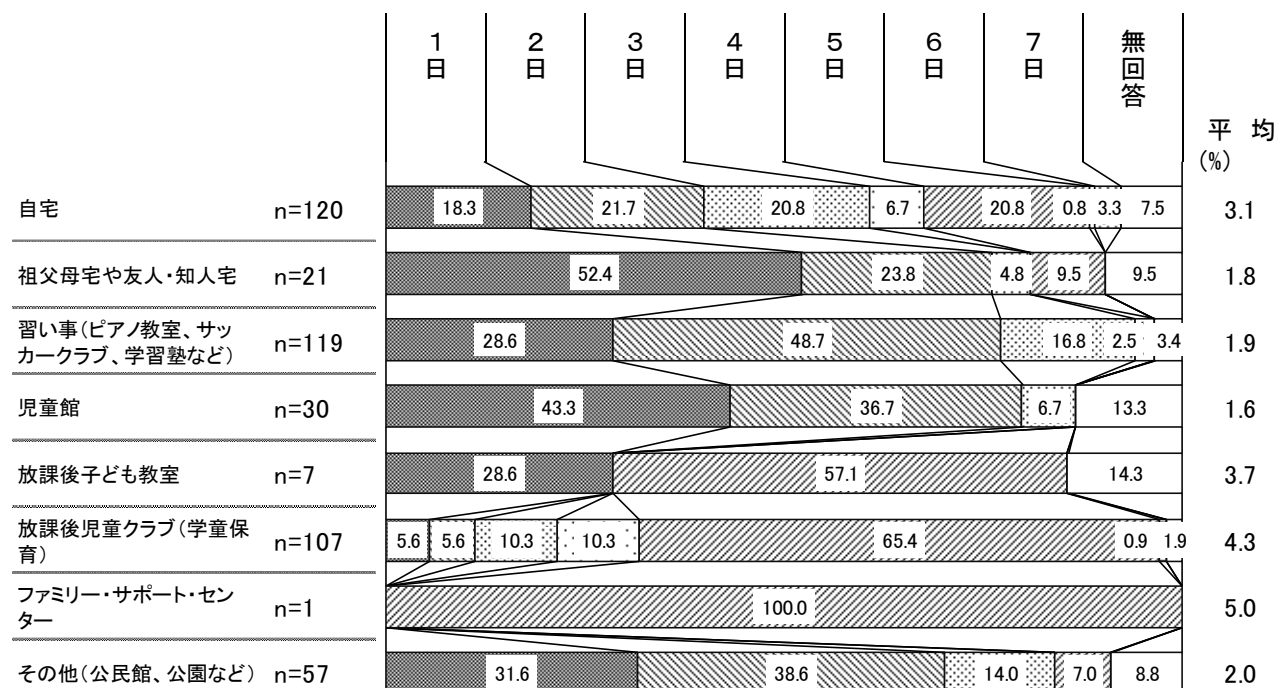
【複数回答】



就学前児童の子どもが小学校低学年（１～３年生）になったとき、放課後の時間を過ごさせたい場所は、「自宅」（54.8%）、「習い事（ピアノ教室、サッカークラブ、学習塾など）」（54.3%）、「放課後児童クラブ（学童保育）」（48.9%）が上位となり、これらに「児童館」（13.7%）が続いている。

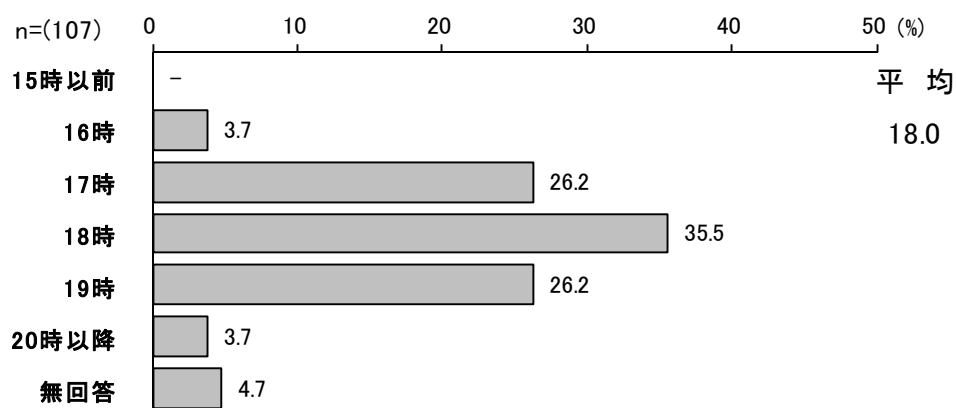
第2章 調査結果の詳細

小学校低学年の間、放課後を過ごさせたい場所の日数（1週当たり）



過ごさせたい場所別の週当たり平均日数は、「自宅」が3.1日／週、「習い事」が1.9日／週、「放課後児童クラブ(学童保育)」が4.3日／週、「児童館」が1.6日／週などとなっている。

放課後児童クラブ（学童保育）の利用希望時刻（下校時から）



放課後児童クラブ（学童保育）の利用希望時刻は、「17時」が26.2%、「18時」が35.5%、「19時」が26.2%となっている。

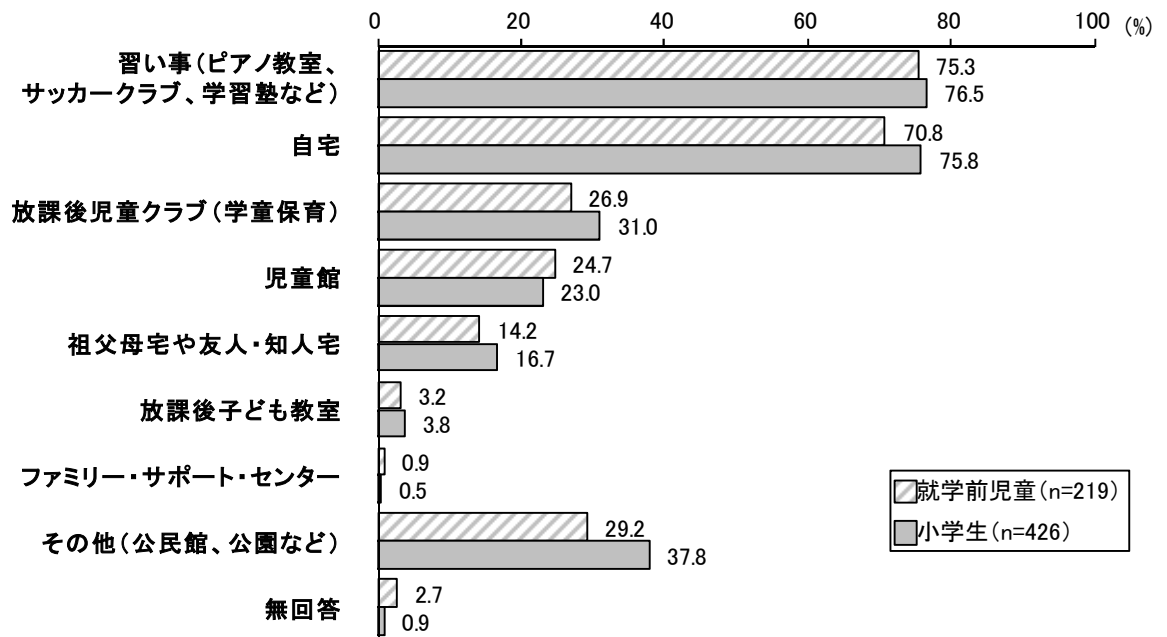
(4) 小学校高学年の間、放課後を過ごさせたい場所(就学前児童5歳以上／小学生1～3年生)

〔就学前児童：問28、小学生：問19〕

対象のお子さんについて、小学校高学年（4～6年生）になったら、放課後（平日の小学校終了後）の時間をどのような場所で過ごさせたいと思いますか。

（〇はあてはまるものすべて）【複数回答】

※先のことになりますが、現在お持ちのイメージでお答えください。



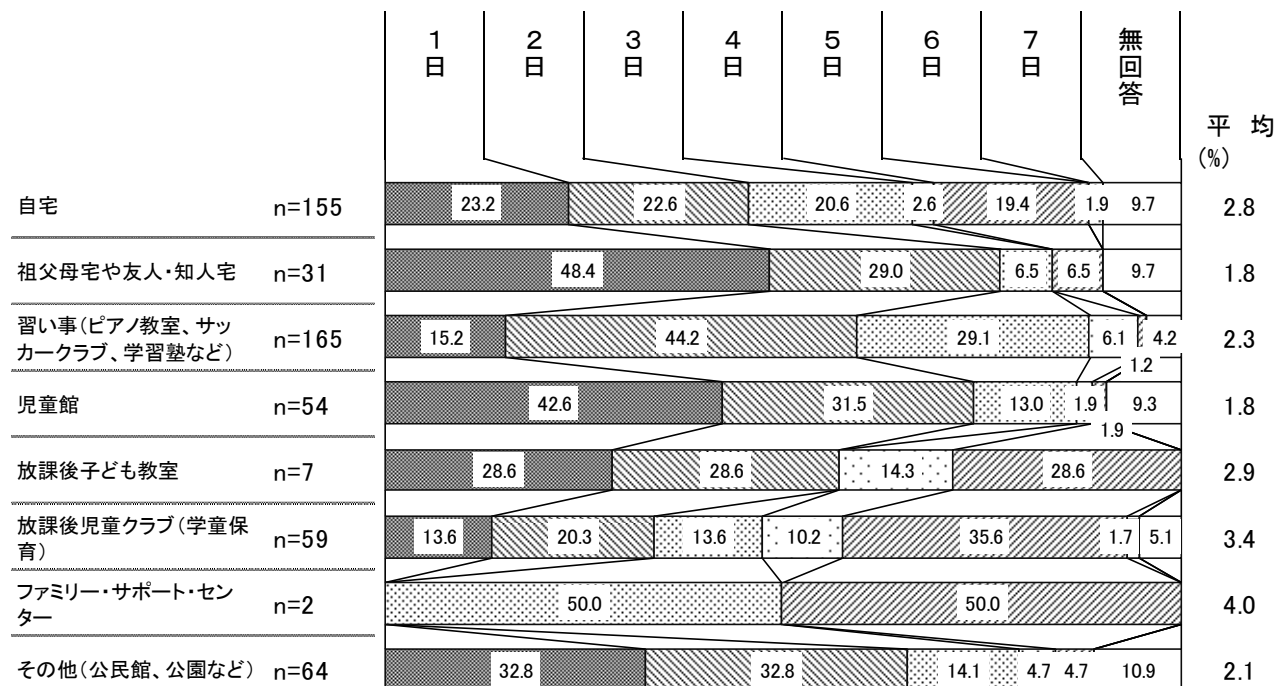
就学前児童の子どもが小学校高学年(4～6年生)になったとき、放課後の時間を過ごさせたい場所は、「習い事(ピアノ教室、サッカークラブ、学習塾など)」(75.3%)、「自宅」(70.8%)が上位で、これらに「放課後児童クラブ(学童保育)」(26.9%)、「児童館」(24.7%)、「祖父母宅や友人・知人宅」(14.2%)が続いている。

一方、現在1～3年生の子どもが小学校高学年(4～6年生)になったとき、放課後の時間を過ごさせたい場所も「習い事(ピアノ教室、サッカークラブ、学習塾など)」(76.5%)、「自宅」(75.8%)が上位で、これらに「放課後児童クラブ(学童保育)」(31.0%)、「児童館」(23.0%)、「祖父母宅や友人・知人宅」(16.7%)が続いており、概ね就学前児童と同傾向となっている。

第2章 調査結果の詳細

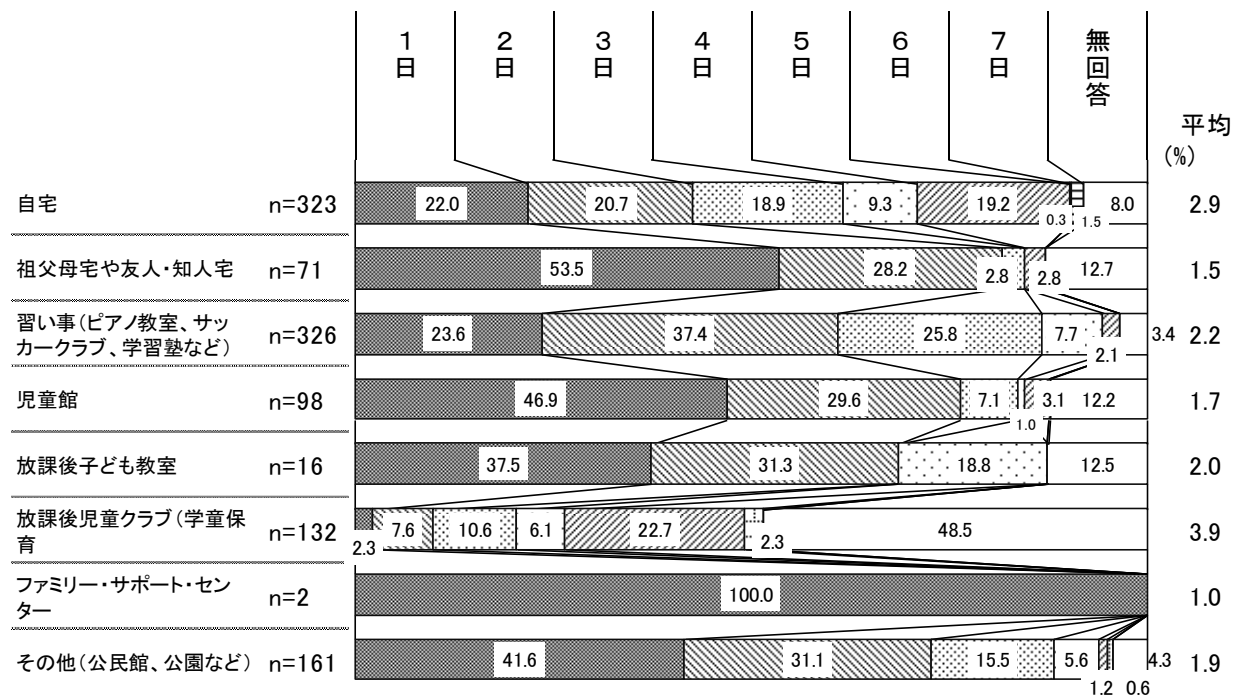
小学校高学年の間、放課後を過ごさせたい場所の日数（1週当たり）

【就学前児童】



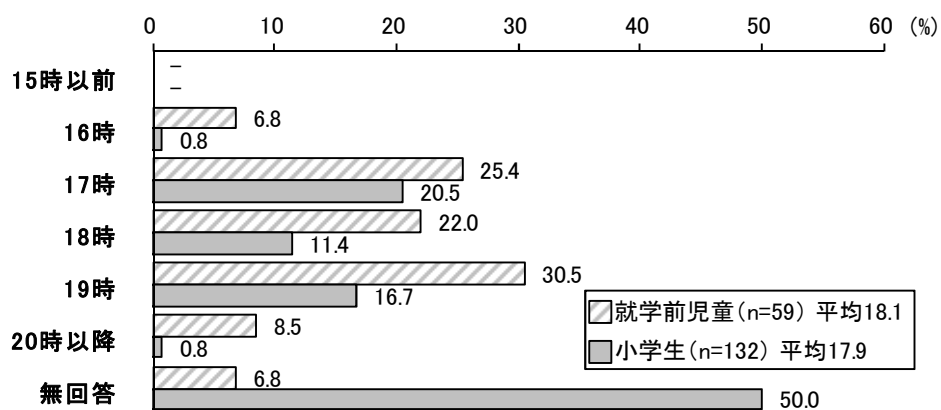
就学前児童の過ごさせたい場所別の週当たり平均日数は、「習い事（ピアノ教室、サッカークラブ、学習塾など）」が2.3日／週、「自宅」が2.8日／週、「放課後児童クラブ(学童保育)」が3.4日／週、「児童館」「祖父母宅や友人・知人宅」が各1.8日／週などとなっている。

【小学生】



小学生の過ごさせたい場所別の週当たり平均日数は、「習い事（ピアノ教室、サッカークラブ、学習塾など）」が2.2日／週、「自宅」が2.9日／週、「放課後児童クラブ(学童保育)」が3.9日／週、「児童館」が1.7日／週、「祖父母宅や友人・知人宅」が1.5日／週などとなっている。

放課後児童クラブ（学童保育）の利用希望時刻（下校時から）



就学前児童の放課後児童クラブ（学童保育）の終了希望時刻は、「19時」が30.5%で最も高く、以下、「17時」が25.4%、「18時」が22.0%の順となっている。これに対し、小学生は「17時」が20.5%で最も高く、これに「19時」が16.7%で続いている。

(5) 休日等の放課後児童クラブの利用希望

(就学前) 問27または問28／(小学生) 問19で「放課後児童クラブ(学童保育)に回答した方

〔就学前児童：問28-1、小学生：問19-1〕

対象のお子さんについて、

(就学前) 土曜日と日曜日・祝日に、

(小学生) 小学校高学年(4～6年生)のとき、土曜日と日曜日・祝日に、

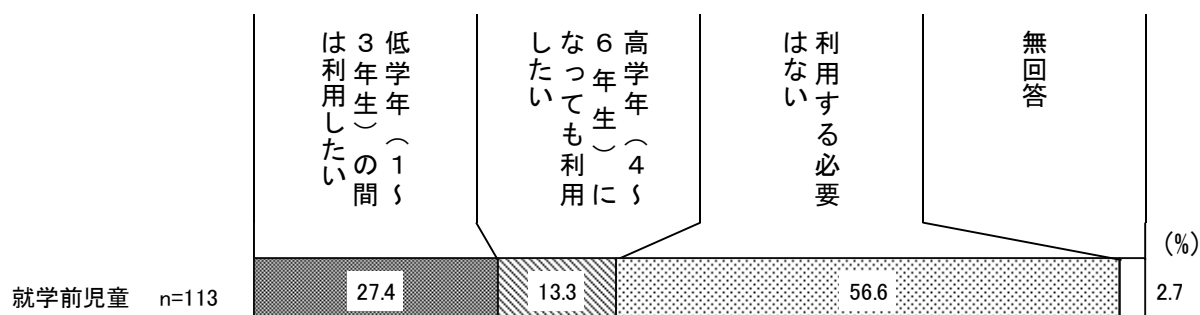
放課後児童クラブの利用希望はありますか。

※なお、事業の利用には、一定の利用者負担が発生する場合があります。

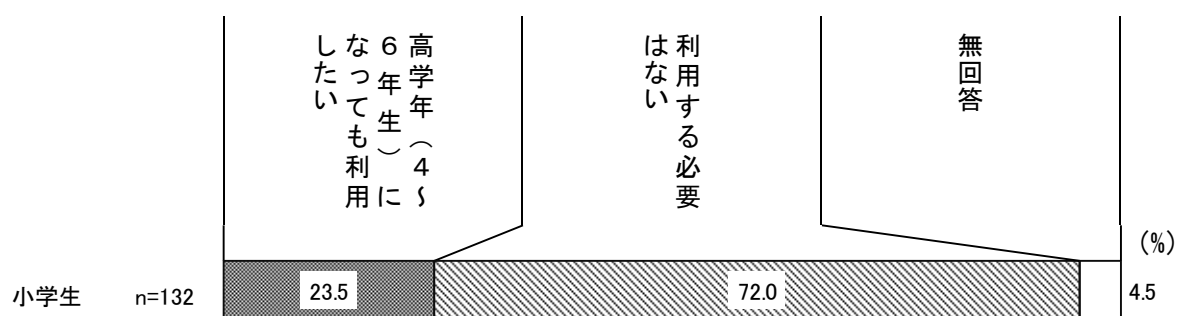
(1) 土曜日(○は1つ)／(2) 日曜日・祝日(○は1つ)

<土曜日>

【就学前児童】



【小学生】

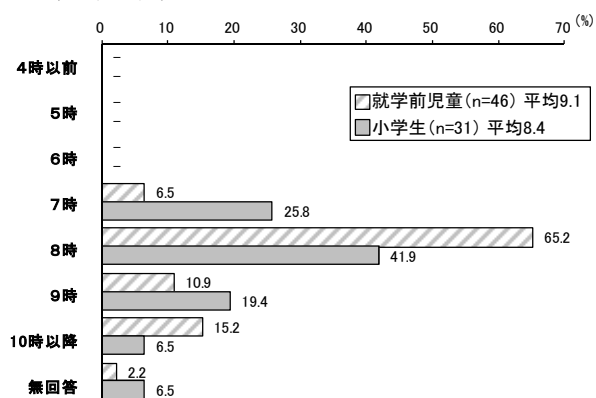


放課後児童クラブ(学童保育)の土曜日の利用希望については、就学前児童の場合、「低学年(1～3年生)の間は利用したい」が27.4%、「高学年(4～6年生)になっても利用したい」が13.3%、「利用する必要はない」が56.6%となっている。

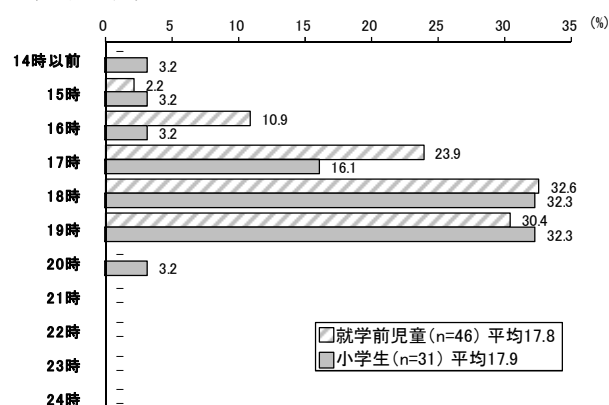
一方、小学生は、「高学年(4～6年生)になっても利用したい」が23.5%、「利用する必要はない」が72.0%となっている。

利用したい時間帯

◆開始時刻



◆終了時刻

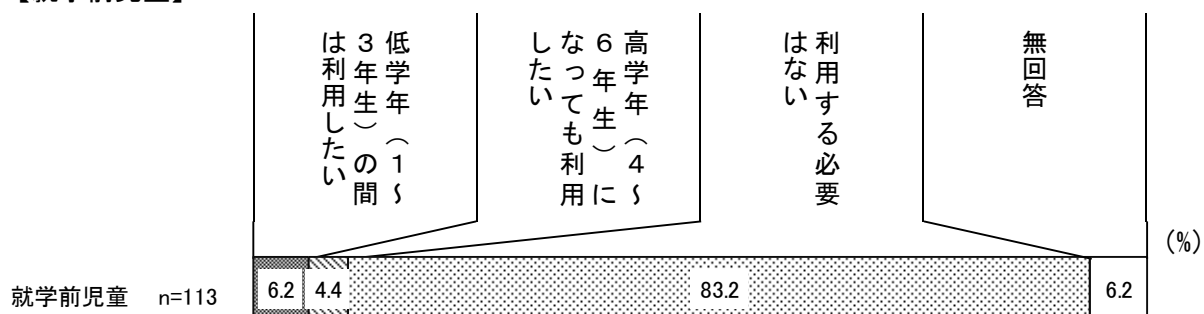


就学前児童の土曜日の放課後児童クラブ（学童保育）の利用開始希望時刻は、「8時」が65.2%と特に高い。終了希望時刻は、「18時」（32.6%）、「19時」（30.4%）が上位で、これらに「17時」（23.9%）が続いている。

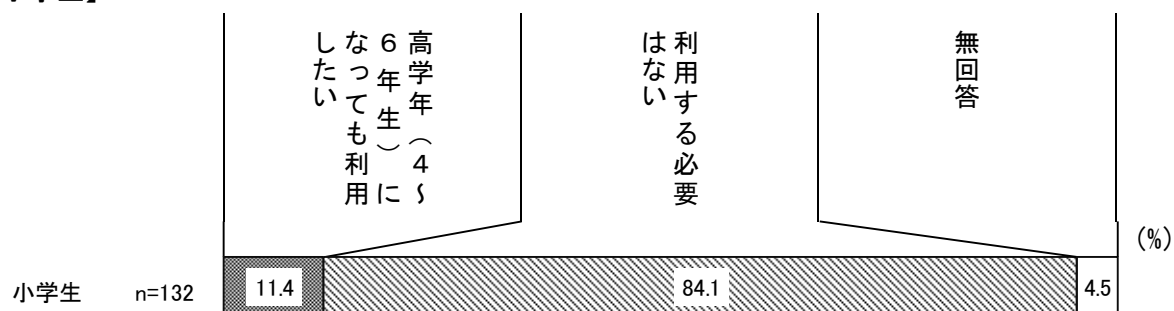
小学生の土曜日の放課後児童クラブ（学童保育）の利用開始希望時刻も「8時」が41.9%で最も高い。終了希望時刻は、「18時」「19時」が各32.3%と高い。

<日曜日・祝日>

【就学前児童】



【小学生】



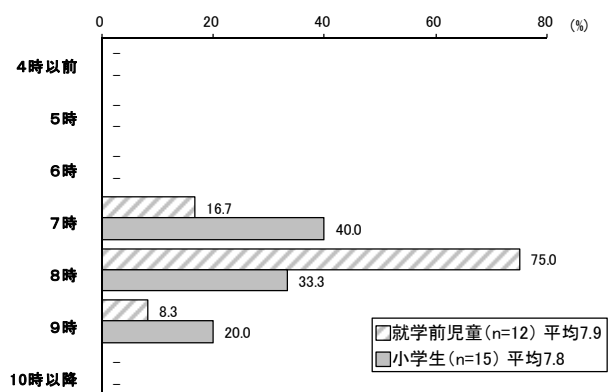
放課後児童クラブ（学童保育）の日曜日・祝日の利用希望については、就学前児童の場合、「低学年（1～3年生）の間は利用したい」が6.2%、「高学年（4～6年生）になっても利用したい」が4.4%、「利用する必要はない」が83.2%となっている。

一方、小学生は、「高学年（4～6年生）になっても利用したい」が11.4%、「利用する必要はない」が84.1%となっている。

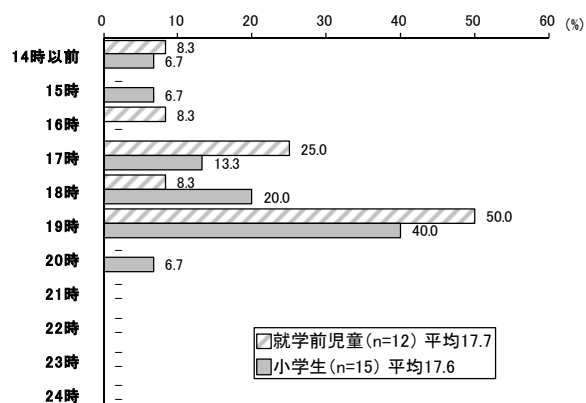
第2章 調査結果の詳細

利用したい時間帯

◆開始時刻



◆終了時刻



就学前児童の日曜日・祝日の放課後児童クラブ（学童保育）の利用開始希望時刻は、12人中9人が「8時」と回答。終了希望時刻は、12人中6人が「19時」と回答している。

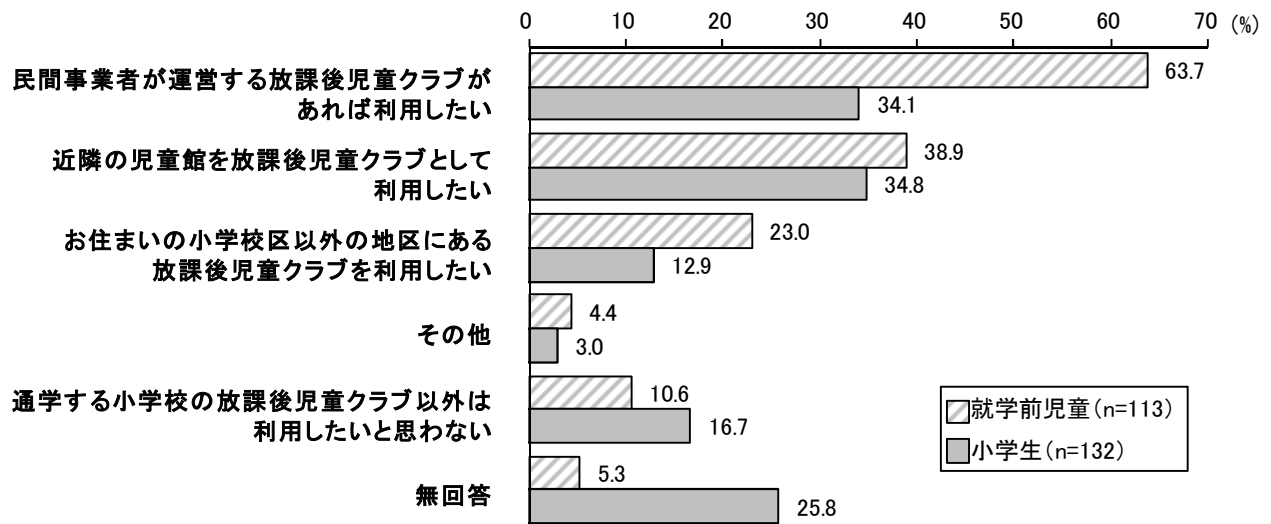
小学生の利用開始希望時刻は、15人中6人が「7時」、5人が「8時」と回答。終了希望時刻は、15人中6人が「19時」と回答している。

(6) 放課後児童クラブが利用できない場合の代替施設の意向

(就学前) 問27または問28／(小学生) 問19で「放課後児童クラブ(学童保育)に回答した方
〔就学前児童：問28-2、小学生：問19-2〕

朝霞市では、すべての市立の小学校内に放課後児童クラブ(学童保育)を設置していますが、もし、対象のお子さんが、通学する小学校の放課後児童クラブが満員などの理由により利用できない場合、どのような施設であれば利用しますか。

(○はあてはまるものすべて)【複数回答】



子どもが通学する小学校の放課後児童クラブ(学童保育)が満員などの理由により利用できないことがあった場合の放課後児童クラブ(学童保育)利用意向者の対応は、就学前児童の場合、「民間事業者が運営する放課後児童クラブがあれば利用したい」が63.7%で特に高く、これに「近隣の児童館を放課後児童クラブとして利用したい」が38.9%で続いている。

小学生の場合は、「近隣の児童館を放課後児童クラブとして利用したい」が34.8%、「民間事業者が運営する放課後児童クラブがあれば利用したい」が34.1%で上位となっている。

両層を比較すると、就学前児童は「民間事業者が運営する放課後児童クラブがあれば利用したい」の割合が小学生の2倍近くの高さとなっている。

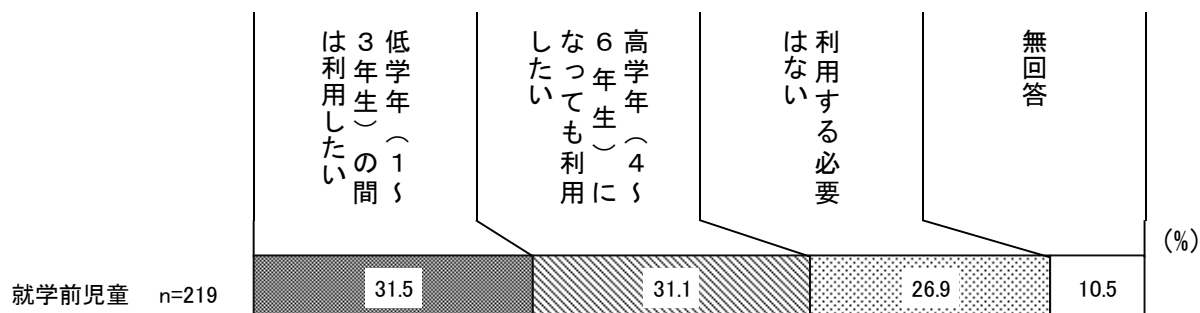
(7) 長期休暇中の放課後児童クラブ利用希望

〔就学前児童：問29、小学生：問20〕

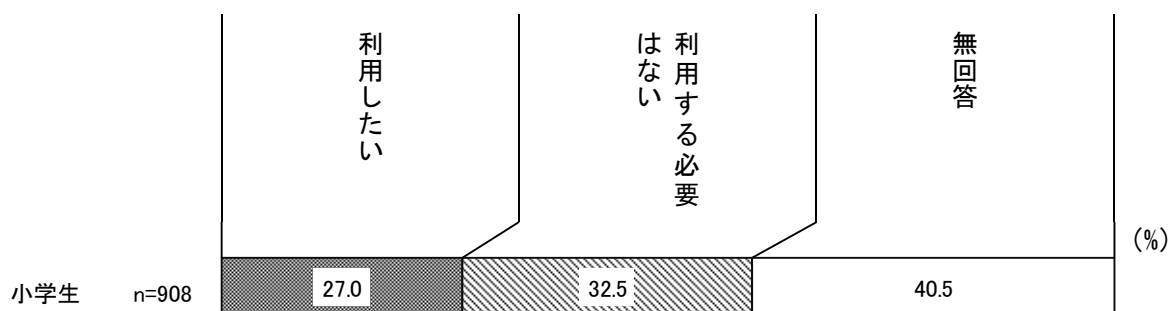
対象のお子さんについて、お子さんの夏休み・冬休みなどの長期の休暇期間中の放課後児童クラブの利用希望はありますか。(〇は1つ)

※なお、これらの事業の利用には、一定の利用者負担が発生する場合があります。

【就学前児童】



【小学生】

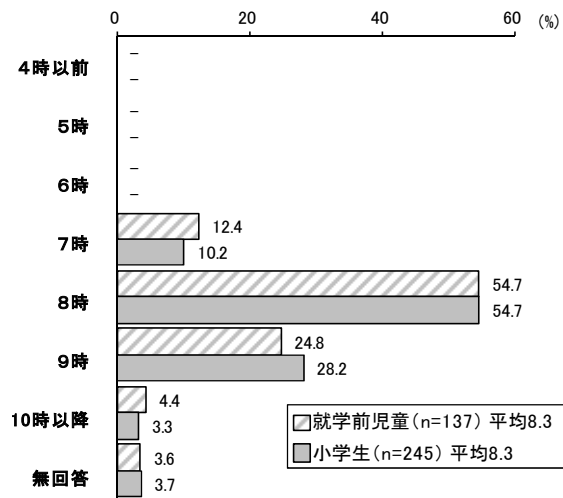


長期休暇期間中の放課後児童クラブ(学童保育)利用意向は、就学前児童の場合、「低学年(1～3年生)の間は利用したい」が31.5%、「高学年(4～6年生)になっても利用したい」が31.1%、「利用する必要はない」が26.9%となっている。

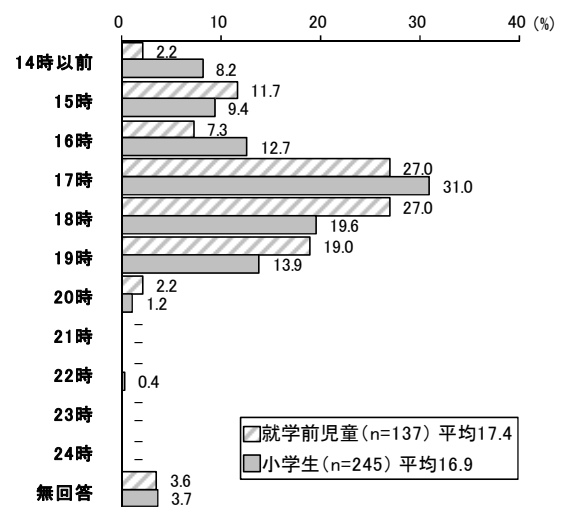
一方、小学生は、「利用したい」が27.0%、「利用する必要はない」が32.5%となっている。

利用したい時間帯

◆開始時刻



◆終了時刻



長期休暇期間中の放課後児童クラブ(学童保育)利用開始希望時刻は、就学前児童の場合、「8時」が54.7%で特に高く、これに「9時」が24.8%が続いている。終了希望時刻は、「17時」「18時」が各27.0%で上位となり、これらに「19時」が19.0%が続いている。

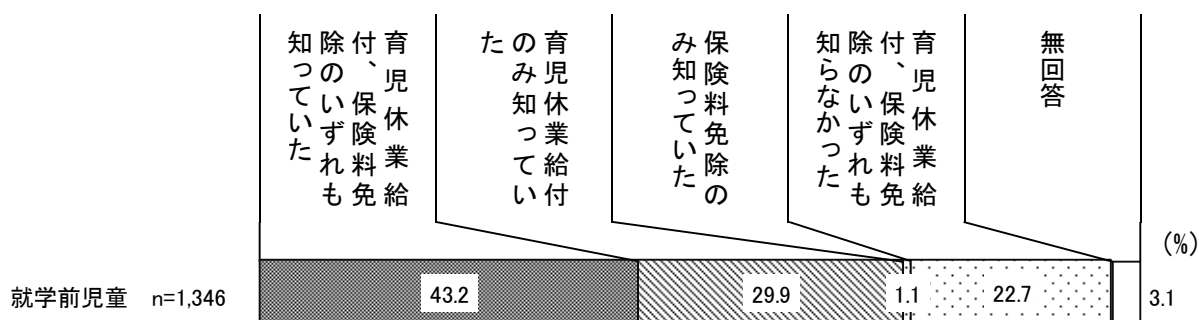
小学生の利用開始希望時刻も「8時」が54.7%で特に高く、これに「9時」が28.2%が続いている。終了希望時刻は、「17時」が31.0%で最も高く、これに「18時」が19.6%が続いている。

11. 育児休業や短時間勤務制度など職場の両立支援制度

(1) 育児休業給付や健康保険、厚生年金保険免除についての認知度

〔就学前児童：問30〕

子どもが原則1歳になるまで育児休業給付が支給される仕組み、子どもが満3歳になるまでの育児休業等期間について健康保険及び厚生年金保険の保険料が免除になる仕組みがありますが、そのことをご存じでしたか。(○は1つ)



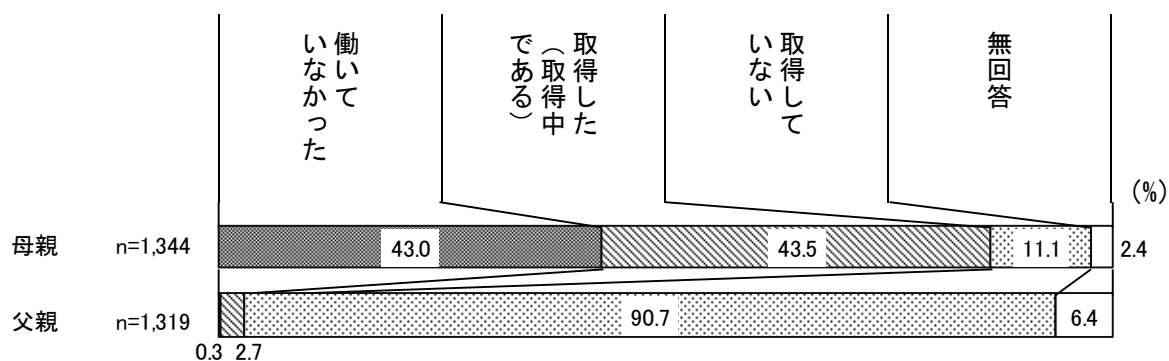
育児休業給付や健康保険、厚生年金保険免除の仕組みの認知は、「育児休業給付、保険料免除のいずれも知っていた」が43.2%、「育児休業給付のみ知っていた」が29.9%、「保険料免除のみ知っていた」が1.1%、「育児休業給付、保険料免除のいずれも知らなかった」が22.7%となっている。

(2) 父母の育児休業取得の有無と取得しなかった理由

〔就学前児童：問31〕

対象のお子さんが生まれた時、父母のいずれかもしくは双方が育児休業を取得しましたか。

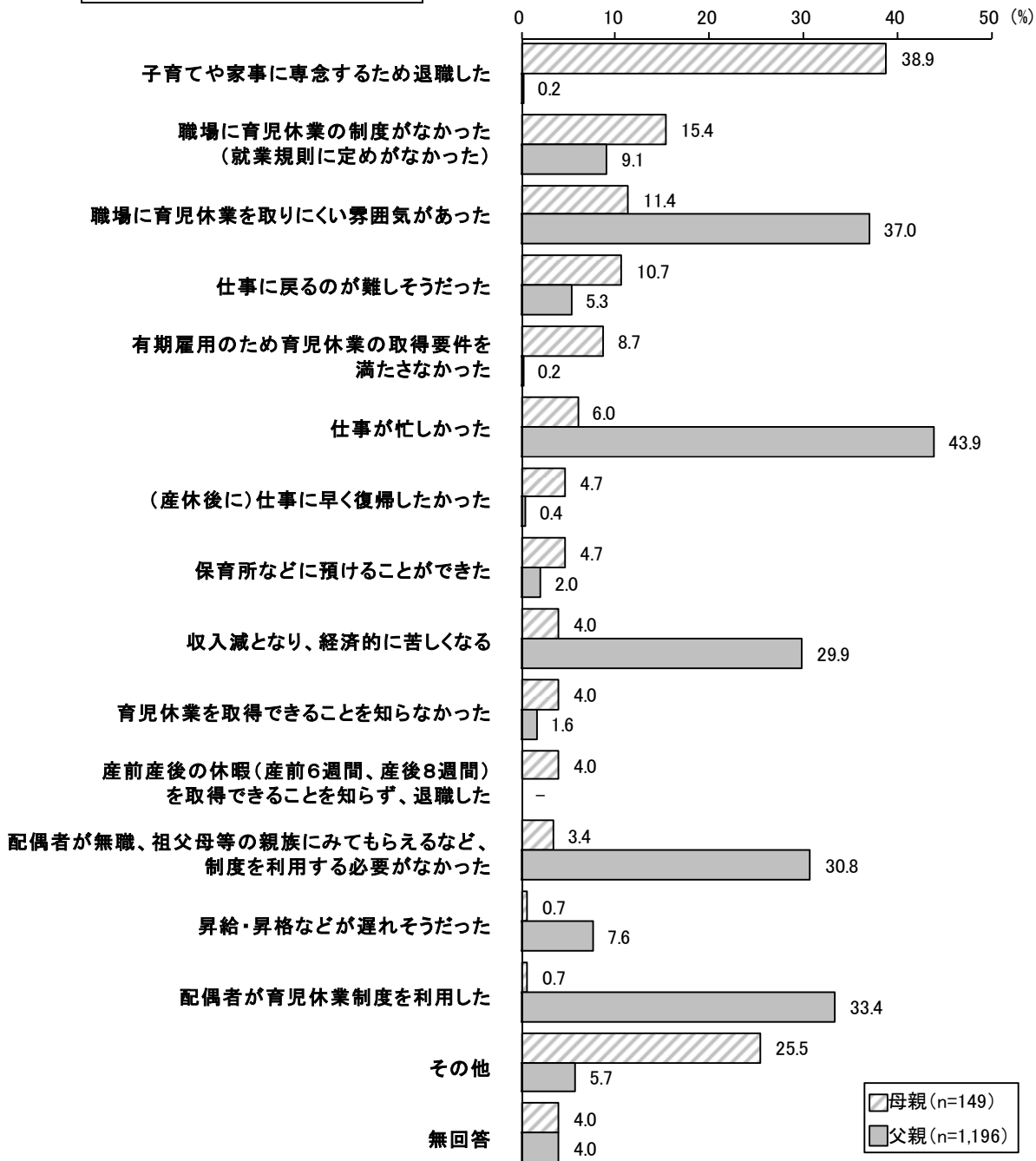
①母親(○は1つ)／②父親(○は1つ)



子どもが生まれた時の母親の育児休業取得状況は、「働いていなかった」が43.0%、「取得した(取得中である)」が43.5%、「取得していない」が11.1%となっている。

子どもが生まれた時の父親の育児休業取得状況は、「働いていなかった」が0.3%、「取得した(取得中である)」が2.7%、「取得していない」が90.7%となっている。

育児休業を取得していない理由



子どもが生まれた時、母親が育児休業を取得しなかった理由は、「子育てや家事に専念するため退職した」が38.9%で最も高く、これに「職場に育児休業の制度がなかった(就業規則に定めがなかった)」が15.4%、「職場に育児休業を取りにくい雰囲気があった」が11.4%、「仕事に戻るのが難しそうだった」が10.7%で続いている。

父親が育児休業を取得しなかった理由は、「仕事が忙しかった」が43.9%で最も高く、これに「職場に育児休業を取りにくい雰囲気があった」が37.0%、「配偶者が育児休業制度を利用した」が33.4%、「配偶者が無職、祖父母等の親族にみてもらえるなど、制度を利用する必要がなかった」が30.8%、「収入減となり、経済的に苦しくなる」が29.9%で続いている。

また、「その他」の母親(33.4%)、父親(25.5%)の内容はいずれも「自営業・自由業のため」、「(母親の方が)就労していなかった」などが多くなっている。

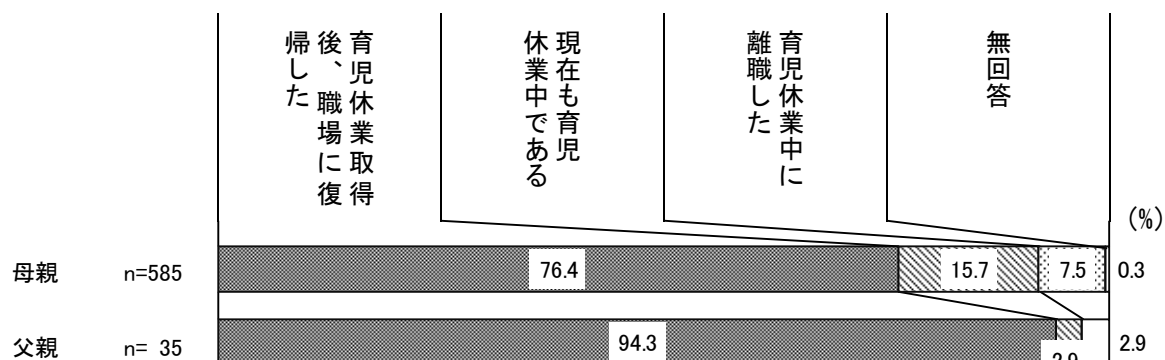
(3) 育児休業取得後の職場復帰

問31で「取得した(取得中である)」に回答した方

〔就学前児童：問31-1〕

育児休業取得後、職場に復帰しましたか。

①母親(○は1つ)／②父親(○は1つ)



母親の育児休業取得後の状況は、「育児休業取得後、職場に復帰した」が76.4%、「現在も育児休業中である」が15.7%、「育児休業中に離職した」が7.5%となっている。

父親は、「育児休業取得後、職場に復帰した」が94.3%、「現在も育児休業中である」が2.9%となっている。

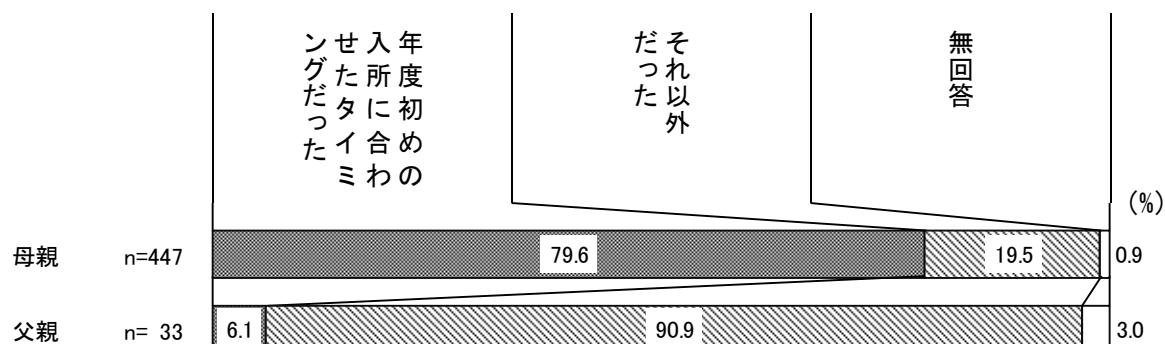
(4) 復帰のタイミング

問31で「育児休業取得後、職場に復帰した」に回答した方

〔就学前児童：問31-2〕

育児休業から職場復帰したのは、年度初めの保育所入所に合わせたタイミングでしたか。あるいはそれ以外でしたか。

①母親(○は1つ)／②父親(○は1つ)



「育児休業取得後、職場に復帰した」と回答した母親の職場復帰のタイミングをみると、「年度初めの入所に合わせたタイミングだった」が79.6%、「それ以外だった」が19.5%となっている。

父親は、「年度初めの入所に合わせたタイミングだった」が6.1%、「それ以外だった」が90.9%となっている。

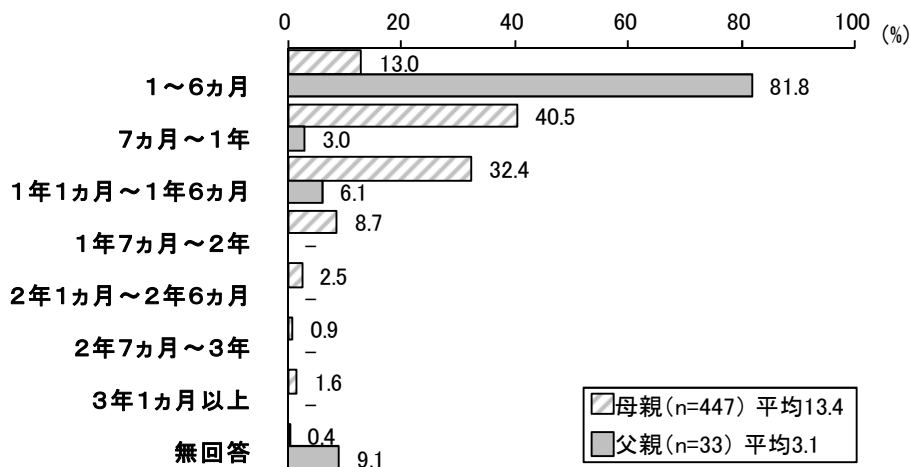
(5) 実際の取得期間と希望

問 31-1 で「育児休業取得後、職場に復帰した」に回答した方

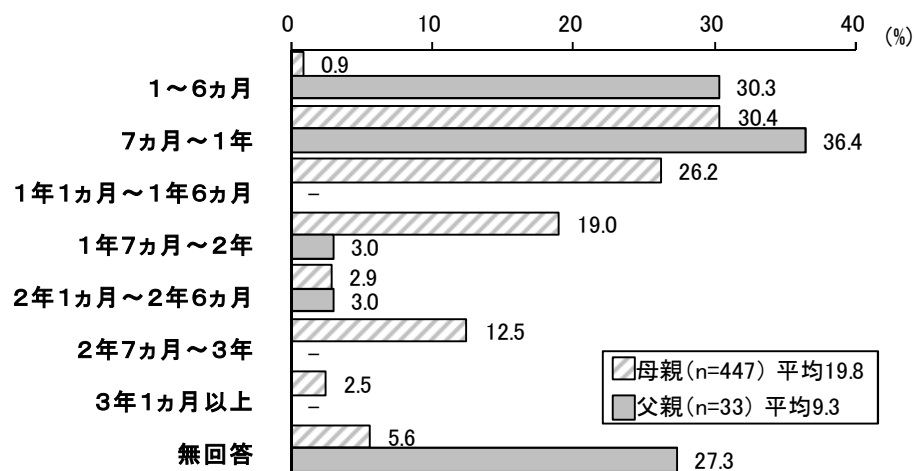
〔就学前児童：問 31-3〕

育児休業からは、「実際」にお子さんが何歳何か月のときに職場復帰しましたか。また、お勤め先の育児休業の制度の期間内で、何歳何か月のときまで取りたかったですか。

<実際>



<希望>



「育児休業取得後、職場に復帰した」と回答した母親の実際の育児休業取得期間(子どもの年齢)は、「7ヵ月～1年」が40.5%、「1年1ヵ月～1年6ヵ月」が32.4%と高く、平均13.4ヵ月となっている。これに対し、希望していた育児休業取得期間は、「7ヵ月～1年」が30.4%、「1年1ヵ月～1年6ヵ月」が26.2%、「1年7ヵ月～2年」が19.0%と高く、平均19.8ヵ月となっている。

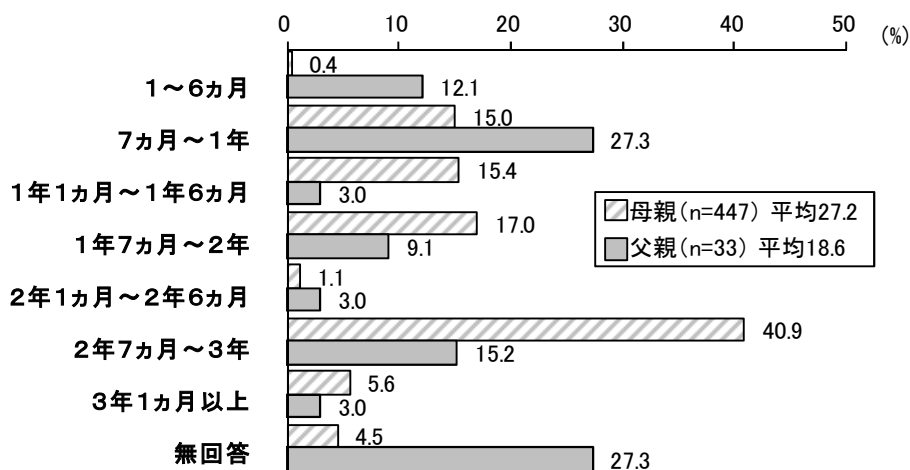
「育児休業取得後、職場に復帰した」と回答した父親の実際の育児休業取得期間(子どもの年齢)は、「1～6ヵ月」が81.8%を占め、平均3.1ヵ月となっている。これに対し、希望していた育児休業取得期間は、「1～6ヵ月」が30.3%、「7ヵ月～1年」が36.4%で、平均9.3ヵ月となっている。

(6) 3歳まで取得できる休暇制度があった場合の取得希望

問31-1で「育児休業取得後、職場に復帰した」に回答した方

〔就学前児童：問31-4〕

お勤め先に、育児のために3歳まで休暇を取得できる制度があった場合、「希望」としてはお子さんが何歳何か月のときまで取りたかったですか。



勤め先に、育児のために3歳まで休暇を取得できる制度があった場合の母親(育児休業取得後、職場復帰した人)の取得希望期間は、「2年7ヵ月～3年」が40.9%と特に高く、平均27.2ヵ月となっている。

父親(育児休業取得後、職場復帰した人)の取得希望期間は、「7ヵ月～1年」が27.3%、「2年7ヵ月～3年」が15.2%と高く、平均18.6ヵ月となっている。

(7) 希望の時期に職場復帰しなかった理由

問 31-3 で実際の復帰と希望が異なる方

〔就学前児童：問 31-5〕

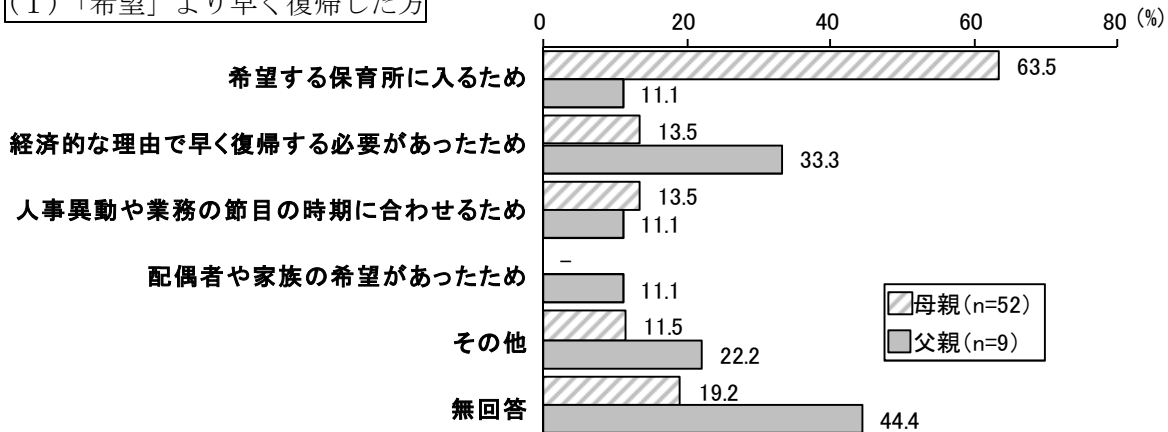
希望の時期に職場復帰しなかった理由についておたずねします。

(1)「希望」よりも早く復帰した方／(2)「希望」よりも遅く復帰した方

①母親(○はあてはまるものすべて)【複数回答】

②父親(○はあてはまるものすべて)【複数回答】

(1)「希望」より早く復帰した方

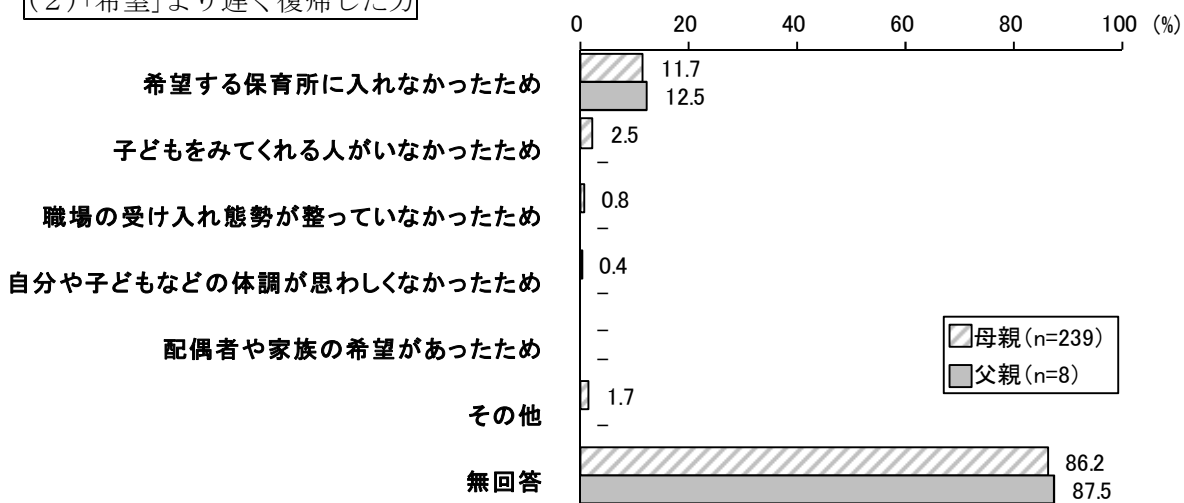


育児休業取得後、希望よりも早く職場復帰した母親の理由は、「希望する保育所に入るため」が63.5%と特に高くなっている。

父親の理由は、9人のうち3人が「経済的な理由で早く復帰する必要があったため」と回答している。また、「その他」(22.2%)の内容は、「長期の取得ができなかった」、「業務の都合」が多くなっている。

※参考：母親の「その他」(19.2%)の内容は、「取得限度の日数が会社で決められていたため」、「保育園の入園条件から外れないようにするため」が多くなっている。

(2)「希望」より遅く復帰した方



希望よりも遅く職場復帰した母親の理由は、「希望する保育所に入れなかったため」が11.7%で最も高い。

父親の理由では、1人が「希望する保育所に入れなかったため」と回答している。

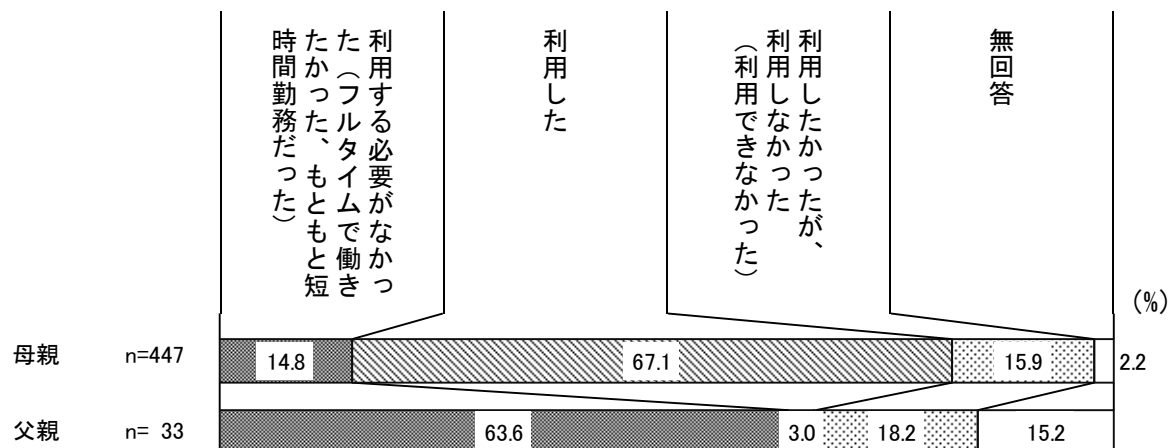
(8) 短時間勤務制度利用の有無

問 31-1 で「育児休業取得後、職場に復帰した」に回答した方

〔就学前児童：問 31-6〕

育児休業からの職場復帰時には、短時間勤務制度を利用しましたか。

①母親(○は1つ)／②父親(○は1つ)



「育児休業取得後、職場に復帰した」母親の短時間勤務制度の利用状況は、「利用する必要がなかった」が14.8%、「利用した」が67.1%、「利用したかったが、利用しなかった(利用できなかった)」が15.9%となっている。

父親は、「利用する必要がなかった」が63.6%、「利用した」が3.0%、「利用したかったが、利用しなかった(利用できなかった)」が18.2%となっている。

(9) 短時間勤務制度を利用しなかった理由

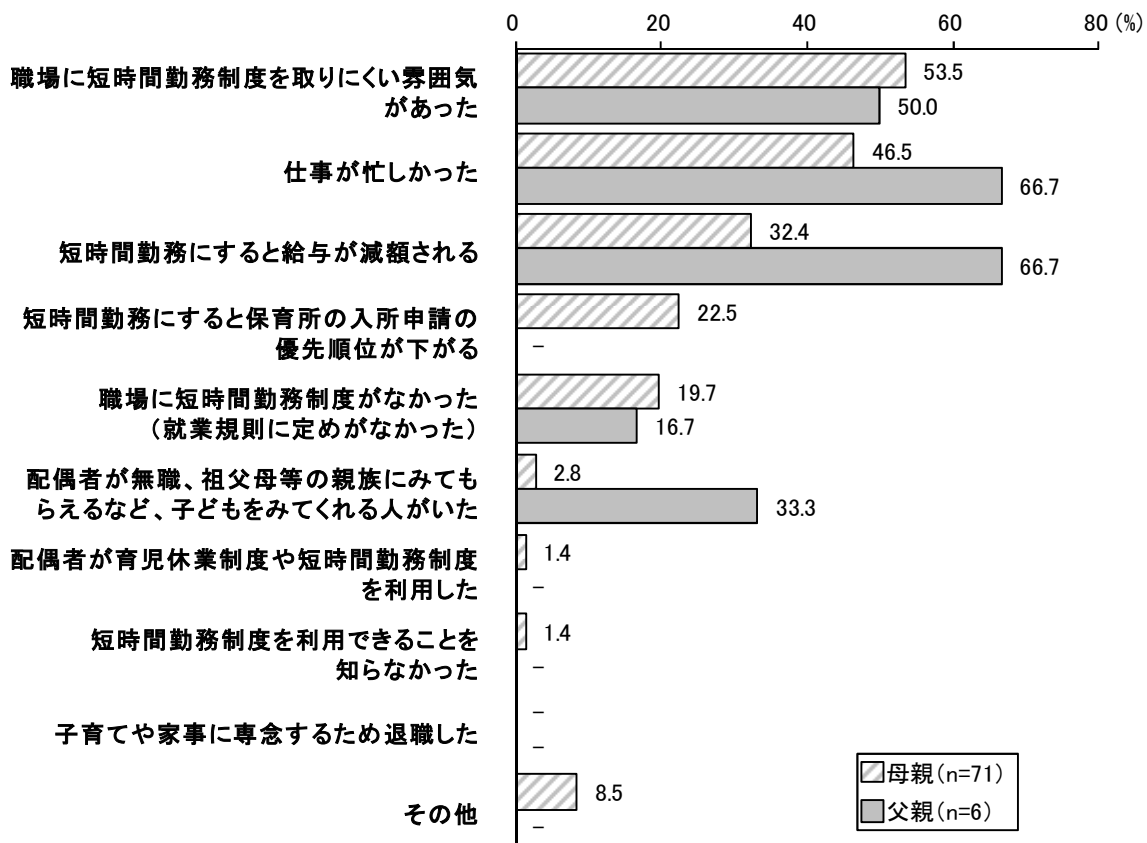
問31-6で「利用したかったが、利用しなかった（利用できなかった）」に回答した方

〔就学前児童：問31-7〕

短時間勤務制度を利用しなかった（利用できなかった）理由は何ですか。

(1) 母親(○はあてはまるものすべて)【複数回答】

(2) 父親(○はあてはまるものすべて)【複数回答】



職場復帰後、短時間勤務制度を「利用したかったが、利用しなかった(利用できなかった)」母親の理由は、「職場に短時間勤務制度を取りにくい雰囲気があった」が53.5%で最も高く、これに「仕事が忙しかった」が46.5%、「短時間勤務にすると給与が減額される」が32.4%、「短時間勤務にすると保育所の入所申請の優先順位が下がる」が22.5%で続いている。

父親の理由は、6人のうち、4人が「仕事が忙しかった」「短時間勤務にすると給与が減額される」と回答し、3人が「職場に短時間勤務制度を取りにくい雰囲気があった」と回答している。

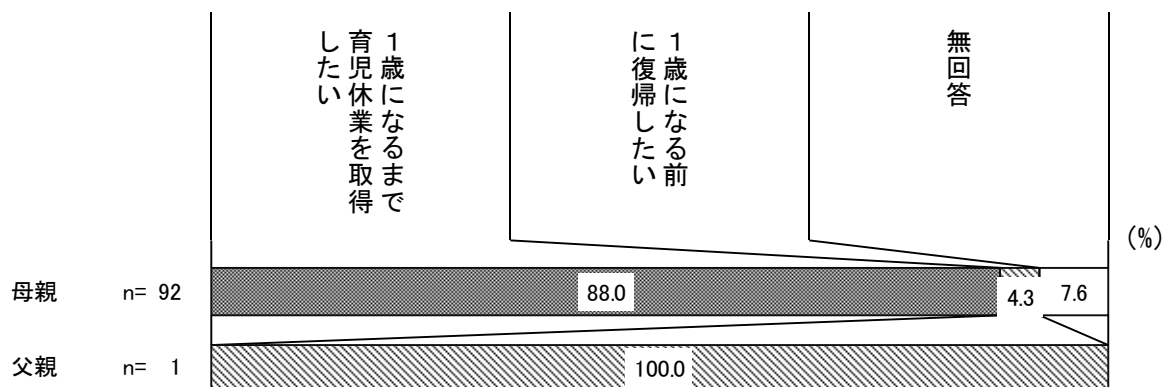
(10) 1歳時に必ず利用できる事業がある場合の育児休業取得希望

問31-1で「現在も育児休業中である」に回答した方

〔就学前児童：問31-8〕

対象のお子さんが1歳になったときに必ず利用できる事業があれば、1歳になるまで育児休業を取得しますか。または、預けられる事業があっても1歳になる前に復帰しますか。

①母親(○は1つ)／②父親(○は1つ)



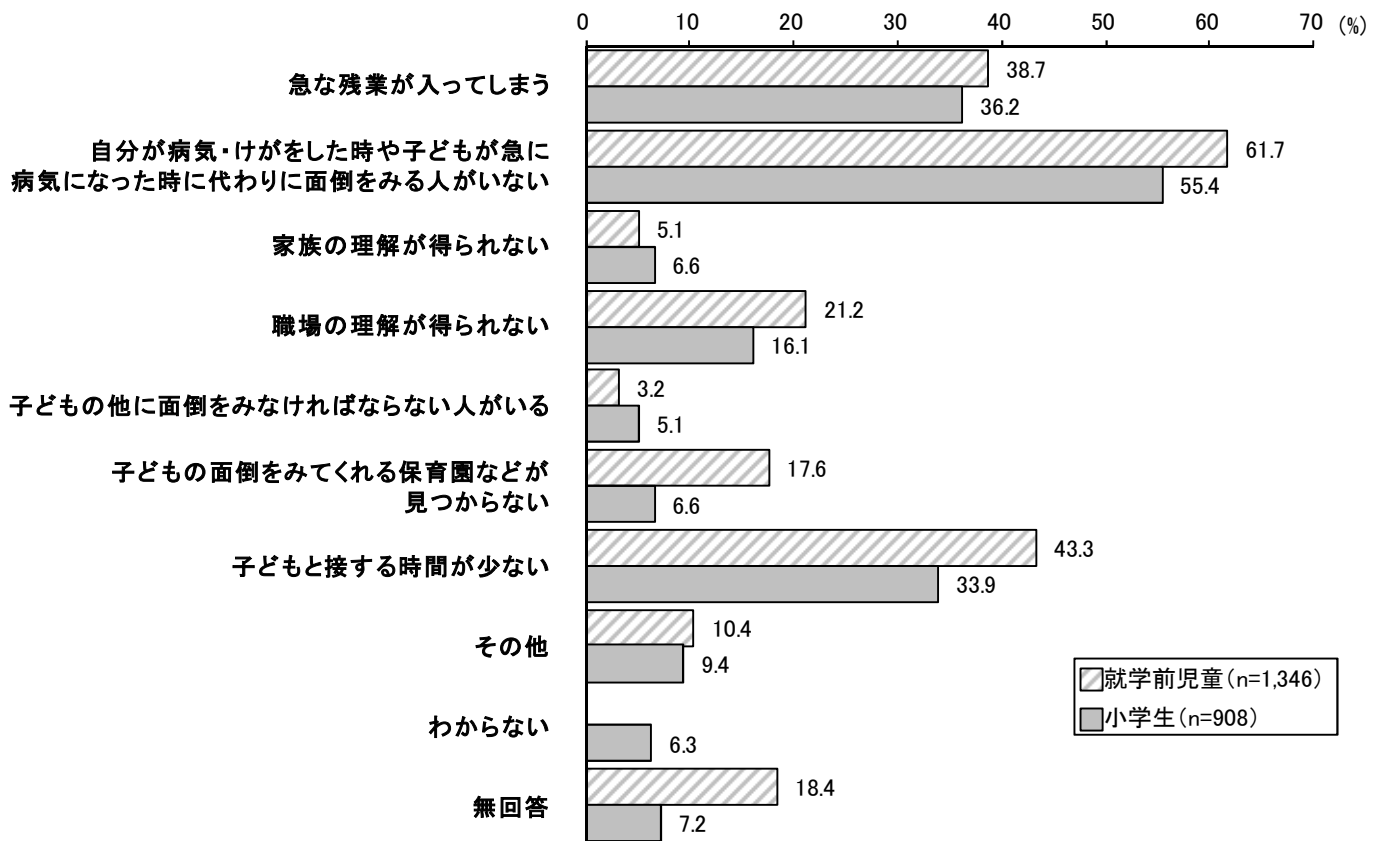
1歳になったときに必ず利用できる事業があるとした場合の母親(現在も育児休業中の人)の希望は、「1歳になるまで育児休業を所得したい」が88.0%、「1歳になる前に復帰したい」が4.3%となっている。

(11) 仕事と子育てを両立させる上で大変だと感じること

〔就学前児童：問32、小学生：問35〕

仕事と子育てを両立させる上で大変だと感じることは何ですか。

(○はあてはまるものすべて)【複数回答】



※「わからない」は小学生のみの選択肢のため、就学前児童では回答がない

仕事と子育てを両立させる上で大変だと感じることは、就学前児童の場合、「自分が病気・けがをした時や子どもが急に病気になった時に代わりに面倒をみる人がいない」が61.7%と特に高く、これに「子どもと接する時間が少ない」が43.3%、「急な残業が入ってしまう」が38.7%、「職場の理解が得られない」が21.2%で続いている。

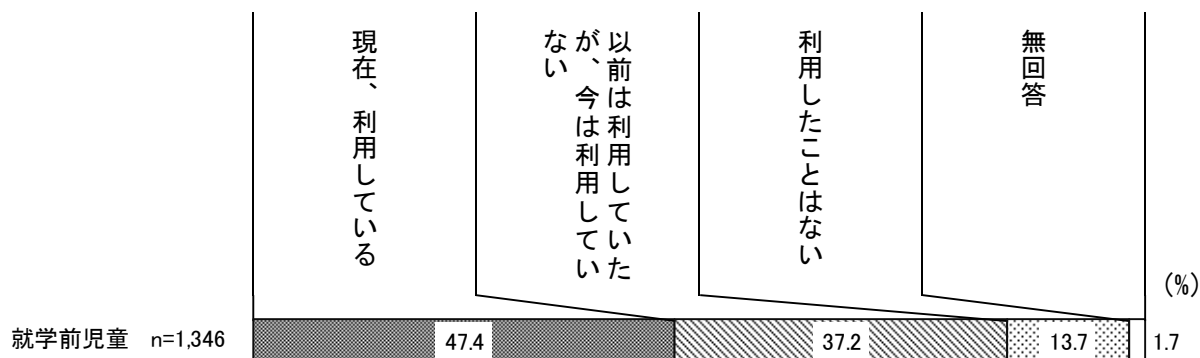
小学生の場合、「自分が病気・けがをした時や子どもが急に病気になった時に代わりに面倒をみる人がいない」が55.4%と特に高く、これに「急な残業が入ってしまう」が36.2%、「子どもと接する時間が少ない」が33.9%で続いている。

12. 児童館の利用状況と利用意向

(1) 就学前児童の児童館の利用状況

〔就学前児童：問33〕

朝霞市には5つの児童館があります。市内の児童館を利用したことがありますか。
(○は1つ)

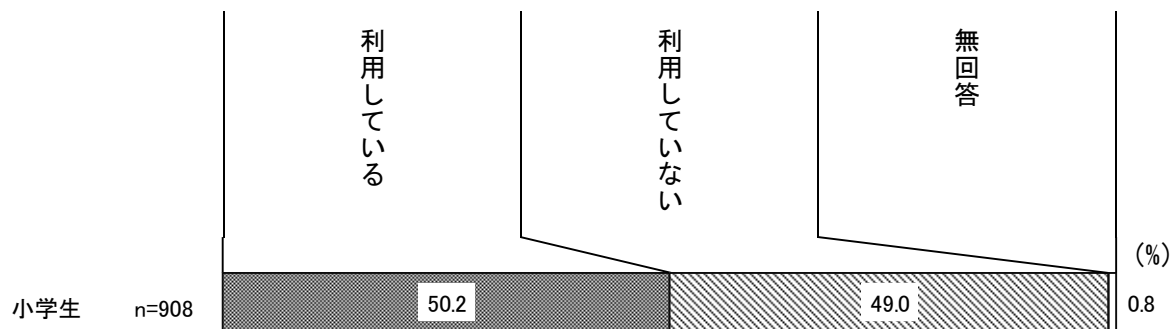


就学前児童の児童館の利用状況は、「現在、利用している」が47.4%、「以前は利用していたが、今は利用していない」が37.2%、「利用したことはない」が13.7%となっている。

(2) 小学生の児童館の利用状況

〔小学生：問21〕

対象のお子さんは、ふだん児童館を利用していますか。(○は1つ)



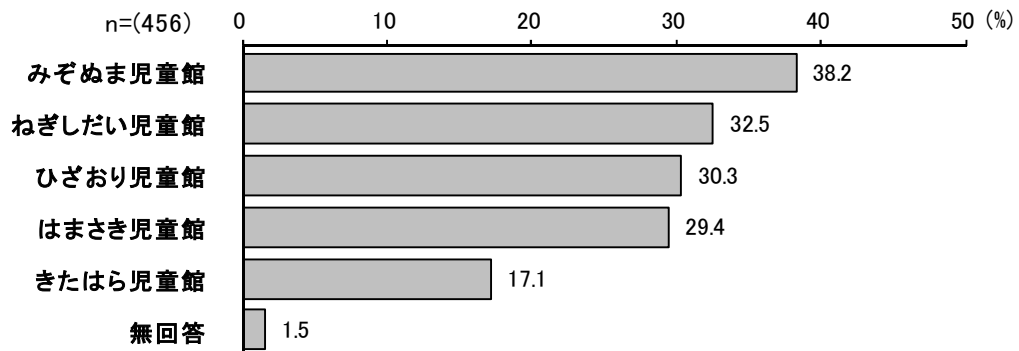
小学生の児童館の利用状況は、「利用している」が50.2%、「利用していない」が49.0%となっている。

(3) 1年間に利用した児童館

問21で「利用している」に回答した方

〔小学生：問21-1〕

この1年以内に利用した児童館はどちらですか。(○はあてはまるものすべて)【複数回答】



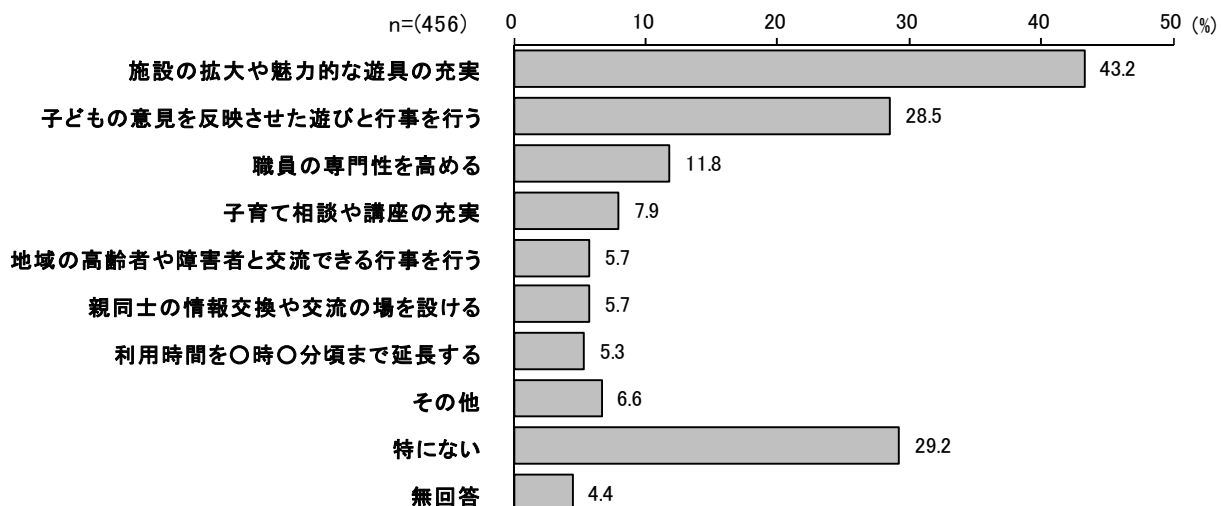
児童館を利用している小学生が、この1年以内に利用した児童館は、「みぞぬま児童館」が38.2%で最も高く、次いで「ねぎしだい児童館」が32.5%、「ひざおり児童館」が30.3%、「はまさき児童館」が29.4%、「きたはら児童館」が17.1%となっている。

(4) 児童館に対する要望

問21で「利用している」に回答した方

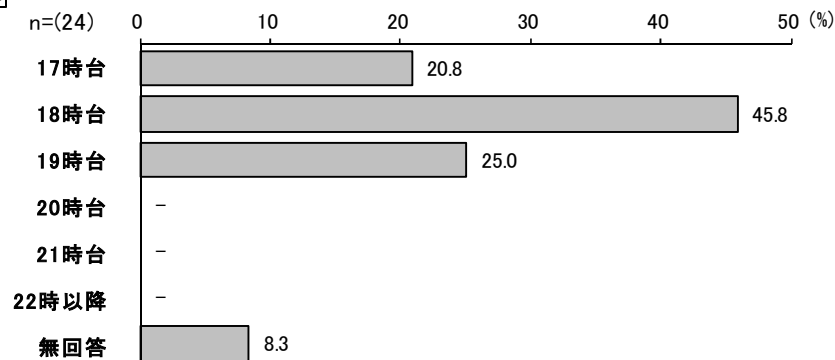
〔小学生：問21-2〕

児童館に対して何か要望はありますか。(○はあてはまるものすべて)【複数回答】



児童館を利用している小学生の児童館に対する要望は、「施設の拡大や魅力的な遊具の充実」が43.2%で最も高く、これに「子どもの意見を反映させた遊びと行事を行う」が28.5%、「職員の専門性を高める」が11.8%で続いている。

利用時間の延長時間



児童館に対する要望で、「利用時間を延長する」と回答した小学生の延長希望時間は、「17 時台」が 20.8%、「18 時台」が 45.8%、「19 時台」が 25.0%となっている。

(5) 児童館を利用していない理由

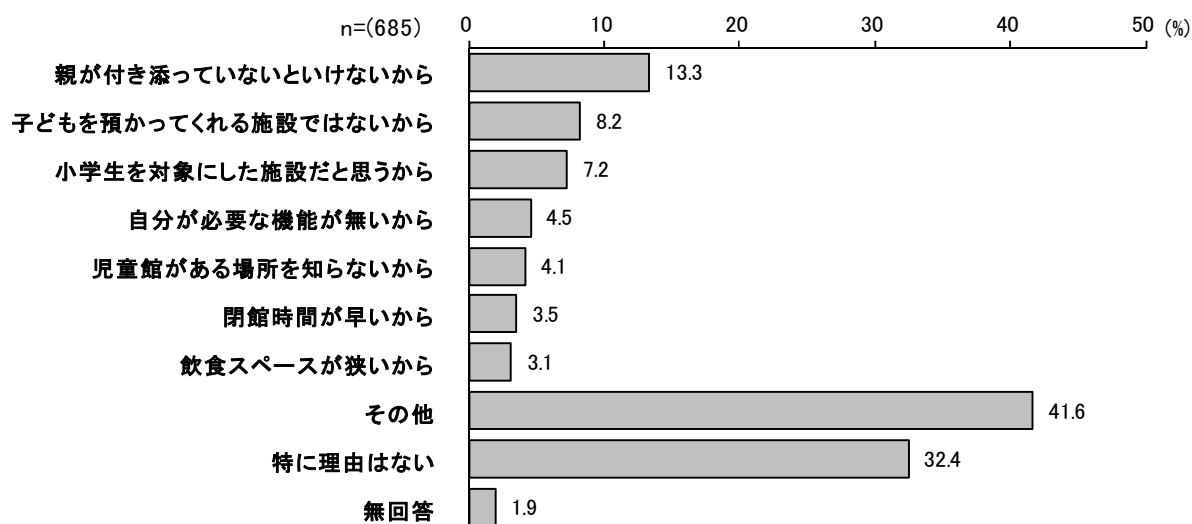
問33（就学前）、問21（小学生）で「以前は利用していたが、今は利用していない」または「利用したことはない」に回答した方

〔就学前児童：問33-1、小学生：問21-3〕

（就学前）児童館を利用していないのはなぜですか。（○はあてはまるものすべて）【複数回答】

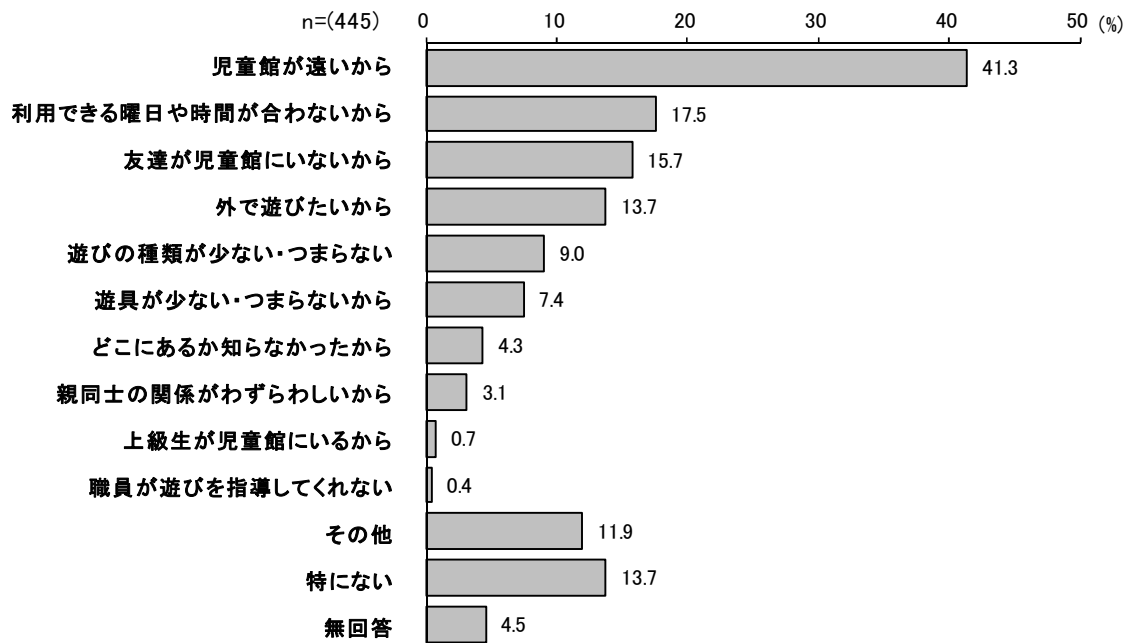
（小学生）児童館を利用していない理由は何ですか。（○はあてはまるものすべて）【複数回答】

【就学前児童】



就学前児童が「以前は利用していたが、今は利用していない」「利用したことはない」と回答した理由は、「親が付き添っていないといけないから」が13.3%で最も高く、これに「子どもを預かってくれる施設ではないから」が8.2%、「小学生を対象にした施設だと思うから」が7.2%で続いている。また、「その他」（41.6%）の内容は、「遠い・近くにないから」、「平日は行けない／時間がない」、「感染症のリスク回避、衛生面の不安」、「復職したため」、「保育園・幼稚園に行っているため」などが多くなっている。

【小学生】

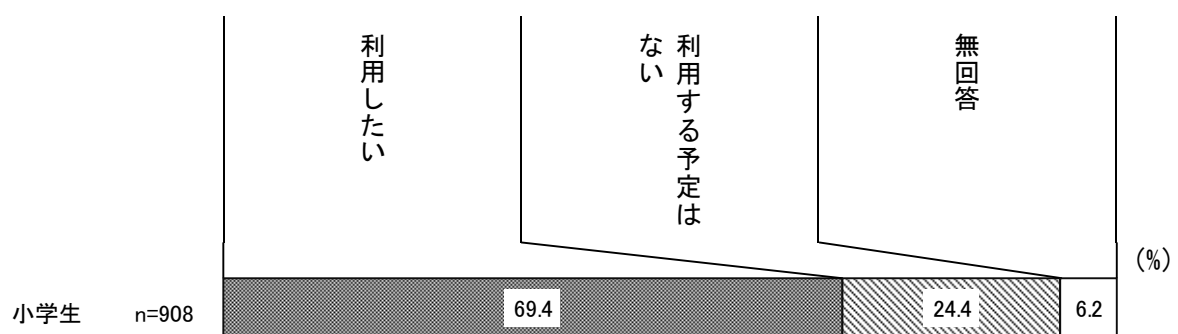


小学生が「利用してない」と回答した理由は、「児童館が遠いから」が41.3%と特に高く、以下、「利用できる曜日や時間が合わないから」(17.5%)、「友達が児童館にいないから」(15.7%)、「外で遊びたいから」(13.7%)の順となっている。

(6) 児童館の利用意向

【小学生：問22】

児童館を今後利用したいと思いますか。(○は1つ)

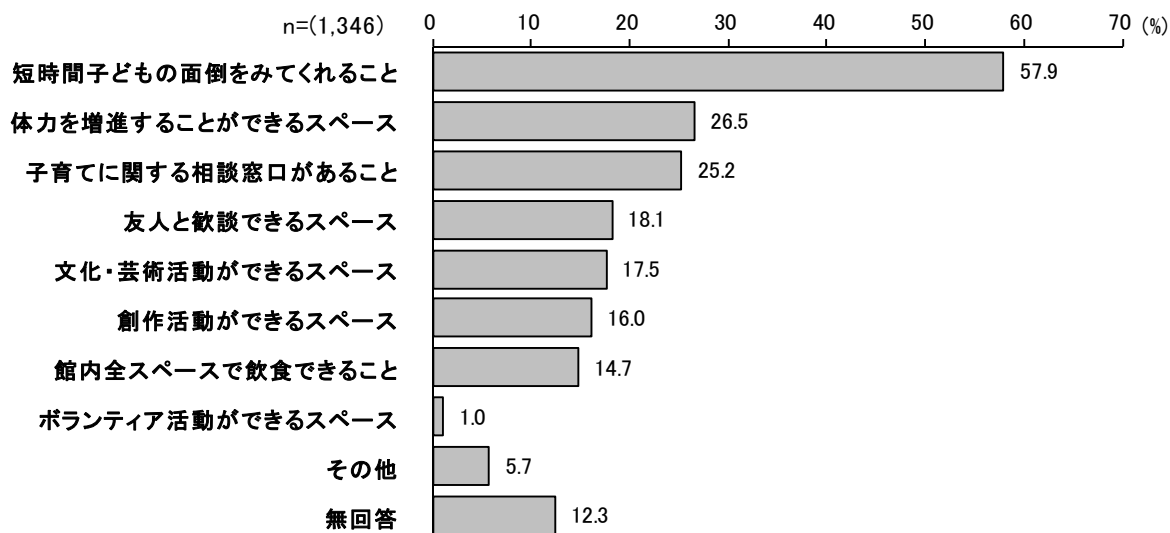


小学生の児童館利用意向は、「利用したい」が69.4%で、「利用する予定はない」(24.4%)を大きく上回っている。

(7) 児童館に希望するスペースや機能

〔就学前児童：問34〕

児童館にどのようなスペースや機能があれば、利用したいと思いますか。
(○はあてはまるものすべて)【複数回答】



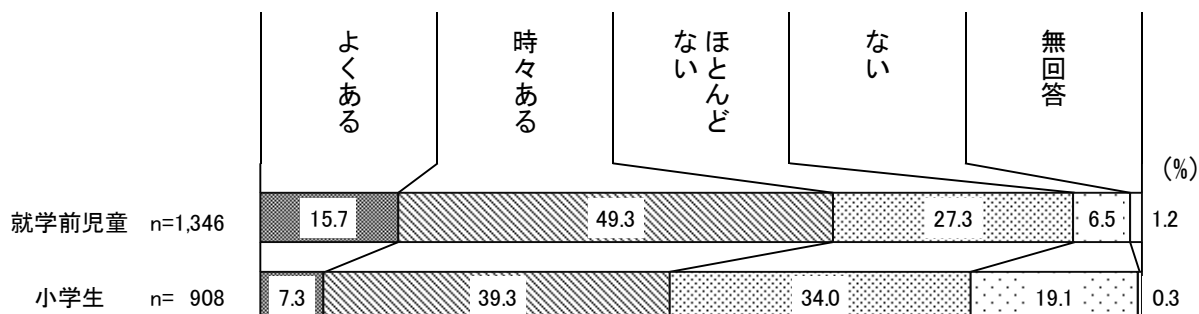
就学前児童が求める児童館の利用促進のためのスペースや機能としては、「短時間子どもの面倒をみてくれること」が57.9%と特に高く、これに「体力を増進することができるスペース」が26.5%、「子育てに関する相談窓口があること」が25.2%、「友人と歓談できるスペース」が18.1%、「文化・芸術活動ができるスペース」が17.5%、「創作活動ができるスペース」が16.0%で続いている。

13. 子育て全般

(1) 子育ての負担感

〔就学前児童：問35、小学生：問25〕

あなたは、お子さんの子育てで負担を感じることがありますか。(○は1つ)



子どもの子育てで負担に感じることがある人は、就学前児童の場合、「よくある」(15.7%)と「時々ある」(49.3%)の合計で65.0%を占めている。これに対し、小学生は、「よくある」(7.3%)と「時々ある」(39.3%)の合計で46.6%となり、就学前児童を下回っている。

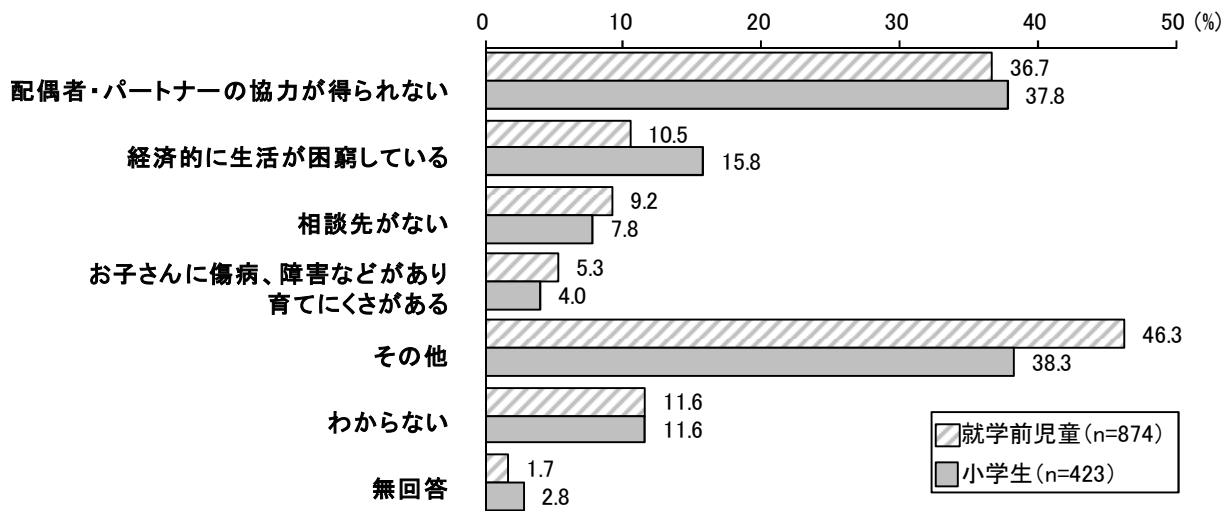
(2) 子育てで負担を感じる理由

問35で「よくある」または「時々ある」に回答した方

〔就学前児童：問35-1、小学生：問25-1〕

子育てで負担を感じるのはどのような理由だと思いますか。

(○はあてはまるものすべて)【複数回答】



子育てで負担を感じる理由は、就学前児童の場合、「配偶者・パートナーの協力が得られない」が36.7%で最も高く、これに「経済的に生活が困窮している」が10.5%、「相談先がない」が9.2%で続いている。また、「その他」(46.3%)の内容は、「自分の健康・体力的な問題」、「忙しく時間が足りない」、「仕事や家事とのバランスを取ることが困難」、「配偶者がいない・仕事で遅い・協力不足」、「イヤイヤ期／言うことを聞かないとき」、「近くに頼れる人がいないこと」などがあげられている。

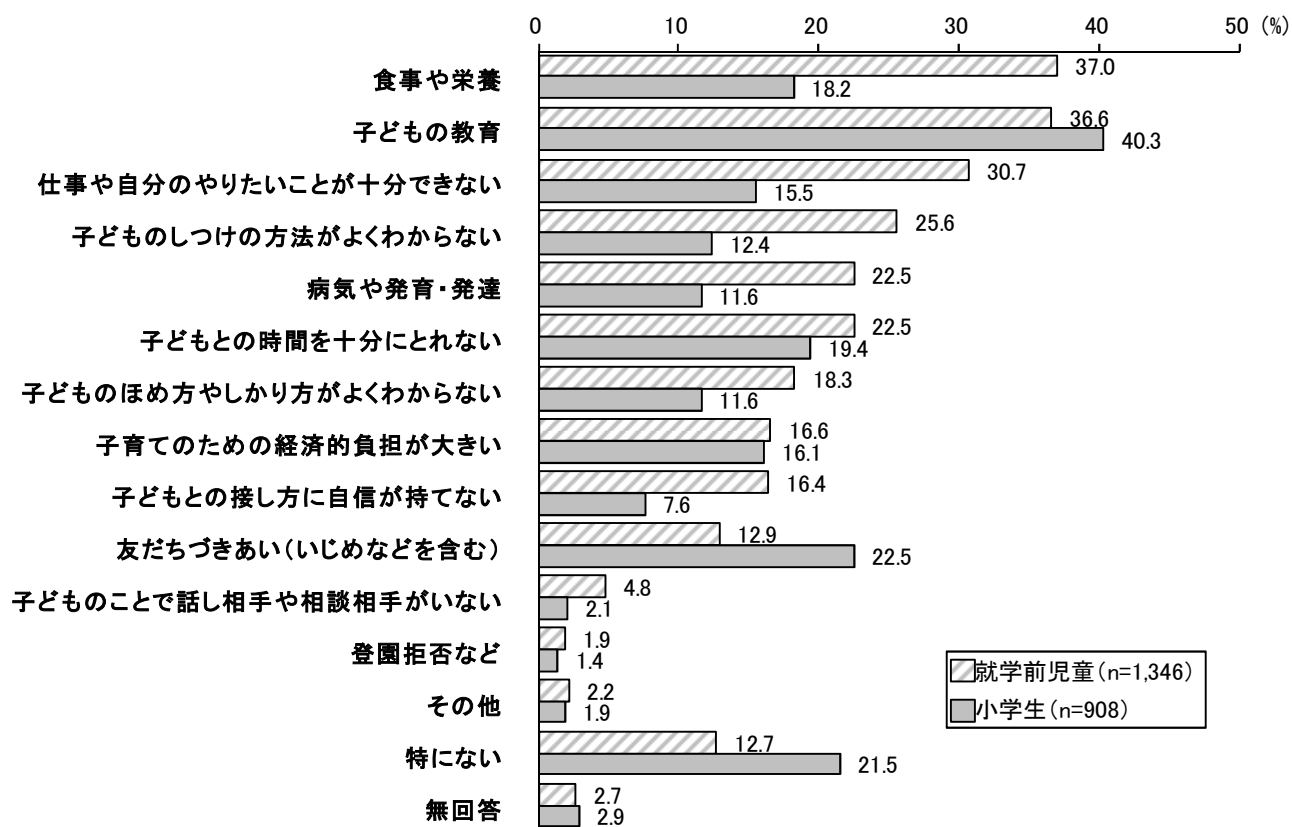
小学生の場合も「配偶者・パートナーの協力が得られない」が37.8%で最も高く、これに「経済的に生活が困窮している」が15.8%、「相談先がない」が7.8%で続いている。また、「その他」(38.3%)の内容は、「子どもの性格／機嫌、反抗期」、「忙しく時間が足りないこと」、「仕事や家事とのバランスを取ることが困難」、「配偶者がいない・仕事で遅い・協力不足」、「自分の健康・体力的な問題」などがあげられている。

(3) 子育てで悩んでいること、気になること

〔就学前児童：問36、小学生：問26〕

子育てに関して悩んでいること、または気になることがありますか。

(○はあてはまるものすべて)【複数回答】



就学前児童が子育てに関して悩んでいることや気になることとしては、「食事や栄養」(37.0%)、「子どもの教育」(36.6%)が4割弱で上位となり、「仕事や自分のやりたいことが十分できない」(30.7%)、「子どものしつけの方法がよくわからない」(25.6%)が3割前後、「病気や発育・発達」「子どもとの時間が十分にとれない」(各22.5%)が2割強で続いている。

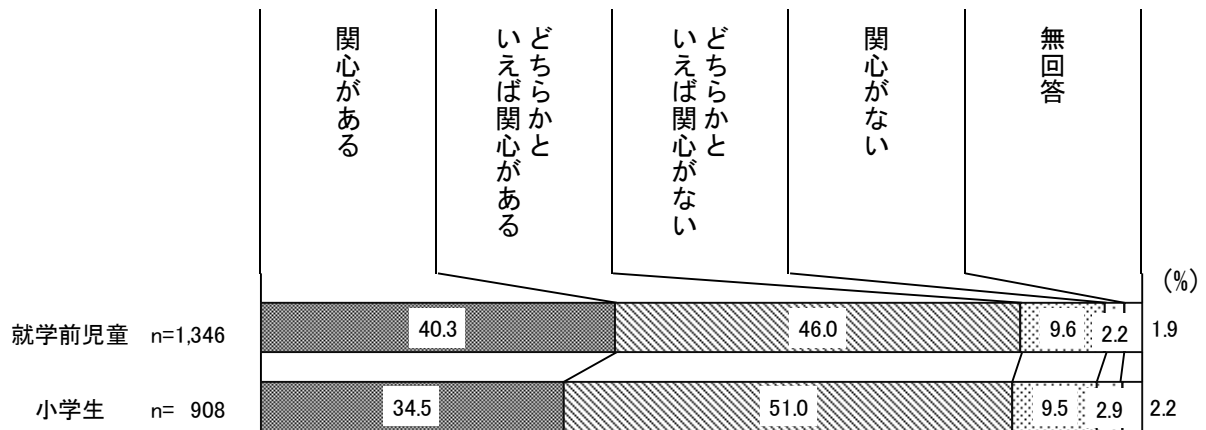
小学生が子育てに関して悩んでいることや気になることとしては、「子どもの教育」(40.3%)が4割強と特に高く、以下、「友だちづきあい(いじめなどを含む)」(22.5%)、「子どもとの時間を十分にとれない」(19.4%)が2割前後で続いている。

(4) 児童虐待の関心度

〔就学前児童：問37、小学生：問27〕

あなたは、児童虐待について、どの程度関心がありますか。

(○はあてはまるものすべて)【複数回答】



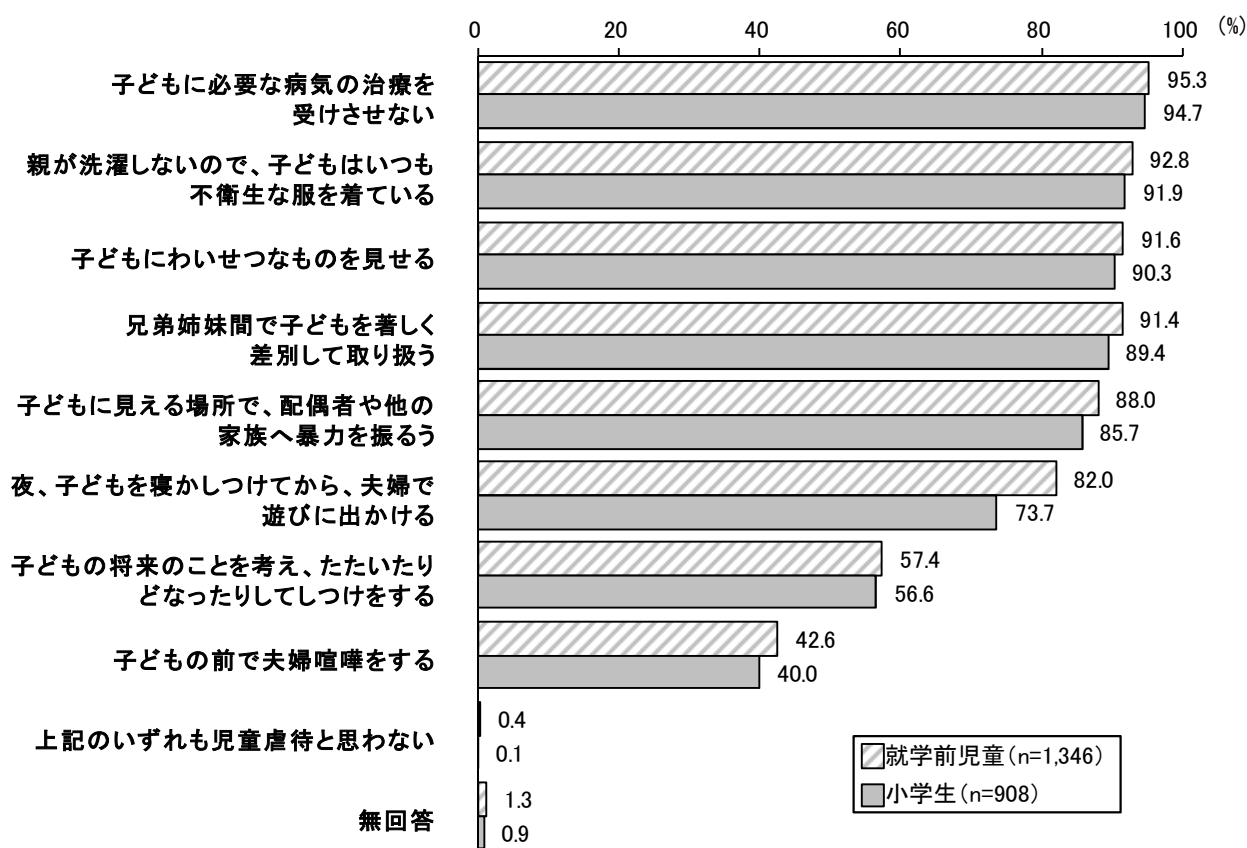
児童虐待に対する関心度は、就学前児童の場合、「関心がある」(40.3%)と「どちらかといえば関心がある」(46.0%)の合計が86.3%にのぼっている。小学生の関心度も「関心がある」(34.5%)と「どちらかといえば関心がある」(51.0%)の合計が85.5%と高くなっている。

(5) 児童虐待と感ずる状況

〔就学前児童：問38、小学生：問28〕

あなたが児童虐待と感ずるものはどのようなことですか。

(○はあてはまるものすべて)【複数回答】



児童虐待と感ずることは、就学前児童の場合、「子どもに必要な病気の治療を受けさせない」(95.3%)、「親が洗濯しないので、子どもはいつも不衛生な服を着ている」(92.8%)、「子どもにわいせつなものを見せる」(91.6%)、「兄弟姉妹間で子どもを著しく差別して取り扱う」(91.4%)の4項目が9割を超え、これに「子どもに見える場所で、配偶者や他の家族へ暴力を振るう」(88.0%)、「夜、子どもを寝かしつけてから、夫婦で遊びに出かける」(82.0%)が8割台で続いている。

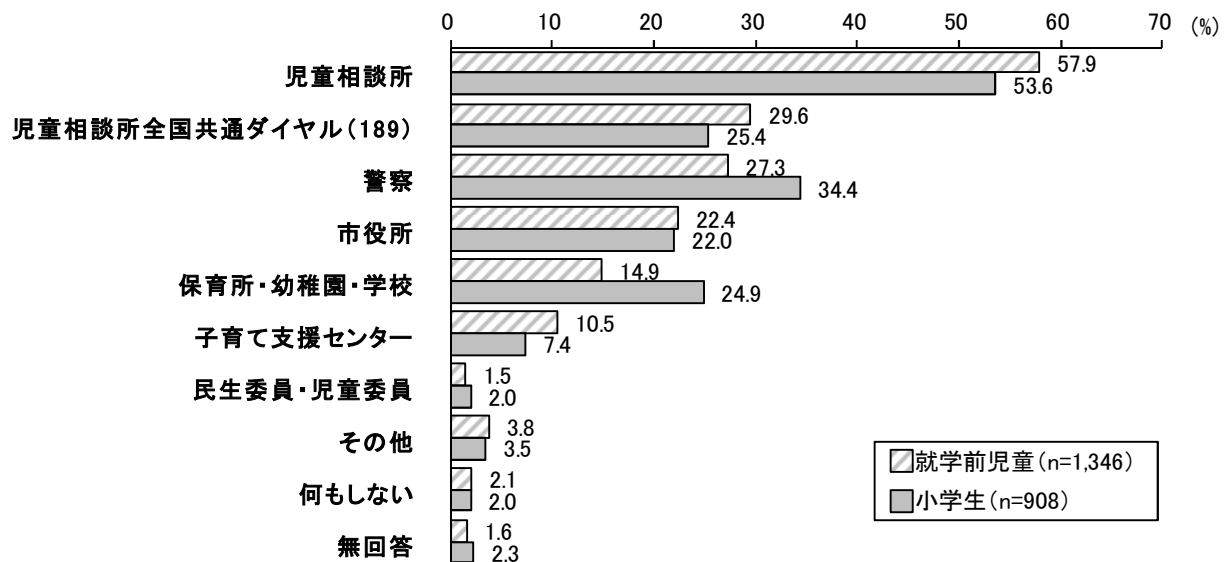
小学生の場合も「子どもに必要な病気の治療を受けさせない」(94.7%)、「親が洗濯しないので、子どもはいつも不衛生な服を着ている」(91.9%)、「子どもにわいせつなものを見せる」(90.3%)、「兄弟姉妹間で子どもを著しく差別して取り扱う」(89.4%)、「子どもに見える場所で、配偶者や他の家族へ暴力を振るう」(85.7%)の5項目が9割前後にのぼり、これに、「夜、子どもを寝かしつけてから、夫婦で遊びに出かける」(73.7%)が7割強で続いている。

こうした結果から、就学前児童、小学生とも虐待と感ずることは、概ね同傾向の意識となっているといえる。

(6) 児童虐待を相談・通報する場所

〔就学前児童：問39、小学生：問29〕

児童虐待ではないかと思うことがあった時、まず最初にどこに相談・通報しようと思いますか。(〇はあてはまるものすべて)【複数回答】



児童虐待ではないかと思うことがあった時、まず最初に相談・通報しようとする先は、就学前児童の場合、「児童相談所」が57.9%で最も高く、これに「児童相談所全国共通ダイヤル(189)」(29.6%)、「警察」(27.3%)、「市役所」(22.4%)が続いている。

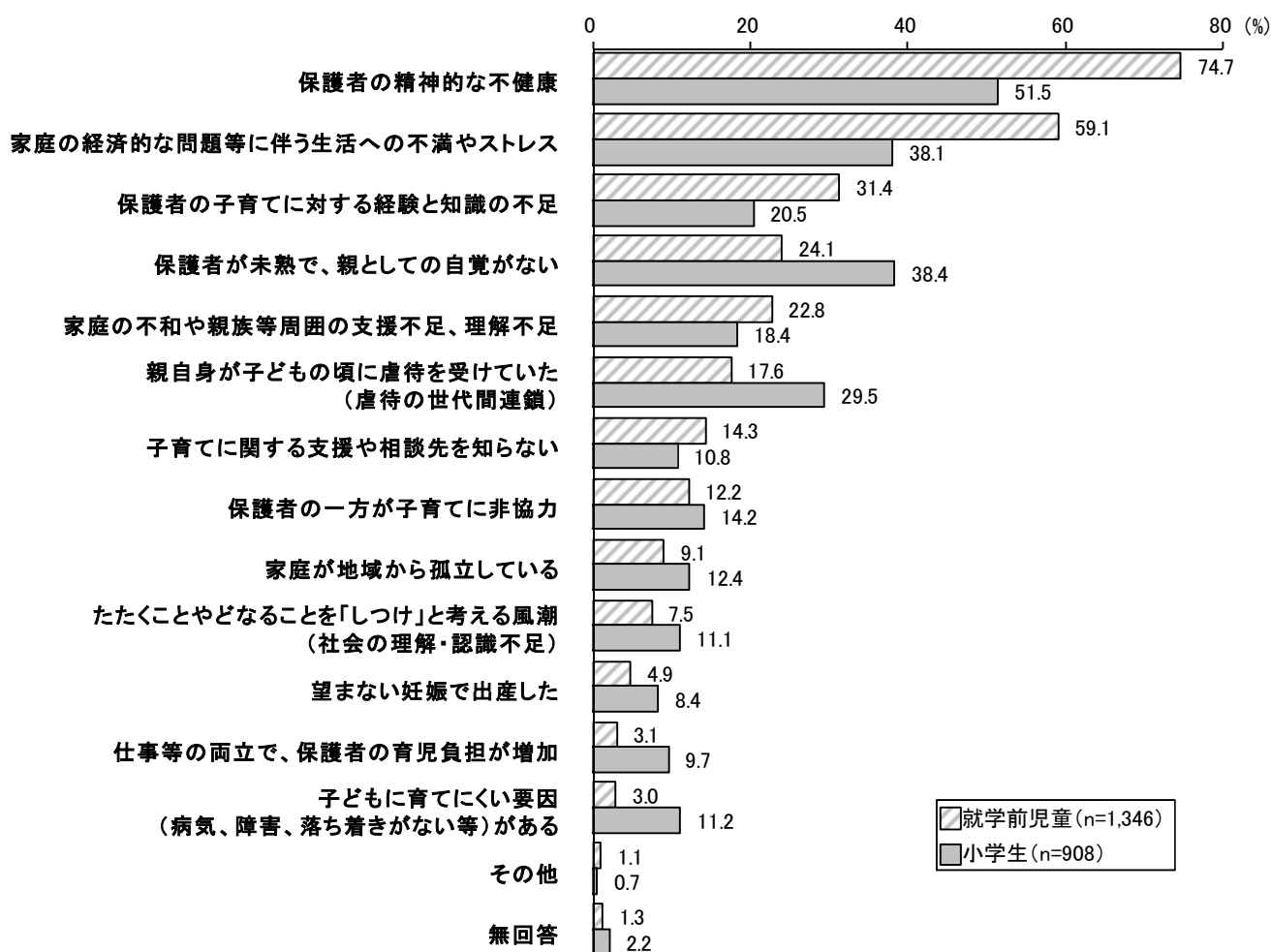
小学生の場合は、「児童相談所」が53.6%で最も高く、これに「警察」(34.4%)、「児童相談所全国共通ダイヤル(189)」(25.4%)、「保育所・幼稚園・学校」(24.9%)、「市役所」(22.0%)が続いている。

両層を比較すると、就学前児童は「児童相談所」「児童相談所全国共通ダイヤル(189)」の割合がやや高く、小学生は「警察」「保育所・幼稚園・学校」の割合が高くなっている。

(7) 児童虐待が起こる理由

〔就学前児童：問40、小学生：問30〕

あなたは、なぜ児童虐待が起こると思いますか。(〇はあてはまるもの3つまで)【複数回答】



児童虐待が起こる要因は、就学前児童の場合、「保護者の精神的な不健康」が74.7%で最も高く、「家庭の経済的な問題等に伴う生活への不満やストレス」が59.1%、「保護者の子育てに対する経験と知識の不足」が31.4%、「保護者が未熟で、親としての自覚がない」が24.1%、「家庭の不和や親族等周囲の支援不足、理解不足」(22.8%)が続いている。

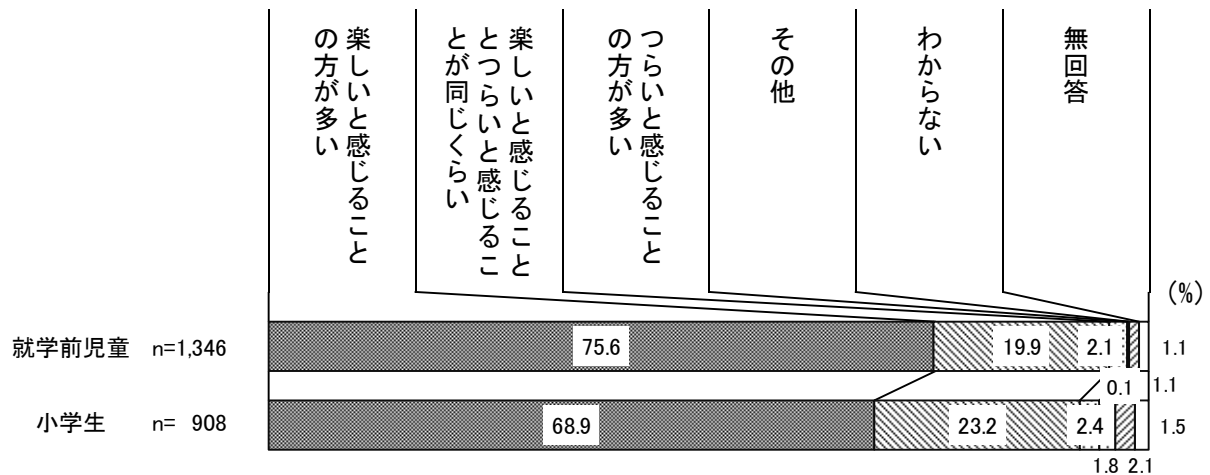
小学生の場合は、「保護者の精神的な不健康」が51.5%で最も高く、「保護者が未熟で、親としての自覚がない」が38.4%、「家庭の経済的な問題等に伴う生活への不満やストレス」が38.1%、「親自身が子どもの頃に虐待を受けていた(虐待の世代間連鎖)」が29.5%、「保護者の子育てに対する経験と知識の不足」が20.5%が続いている。

両層を比較すると、就学前児童は「保護者の精神的な不健康」「家庭の経済的な問題等に伴う生活への不満やストレス」「保護者の子育てに対する経験と知識の不足」の割合が高く、小学生は「保護者が未熟で、親としての自覚がない」「親自身が子どもの頃に虐待を受けていた(虐待の世代間連鎖)」の割合が高くなっている。

(8) 子育てに関して楽しいと感じること

〔就学前児童：問41、小学生：問31〕

あなたは、子育てに関して楽しいと感じることが多いですか、つらいと感じることが多いですか。(○は1つ)



就学前児童では、子育てに関して「楽しいと感じることの方が多し」という人が75.6%にのぼり、「楽しいと感じることとつらいと感じることが同じくらい」(19.9%)、「つらいと感じることの方が多し」(2.1%)を大きく上回っている。

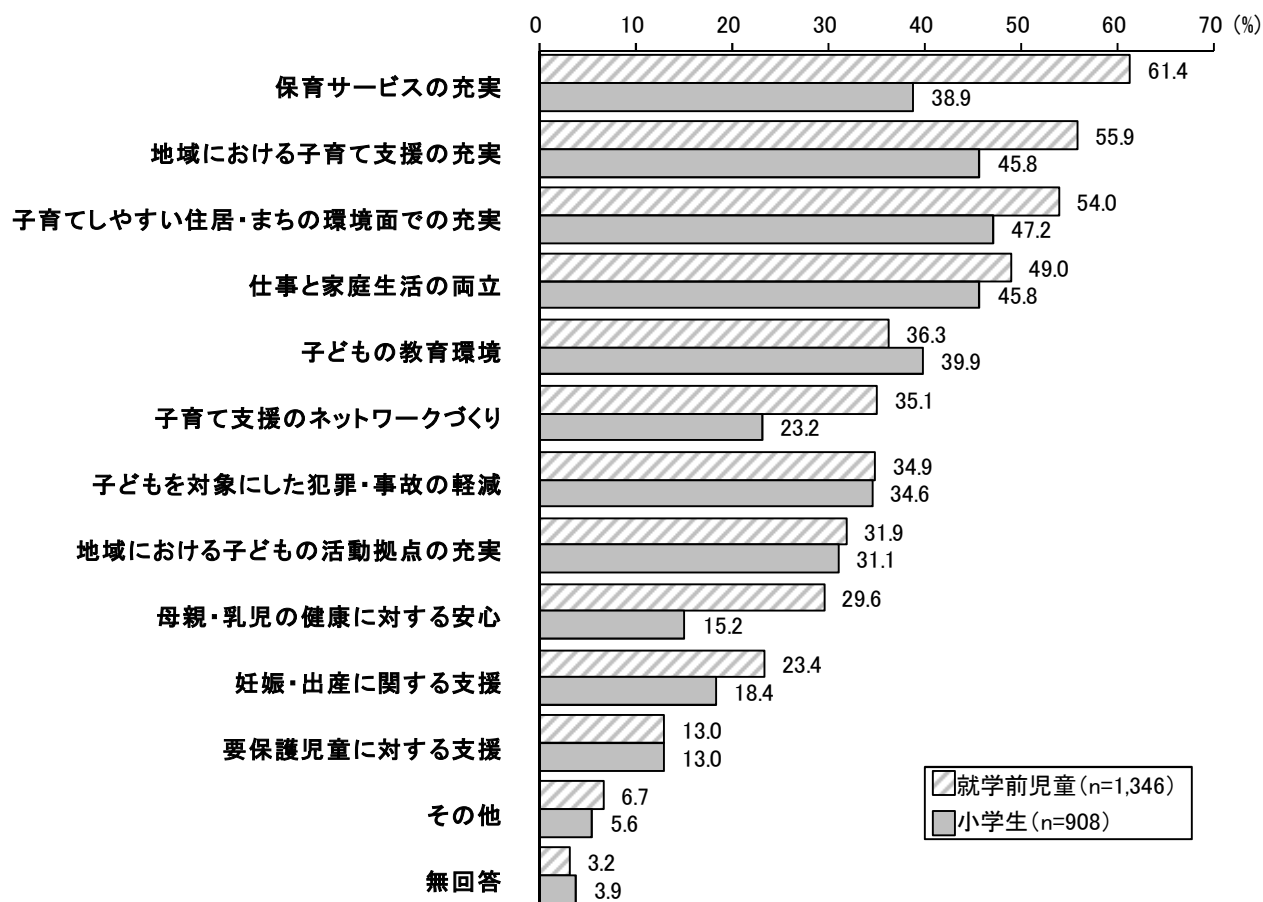
小学生では、「楽しいと感じることの方が多し」という人が68.9%と就学前児童を下回り、「楽しいと感じることとつらいと感じることが同じくらい」が23.2%とやや高い。

(9) 子育ての不安感や負担感、つらさなどを解消するために必要なこと

〔就学前児童：問42、小学生：問32〕

子育ての不安感や負担感、つらさなどを解消するために必要なことは何ですか。

(○はあてはまるものすべて)【複数回答】



子育ての不安感や負担感、つらさなどを解消するために必要なこととしては、就学前児童の場合、「保育サービスの充実」が61.4%で最も高く、これに「地域における子育て支援の充実」が55.9%、「子育てしやすい住居・まちの環境面での充実」が54.0%、「仕事と家庭生活の両立」が49.0%で続いている。

小学生の場合は、「子育てしやすい住居・まちの環境面での充実」(47.2%)、「地域における子育て支援の充実」「仕事と家庭生活の両立」(各45.8%)、「子どもの教育環境」(39.9%)、「保育サービスの充実」(38.9%)が4～5割で上位となり、これらに「子どもを対象にした犯罪・事故の軽減」(34.6%)、「地域における子どもの活動拠点の充実」(31.1%)が3割強で続いている。

両層を比較すると、全般的に小学生よりも就学前児童の方が多様な対応を求めているとみられる。

(10) 地域・社会活動への参加状況

〔就学前児童：問43、小学生：問33〕

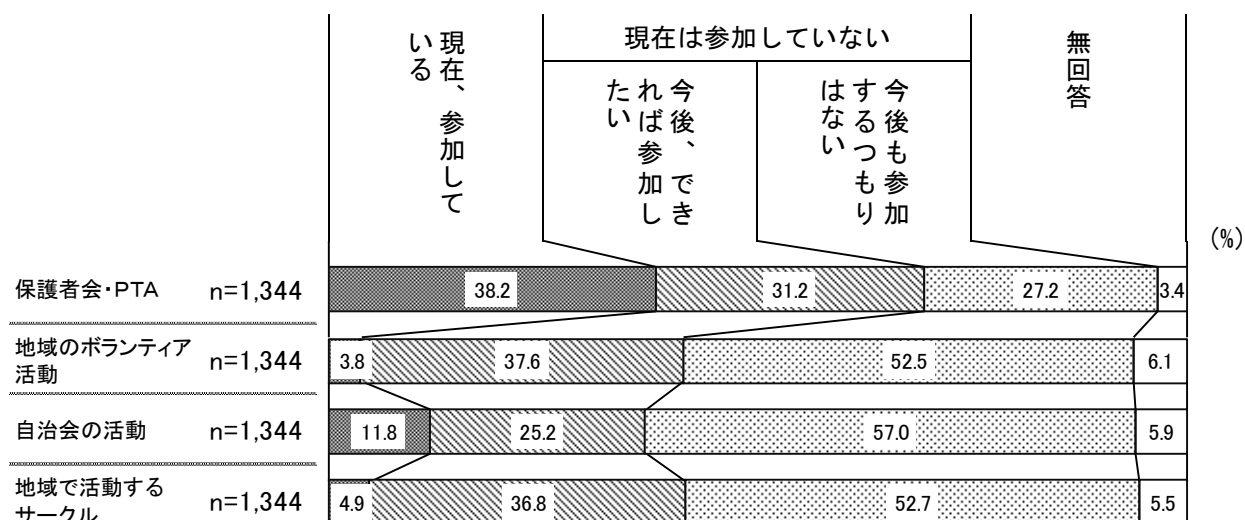
地域・社会活動の行事や組織に参加していますか。また、参加していないが、今後参加したいとお考えですか。（それぞれ1つに○）

（１）母親（養育者：女性）〔父子家庭の場合は記入不要〕

（２）父親（養育者：男性）〔母子家庭の場合は記入不要〕

<母親>

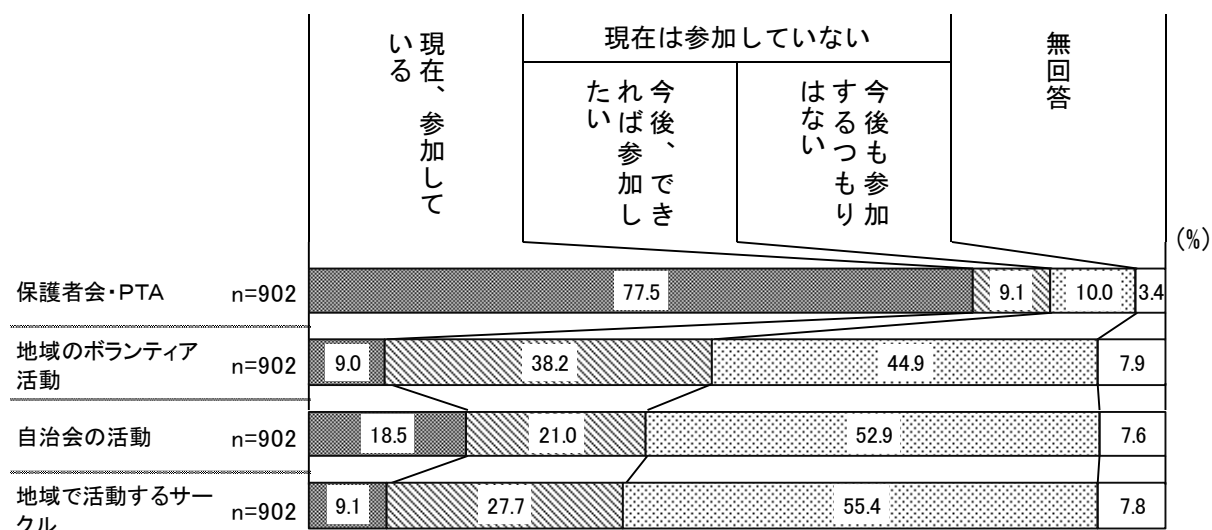
【就学前児童】



就学前児童の母親の地域・社会活動への参加状況をみると、「現在、参加している」は「保護者会・PTA」が38.2%、「地域のボランティア活動」が3.8%、「自治会の活動」が11.8%、「地域で活動するサークル」が4.9%となっている。

また、「今後、できれば参加したい」は「地域のボランティア活動」が37.6%で最も高く、これに「地域で活動するサークル」が36.8%で続いている。

【小学生】

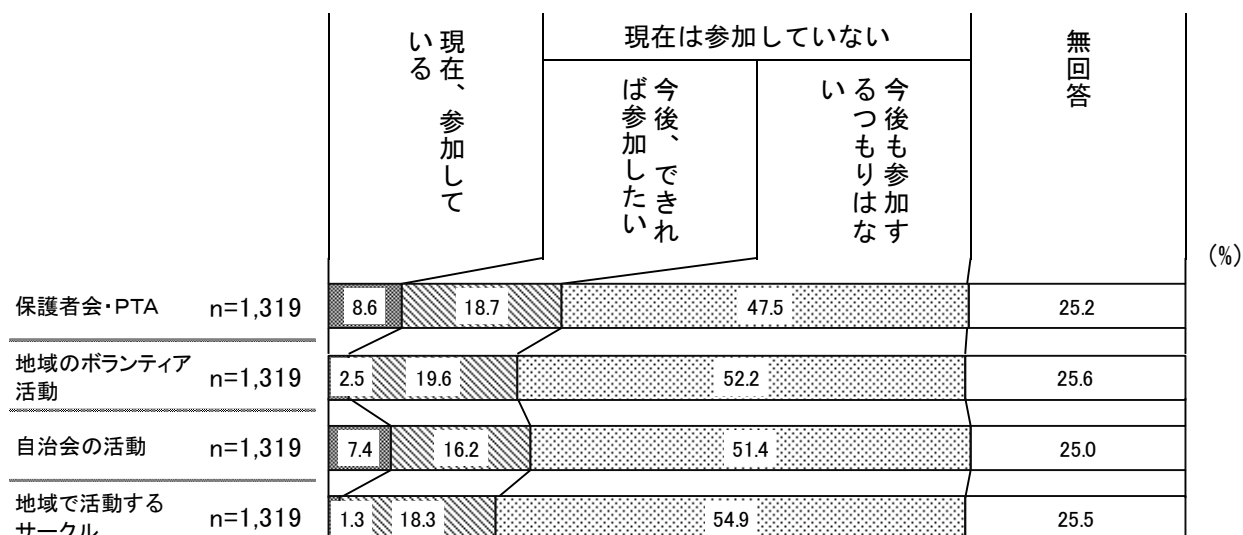


小学生の母親の地域・社会活動への参加状況をみると、「現在、参加している」は「保護者会・PTA」が77.5%、「地域のボランティア活動」が9.0%、「自治会の活動」が18.5%、「地域で活動するサークル」が9.1%となっている。

また、「今後、できれば参加したい」は「地域のボランティア活動」が38.2%で最も高く、これに「地域で活動するサークル」が27.7%が続いている。

＜父親＞

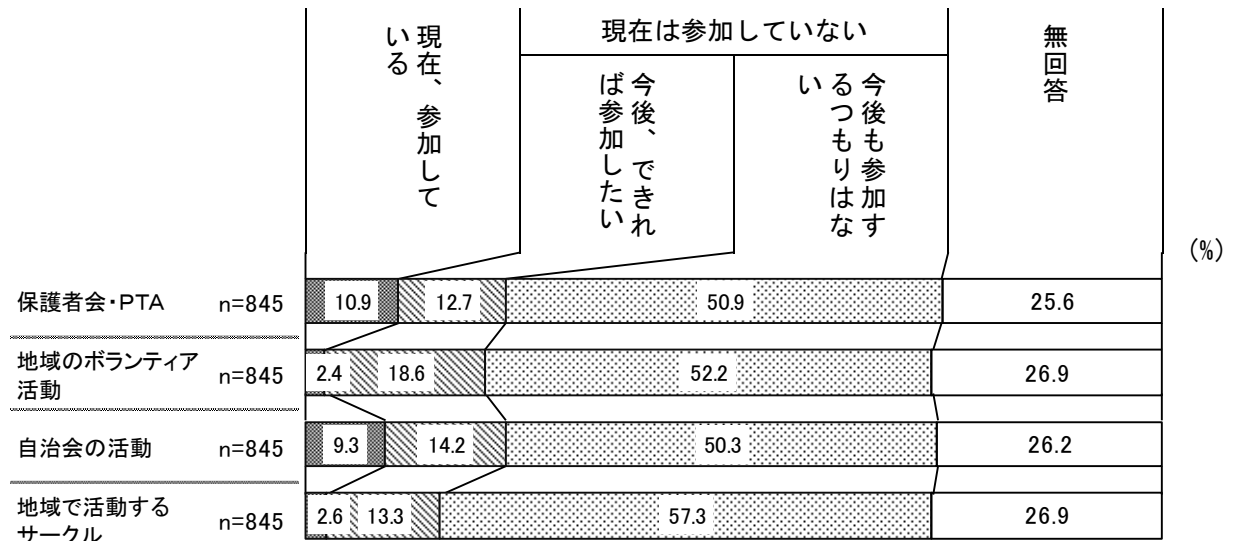
【就学前児童】



就学前児童の父親の地域・社会活動への参加状況をみると、「現在、参加している」は「保護者会・PTA」が8.6%、「地域のボランティア活動」が2.5%、「自治会の活動」が7.4%、「地域で活動するサークル」が1.3%で、いずれも母親の参加率を下回っている。

また、「今後、できれば参加したい」は、どの活動でも2割未満に留まっており、母親よりも参加意欲が低い傾向がみられる。

【小学生】



父親の地域・社会活動への参加状況を見ると、「現在、参加している」は「保護者会・PTA」が10.9%、「地域のボランティア活動」が2.4%、「自治会の活動」が9.3%、「地域で活動するサークル」が2.6%で、いずれも母親の参加率を下回っている。

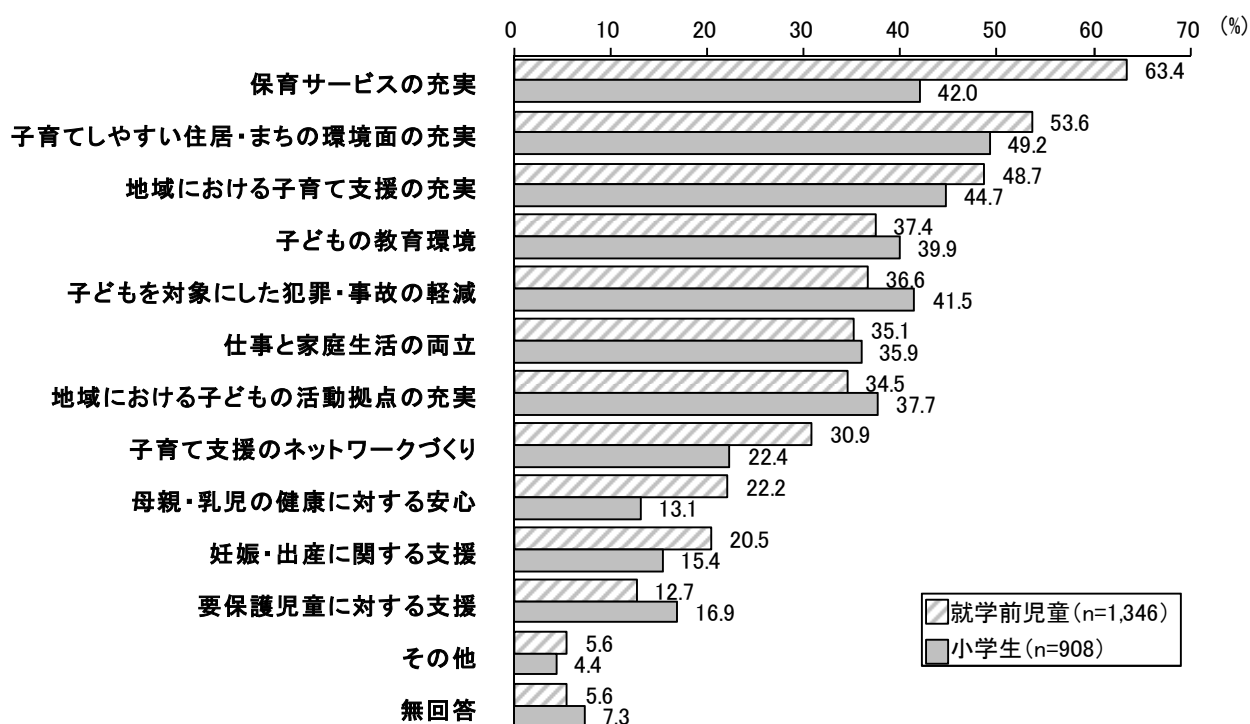
また、「今後、できれば参加したい」は、どの活動でも2割未満に留まっており、母親よりも参加意欲が低い傾向がみられる。

(11) 有効な子育て支援・対策

〔就学前児童：問44、小学生：問34〕

朝霞市においては、どのような子育て支援・対策が有効と感じていますか。

(○はあてはまるものすべて)【複数回答】



朝霞市の子育て支援・対策で有効と感じていることは、就学前児童の場合、「保育サービスの充実」が63.4%で最も高く、これに「子育てしやすい住居・まちの環境面の充実」が53.6%、「地域における子育て支援の充実」が48.7%で続いている。

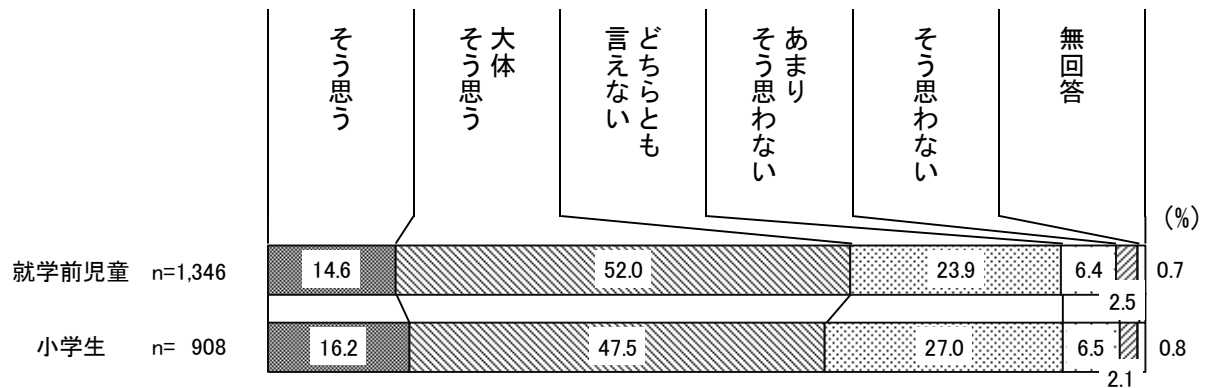
小学生の場合は、「子育てしやすい住居・まちの環境面の充実」が49.2%、「地域における子育て支援の充実」が44.7%、「保育サービスの充実」が42.0%、「子どもの教育環境」が39.9%で続いている。

就学前児童と小学生を比較すると、就学前児童は、「保育サービスの充実」「子育てしやすい住居・まちの環境面の充実」「地域における子育て支援の充実」の割合が高く、小学生は「子どもの教育環境」「子どもを対象にした犯罪・事故の軽減」「地域における子どもの活動拠点の充実」の割合がやや高くなっている。

(12) 朝霞市が出産・子育てするのに適したまちであるかの評価

〔就学前児童：問45、小学生：問36〕

これまでの子育ての経験の中で、朝霞市は安心して出産・子育てをするのに適したまちだと思いますか。(○は1つ)

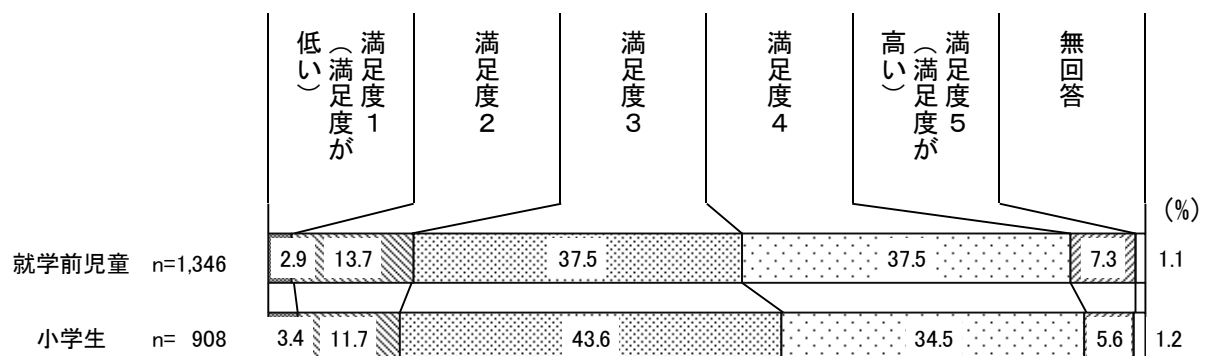


これまでの子育ての経験の中で、朝霞市は安心して出産・子育てをするのに適したまちだと思う人(「そう思う」と「大体そう思う」の合計)は、就学前児童が66.6%、小学生が63.7%となり、ほぼ同水準の評価となっている。

(13) 居住地域における子育ての環境や支援への満足度

〔就学前児童：問46、小学生：問37〕

お住まいの地域における子育ての環境や支援への満足度はいかがですか。(○は1つ)



住まいの地域における子育ての環境や支援への就学前児童の満足度は、「満足度3」、「満足度4」が各37.5%を獲得し、「満足度1」(2.9%)、「満足度2」(13.7%)の評価を大きく上回っている。

小学生の満足度も「満足度3」が43.6%、「満足度4」が34.5%を獲得し、「満足度1」(3.4%)、「満足度2」(11.7%)の評価を大きく上回っている。

14. 自由記述

〔就学前児童：問47、小学生：問38〕

最後に、教育・保育の環境の充実など子育ての環境や支援に関してご意見がございましたらご記入ください。

子育ての環境や支援に関して、就学前児童保護者から1,131件、小学生保護者から485件の貴重な意見をいただいた。1人で2つ以上の内容の記入はそれぞれ1件とカウントしているため、件数は延べ件数となる。

【就学前児童】

◇保育園（所）	168 件
充実・増設／入園条件緩和／保育士の確保・給与アップ／保育標準時間の拡大／申込時の点数に不満／保育所が他市より多く恵まれている／不正入園（所）のチェック／保育園（公営と民営）の料金、ルールの統一化／教育の実施／衛生・防犯対策／認定こども園を増やす／途中入園の許可／認可外も必要 等	
◇安心・安全	124 件
安全で通行しやすい歩道、道路の拡幅／連れ去りや不審者等の防犯対策／受動喫煙防止／ドライバーの交通マナー 等	
◇遊び場、公園	75 件
増設・維持／民間施設の誘致／ボール遊び等思い切り遊べる場／遊具の補修・充実／雨天でも遊べる場／他市にあるような大きな公園・アスレチック 等	
◇子育て全般	59 件
市の子育て環境に満足／より充実を／他市より遅れている／他市の取り組み等を参考に／不公平・不平等がないように／ゆとりある子育て環境の実現／保育従事者の待遇改善／箱物施策の見直し／子育てサービスの応能負担を応益負担に／子育て家族にやさしい社会に／未来の子どもたちに負担がいかないように／行政施策に頼りすぎるのもどうか／男性の意識改革／子育て全般の費用がかかりすぎる／子どもを安心して多く産めるように／人口増加への対応	
◇一時預かり・保育	54 件
充実／私用・急用、リフレッシュ目的で不定期に利用可能に／予約がしづらい・手続きの簡素化を／各種保育・子育て施設で実施してほしい／料金が高い	
◇移動・交通（朝霞台駅等）	54 件
駅のバリアフリー化／通学・通園バスの充実／バスの増便／子供用チェア付き自転車専用駐輪場の増設／送迎サービス／タクシー券 等	
◇情報・相談	53 件
相談体制の充実と質の向上／各種手段を用いた積極的な情報提供／転入者への情報提供が不足／市ウェブサイトの充実を／サービス利用の啓発 等	
◇学校・教育	53 件
学区の見直し・改善／生徒数が多い学校もあるなど偏りの改善／不登校・いじめ問題対策／PTA活動が負担／土曜日授業の実施／塾不要の授業レベル／設備等の老朽化対策／教員不足対策／学校敷地内のセキュリティ対策等	
◇医療・健康	49 件
医療の充実／医療機関の増設／健（検）診の充実／医療費受給資格証の利用可能エリア拡大／医師の対応が悪い／予防接種費用の助成・医療費無償化の年齢拡大、分娩費用助成 等	
◇放課後児童クラブ（学童保育）	45 件
増設・充実／利用条件緩和／対象枠拡大／長期休暇中の受入対応／人材不足対策 等	
◇児童館	44 件
充実・増設／安全・衛生管理／利用条件緩和／駐車場が狭い・少ない／保護者の居場所併設／相談等もできる場 等	
◇イベント・講座、習い事、活動	37 件
充実／母親学級の対象改善／父親を対象にしたもの／土日開催／イベントが多くて良い／習い事教室、体験学習の実施を 等	

◇仕事と育児の両立	32 件
職場の理解／仕事をする母親の不利な環境の改善／職場に保育スペース併設を／社会全体の気運醸成／様々な職業や形態にも対応を／職場復帰時の不安 等	
◇経済的支援、手当	27 件
充実／多子世帯・ひとり親・低所得世帯への支援／所得制限の見直し／習い事への支援・補助／経済的負担の抑制 等	
◇待機児童対策	29 件
解消／隠れ待機児童対策 等	
◇病児・病後児保育	21 件
預かり可能施設の充実／サービスの充実／料金が低い	
◇放課後児童クラブ以外の預かり・保育施設	21 件
放課後子ども教室・放課後デイサービス等の実施／学童以外の預かり施設、学校敷地内に預かりのできる場所／各種預かり施設との連携／長期休暇中の受入施設が不足	
◇地区格差	20 件
施設が遠い／地域によって偏りがある	
◇人材の質	20 件
保育課、保育士、子育て支援センターの対応が悪い	
◇幼稚園	20 件
充実・増設／プレ幼稚園・プレ保育の充実／預かり保育の充実／延長保育の充実／公立園がほしい 等	
◇子育て支援センター	16 件
充実・増設／雰囲気が悪い／活用している 等	
◇交流、地域の見守り	13 件
地域交流／保護者同士の交流／子育てサークルの充実／母親の孤立防止	
◇障害児等の支援	12 件
発達障害の対応／早期発見／18 歳以上にも対応／知識や理解を深める 等	
◇買い物、商業施設	12 件
子ども連れで行きやすい店があるとよい	
◇親対象のケアや支援サービス	11 件
親の発達障害への対応／育児中の心のケア、産後ケアの充実／親が病気の際の対応	
◇保育料等無償化	10 件
育児費用の全額無償化／高校まで無償／実現させてほしい／一時預かりや長期休暇中の預かりも込みで無償化を 等	
◇授乳やおむつ替えスペースの併設	9 件
駅、公園、企業内保育施設にあるとよい	
◇ファミリー・サポート・センター	6 件
充実／手軽に利用できるように／需要と供給がアンバランス／制度を広める	
◇外国人対応（言葉・宗教）	5 件
宗教、食事、言語への対応	
◇今回のアンケート	15 件
設問数が多い・回答しづらい／結果の公表／調査方法の改善 等	
◇その他	17 件
マンション乱立の抑制／県・国への要望 等	

計 1,131 件

【小学生】

◇学校・教育	59 件
学区の見直し・改善／生徒数が多すぎる学校もあるなど偏りの改善／不登校・いじめ問題対策／PTA活動が負担／塾不要の授業レベル／学校内カウンセラーの設置／教員不足対策／土曜日授業の実施や長期休暇の日数を減らす／クラス人数が多く居にくいのではないか／自転車通学の許可／学習補助／学校間の設備格差の是正／学校敷地内のセキュリティ強化 等	
◇安心・安全	51 件
安全で通行しやすい歩道、道路の拡幅／連れ去りや不審者等の防犯対策／街灯の整備／子どもへの交通規則指導／交通指導員の増員／路駐や悪質ドライバー取り締まり強化／信号機設置 等	
◇遊び場、公園	50 件
充実・増設／ボール遊び等思い切り遊べる場／遊具の充実／雨天でも遊べる場／衛生管理 等	
◇放課後児童クラブ〔学童保育〕	49 件
充実・増設／利用条件緩和／土曜サポート／単発利用や長期休暇の受入対応／人材不足対策／公営と民営の格差解消	
◇子育て全般	37 件
市の子育て環境に満足／より充実してほしい／他市より遅れている／土日就労者への支援が薄い／他市にない特徴的な施策の実施／他市の取り組み等を参考にする／頼れる人がいない人への支援者派遣／預けられる場所が足りない／父親の育児意識啓発／各機関の連携が大切／最大の不安は育児費用の問題／子どもが安心して暮らせる環境づくり／人口増加への対応	
◇放課後児童クラブ以外の子どもの居場所	37 件
放課後子ども教室・放課後デイサービス等の実施／単発・一時的な不定期の預かり場／学校敷地内に預かりのできる場所／放課後安心して過ごせる場／長期休暇中の受入施設が不足 等	
◇児童館・子育て支援センター	28 件
充実・増設／中高生向けの内容も 等	
◇保育園（所）	26 件
充実・増設／保育士の労働環境改善／入園条件緩和／公営・民営の料金統一化／入園基準の明確化（加点など） 等	
◇医療、健康	24 件
医療機関の充実・増設／医療費無償化の充実／予防接種費用の助成 等	
◇情報・相談	16 件
相談体制の充実と質の向上／各種手段を用いた積極的な情報提供 等	
◇経済的支援、手当	15 件
充実／所得制限の見直し／多子世帯・ひとり親・低所得世帯への支援 等	
◇地域交流、見守り	13 件
地域で子どもを見守る／地域のつながりが希薄／保護者や子ども同士の交流機会／高齢者と子供の交流機会／母親の孤立防止 等	
◇イベント・講座、習い事、活動	13 件
仲間をつくるきっかけとなるものがほしい／長期休暇中、土日のイベント等を／体験催しが多くて良い／地域活動の充実 等	
◇人材の質	12 件
教員の質の向上／保育関係職員の対応が悪い 等	
◇障害児等への支援	11 件
各種障害の研修・理解／特別支援学級の設置／早期発見／福祉施設の増設・拡充／差別のない社会 等	
◇仕事と育児の両立	7 件
働き方改革へのバックアップ／企業の理解 等	
◇移動・交通	6 件
駅のバリアフリー化／市内循環バス／バス路線の拡大・増便／送迎サービス 等	

◇地区格差	6 件
施設が遠い／地域によって偏りがある 等	
◇病児・病後児保育	4 件
預かり可能施設の充実・増設 等	
◇子育て支援センター	2 件
充実／開設時間の拡大	
◇産後ケア	2 件
継続した支援／利用してよかった	
◇待機児童対策	2 件
1 歳児の待機児童が多い／待機児童問題への取り組み	
◇今回のアンケート	5 件
調査手法が疑問／回答するのが負担／設問がわかりづらい 等	
◇その他	10 件
子育てサービスの不正利用者のチェック／マンション乱立の抑制／子ども連れで行ける飲食店／税金が高い 等	

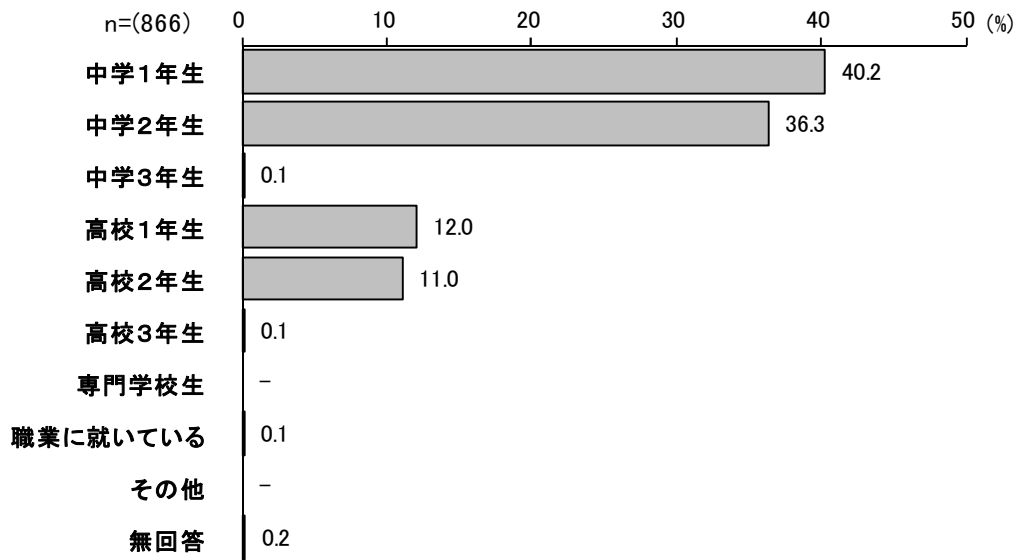
計 485 件

Ⅱ 中高生本人

1. 学年／居住地区

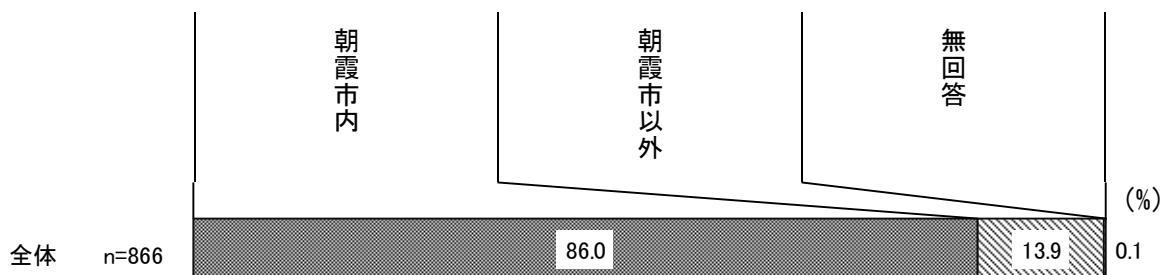
(1) 学年

問1 あなたはつぎのどれにあてはまりますか。(○は1つ)



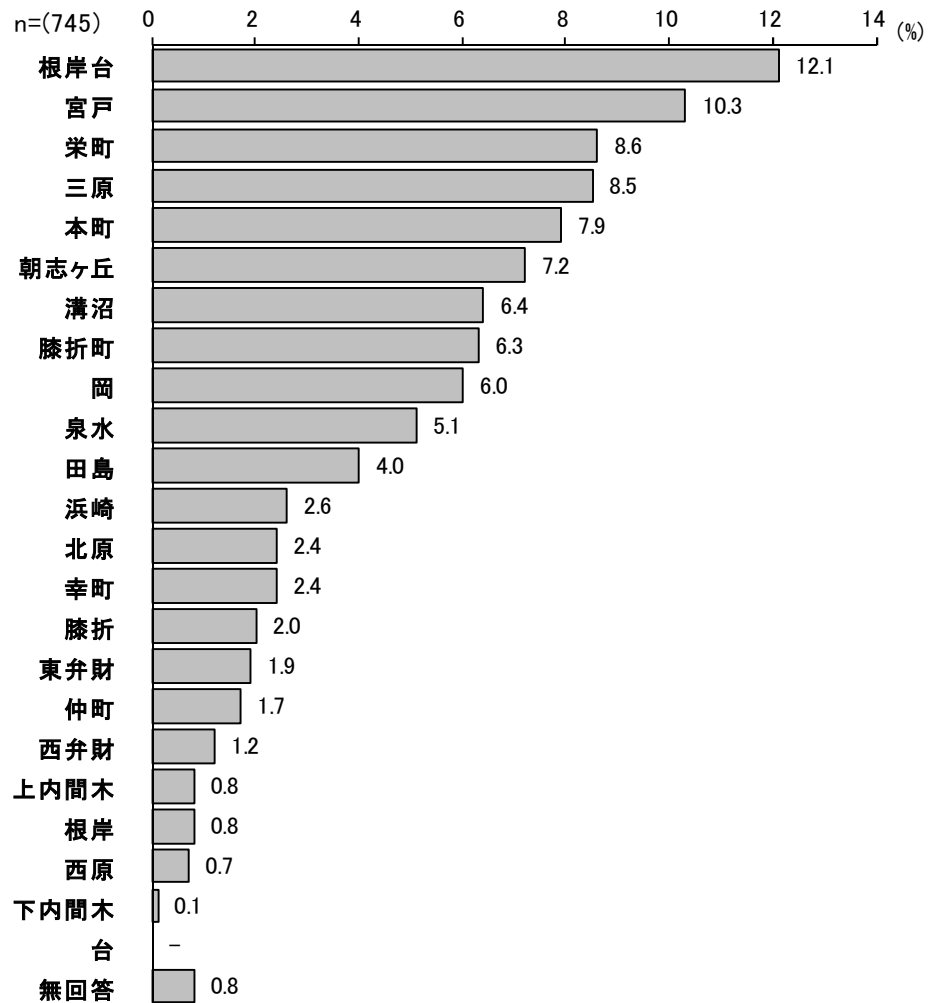
(2) 居住地区

問2 お住まいの地区はどちらですか。(○は1つ)



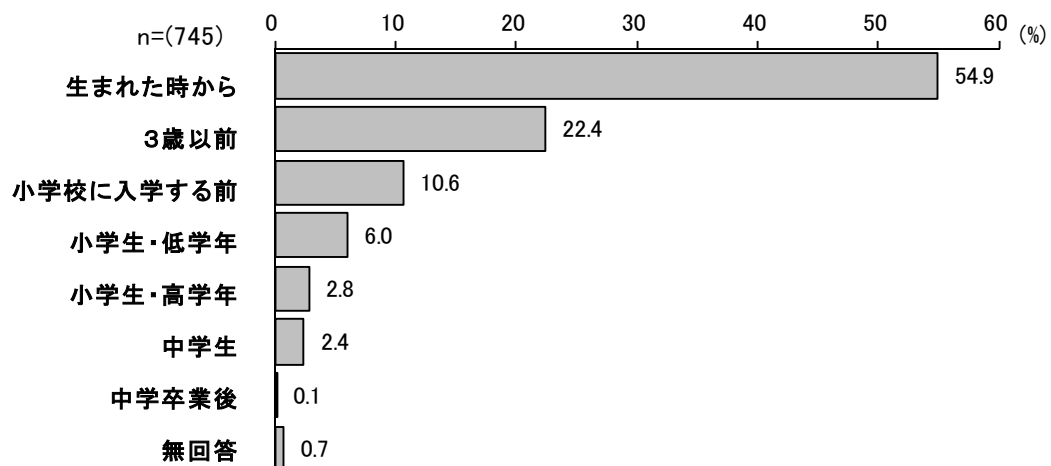
(3) 市内居住地区

問2-1 朝霞市内にお住まいの方は、お住まいの地区をお答えください。(○は1つ)



(4) 市内転入時期

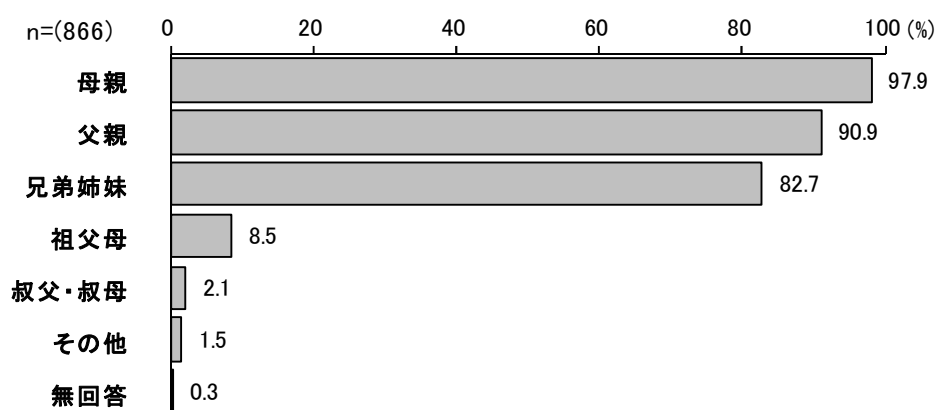
問2-2 朝霞市内にお住まいの方は、いつ頃から朝霞市に住んでいますか。(○は1つ)



2. 家族の状況／居住地域の好感度・居住意向

(1) 同居家族

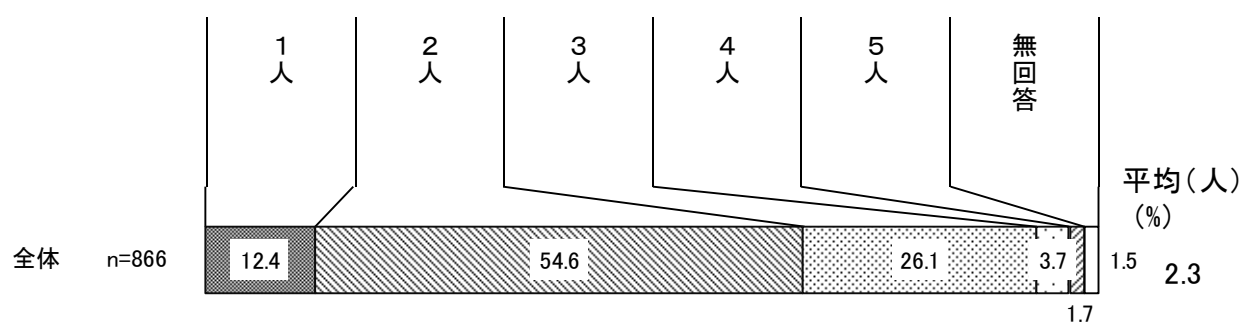
問3 現在、あなたがいっしょに暮らしている人は誰ですか。単身赴任など仕事やその他の都合で一時的に別に暮らしている場合もいっしょに暮らしているとします。
(○はいくつでも)【複数回答】



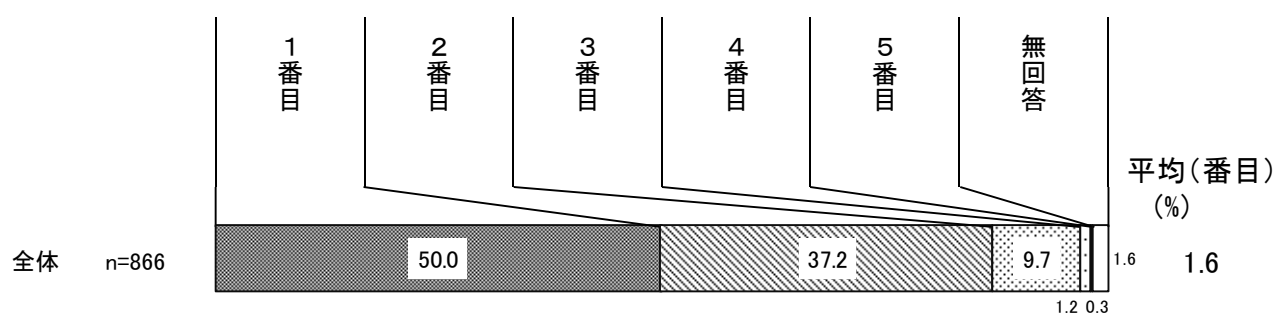
(2) 兄弟姉妹

問4 あなたは、何人きょうだいの何番目ですか。(数字で記入)

兄弟姉妹数

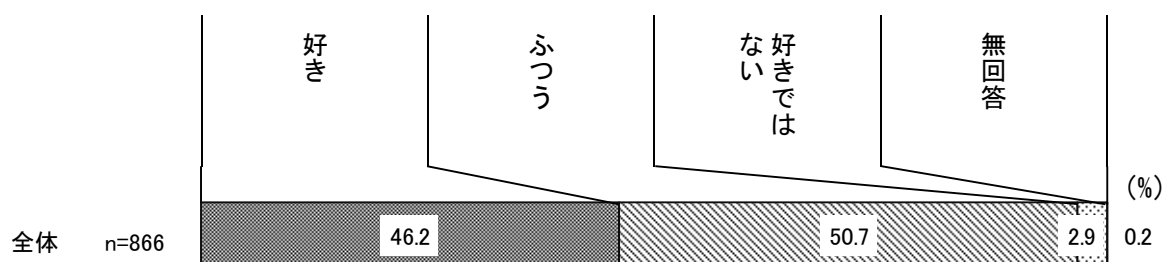


兄弟姉妹の順



(3) 居住地域の好感度

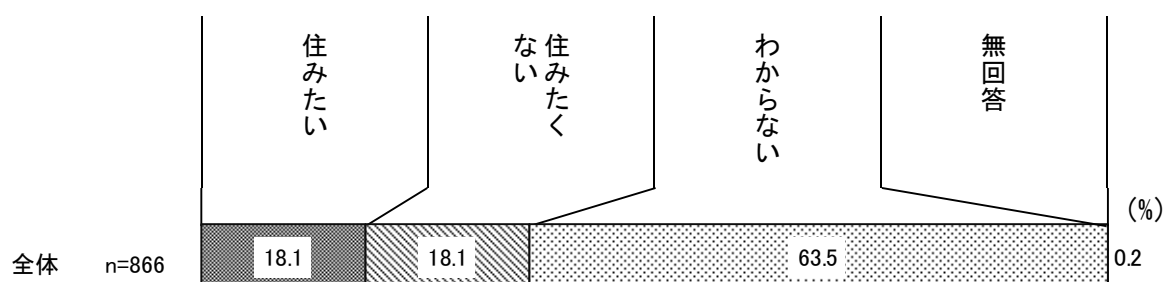
問5 あなたは、現在暮らしている地域が好きですか。(〇は1つ)



現在暮らしている地域については、「好き」が46.2%、「ふつう」が50.7%、「好きではない」が2.9%となっている。

(4) 将来の市の居留意向

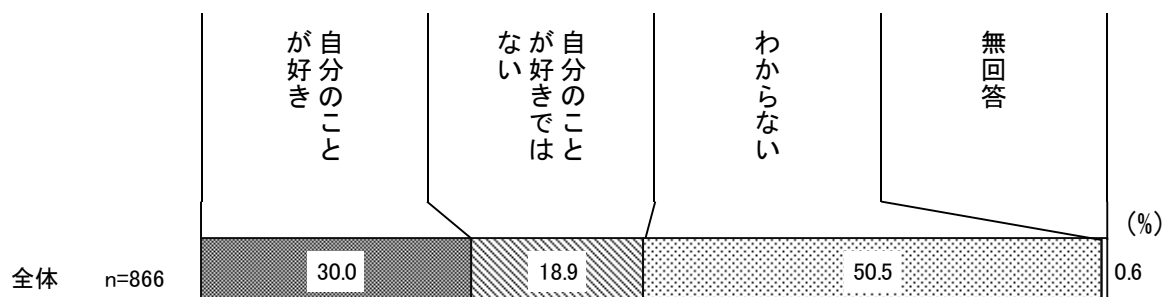
問6 あなたは、将来朝霞市に住みたいと思いますか。(〇が1つ)



将来の朝霞市居留意向は、「住みたい」「住みたくない」が各18.1%、「わからない」が63.5%となっている。

(5) 自己愛度

問7 あなたは自分のことを好きですか。(〇は1つ)

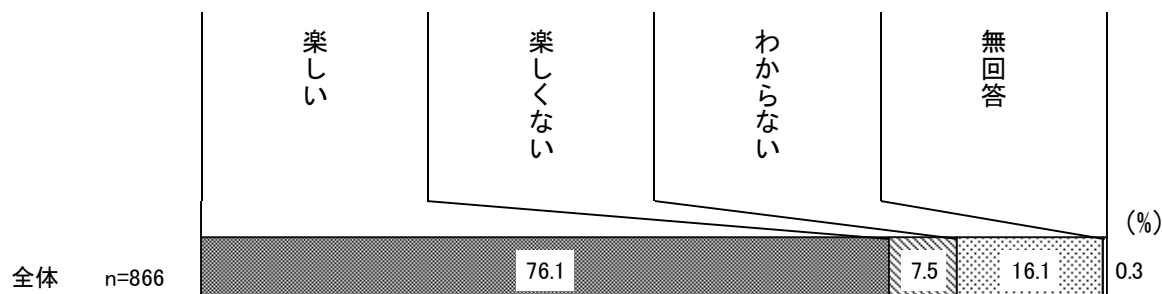


自己愛度については、「はい(自分のことが好き)」が30.0%、「いいえ(自分のことが好きではない)」が18.9%、「わからない」が50.5%となっている。

3. 学校や普段の生活の状況

(1) 学校・仕事の好感度

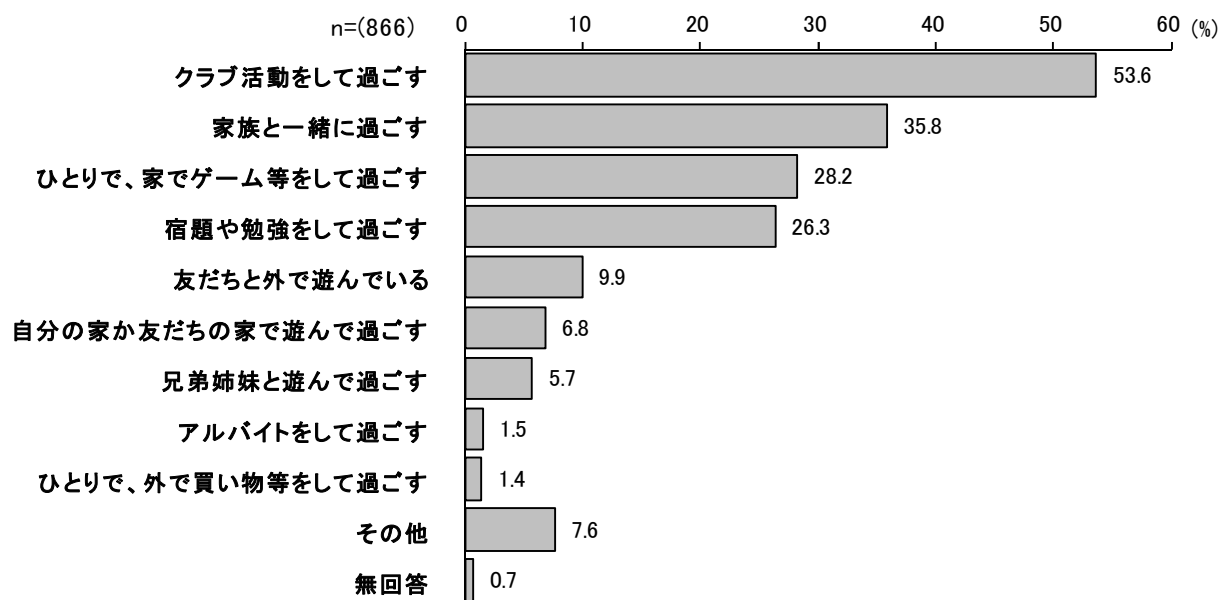
問8 学校・仕事は楽しいですか。(○は1つ)



学校・仕事が「楽しい」という中高生は76.1%で、「楽しくない」(7.5%)、「わからない」(16.1%)を大きく上回っている。

(2) 放課後(就業時間後)の過ごし方

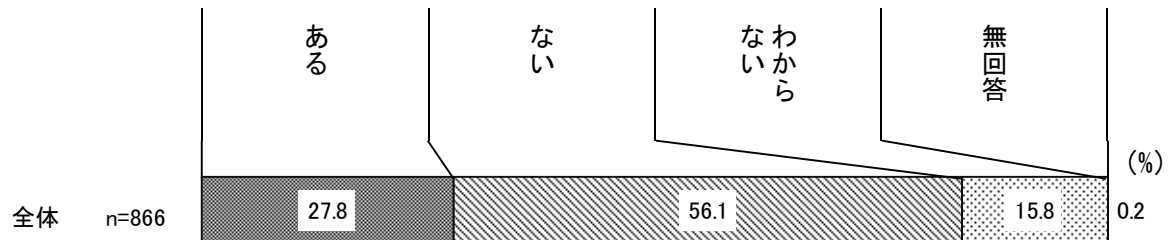
問9 放課後(仕事をしている人は就業時間後)、主に何をして過ごしますか。(○は主なもの2つまで)【複数回答】



放課後(就業時間後)の過ごし方は、「クラブ活動をして過ごす」が53.6%で最も高く、これに「家族と一緒に過ごす」が35.8%、「ひとりで、家でゲーム等をして過ごす」が28.2%、「宿題や勉強をして過ごす」が26.3%が続いている。

(3) 親にたたかれたり、ひどいことを言われた経験

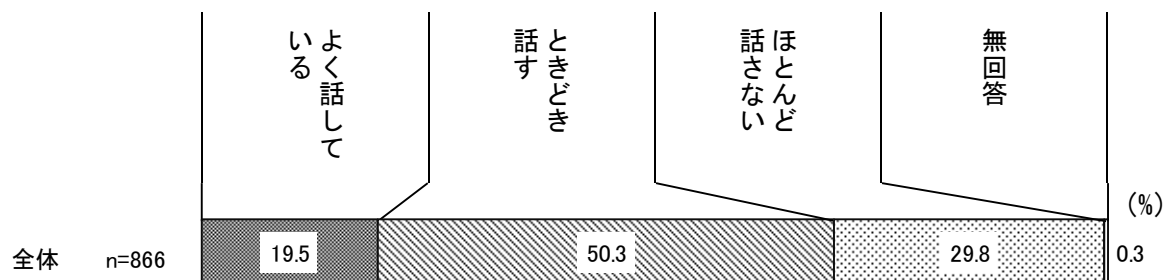
問10 あなたは今までに、親にたたかれたり、ひどいことを言われたことがありますか。
(○は1つ)



今までに、親にたたかれたり、ひどいことを言われたことがある中高生は27.8%となっている。

(4) 悩んでいることを友だちに話すこと

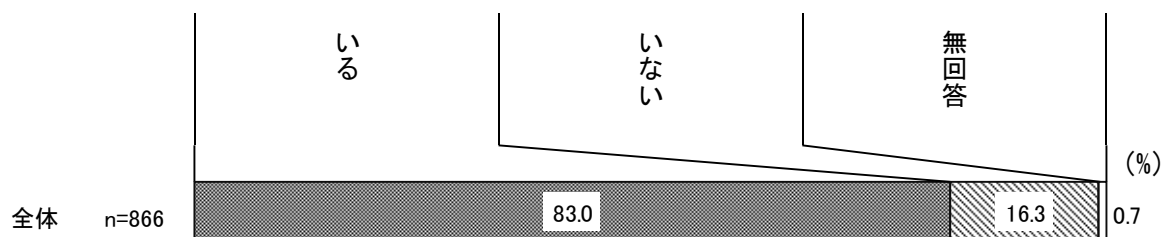
問11 悩んでいることを友だちと話していますか。(○は1つ)



悩んでいることを友だちと話している中高生は、「よく話している」(19.5%)と「ときどき話す」(50.3%)の合計で69.8%。これに対し、「ほとんど話さない」は29.8%となっている。

(5) 悩んでいることを相談できる大人の有無

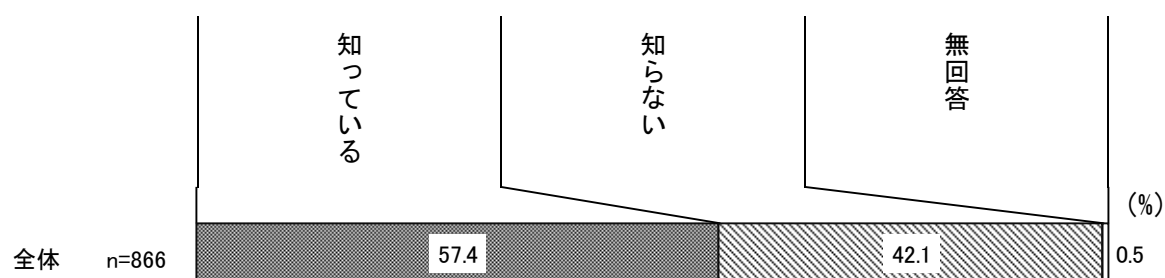
問12 悩んでいることを相談できる大人がいますか。(○は1つ)



悩んでいることを相談できる大人については、「いる」が83.0%、「いない」が16.3%となっている。

（６）悩んでいることを相談できる機関の認知状況

問13 悩んでいることを相談できる機関（電話相談含む）を知っていますか。（○は１つ）

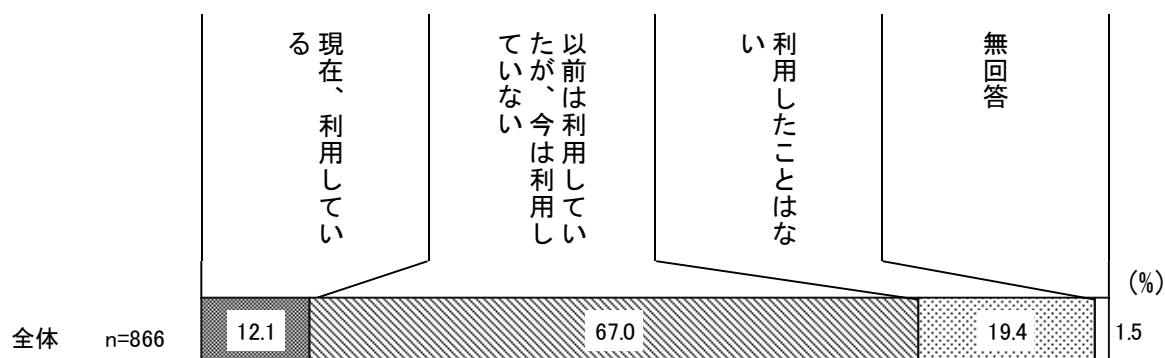


悩んでいることを相談できる機関（電話相談を含む）については、「知っている」が57.4%、「知らない」が42.1%となっている。

4. 児童館の利用状況

（１）市内の児童館利用経験

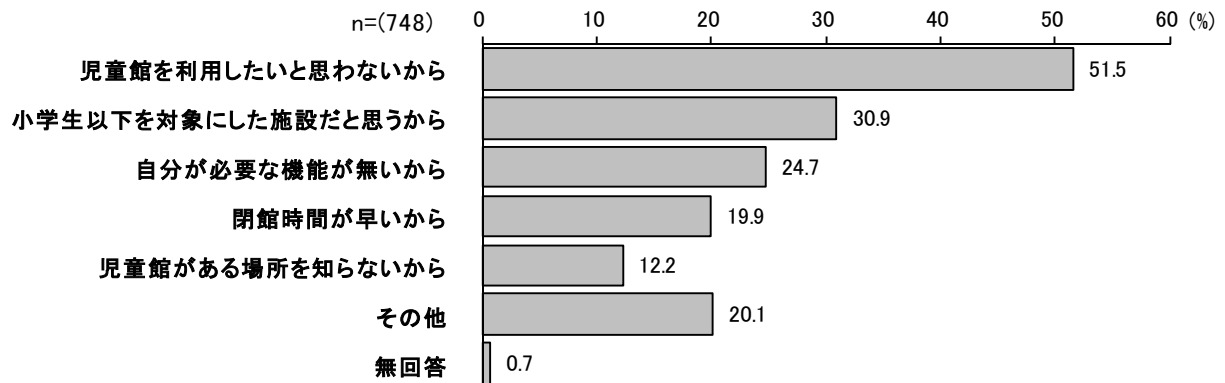
問14 朝霞市内には5つの児童館があり、中高生の利用も可能です。あなたは市内の児童館を利用したことがありますか。（○は１つ）



市内の児童館の利用状況は、「現在、利用している」が12.1%、「以前は利用していたが、今は利用していない」が67.0%、「利用したことはない」が19.4%となっている。

(2) 児童館を利用していない理由

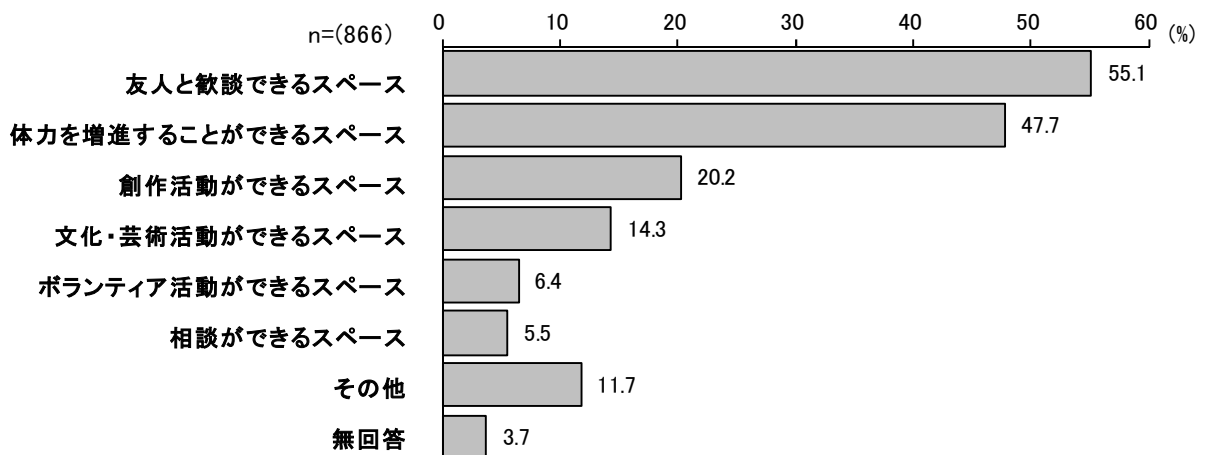
問14で「以前は利用していたが、今は利用していない」「利用したことはない」を選んだ方
問15 児童館を利用していないのはなぜですか。(〇はいくつでも)【複数回答】



市内の児童館を「以前は利用していたが、今は利用していない」または「利用したことはない」と回答した理由は、「児童館を利用したいと思わないから」が51.5%で最も高く、これに「小学生以下を対象にした施設だと思うから」が30.9%、「自分が必要な機能が無いから」が24.7%が続いている。また、「その他」(20.1%)の内容は、「時間がない」が特に多く、「部活動や他の場所で過ごすから」、「場所が遠い」などもあげられている。

(3) 児童館に望む機能・スペース

問16 あなたは、児童館にどのようなスペースがあると利用したいと思いますか。
(〇は3つまで)【複数回答】

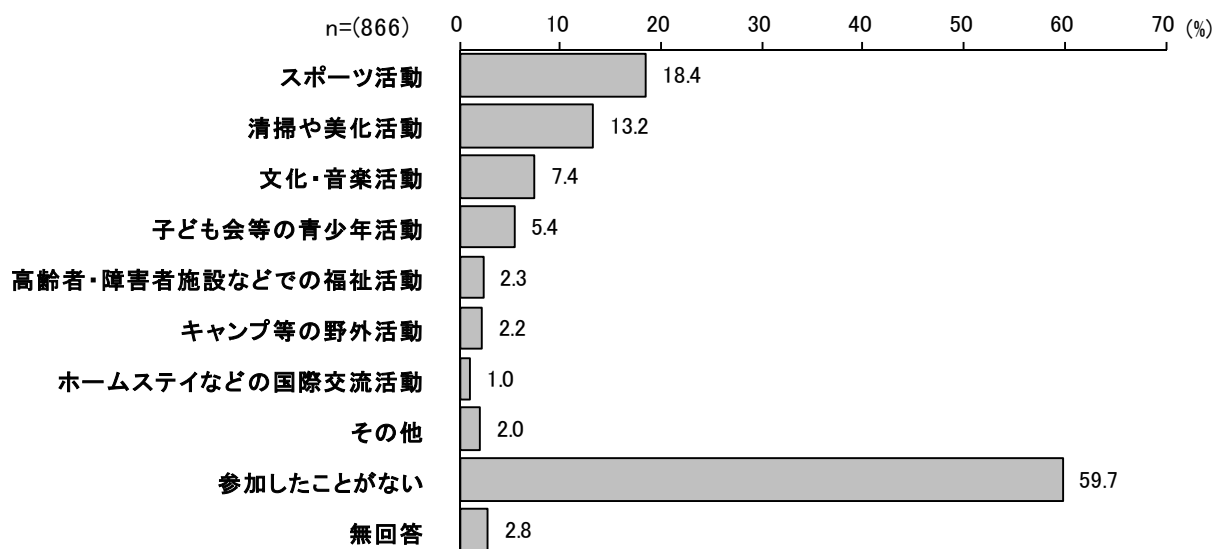


児童館の利用促進を図る上で、あるとよいと思うスペースは、「友人と歓談できるスペース」が55.1%、「体力を増進することができるスペース」が47.7%と特に高く、これらに「創作活動ができるスペース」が20.2%が続いている。

5. 地域での活動状況

(1) 地域活動やグループ活動への参加状況

問17 あなたはこの1年間に、地域活動やグループ活動に参加したことがありますか。
(○はいくつでも)【複数回答】

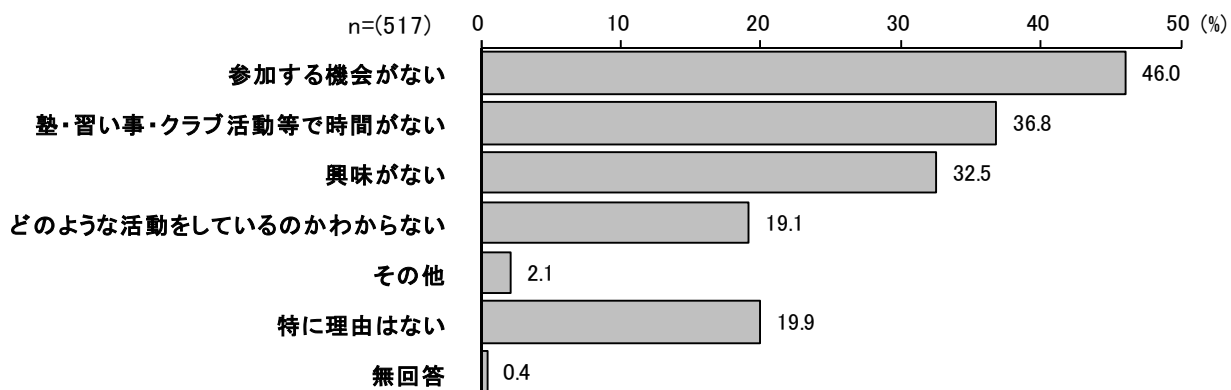


この1年間の地域活動やグループ活動への参加状況は、「スポーツ活動」が18.4%で最も高く、これに「清掃や美化活動」が13.2%、「文化・音楽活動」が7.4%が続いている。

(2) 地域活動やグループ活動に参加していない理由

問17で「参加したことがない」を選んだ方

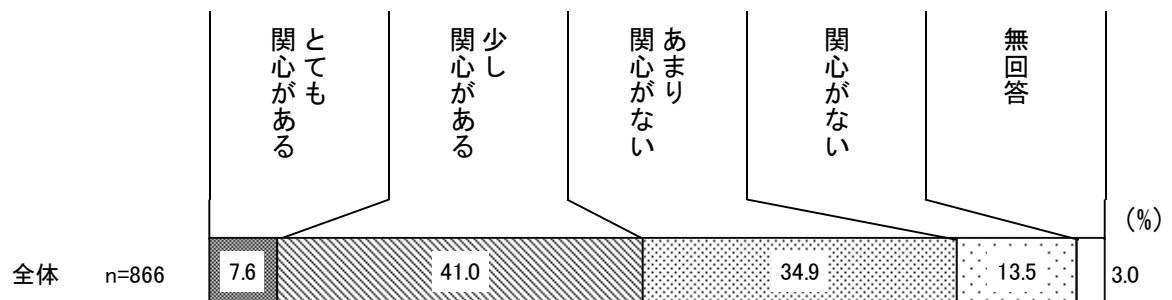
問18 地域活動やグループ活動に参加していない理由は何ですか。
(○はいくつでも)【複数回答】



地域活動やグループ活動に参加していない理由は、「参加する機会がない」が46.0%で最も高く、これに「塾・習い事・クラブ活動等で時間がない」が36.8%、「興味がない」が32.5%が続いている。

(3) ボランティア活動への関心度

問19 あなたは、ボランティア活動にどの程度関心がありますか。(○は1つ)



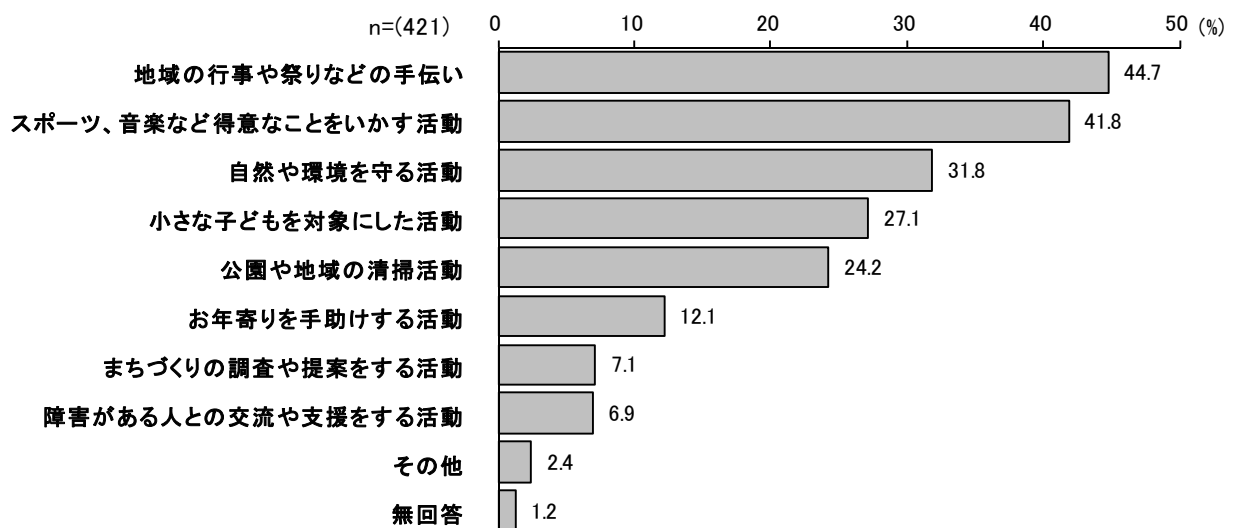
ボランティア活動への関心度は、「とても関心がある」(7.6%)と「少し関心がある」(41.0%)の合計で48.6%となっている。

(4) ボランティア活動への参加意向

問19で「とても関心がある」または「少し関心がある」を選んだ方

問20 あなたは、どのようなボランティア活動を行いたいと思いますか。

(○は3つまで)【複数回答】



ボランティア活動に関心がある中高生が行いたいと思う活動は、「地域の行事や祭りなどの手伝い」(44.7%)、「スポーツ、音楽など得意なことをいかす活動」(41.8%)が4割強で上位となり、これに「自然や環境を守る活動」(31.8%)、「小さな子どもを対象にした活動」(27.1%)が3割前後で続いている。

6. 自由記述

朝霞市に望むことがありましたら、自由にご記入ください。

市に望むことを自由に記述してもらったところ、263件の貴重な意見をいただいた。1人で2つ以上の内容の記入はそれぞれ1件とカウントしているため、件数は延べ件数となる。

まちづくり	93
・コンビニや商店、複合・大型施設を誘致・つくってほしい	50
・歩道・道路の整備	19
・交通網の充実、駅の安全・バリアフリー化	10
・緑の保全、環境美化	9
・自転車専用道を設置してほしい	5
遊び場、スポーツ	66
・スポーツのできる場や運動場の充実、増設	33
・のびのび遊べる場や公園等の充実、増設	20
・テーマパークや遊園地、アスレチックの誘致・設置	8
・スポーツ施設の設備改善、利用時間・期間等の改善	5
学校・教育	43
・学校生活（夏休みを増やす、学校をなくす、不足、土曜授業、校則の見直し・全校で統一、自転車通学の許可、教師の質、屋上開放 等）	13
・学校校舎や設備の改修・改善	12
・部活動（種類増、時間増／減、土日活動の制限を、予算を多く）	12
・給食の改善（量・味・アレルギー）	3
・勉強のできる場・施設	3
行政	29
・全般（暮らしやすさ、都市化 等）	8
・祭りや楽しいイベントの実施	5
・公共施設の充実	4
・図書館、文化施設の充実	3
・その他（選挙カーの音量、商品値下げ、学校が遠い、自販機増設 等々）	9
防犯・安全	24
・暗い場所が多いので、街灯の設置	15
・不審者対策や治安の向上を	6
・交通マナーの指導をしてほしい	3
健康・福祉	8
・医療費無料化の対象枠を広げてほしい	5
・ボランティア活動や障害の理解を深めたい	3

計 263 件

Ⅲ ヒアリング・アンケート調査結果

1. ヒアリング調査対象

(1) 市内の小学生、中学生、高校生

種類	調査場所	実施日	対象数	調査方法
放課後児童クラブ利用者（小学生）	幸町放課後児童クラブ	2月15日（金）	3組	個別ヒアリング
都市公園利用者	三原公園、島の上公園	2月8日（金）	3組	
児童館利用者（小学生）	みぞぬま児童館	2月16日（土）	5組	
	ひざおり児童館	2月22日（金）	2組	
プレーパーク参加者	朝霞の森プレーパーク参加者	3月9日（土）	7組	
中学生	朝霞市立朝霞第五中学校1・2年生	3月22日（金）	5人	グループヒアリング
高校生	埼玉県立朝霞西高校1年生	2月8日（金）	16人	

(2) 児童館及び子育て支援センター利用者（保護者）・障害児放課後児童クラブ保護者

種類	調査場所	実施日	対象数	調査方法
子育て支援センター利用者（保護者）	仲町子育て支援センター	2月8日（金）	18人	個別ヒアリング
	子育て支援センターおもちゃ図書館なかよしぱあく	2月15日（金）	7人	
児童館利用者（保護者）	ひざおり児童館	2月15日（金）	9人	
障害児放課後児童クラブ保護者	朝霞市総合福祉センターはあとぴあ	2月15日（金）	3人	グループヒアリング

(3) 子育てサークル等参加者

種類	調査対象	実施日	対象数	調査方法
多胎児育児サークル	イベント主催者・参加者	2月16日（土）	4組	個別ヒアリング
朝霞子育てネットワーク	イベント主催者・参加者	2月22日（金）	3組	

2. ヒアリングの主な調査項目・結果の概要

(1) 市内の小学生、中学生、高校生

①放課後児童クラブ利用者（小学生）・都市公園利用者・児童館利用者（小学生）・プレーパーク参加者

◆主な調査項目

項 目	内 容
施設・公園について	・施設、公園等の好きなところ・気に入っているところ ・改善を希望する点
放課後・休日の過ごし方	・過ごす場所・一緒に過ごす人 ・遊びの内容
市内の環境について	・朝霞市内で楽しいところ・自慢したいこと ・改善を希望する点 ・朝霞市への愛着

◆主な意見

項 目	内 容
施設・公園について	■放課後児童クラブ ●施設、公園等の好きなところ・気に入っているところ ・本を読める、絵を描ける ・校庭等で外遊びができる ・お菓子が食べられる ●改善を希望する点 特になし
	■児童館 ●施設、公園等の好きなところ・気に入っているところ ・おもちゃ、本、漫画がたくさんある ・卓球、バスケットボール等球技ができる ・飲食スペースがある ・DVDが見られる ・友達とおしゃべりができる ・お祭りが楽しい ●改善を希望する点 ・利用できる時間が短い
	■公園 ●施設、公園等の好きなところ・気に入っているところ ・走り回ることができる、ボールで遊べる、遊具が楽しい ・ボール遊びのスペースと遊具等のスペースが分かれていて遊びやすい ●改善を希望する点 ・ボール遊びができる所が増えると良い
	■プレーパーク ●施設、公園等の好きなところ・気に入っているところ ・たき火、料理、木工工作ができる ・木登りができる ・大縄飛びができる ・秘密基地を作る、テントを張って遊べる ・人がたくさんいる ●改善を希望する点 特になし

項 目	内 容
放課後・休日の過ごし方	●過ごし方・遊び ・校庭、朝霞の森、近くの公園、児童館、公民館、友達の家等で友達と過ごす（走り回る、バスケットボール・サッカー・野球をする・ゲームをする） ・図書館に行く（本を読む、宿題をする） ・川で遊ぶ ・家でゲーム・ブロックなどをして一人・兄弟姉妹と過ごす ・お稽古事に行く
市内の環境について	●朝霞市内で楽しいところ・自慢したいこと ・公園、児童館など遊ぶ所がたくさんある ・図書館が良い ・自然が多い ・お祭りが楽しい ・ショッピングセンターなど買物をする所が多い ・農産物・特産品がおいしい（にんじんなど） ・産業が盛ん ●改善を希望する点 ・ボール遊びができる所が増えると良い ・カフェなど飲食、おしゃべりができる所ができると良い ・道が狭い、道で遊べない ・おもちゃ屋さん、駄菓子屋さんができると良い ●朝霞市への愛着 ・ずっと住んでいたいという子どもがほとんど

②中学生・高校生

◆主な調査項目

項 目	内 容
放課後の過ごし方	・好きなところ・気に入っているところ ・要望
市内の環境について	・朝霞市内で楽しいところ・自慢したいこと ・改善を希望する点
地域活動・ボランティアについて	・参加経験、参加意向 ・参加するために必要なこと
将来のこと	・将来について考える機会 ・不安なことや知りたいこと

◆主な意見

項 目	内 容
放課後の過ごし方	●過ごし方 【中学生】 ・部活動に参加する ・友達と一緒に過ごす ・家で一人でゲームやテレビを見て過ごす、YouTubeを見たり、友達とSNSでやり取りをする ・趣味の活動・サークルに参加する 【高校生】 ・放課後はまっすぐ帰宅する生徒が多い ・家で一人でまたは家族と過ごす ●要望 ・バスケットボールやテニス等球技ができる所があると良い ・勉強ができる場所があると良い
市内の環境について	●朝霞市内で楽しいところ・自慢したいこと 【中学生】 ・住みやすい ・緑が多い、のどか ・交通の便が良い ・野菜の特産品がある ・彩夏祭が楽しい 【高校生】 ・駅周辺に店舗が多い ・交通の便が良い ●改善を希望する点 ・駅から離れた所にも賑わいがあると良い
地域活動・ボランティアについて	●参加経験、参加意向 【中学生】 ・学校を通じた地域活動に参加している生徒が多い。(通学路の整備、生徒会活動での啓発活動など) ・時間がなく参加する余裕はないという生徒が多いが、活動に関する情報がないという意見も多かった 【高校生】 ・参加したことがある生徒は半数未満 ・参加のきっかけは家族が参加している ・学校で募集があった、チラシがあったこと ●参加するために必要なこと ・学校で募集があると参加しやすい ・友達や知っている人と一緒に参加できると良い ・有名人が来るイベントがあるとSNSで発信するなど参加意欲が高まるという意見があった

項 目	内 容
将来のこと	●将来について考える機会 【中学生】 ・小学生の時から体験学習や総合の時間等授業を通じて機会がある ・中学2年生は、受験に向けて将来のことを考える機会がある ・学校での活動の中で生徒が自主的に調べて発表する学習機会があると良いという意見もあった 【高校生】 ・ほとんどの生徒が進路指導の際に進学先や将来の仕事について考えると回答 ・なりたい職業について身近な大人に話を聞いている生徒もいる

(2) 児童館及び子育て支援センター利用者（保護者）・障害児放課後児童クラブ保護者

①児童館及び子育て支援センター利用者（保護者）

◆主な調査項目

項 目	内 容
施設について	・利用頻度、来館目的
遊び場所	・利用する場所、気に入っている点 ・希望する場所等
市内の子育て環境・子育て支援について	・朝霞市は子育てしやすい所か、特に良いところ ・改善を希望する点 ・市内で子育てをしていきたいか ・感じていることや要望
相談機関・窓口等について	・相談機関・窓口があることを知っているか ・利用しやすくなるために必要なこと

◆主な意見

項 目	内 容
施設について	●利用頻度、来館目的 ・利用頻度は毎日のように利用している人と月1、2回という人に分かれている ・目的は、子どもの遊び場・おもちゃで遊ばせるため、保護者同士の交流・おしゃべりのため
遊び場所	●利用する場所、気に入っている点 ・児童館、公民館、公園、子育て支援センター ・イベントが多い ●希望する場所・改善希望等 ・職員の対応が悪い施設がある ・来館者に無関心な職員がいる。施設内を見回ったりトラブルに対応してほしい ・公園にトイレがなかったり、壊れていることが多い ・食事をしながら遊べる場所 ・子どもを連れていける飲食店がもっとあると良い ・買い物もできて子どもを遊ばせられる場所ができると良い

項 目	内 容
市内の子育て環境・子育て支援について	●朝霞市は子育てしやすい所か、特に良いところ ・子育てしやすいという人が大半だった ・保育園等施設が多い ・支援センター、児童館が多く、徒歩圏内に何か所か行かれるところがある ・公園が多い ・街の人が子どもや子どもを連れた保護者にやさしい ・子どもの医療費が無料 ・保育園の園庭開放が良い ●改善を希望する点 ・保育園に入所しやすくしてほしい ・一時保育を利用しやすくしてほしい ・「緊急」「リフレッシュ」とともに予約の取りやすさ向上 ・病児・病後児保育を利用しやすくしてほしい ・ファミリー・サポート・センターをすぐ利用できるようなしてほしい ・赤ちゃんの駅ステッカーにどのようなトイレか分かるように表示を加える、ガイドブックに掲載する ・離乳食教室など初妊婦しか参加できない講座がある。2人目以降の妊婦も参加できると良い ・産後の1ヶ月健診（病院）以降、関わってくれる所があって、出向かなくても様子を聞いてくれると良い ・歩道が狭い、ベビーカーで通れるようにしてほしい ・車の交通量が多く危ない。子ども連れで移動しやすくしてほしい ・駅のホームの安全性向上（ホームドア設置）、エレベーター設置 ・市内循環バスの本数が少なく移動が不便 ・行政機関が市の中心に集まっている。各地域にあると良い
市内の子育て環境・子育て支援について	●市内で子育てをしていきたいか ・ずっと市内で子育てをしていきたいという人が大半だった ●感じていることや要望 ・ベビーカーやチャイルドシートの貸し出し、購入補助 ・父親向けのイベントを増やしてほしい ・雨の日に子どもを遊ばせることができる商業施設があると良い
相談機関・窓口等について	●相談機関・窓口があることを知っているか ・ポスターを見かけるなど認知度はある程度あるが詳細は知らない人が多い ●利用しやすくなるために必要なこと ・施設スタッフ等に子どもを遊ばせながら相談できる ・施設スタッフが声を掛けてくれると話しやすい ・日常的に疑問を相談できる ・定期的に児童館や支援センター等に出向いて実施する ・LINEなどで自宅から相談できる ・LINEなどで情報提供があると良い ・ただ聞くだけでなくアドバイスをしてくれる

②障害児放課後児童クラブ保護者

◆主な意見

項 目	内 容
活動について	・特別支援学級・学校に通う朝霞市在住の小中学生・高校生が放課後や長期休暇をともに過ごし、育ちあう場として朝霞市の委託事業としてNPO法人が運営。 ・保護者と指導員（支援者）とが一丸となって障害児者とその家族がずっと住み慣れた地域で生活することを目指し、地域に根付いた活動を続けている。全国的にも珍しい取組である。 ・障害のある子どもの子育てをする保護者同士がつながりを持ち、仲間づくりを通して、保護者自身の視野が広がること、子ども達は活動を楽しんでいることが良い。 ・放課後等デイサービスと比べると活動参加や送迎など保護者の負担はあるが、子ども達はのびのびと過ごし、保護者同士のつながりができ、育ちあえる環境があるなど良い点が多い。 ・最近、早期療養が重視されるようになっていたり活動の負担を敬遠して利用者・担い手が少なくなっているのが残念。焦らずゆっくり子どもをみながら子育てしていくことも大切であるし、ともに子育てをする仲間ができることは親子ともにとっても良い。
障害児の育ちや子育ての状況	・放課後児童クラブで安定した時間を過ごすことで子ども自身の気持ちが落ち着き、家でも落ち着いて過ごすことができている。 ・ワンオペ育児の家庭も多く、仲間で支え合える環境は大切。 ・障害のある子どもの居場所があることできょうだい児の世界も広がる。
今後の課題や心配なこと	・高校生までの障害児福祉は整備されているが、その後障害者福祉へ変わり連携に課題がある。市の担当部署も変わるため移行・連携がもっとスムーズだと良い。 ・高校3年になると就職先を決めなければならない、働くことしか選択できない。 ・現在は学校が終わって放課後児童クラブで過ごしているが、学校卒業後は、就労場所と自宅の行き来だけになり、社会での居場所がないことが不安。

(3) 子育てサークル等参加者

◆主な調査項目

項 目	内 容
サークル活動について	・参加頻度、参加目的
遊び場所	・利用する場所、気に入っている点 ・希望する場所等
市内の子育て環境・子育て支援について	・朝霞市は子育てしやすい所か、特に良いところ、改善を希望する点 ・感じていることや要望
相談機関・窓口等について	・相談機関・窓口があることを知っているか ・利用しやすくなるために必要なこと

◆主な意見

項 目	内 容
サークル活動について	①多胎児育児サークル 双子以上の多胎児を育てる保護者と子ども達を対象に講座やイベントを開き、交流や相談、衣類やおもちゃのおさがり交換などを行っている。 ②朝霞子育て支援ネットワーク 市内で活動する8つの子育て支援団体が朝霞の子育てを応援するために集った団体。子育て支援センターや市民センター、ショッピングセンターなどで講座やイベントを開催し親子の交流やスタッフとの交流、子育てのしかた、子育て情報の提供や相談などにも対応している。外国出身の親子・妊婦を対象にしたサークルも参加している。 ●参加頻度、参加目的 ・頻繁に参加している人が多い。市外からの参加者もいる。 ・目的は、保護者同士の交流・情報交換、子どもの遊び場 ・同じ境遇の人、先輩ママがいて話をして共感したり情報が得られること ・サークルのスタッフと話をしたり、相談できること ●サークル活動について ・市役所や保健センターの窓口で団体や講座についてのチラシを設置するなど連携できると良い。 ・多胎児育児サークルは情報が少ないため、母子手帳交付時や乳児健診時にサークルについて紹介してもらえると産前・産後に参加できて良い。 ・多胎児育児サークルについて市役所・保健センターに問合せをしても回答が返ってこなかったため、サークルの把握、情報提供はしてほしい
遊び場所	●利用する場所、気に入っている点 ・児童館、子育て支援センター、公園、子育て支援サロン ●希望する場所等 ・駐車場があるところ ・スタッフが手を貸してくれるところ
市内の子育て環境・子育て支援について	●朝霞市は子育てしやすい所か、特に良いところ ・子育てしやすいという人が大半 ・公園や遊び場がたくさんある ●改善点等 ・サークル活動の情報が一元化されると良い。 ・外国人には手続きの窓口が分かりにくいいためワンストップの窓口があると良い。 【多胎児育児について】 ・多胎児では妊娠中も不安なことが多い。妊娠中から相談しやすいところがあると安心できる。 ・出産後は入院期間も長くすぐには情報収集ができない。妊娠中に友達作りができると良い。

項 目	内 容
市内の子育て環境・子育て支援について	・多胎児育児ではベビーカーやチャイルドシートの購入に補助があり助かっている。 ・多胎児育児では健診や予防接種、通院、幼稚園や保育園の行事など外出もたいへん。ファミリー・サポート・センターに同行してもらった。事前の予約が必要なため、今来てほしいというときに対応してくれる所があると助かる。 【外国人等への支援について】 ・日本語が分からず日本での生活や幼稚園・保育園、学校への就園・就学にとまどう家庭も多い。多言語での情報提供を行っている。
相談機関・窓口等について	●相談機関・窓口があることを知っているか ・知っている人が多い ・友達から聞く、サークルの人から聞くなどして認知されている ●利用しやすくなるために必要なこと ・広報に載せる ・外国人には相談や手続きが煩雑で分かりにくい。窓口が一元化されているとよい。

3. 妊娠中の方・子育て支援施設職員・障害児関係団体アンケート調査

■調査実施概要

①妊娠中の方

種 類	対象数	回収数	調査期間	調査方法
妊娠届を提出された方	50人程度	6 件	3 月 1 日～3 月 16 日	直接配布-郵送回収
母親学級参加者	30人		3 月 9 日～3 月 16 日	

②子育て支援施設職員

種 類	対象数	回収数	調査期間	調査方法
保育園	24件	26件	3 月 1 日～3 月 11 日	郵送配布-郵送回収
放課後児童クラブ	5 件			
児童館	5 件			
子育て支援センター	8 件			

③障害児関係団体

種 類	対象数	回収数	調査期間	調査方法
放課後デイサービス	8 件	3 件	3 月 1 日～3 月 11 日	郵送配布-郵送回収
障害児放課後児童クラブ	1 件			

■結果の概要

①妊娠中の方

◆主な意見

●出産や子育て・教育に関して気軽に相談できる先・情報源

相談先としては、「配偶者・パートナー」「親族」「病院・診療所」などが共通してあげられている。2人目以降の出産をする人では「友人・知人」も多い。情報源としても同様の回答が多い。初産婦では相談先・情報源が「テレビ・新聞、インターネットなどのマスメディア」だけで悩んだ時の相談相手が「いない」という人もいる。

●妊娠・出産・子育てに関する情報の入手状況

＜妊娠中の過ごし方について＞は情報を「得られている」という回答が多いが、初産婦では＜出産・分娩に関することについて＞＜出産後のことについて＞＜子育てを支援してくれる制度について＞で情報を得られていない、どちらともいえないという人が多い傾向にある。

●地域の子育て支援事業について

地域の子育て支援事業については、＜子育て支援センター＞や＜保健センターの情報・相談事業＞は認知度が高いが、＜母親学級＞＜家庭教育に関する学級・講座＞＜家庭児童相談室＞＜保育所や幼稚園の園庭等の開放＞＜子育ての総合相談窓口＞＜自治体発行の子育て支援情報誌＞＜NPO や子育てサークルが行う事業＞については認知度は高くない。

今後の利用意向は＜子育て支援センター＞＜母親学級＞＜保健センターの情報・相談事業＞＜保育所や幼稚園の園庭等の開＞＜子育ての総合相談窓口＞など多くの事業で高くなっている。

●妊娠中や出産後に重要なサポート

妊娠中や出産後に重要なサポートとして「母親の健康面の相談」「赤ちゃんの育児相談」「行政による子育て情報の提供」「育児方法を習得する機会」「経済面での補助」「子育て経験者から気軽に話を聞ける場や機会の提供」「家事支援」があげられている。

②子育て支援施設職員

◆主な意見

●保護者や利用者から寄せられる要望・意見

【市行政や子育てをめぐる環境全般について】

- ・朝霞市は子育て支援センターや児童館が多く子育てがしやすい環境
- ・保育園に入園できるか心配
- ・一時保育可能な園を増やしてほしい

【施設等について】

- ・祝日等も開館してほしい、開館時間を延長してほしい
- ・年代別のイベントを増やしてほしい

●最近の子どもをみて考えさせられたこと、問題だと思ったこと

【保護者について】

- ・家庭での育児時間が減っている
- ・子どもの成長に関心が薄い
- ・子どもをどのように育ててよいかわからない

【子どもたちについて】

- ・小学生はスマホでゲームをしている子どもが多い

- ・家庭で教えるべきことが全くされていない。挨拶もなく、食事をするときのしつけもなっていない。好き嫌が多い

- 利用者とのコミュニケーションを取る際に気を付けている工夫や困難なこと
 - ・必ず一声かけ、悩みや困っていることなどを話しやすい雰囲気をつくるようにしている
 - ・時間の余裕がなく保護者と話し合えないことがある
- 不足していると感じるサービス・事業
 - ・子育て支援センターに來たいけれど來られない人への支援
 - ・放課後児童クラブの施設数と人員の増加

③障害児関係団体

◆主な意見

●保護者や利用者から寄せられる要望・意見

【市行政や子育てをめぐる環境全般について】

- ・あたりまえに地域での日常に溶け込み生活すること

【障害児施策に対して】

- ・参加できる余暇活動の充実、移動支援事業の充実、きょうだい児のフォロー
- ・働く場所を増やしてほしい
- ・区分における指標について（点数のつけ方など）

●障害に関することで悩みがある場合の対応や対応をとる際に困っていること

【福祉や保育に関すること】

- ・指導員間での日々の打合せ、ケース会議や事例検討、県連協障害児ブロック関係者での情報交換など法人内他事業や各関係機関からといった客観的な見解も参考にする
- ・研修制度を増やし理解を広める
- ・市役所へ問合わせる

【医療に関すること】

- ・保護者同士での情報交換

【学校・教育に関すること】

- ・保護者同士での情報交換、また指導員との密な連絡により家庭、学校、学童での様子からトータルな姿を把握するようにしている

【その他生活全般】

- ・児童に関しては、相談員や保護者を交える
- ・長期戦を覚悟し、スモールステップでよい行動を見つけ強化していく

●現在不足していると考えられる情報

- ・障害児者のライフステージごとの課題（就学、就労、余暇、生活の場など）についてその時期にみあったもの

●現在不足していると考えられるサービス

- ・横の繋がり
- ・保育課と障害福祉課の連携を密に、また計画相談事業所の相談員の資質の向上も計り、障害児者に対する支援の偏りのない適切な選択が安心してできるとよい
- ・高等学校まで医療費無料化実施

朝霞市
子ども・子育て支援に関するアンケート調査
報告書

平成 31 年 3 月

【編集・発行】朝霞市こども・健康部こども未来課・保育課
〒351-8501 朝霞市本町1丁目1番1号
Tel:048-463-1111（代表）
Fax:048-467-0770